



同盟及聯合國
下
獨逸國
平和條約
議定書

附
波蘭國ニ關スル
黃浦江追加協定並國際阿片條約及議定書
對獨平和條約中ニ規定セラルル履行事項表



始



持104
16

同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約目次

● 詔書

平和克復ニ關スル件……………一頁

● 勅令

聯合國經濟會議決議實施委員會官制廢止……………二

従前ノ占領地ニ於ケル施政ニ關スル件……………二

工業所有權戰時法ニ依ル專用權ニ關スル件……………二

● 條約

同盟及聯合國軍ト獨逸國トノ平和條約及附屬議定書……………三

第一編 國際聯盟規約……………七

國際聯盟規約(第一條乃至第二十六條)……………七

附屬書……………一五

第二編 獨逸國ノ境界……………一六

獨逸國ノ境界(第二十七條乃至第三十條)……………一六

目次

世界永遠の平和を確保すべき同盟及聯合國と獨逸國との平和條約並議定書は國民一般が知らざるべからざるものであるから我朝陽會は該條約公布に先ち之を一冊子として發行したが忽にして再版を重ね最早全部を賣盡し尙續々注文ある盛況である是れ畢竟本書の有益なると代價の極めて低廉なると且好箇の記念品たるか爲とに外ならぬのであると信する然るに再版後間もなく本條約の公布となり同時に大詔の煥發となり又勅令の發布となつた依て本會は普く江湖の希望者に頒布する目的を以て大詔を始め關係勅令等をも一括し茲に第三版を發行する次第である

大正九年五月

印刷局内
朝陽會

第三編 歐洲政治條項

第一款 白耳義國(第三十一條乃至第三十九條)……………二〇

第二款 盧森堡國(第四十條乃至第四十一條)……………二二

第三款 萊因河左岸(第四十二條乃至第四十四條)……………二二

第四款 「ザール」河流域(第四十五條乃至第五十條)……………二二

附屬書……………二二

第一章 鑛山ノ讓渡及採掘(一乃至十)……………二二

第二章 「ザール」河流域地方ノ施政(十一乃至三十三)……………二二

第三章 人民一般投票(三十四乃至四十一)……………二二

第五款 「アルザス、ロレーヌ」(第五十一條乃至第七十九條)……………三三

附屬書(一乃至四)……………四〇

第六款 奧地利國(第八十條)……………四二

第七款 「チェコ、スロヴァキア」國(第八十一)……………四二

第九

五

十

三

三

四

二

二

大正九年五月
朝陽會

條乃至第八十六條)……………四二

第八款 波蘭國(第八十七條乃至第九十三條)……………四四

附屬書(一乃至六)……………四六

第九款 東普魯西(第九十四條乃至第九十八條)……………五〇

第十款 「メーメル」(第九十九條)……………五二

第十一款 「ダンチヒ」自由市(第一百條乃至第一百八條)……………五三

第十二款 「シレスウイヒ」(第九十九條乃至第一百十四條)……………五六

第十三款 「ヘリゴランド」(第一百五條)……………五九

第十四款 露西亞及露西亞諸國(第一百六條及第一百七條)……………六〇

第四編 獨逸國外ニ於ケル獨逸國ノ權利及利益(第一百八條)

第一款 獨逸國殖民地(第一百十九條乃至第一百二十七條)……………六一

第二款 支那國(第一百二十八條乃至第一百三十四條)……………六二

第三款 暹羅國(第一百三十五條乃至第三百三十七條)……………六二

第十七條)……………六四

第四款 「リベリア」國(第三百三十八條乃至第四百十條)……………六四

第五款 摩洛哥國(第四百十一條乃至第四百十六條)……………六五

第六款 埃及國(第四百十七條乃至第四百五十四條)……………六六

第七款 土耳其國及勃爾牙利國(第四百五十五條)……………六七

第八款 山東(第五百五十六條乃至第五百五十八條)……………六七

第五編 陸軍海軍及航空條項

第一款 陸軍條項……………六八

第一章 獨逸國陸軍ノ兵力及幹部(第一百五十九條乃至第一百六十三條)……………六八

第二章 兵器、彈藥及材料(第一百六十四條乃至第一百七十二條)……………七〇

第三章 募兵及軍事教育(第一百七十三條乃至第一百七十九條)……………七二

第四章 築城(第一百八十條)……………七四

第一附屬表 軍團司令部、步兵師團及騎兵師團ノ編制……………七四

第二附屬表 步兵師團七、騎兵師團三及軍團司令部二ニ對スル兵器最大限數表……………七五

第三附屬表 承認最大貯藏量表……………七五

第二款 海軍條項(第八十一條乃至第九十七條)……………七六

第三款 航空條項(第九十八條乃至第一百二條)……………八一

第四款 同盟國國際監督委員會(第二三三條乃至第二四十條)……………八二

第五款 一般規定(第二四十一條乃至第二百十三條)……………八四

第六編 俘虜及墳墓

第一款 俘虜(第二百十四條乃至第二百二十四條)……………八五

第二款 墳墓(第二百五條及第二百二十六條)……………八七

第七編 制裁

制裁(第二百二十七條乃至第二百三十條)……………八七

第八編 賠償

第一款 一般規定(第二百三十一條乃至第二百四十四條)……………八八

第一附屬書……………九二

第二附屬書(一乃至二十三)……………九三

第三附屬書(一乃至九)……………九九

第四附屬書(一乃至七)……………一〇二

第五附屬書(一乃至十)……………一〇四

第六附屬書(一乃至五)……………一〇七

第七附屬書……………一〇八

第二款 特別規定(第二百四十五條乃至第二百四十七條)……………一〇九

第九編 財政條項

財政條項(第二百四十八條乃至第二百六十三條)……………一一〇

第十編 經濟條項

第一款 通商關係……………一一六

第一章 稅關規則、税金及制限(第二百六十四條乃至第二百七十一條)……………一一六

第二章 海運(第二百七十一條乃至第二百七十七條)……………一一六

第二百七十三條	不正競争(第二百七十四條及第二百七十五條)	一九
第四章	同盟及聯合國ノ國民ノ待遇(第二百七十六條乃至第二百七十九條)	二〇
第五章	一般規定(第二百八十條及第二百八十一條)	二二
第二款	條約(第二百八十二條乃至第二百九十五條)	二二
第三款	金錢債務(第二百九十六條)	二七
附屬書(一乃至二十五)		二九
第四款	財産、權利及利益(第二百九十七條及第二百九十八條)	三四
附屬書(一乃至十五)		三八
第五款	契約、時効、判決(第二百九十九條乃至第三百三條)	四二
附屬書		四二
第一	一般規定(一乃至三)	四五
第二	特種ノ契約ニ關スル規定(四乃至七)	四五

第三	保險契約(八乃至二十四)	四七
第六款	混合仲裁裁判所(第三百四條及第三百五條)	五一
附屬書(一乃至九)		五一
第七款	工業所有權(第三百六條乃至第三百十一條)	五三
第八款	讓渡地域内ニ於ケル社會保險及官營保險(第三百十二條)	五七
第十一編	航空	
航空(第三百十三條乃至第三百二十條)		五八
第十二編	港、水路及鐵道	
第一款	總則(第三百二十一條乃至第三百二十六條)	五九
第二款	航行	六一
第一章	航行ノ自由(第三百二十七條)	六一
第二章	港内自由地域(第三百二十八條乃至第三百三十條)	六二
第三章	「エルベ」河、「オーデル」河、「ニーメン」河(「ルス」河)、「メーメル」河、「ニーメン」河)及「グニープ」河ニ關スル條項	六三

一	一般條項(第三百三十一條乃至第三百三十九條)	六三
二	「エルベ」河、「オーデル」河及「ニーメン」河(「ルス」河)、「メーメル」河、「ニーメン」河)ニ關スル特別條項(第三百四十條乃至第三百四十五條)	六六
三	「グニープ」河ニ關スル特別條項(第三百四十六條乃至第三百五十三條)	六八
第四章	萊因河及「モーゼル」河ニ關スル條項(第三百五十四條乃至第三百六十一條)	六九
第五章	「チエッコ、スロヴァキア」國ノ北部諸港使用ニ關スル條項(第三百六十三條及第三百六十四條)	七四
第三款	鐵道	七四
第一章	國際運送ニ關スル條項(第三百六十五條乃至第三百六十九條)	七四

第二章	車輛(第三百七十條)	七六
第三章	鐵道線路ノ讓渡(第三百七十一條)	七六
第四章	特定ノ鐵道線ニ關スル規定(第三百七十二條乃至第三百七十四條)	七七
第五章	經過規定(第三百七十五條)	七八
第四款	紛争及永久條項ノ改正(第三百七十六條乃至第三百七十八條)	七八
第五款	特別規定(第三百七十九條)	七八
第六款	「キール」運河ニ關スル條項(第三百八十條乃至第三百八十六條)	七九
第十三編	労働	
第一款	労働機關	八〇
第一章	機關(第三百八十七條乃至第三百九十九條)	八〇
第二章	手續(第四百條乃至第四百二十條)	八三
第三章	一般規定(第四百二十一條乃至第四百二十三條)	八九
第四章	經過規定(第四百二十四條乃至第四百二十六條)	八九

至第四百二十六條)……………一八九
 附屬書……………一九〇
 第二款 一般原則(第四百二十七條)……………一九一
 第十四編 保障……………一九一
 第一款 西歐羅巴(第四百二十八條乃至第四百三十二條)……………一九二
 第二款 東歐羅巴(第四百三十三條)……………一九三
 第十五編 雜則……………一九三
 雜則(第四百三十四條乃至第四百四十條)……………一九三
 附屬書(一及二)……………一九四
 末文……………一九八
 地圖……………一九八
 議定書……………二〇一
 波蘭國ニ關スル條約……………二〇五
 對獨平和條約及附屬議定書御批准濟ノ旨ヲ佛蘭西國政府ニ通報シ第一回批准書寄託調書ヲ巴里ニ於テ作成……………二一四
 波蘭國ニ關スル條約御批准濟ノ旨ヲ佛蘭西國政府ニ通報……………二一四

●外務省告示

●彙報

黃浦江ニ關スル追加假協定並國際阿片條約及國際阿片會議最終議定書……………二一五
 對獨平和條約中ニ規定セラルル履行事項表……………二四〇

同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約

詔書

朕惟フニ今次ノ大戰亂ハ兵戈五年ニ瀰リ世界ヲ變動セシメタルモ我カ聯合諸友邦勇奮努力ノ威烈ニ賴リ戰氛一掃平和全ク復スルニ至リタルハ朕ノ甚々懌フ所ナリ今斯ノ紛擾ノ局ヲ收メ安寧ヲ將來ニ規ルハ固ヨリ諸友邦ノ協同燮理ニ須メサルヘカラス嚮ニ講和會議ノ佛國ニ開カルルヤ朕亦全權委員ヲ簡派シ其ノ商議ニ參セシメシニ平和永遠ノ協定新ニ成リ國際聯盟ノ規模斯ニ立ツ是レ朕カ中心實ニ欣幸トスル所ナルト共ニ又今後國家負荷ノ重大ナルヲ感セスマハアラサルナリ
 今ヤ世運一展シ時局丕ニ變ス宜シク奮勵自強隨時順應ノ道ヲ講スヘキノ秋ナリ爾臣民其レ深ク之ニ省ミ進ミテハ萬國ノ公是ニ循ヒ世界ノ大經ニ仗リ以テ聯盟平和ノ實ヲ舉ケムコトヲ思ヒ退イテハ重厚堅實ヲ旨トシ浮華驕奢ヲ戒メ國力ヲ培養シテ時

世ノ進運ニ伴ハムコトニ勉メサルヘカラス朕ハ永ク友邦ト偕ニ和平ノ慶ニ賴リ休明ノ澤ヲ同クセムコトヲ期シ朕カ忠良ナル臣民ノ一心協力ニ倚藉シ衆庶ノ康福ヲ充足シ文明ノ風化ヲ廣敷シ益々祖宗ノ洪業ヲ光恢セムコトヲ庶幾フ爾臣民其レ克ク朕カ旨ヲ體セヨ

御名 御璽

大正九年一月十日

- | | |
|-----------------|--------|
| 內閣總理大臣兼
司法大臣 | 原 敬 |
| 海軍大臣 | 加藤友三郎 |
| 外務大臣 | 子爵內田康哉 |
| 大藏大臣 | 男爵高橋是清 |
| 陸軍大臣 | 田中義一 |
| 農商務大臣 | 山本達雄 |
| 內務大臣 | 床次竹二郎 |
| 文部大臣 | 中橋徳五郎 |
| 逓信大臣 | 野田卯太郎 |

勅令

朕聯合國經濟會議決議實施委員會官制廢止ノ件ヲ
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

大正九年一月十日

内閣總理大臣 原敬

聯合國經濟會議決議實施委員會官制ハ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕從前ノ占領地ニ於ケル施政ニ關スル件ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

大正九年一月十日

内閣總理大臣 原敬

海軍大臣 加藤友三郎

陸軍大臣 田中義一

從前ノ占領地ニ於ケル施政ニ關シテハ當分ノ内從前ノ例
ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕工業所有權戰時法ニ依ル專用權ニ關スル件ヲ裁
可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

大正九年一月十日

内閣總理大臣 原敬

農商務大臣 山本達雄

特許權ト其ノ特許發明ニ付工業所有權戰時法ニ依リ發
生シタル專用權トハ各別ニ存續ス

前項ノ特許權及專用權カ同一人ニ歸シタルトキハ其ノ專
用權ハ消滅ス但シ其ノ特許權又ハ專用權カ第三者ノ權
利ノ目的タルトキハ此ノ限ニ在ラス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

條約

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正八年六月二十八日佛
蘭西國「ヴェルサイユ」ニ於テ帝國全權委員ノ同盟及
聯合國全權委員並獨逸國全權委員ト共ニ署名調印
シタル平和條約及附屬議定書ヲ批准シ茲ニ之ヲ公
布セシム

御名 御璽

大正九年一月十日

内閣總理大臣 原敬

外務大臣 子爵内田康哉

亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國、伊太利國及日
本國
右諸國ヲ以テ本條約ニ謂フ主タル同盟及聯合國トス

勅令 條約

白耳義國、「ボリヴィア」國、伯刺西爾國、支那國、玖馬國、
「エクスドル」國、希臘國、「グアテマラ」國、「ハイチ」國、「ヘチア
ズ」國、「ホンヂラス」國、「リベリア」國、「ニカラグア」國、巴奈
馬國、祕露國、波蘭國、葡萄牙國、羅馬尼亞國、「セルブ、ク
ロアット、スロヴェニア」國、暹羅國、「チエッコ、スロヴァキア」國
及「ウルグアイ」國
右諸國ハ前記ノ主タル諸國ト共ニ同盟及聯合國ヲ構成ス
以上ヲ一方トシ
獨逸國
之ヲ他ノ一方トス

此等諸國ハ主タル同盟及聯合國カ獨逸帝國政府ノ請求
ニ基キ獨逸國ト平和條約ヲ締結セムカ爲千九百十八年十
一月十一日獨逸國ニ對シ休戰ヲ許諾シタルコトヲ思ヒ
且同盟及聯合國ハ其ノ相次キテ直接又ハ間接ニ參加スル
ニ至リタル戰爭即チ千九百十四年七月二十八日塞爾比
亞國ニ對スル奧地利洪牙利國ノ宣戰、千九百十四年八
月一日露西亞國ニ對スル及千九百十四年八月三日佛蘭
西國ニ對スル獨逸國ノ宣戰並白耳義國侵入ニ依リテ開
始セラレタル戰爭ニ代フルニ鞏固公正且恆久ノ平和ヲ以
テセムコトヲ均シク希望シ
之カ爲締約國ハ左ノ如ク代表セラレ

亞米利加合衆國大統領

亞米利加合衆國大統領「ウードロー、ウィルソン」

自己ノ名ニ於テ且自己ノ固有ノ權限ニ基キ

行動ス

國務卿「ロバート、ランシング」

前伊太利國及佛蘭西國駐節亞米利加合衆國特命全權大使「ヘンリー、ホワイト」

「エドワード、エム、ハウス」

最高軍事會議亞米利加合衆國軍事代表者陸軍

大將「タスカ、エッチ、プリス」

大不列顛愛蘭聯合王國及大不列顛海外領土皇帝印度皇帝陛下

總理大臣國庫尚書國會議員「デーヴィッド、ロイド、ジョージ」

國聖尚書國會議員「アンドリュ、ボナ、ロー」

殖民大臣子爵「ミルナー」

外務大臣國會議員「アーサー、ジェームス、バルフォア

無任所大臣國會議員「ジョージ、ニコル、バーンス」

加奈陀

司法大臣「チャールス、ジョーゼフ、ドハティ」

關稅大臣「アーサー、リュイス、シフトン」

濠利聯邦

總理大臣檢事總長「ウィリアム、モリス、ヒューズ」

海軍大臣「サー、ジョーゼフ、クック」

南阿弗利加聯邦

總理大臣土民事務大臣陸軍大將「ルイ、ボータ」

國防大臣陸軍中將「ジャン、クリスチアン、スマツ」

新西蘭

總理大臣勞働大臣「ウィリアム、ファーガソン、マッ

セイ」

印度

印度大臣國會議員「エドウィン、サミエール、モンタ

ギュー」

侍從武官陸軍少將「ビカネール」王「サー、ガンガ、シン」殿下

佛蘭西共和國大統領

內閣議長陸軍大臣「ジョルジ、クレマンソー」

外務大臣「ステファン、ピション」

大藏大臣「ルイ、リュシアン、クロツ」

佛米軍事辨務長官「アンドレ、タルデュ」

特命全權大使「ジュール、カムボン」

伊太利國皇帝陛下

衆議院議員男爵「エセ、ソンニ」

英國駐節伊太利國特命全權大使參議院議員侯爵「ジョー、イムベリアリ」

衆議院議員「エセ、クレスピ」

日本國皇帝陛下

前內閣總理大臣侯爵西園寺公望

臨時外交調査委員會委員前外務大臣男爵牧野

仲顯

英國駐節日本國特命全權大使子爵珍田拾巳

佛蘭西國駐節日本國特命全權大使松井慶四郎

伊太利國駐節日本國特命全權大使伊集院彦吉

白耳義國皇帝陛下

外務大臣國務大臣「ポール、イーマンス」

特命全權公使國務大臣「ジュール、ヴァン、デンユ」

「ヴエル」

司法大臣國務大臣「エミル、ヴァンデルヴェルド」

「ボリヴィア」共和國大統領

佛蘭西國駐節「ボリヴィア」共和國特命全權公使

「イスマエル、モンテス」

伯刺西爾共和國大統領

前大藏大臣衆議院議員「ホアオ、パンディア、カロジ」

「ラス」

衆議院議員「ラウル、フェルナンデス」

「リオ、デ、ジアーネイロ」國際法教授「ロドリゴ、オクタ

ヴィオ、デ、エル、メネセス」

支那共和國大統領

外交總長陸徵祥

前農商總長王正廷

玖馬共和國大統領

「ハウアナ」大學法學部長玖馬國際法學會會長「ア

ントニオ、サンチエス、デ、ブスタマンテ」

「エタアドル」共和國大統領

佛蘭西國駐節「エタアドル」共和國特命全權公使

「エンリケ、ドルン、イ、デ、アルスーア」

希臘國皇帝陛下

內閣議長「エレフテリオス、カバ、ヴェニゼロス」

外務大臣「ニコラス、ポリティス」

「グアテマラ」共和國大統領

亞米利加合衆國駐節「グアテマラ」共和國特命全

權公使巴里特派特命全權公使前土木大臣前支

部大臣「ホアキン、メンデス」

「ハイチ」共和國大統領

佛蘭西國駐節「ハイチ」共和國特命全權公使「テル
テュリアン、ギルボ」
「ヘチアス」國皇帝陛下
「ルステム、ヘイダール」
「アブダル、ハディ、アウーニ」
「ホンチヌラス」共和國大統領
華盛頓特派使節特命全權公使前「ホンチヌラス」共
和國大統領「ドクトル、ボリカルボ、ボニーヤ」
「リベリア」共和國大統領
國務大臣「チャールズ、ダンバー、パージェス、キング」
「ニカラグア」共和國大統領
衆議院議長「サルヴァドル、チアモロ」
巴奈馬共和國大統領
西班牙國駐節巴奈馬共和國特命全權公使「アン
トニオ、ブルゴス」
祕露共和國大統領
佛蘭西國駐節祕露共和國特命全權公使「カルロ
ス、ヘー、カンダモ」
波蘭共和國大統領
內閣議長外務大臣「イグナス、ジエー、バデレフス
キー」

波蘭國民委員會議長「ロマン、ドモフスキ」
葡萄牙共和國大統領
前內閣議長「ドクトル、アフオンソ、アウグスト、ダ、コス
タ」
前外務大臣「ドクトル、アウグスト、ルイス、ヴィエイラ、
ソアレス」
羅馬尼亞國皇帝陛下
內閣議長外務大臣「イオン、ヨタ、カバ、ブラティアノ」
軍團長侍從武官陸軍大將前內閣議長「コンスタン
チン、コアンダ」
「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國皇帝陛下
前內閣議長「ニコラス、ビー、パチッチ」
外務大臣「アント、トルンビック」
佛蘭西國駐節「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國
特命全權公使「ミレンコ、ヴェスニッチ」
暹羅國皇帝陛下
佛蘭西國駐節暹羅國特命全權公使公爵「シャルー
ン」
外務次官公爵「トライドス、ブラバント」
「チエッコ、スロヴァキア」共和國大統領
內閣議長「カール、クラマール」

外務大臣「エドワード、ベネシユ」
「ウルグアイ」共和國大統領
外務大臣前工務大臣「ファン、アントニオ、ブエロ」
獨逸國
外務大臣「ヘルマン、ミュレル」
國務大臣「ドクトル、ベル」
以上二名ハ獨逸帝國及獨逸各邦ノ名ニ於テ
行動ス
右各員ハ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認め
タル後左ノ如ク協定セリ
戰爭狀態ハ本條約實施ノ時ヨリ終了スヘシ同盟及聯合
國ト獨逸國及獨逸各邦トノ關係ハ其ノ時以後且本條
約ノ規定ニ依リ恢復セラルヘシ
第一編 國際聯盟規約
締約國ハ
戰爭ニ訴ヘサルノ義務ヲ受諾シ
各國間ニ於ケル公明正大ナル關係ヲ規律シ
各國政府間ノ行爲ヲ律スル現實ノ標準トシテ國際法ノ
原則ヲ確立シ
組織アル人民ノ相互ノ交渉ニ於テ正義ヲ保持シ且嚴ニ
一切ノ條約上ノ義務ヲ尊重シ

以テ國際協力ヲ促進シ且各國間ノ平和安寧ヲ完成セム
カ爲
茲ニ國際聯盟規約ヲ協定ス
第一條
本規約附屬書列記ノ署名國及留保ナクシテ本規約ニ加
盟スル該附屬書列記ノ爾餘諸國ヲ以テ國際聯盟ノ原聯
盟國トス右加盟ハ本規約實施後二月以内ニ宣言書ヲ聯
盟事務局ニ寄託シテ之ヲ爲スヘシ右ニ關シテハ一切ノ他ノ
聯盟國ニ通告スヘキモノトス
附屬書ニ列記セサル國、領地又ハ殖民地ニシテ完全ナル自
治ヲ有スルモノハ其ノ加入ニ付聯盟總會三分ノ二ノ同意
ヲ得ルニ於テハ總テ聯盟國ト爲ルコトヲ得但シ其ノ國際
義務遵守ノ誠意アルコトニ付有效ナル保障ヲ與ヘ且其ノ
陸海及空軍ノ兵力其ノ他ノ軍備ニ關シ聯盟ノ定ムルコト
アルヘキ準則ヲ受諾スルコトヲ要ス
聯盟國ハ二年ノ豫告ヲ以テ聯盟ヲ脫退スルコトヲ得但シ
脫退ノ時迄ニ其ノ一切ノ國際上及本規約上ノ義務ハ履
行セラレタルコトヲ要ス
第二條
本規約ニ依ル聯盟ノ行動ハ聯盟總會及聯盟理事會並附
屬ノ常設聯盟事務局ニ依リテ之ヲ爲スヘキモノトス

第三條

聯盟總會ハ聯盟國ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス
聯盟總會ハ聯盟本部所在地又ハ別ニ定ムルコトアルヘキ
地ニ於テ定期ニ及必要ニ應シ隨時ニ之ヲ開ク
聯盟總會ハ聯盟ノ行動範圍ニ屬シ又ハ世界ノ平和ニ影
響スル一切ノ事項ヲ其ノ會議ニ於テ處理ス
聯盟國ハ聯盟總會ノ會議ニ於テ各一箇ノ表決權ヲ有ス
ヘク且ニ三名ヲ超エサル代表者ヲ出スコトヲ得

第四條

聯盟理事會ハ主タル同盟及聯合國ノ代表者並他ノ四聯
盟國ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス該四聯盟國ハ聯盟總會
其ノ裁量ニ依リ隨時之ヲ選定ス聯盟總會カ第一次ニ選
定スル四聯盟國ニ於テ其ノ代表者ヲ任命スル迄ハ白耳義
國、伯刺西爾國、西班牙國及希臘國ノ代表者ヲ以テ聯盟
理事會員トス
聯盟理事會ハ聯盟總會ノ過半数ノ同意アルトキハ聯盟理
事會ニ常ニ代表者ヲ出スヘキ聯盟國ヲ追加指定スルコト
ヲ得聯盟理事會ハ同會ニ代表セシムル爲聯盟總會ノ選
定スヘキ聯盟國ノ數ヲ前同様ノ同意ヲ以テ増加スルコト
ヲ得
聯盟理事會ハ聯盟本部所在地又ハ別ニ定ムルコトアルヘ

キ地ニ於テ必要ニ應シ隨時ニ且少クトモ毎年一回之ヲ開

ク
聯盟理事會ハ聯盟ノ行動範圍ニ屬シ又ハ世界ノ平和ニ
影響スル一切ノ事項ヲ其ノ會議ニ於テ處理ス
聯盟理事會ニ代表セラレサル聯盟各國ハ特ニ其ノ利益ニ
影響スル事項ノ審議中聯盟理事會會議ニ理事會員トシ
テ列席スル代表者一名ノ派遣ヲ招請セラルヘシ
聯盟理事會ニ代表セララル聯盟各國ハ聯盟理事會會議
ニ於テ一箇ノ表決權ヲ有スヘク且一名ノ代表者ヲ出スコ
トヲ得

第五條

本規約中又ハ本條約ノ條項中別段ノ明文アル場合ヲ
除クノ外聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ會議ノ議決ハ其ノ
會議ニ代表セララル聯盟國全部ノ同意ヲ要ス
聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ會議ニ於ケル手續ニ關スル一
切ノ事項ハ特殊事項調査委員ノ任命ト共ニ聯盟總會又
ハ聯盟理事會之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ其ノ會議ニ代表
セララル聯盟國ノ過半数ニ依リテ之ヲ決定スルコトヲ得
聯盟總會ノ第一回會議及聯盟理事會ノ第一回會議ハ亞
米利加合衆國大統領之ヲ招集スヘシ

第六條

聯盟國ハ平和維持ノ爲ニハ其ノ軍備ヲ國ノ安全及國際
義務ヲ協同動作ヲ以テスル強制ニ支障ナキ最低限度迄縮
少スルノ必要アルコトヲ承認ス
聯盟理事會ハ各國政府ノ審議及決定ニ資スル爲各國ノ
地理的地位及諸般ノ事情ヲ參酌シテ軍備縮少ニ關スル
案ヲ作成スヘシ
該案ハ少クトモ十年毎ニ再審議ニ付セラルヘク且更正セラ
ルヘキモノトス

第八條

各國政府前記ノ案ヲ採用シタルトキハ聯盟理事會ノ同意
アルニ非サレハ該案所定ノ軍備ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ス
聯盟國ハ民業ニ依ル兵器彈藥及軍用器材ノ製造力重大
ナル非議ヲ免レサルモノナルコトヲ認ム仍テ聯盟理事會ハ
該製造ニ伴フ弊害ヲ防遏シ得ヘキ方法ヲ具申スヘシ尤モ
聯盟國中其ノ安全ニ必要ナル兵器彈藥及軍用器材ヲ製
造シ得サルモノノ需要ニ關シテハ相當斟酌スヘキモノトス
聯盟國ハ其ノ軍備ノ規模、陸海及空軍ノ企畫並軍事上ノ
目的ニ供用シ得ヘキ工業ノ狀況ニ關シ充分ニシテ隔意ナ
キ報道ヲ交換スヘキコトヲ約ス

常設聯盟事務局ハ聯盟本部所在地ニ之ヲ設置ス聯盟事
務局ニハ事務總長一名並必要ナル事務局及屬員ヲ置
ク
第一次ノ事務總長ハ附屬書ニ之ヲ指定シ爾後ノ事務總
長ハ聯盟總會過半数ノ同意ヲ以テ聯盟理事會之ヲ任命
ス
聯盟事務局ノ事務局及屬員ハ聯盟理事會ノ同意ヲ以テ
事務總長之ヲ任命ス
事務總長ハ聯盟總會及聯盟理事會ノ一切ノ會議ニ於テ
其ノ資格ニテ行動ス
聯盟事務局ノ經費ハ萬國郵便聯合總管理局ノ經費分擔ノ
割合ニ從ヒ聯盟國之ヲ負擔ス
第七條
聯盟本部所在地ハ「ジュネーヴ」トス
聯盟理事會ハ何時タリトモ其ノ議決ニ依リ他ノ地ヲ以テ
聯盟本部所在地ト爲スコトヲ得
聯盟三關シ又ハ之ニ附帶スル一切ノ地位ハ聯盟事務局ノ
地位ト共ニ男女均シク之ニ就クコトヲ得
聯盟國代表者及聯盟職員ハ聯盟ノ事務ニ從事スル間外
交官ノ特權及免除ヲ享有ス
聯盟、聯盟職員又ハ聯盟會議參列代表者ノ使用スル建

第九條
聯盟國ハ其ノ軍備ノ規模、陸海及空軍ノ企畫並軍事上ノ
目的ニ供用シ得ヘキ工業ノ狀況ニ關シ充分ニシテ隔意ナ
キ報道ヲ交換スヘキコトヲ約ス

第一條及第八條ノ規定ノ實行並陸海及空軍問題全般ニ關シテハ聯盟理事會ニ意見ヲ具申スヘキ常設委員會ヲ設置スヘシ

第十條

聯盟國ハ聯盟各國ノ領土保全及現在ノ政治的獨立ヲ尊重シ且外部ノ侵略ニ對シテ之ヲ擁護スルコトヲ約ス右侵略ノ場合又ハ其ノ脅威若ハ危險アル場合ニ於テハ聯盟理事會ハ本條ノ義務ヲ履行スヘキ手段ヲ具申スヘシ

第十一條

戰爭又ハ戰爭ノ脅威ハ聯盟國ノ何レカニ直接ノ影響アルト否トヲ問ハス總テ聯盟全體ノ利害關係事項タルコトヲ茲ニ聲明ス仍テ聯盟ハ國際ノ平和ヲ擁護スル爲適當且有効ト認ムル措置ヲ執ルヘキモノトス此ノ種ノ事變發生シタルトキハ事務總長ハ何レカノ聯盟國ノ請求ニ基キ直ニ聯盟理事會ノ會議ヲ召集スヘシ
國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ注意ヲ喚起スルハ聯盟各國ノ友誼的權利ナルコトヲ併セテ茲ニ聲明ス

第十二條

聯盟國ハ聯盟國間ニ國交斷絶ニ至ルノ虞アル紛争發生ス

行セサルモノアルトキハ聯盟理事會ハ其ノ履行ヲ期スル爲必要ナル處置ヲ提議スヘシ

第十四條

聯盟理事會ハ常設國際司法裁判所設置案ヲ作成シ之ヲ聯盟國ノ採擇ニ付スヘシ該裁判所ハ國際的性質ヲ有スル一切ノ紛争ニシテ其ノ當事國ノ付託ニ係ルモノヲ裁判スルノ權限ヲ有ス尙該裁判所ハ聯盟理事會又ハ聯盟總會ノ諮問スル一切ノ紛争又ハ問題ニ關シ意見ヲ提出スルコトヲ得

第十五條

聯盟國間ニ國交斷絶ニ至ルノ虞アル紛争發生シ第十三條ニ依ル仲裁裁判ニ付セラレサルトキハ聯盟國ハ當該事件ヲ聯盟理事會ニ付託スヘキコトヲ約ス何レノ紛争當事國モ紛争ノ存在ヲ事務總長ニ通告シ以テ前記ノ付託ヲ爲スコトヲ得事務總長ハ之カ充分ナル取調及審理ニ必要ナル一切ノ準備ヲ爲スモノトス
此ノ目的ノ爲紛争當事國ハ成ルヘク速ニ當該事件ニ關スル陳述書ヲ一切ノ關係事實及書類ト共ニ事務總長ニ提出スヘク聯盟理事會ハ直ニ其ノ公表ヲ命スルコトヲ得聯盟理事會ハ紛争ノ解決ニカムヘク其ノ努力效ヲ奏シタルトキハ其ノ適當ト認ムル所ニ依リ當該紛争ニ關スル事實

ルトキハ當該事件ヲ仲裁裁判又ハ聯盟理事會ノ審査ニ付スヘク且仲裁裁判官ノ判決後又ハ聯盟理事會ノ報告後三月ヲ經過スル迄如何ナル場合ニ於テモ戰爭ニ訴ヘサルコトヲ約ス

本條ニ依ル一切ノ場合ニ於テ仲裁裁判官ノ判決ハ相當期間内ニ、聯盟理事會ノ報告ハ紛争事件付託後六月以内ニ之ヲ爲スヘシ

第十三條

聯盟國ハ聯盟國間ニ仲裁裁判ニ付シ得ト認ムル紛争ヲ生シ其ノ紛争カ外交手段ニ依リテ満足ナル解決ヲ得ルコト能ハサルトキハ當該事件全部ヲ仲裁裁判ニ付スヘキコトヲ約ス
條約ノ解釋、國際法上ノ問題、國際義務ノ違反ト爲ルヘキ事實ノ存否並該違反ニ對スル賠償ノ範圍及性質ニ關スル紛争ハ一般ニ仲裁裁判ニ付シ得ル事項ニ屬スルモノナルコトヲ聲明ス
審理ノ爲紛争事件ヲ付託スヘキ仲裁裁判所ハ當事國ノ合意ヲ以テ定メ又ハ當事國間ニ現存スル條約ノ規定ノ定ムル所ニ依ル
聯盟國ハ一切ノ仲裁判決ヲ誠實ニ履行スヘク且判決ニ服スル聯盟國ニ對シテハ戰爭ニ訴ヘサルコトヲ約ス判決ヲ履

及説明並其ノ解決條件ヲ記載セル調書ヲ公表スヘシ
紛争解決ニ至ラサルトキハ聯盟理事會ハ全會一致又ハ過半數ノ表決ニ基キ當該紛争ノ事實ヲ述ヘ公正且適當ト認ムル勸告ヲ載セタル報告書ヲ作成シ之ヲ公表スヘシ

聯盟理事會ニ代表セラルル聯盟國ハ何レモ當該紛争ノ事實及之ニ關スル自國ノ決定ニ付陳述書ヲ公表スルコトヲ得
聯盟理事會ノ報告書カ紛争當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意ヲ得タルモノナルトキハ聯盟國ハ該報告書ノ勸告ニ應スル紛争當事國ニ對シ戰爭ニ訴ヘサルヘキコトヲ約ス

聯盟理事會ニ於テ紛争當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意アル報告書ヲ得ルニ至ラサルトキハ聯盟國ハ正義公道ヲ維持スル爲必要ト認ムル處置ヲ執ルノ權利ヲ留保ス
紛争當事國ノ一國ニ於テ紛争カ國際法上專ラ該當事國ノ管轄ニ屬スル事項ニ付生シタルモノナルコトヲ主張シ聯盟理事會之ヲ是認シタルトキハ聯盟理事會ハ其ノ旨ヲ報告シ且之カ解決ニ關シ何等ノ勸告ヲモ爲ササルモノトス

聯盟理事會ハ本條ニ依ル一切ノ場合ニ於テ紛争ヲ聯盟總會ニ移スコトヲ得紛争當事國一方ノ請求アリタルトキハ

亦之ヲ聯盟總會ニ移スヘシ但シ右請求ハ紛争ヲ聯盟理事會ニ付託シタル後十四日以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
 聯盟理事會ノ行動及權限ニ關スル本條及第十二條ノ規定ハ聯盟總會ニ移シタル事件ニ關シ總テ之ヲ聯盟總會ノ行動及權能ニ適用ス但シ紛争當事國ノ代表者ヲ除キ聯盟理事會ニ代表セラルル聯盟各國代表者及爾餘過半数聯盟國ノ代表者ノ同意ヲ得タル聯盟總會ノ報告書ハ紛争當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意ヲ得タル聯盟理事會ノ報告書ト同一ノ效力ヲ有スヘキモノトス

第十六條

第十二條、第十三條又ハ第十五條ニ依ル約束ヲ無視シテ戰爭ニ訴ヘタル聯盟國ハ當然他ノ總テノ聯盟國ニ對シ戰爭行為ヲ爲シタルモノト看做ス他ノ總テノ聯盟國ハ之ニ對シ直ニ一切ノ通商上又ハ金融上ノ關係ヲ斷絶シ自國民ト違約國民トノ一切ノ交通ヲ禁止シ且聯盟國タルト否トヲ問ハス他ノ總テノ國民ト違約國民トノ間ノ一切ノ金融上通商上又ハ個人的交通ヲ防遏スヘキコトヲ約ス
 聯盟理事會ハ前項ノ場合ニ於テ聯盟ノ約束擁護ノ爲使
 用スヘキ兵力ニ對スル聯盟各國ノ陸海又ハ空軍ノ分擔程度ヲ關係各國政府ニ提案スルノ義務アルモノトス

聯盟國ハ本條ニ依リ金融上及經濟上ノ措置ヲ執リタル場合ニ於テ之ニ基ク損失及不便ヲ最少限度ニ止ムル爲相互ニ支持スヘキコト、聯盟ノ一國ニ對スル違約國ノ特殊ノ措置ヲ抗拒スル爲相互ニ支持スヘキコト並聯盟ノ約束擁護ノ爲協力スル聯盟國軍隊ノ版圖内通過ニ付必要ナル處置ヲ執ルヘキコトヲ約ス
 聯盟ノ約束ニ違反シタル聯盟國ニ付テハ聯盟理事會ニ代表セラルル他ノ一切ノ聯盟國代表者ノ聯盟理事會ニ於ケル一致ノ表決ヲ以テ聯盟ヨリ之ヲ除名スル旨ヲ聲明スルコトヲ得

第十七條

聯盟國ト非聯盟國トノ間又ハ非聯盟國相互ノ間ニ紛争ヲ生ジタルトキハ此ノ種紛争解決ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ヲ該非聯盟國カ聯盟理事會ノ正當ト認ムル條件ヲ以テ受諾スルコトヲ之ニ勸誘スヘシ勸誘ノ受諾アリタル場合ニ於テハ第十二條乃至第十六條ノ規定ハ聯盟理事會ニ於テ必要ト認ムル修正ヲ加ヘテ之ヲ適用ス
 前項ノ勸誘ヲ爲シタルトキハ聯盟理事會ハ直ニ紛争事情ノ審査ヲ開始シ當該事情ノ下ニ於テ最善且最有效ト認ムル行動ヲ勸告スヘシ
 勸誘ヲ受ケタル國カ此ノ種紛争解決ノ爲聯盟國ノ負フヘ

キ義務ノ受諾ヲ拒ミ聯盟國ニ對シ戰爭ニ訴フル場合ニ於テハ第十六條ノ規定ハ該行動ヲ執ル國ニ之ヲ適用ス
 勸誘ヲ受ケタル紛争當事國ノ雙方カ此ノ種紛争解決ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ノ受諾ヲ拒ム場合ニ於テハ聯盟理事會ハ敵對行為ヲ防止シ紛争ヲ解決スヘキ措置及勸告ヲ爲スコトヲ得

第十八條

聯盟國カ將來締結スヘキ一切ノ條約又ハ國際約定ハ直ニ之ヲ聯盟事務局ニ登錄シ聯盟事務局ハ成ルヘク速ニ之ヲ公表スヘシ右條約又ハ國際約定ハ前記ノ登錄ヲ了スル迄其ノ拘束力ヲ生スルコトナカルヘシ

第十九條

聯盟總會ハ適用不能ト爲リタル條約ノ再審議又ハ繼續ノ結果世界ノ平和ヲ危殆ナラシムヘキ國際狀態ノ審議ヲ隨時聯盟國ニ懲懲スルコトヲ得

第二十條

聯盟國ハ本規約ノ條項ト兩立セサル聯盟國相互間ノ義務又ハ了解カ各自國ノ關スル限リ總テ本規約ニ依リ廢棄セラルヘキモノナルコトヲ承認シ且今後本規約ノ條項ト兩立セサル一切ノ約定ヲ締結セサルヘキコトヲ誓約ス
 聯盟國ト爲ル以前本規約ノ條項ト兩立セサル義務ヲ負擔

シタル聯盟國ハ直ニ該義務ノ解除ヲ得ルノ處置ヲ執ルコトヲ要ス

第二十一條

本規約ハ仲裁裁判條約ノ如キ國際約定又ハ「モンロー」主義ノ如キ一定ノ地域ニ關スル了解ニシテ平和ノ確保ヲ目的トスルモノノ效力ニ何等ノ影響ナキモノトス

第二十二條

今次ノ戰爭ノ結果從前支配シタル國ノ統治ヲ離レタル殖民地及領土ニシテ近代世界ノ激甚ナル生存競争狀態ノ下ニ未タ自立シ得サル人民ノ居住スルモノニ對シテハ該人民ノ福祉及發達ヲ計ルハ文明ノ神聖ナル使命ナルコト及其ノ使命履行ノ保障ハ本規約中ニ之ヲ包含スルコトノ主義ヲ適用ス
 此ノ主義ヲ實現スル最善ノ方法ハ該人民ニ對スル後見ノ任務ヲ先進國ニシテ資源、經驗又ハ地理的位置ニ因リ最此ノ責任ヲ引受クルニ適シ且之ヲ受諾スルモノニ委任シ之ヲシテ聯盟ニ代リ受任國トシテ右後見ノ任務ヲ行ハシムルニ在リ
 委任ノ性質ニ付テハ人民發達ノ程度、領土ノ地理的地位、經濟狀態其ノ他類似ノ事情ニ從ヒ差異ヲ設クルコトヲ要ス

從前土耳其帝國ニ屬シタル或部族ハ獨立國トシテ假承認ヲ受ケ得ル發達ノ程度ニ達シタリ尤モ其ノ自立シ得ル時期ニ至ル迄施政上受任國ノ助言及援助ヲ受クヘキモノトス前記受任國ノ選定ニ付テハ主トシテ當該部族ノ希望ヲ考慮スルコトヲ要ス

他ノ人民殊ニ中央阿弗利加ノ人民ハ受任國ニ於テ其ノ地域ノ施政ノ責ニ任スヘキ程度ニ在リ尤モ受任國ハ公ノ秩序及善良ノ風俗ニ反セサル限リ良心及信教ノ自由ヲ許シ、奴隸ノ賣買又ハ武器若ハ火酒類ノ取引ノ如キ弊習ヲ禁止シ竝築城又ハ陸海軍根據地ノ建設及警察又ハ地域防衛以外ノ爲ニスル土民ノ軍事教育ヲ禁遏スヘキコトヲ保障シ且他ノ聯盟國ノ通商貿易ニ對シ均等ノ機會ヲ確保スルコトヲ要ス

西南阿弗利加及或南太平洋諸島ノ如キ地域ハ人口ノ稀薄、面積ノ狭小、文明ノ中心ヨリ遠キコト又ハ受任國領土ト隣接セルコト其ノ他ノ事情ニ因リ受任國領土ノ構成部分トシテ其ノ國法ノ下ニ施政ヲ行フヲ以テ最善トス但シ受任國ハ土著人民ノ利益ノ爲前記ノ保障ヲ與フルコトヲ要ス
各委任ノ場合ニ於テ受任國ハ其ノ委託地域ニ關スル年報ヲ聯盟理事會ニ提出スヘシ

受任國ノ行フ權限、監理又ハ施政ノ程度ニ關シ豫メ聯盟國間ニ合意ナキトキハ聯盟理事會ハ各場合ニ付之ヲ明定スヘシ

受任國ノ年報ヲ受理審査セシメ且委任ノ實行ニ關スル一切ノ事項ニ付聯盟理事會ニ意見ヲ具申セシムル爲常設委員會ヲ設置スヘシ

第二十三條

聯盟國ハ現行又ハ將來協定セラルヘキ國際條約ノ規定ニ遵由シ

(イ) 自國內ニ於テ及其ノ通商產業關係ノ及フ一切ノ國ニ於テ男女及兒童ノ爲ニ公平ニシテ人道的ナル勞働條件ヲ確保スルニカメ且之カ爲必要ナル國際機關ヲ設立維持スヘシ

(ロ) 自國ノ監理ニ屬スル地域内ノ土著住民ニ對シ公正ナル待遇ヲ確保スルコトヲ約ス

(ハ) 婦人及兒童ノ賣買並阿片其ノ他ノ有害藥物ノ取引ニ關スル取極ノ實行ニ付一般監視ヲ聯盟ニ委託スヘシ

(ニ) 武器及彈藥ノ取引ヲ共通ノ利益上取締ルノ必要アル諸國トノ間ニ於ケル該取引ノ一般監視ヲ聯盟ニ委託スヘシ

(ホ) 交通及通過ノ自由並一切ノ聯盟國ノ通商ニ對スル平衡ナル待遇ヲ確保スル爲方法ヲ講スヘシ右ニ關シテハ千九百十四年乃至千九百十八年ノ戰役中荒廢ニ歸シタル地方ノ特殊ノ事情ヲ考慮スヘシ

(ヘ) 疾病ノ豫防及撲滅ノ爲國際利害關係事項ニ付措置ヲ執ルニカムヘシ

第二十四條

一般條約ニ依ル既設ノ國際事務局ハ當該條約當事國ノ承諾アルニ於テハ總テ之ヲ聯盟ノ指揮下ニ屬セシムヘシ國際利害關係事項處理ノ爲今後設ケラルヘキ國際事務局及委員會ハ總テ之ヲ聯盟ノ指揮下ニ屬セシムヘキモノトス
一般條約ニ依リ規定セラレタル國際利害關係事項ニシテ國際事務局又ハ委員會ノ管理ニ屬セサルモノニ關シテハ聯盟事務局ハ當事國ノ請求ニ基キ聯盟理事會ノ同意ヲ得テ其ノ一切ノ關係情報ヲ蒐集頒布シ其ノ他必要又ハ望マシキ一切ノ援助ヲ與フヘシ

第二十五條

聯盟理事會ハ聯盟ノ指揮下ニ屬セシメタル事務局又ハ委員會ノ經費ヲ聯盟事務局ノ經費中ニ編入スルコトヲ得

聯盟國ハ全世界ニ互リ健康ノ増進、疾病ノ豫防及苦痛ノ輕減ヲ目的トスル公認ノ國民赤十字篤志機關ノ設立及

協力ヲ獎勵促進スルコトヲ約ス

第二十六條

本規約ノ改正ハ聯盟理事會ヲ構成スル代表者ヲ出ス聯盟各國及聯盟總會ヲ構成スル代表者ヲ出ス過半数聯盟國之ヲ批准シタルトキ其ノ效力ヲ生スルモノトス
右改正ハ之ニ不同意ヲ表シタル聯盟國ヲ拘束スルコトナシ但シ此ノ場合ニ於テ當該國ハ聯盟國タラサルニ至ルヘシ

附屬書

- 一 國際聯盟原聯盟國
- 平和條約署名國
- 亞米利加合衆國
- 白耳義國
- 「ボリヴィア」國
- 伯刺西爾國
- 英帝國
- 加奈陀
- 濠太利
- 南阿弗利加
- 新西蘭
- 印度
- 支那國

一 白耳義國トノ境界
 獨逸國ノ境界ハ左ノ通之ヲ決定ス
 白耳義、和蘭及獨逸ノ三國國境ノ交會點ヨリ南方ニ
 二 國際聯盟第一次事務總長
 「サー、ジエームス、イーリック、ドラモンド」
 第二編 獨逸國ノ境界
 第二十七條
 獨逸國ノ境界ハ左ノ通之ヲ決定ス
 一 白耳義國トノ境界
 獨逸國ノ境界ハ左ノ通之ヲ決定ス
 白耳義、和蘭及獨逸ノ三國國境ノ交會點ヨリ南方ニ
 二 國際聯盟第一次事務總長
 「サー、ジエームス、イーリック、ドラモンド」
 第二編 獨逸國ノ境界
 第二十七條
 獨逸國ノ境界ハ左ノ通之ヲ決定ス
 白耳義、和蘭及獨逸ノ三國國境ノ交會點ヨリ南方ニ

向ヒ舊「モレスネ」中立地帯ノ北東境、「オイベン」郡ノ
 東境、白耳義國及「モンジリア」郡間ノ國境、「マルメダイ
 ー」郡ノ北東境及東境ヲ經テ盧森堡國境トノ接合點
 二至ル
 二 盧森堡國トノ境界
 千九百十四年八月三日ノ國境ニ依リ千八百七十年
 七月十八日ノ佛蘭西國境トノ接合點ニ至ル
 三 佛蘭西國トノ境界
 盧森堡國ヨリ瑞西國ニ至ルノ間ハ第三編第四款
 (「ザール」河流域)第四十八條ノ規定ニ從フノ外千八
 百七十年七月十八日ノ國境ニ依ル
 四 瑞西國トノ境界
 現在ノ國境ニ依ル
 五 奧地利國トノ境界
 瑞西國ヨリ次ニ定ムル「チエツコ、スロヴァキア」國ニ至ル
 ノ間千九百十四年八月三日ノ國境ニ依ル
 六 「チエツコ、スロヴァキア」國トノ境界
 千九百十四年八月三日ノ獨逸兩國間ノ國境ト「ボヘ
 ミア」及上部奧地利州間ノ舊行政境界トノ接合點ヨ
 リ「ノイスタット」ノ東方約八吉米ニ於ケル舊奧地利國
 領「シレジア」州ノ凸出部ノ北端ニ至ルノ間右獨逸兩
 國間ノ國境ニ依ル
 七 波蘭國トノ境界
 前記北端ヨリ「ロルツェンドルフ」ノ東方約二吉米ニ於
 テ實査ノ上確定セラルヘキ地點ニ至ルノ間
 第八十八條ニ依リ定メラルヘキ國境ニ依ル
 次テ北方ニ進ミ「ボズナニア」行政境界ト「バルチエ」河
 トノ會合點ニ至ルノ間「スコリシャウ」「ライヒクトル」
 「トレムパチャウ」「クンツェンドルフ」「シュライゼ」「グ
 ロース、コーゼ」ル」「シュライベルスドルフ」「リッピン」「フエ
 ルストリッヒ、ニーフケン」「パウエラウ」「チエツシエン」「コ
 ンラダウ」「ヨハンニスドルフ」「モツェノウエ」「ボグダイ」ノ
 各地ヲ波蘭國ニ屬セシメ「ロルツェンドルフ」「カウル
 ウイツ」「グラウシエ」「ダルベルスドルフ」「レーゼウイツ」
 「ストラードム」「グロース、ワルテンベルグ」「クラツシエ
 ン」「ノイ、ミッテルワルデ」「ドマ斯拉ウイツ」「ウエーデ
 ルスドルフ」「チエツシエン、ハムメル」ノ各地ヲ獨逸國ニ
 屬セシムルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム
 次テ「ボズナニア」ノ境界ヲ北西方ニ進ミ之ト「ラウイツ
 チエ」ト「ヘルンスタット」鐵道トノ交又點ニ至ル
 次テ「ボズナニア」ノ行政境界ト「ライゼン」ト「ナルナウ」
 街道トノ交又點ニ至ルノ間

「トリープラシエ」ガール「西方、ザールボルク」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム
 次テ「ボズニア」ノ行政境界ヲ進ミ「フラウスタット」郡ノ東方行政境界トノ接合點ニ至ル
 次テ北西方ニ進ミ「ウンルースタット」「ゴブニツ」兩村落間ノ街道上ニ選定スヘキ地點ニ至ルノ間
 「ガイエルズドルフ」「プレシ」「フェーレン」「アルトクロステル」「クレーベル」ノ西方、「ウルベルズドルフ」「プーワルド」「イルゲン」「ワイネ」「ルビツツエ」「シユウエンテ」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム
 次テ北方ニ向ヒ「クロツプ」湖ノ北端ニ至ルノ間
 諸湖ノ中央線ニ從ヒ實査ノ上境界線ヲ定ム但シ「ベンチエン」ノ市街及停車場（「シユウイブス」「ベンチエン」「チユリツヒヤウ」「ベンチエン」兩鐵道ノ接合點ヲ含ム）ハ引續キ波蘭ノ版圖トス
 次テ北東方ニ向ヒ「シユウエリン」「ビルンバウム」及「メゼリツツ」ノ三郡境界ノ交會點ニ至ルノ間
 「ベツチエ」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム
 次テ北方ニ向ヒ「シユウエリン」「ビルンバウム」兩郡間ノ境界ニ從ヒ次ニ東方ニ向ヒ「ボズニア」ノ北境ヲ進ミ

「ネツツエ」河トノ交叉點ニ至ル
 次テ「ネツツエ」河ヲ溯リ「キユッドウ」河トノ會流點ニ至ルノ間
 「ネツツエ」河ノ河流ニ依ル
 次テ「キユッドウ」河ヲ溯リ「シユナイデミュール」ノ南東方約六吉米ニ於テ選定スヘキ地點ニ至ルノ間
 「キユッドウ」河ノ河流ニ依ル
 次テ北東方ニ向ヒ「スターレン」ノ西方約五吉米ニ於ケル「ボズニア」北境凹入部ノ南端ニ至ルノ間
 此ノ地方ニ於ケル「シユナイデミュール」「ゴブニツ」鐵道ヲ獨逸國版圖内ニ全部留ムモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム
 次テ「ボズニア」ノ境界ヲ北東方ニ進ミ「フラトウ」ノ東方約十五吉米ニ於ケル凸出部ノ尖端ニ至ル
 次テ北東方ニ向ヒ「グルーナウ」ノ北東方約三吉米ニ於ケル「カミオンカ」河ト「ゴブニツ」郡南境トノ會合點ニ至ルノ間
 「ヤズドロウ」「グロース、ルータウ」「クライン、ルータウ」及「ウイットカウ」ノ各地ヲ波蘭國ニ屬セシメ「グロース、プーチヒ」「チスコウ」「バットロウ」「ベツク」及「グルーナウ」ノ各地ヲ獨逸國ニ屬セシムモノトシ

實査ノ上境界線ヲ定ム
 次テ北方ニ向ヒ「ゴブニツ」「シユロツハウ」兩郡間ノ境界ヲ進ミ之ト「ブラー」河トノ交叉點ニ至ル
 次テ「ボズニア」ノ境界上「ルムメルズブルグ」ノ東方十五吉米ノ地點ニ至ルノ間
 「コナルチン」「ケルピン」「アドレル、プリーゼン」ノ各地ヲ波蘭國ニ屬セシメ「ザムボール」「ノイグート」「スタインフォルト」「グロース、ペーテルカウ」ノ各地ヲ獨逸國ニ屬セシムモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム
 次テ「ボズニア」ノ境界ヲ東方ニ進ミ「ゴブニツ」「シユロツハウ」兩郡間ノ境界トノ接合點ニ至ル
 次テ北方ニ向ヒ「ボズニア」西普魯西間ノ境界ヲ進ミ「ゴーラ」ノ北西方約三吉米ニ於ケル「レダ」河ト北西方ヨリ來ル一支流トノ會流點ニ至ル
 次テ「ワルシユカウ」ノ北西方約一吉米半ニ於ケル「ピアスニツ」河ノ彎曲部ニ於テ選定スヘキ地點ニ至ルノ間
 實査ノ上境界線ヲ定ム
 次テ「ピアスニツ」河ヲ下リ「ツアルノウイツ」湖ノ中央線、西普魯西ノ舊境界ヲ進ミ波羅的海ニ至ル
 八 丁林國トノ境界

第三編第十二款（シユレスウイヒ）第百九條乃至第百一十一條ニ依リ定ムル國境ニ依ル
 第二十八條
 東普魯西ノ境界ハ第三編第九款（東普魯西）ノ規定ニ從フノ外左ノ通之ヲ決定ス
 「アレツベルナウ」教會堂ノ北方約一吉米半ノ波羅的海岸ノ地點ヨリ該地點ヲ通スル眞子午線ノ東方約百五十九度ノ方位ニ向ヒ
 約二吉米ノ間實査ノ上境界線ヲ定ム
 次テ北緯五十四度十九分半線東經十九度二十六分ノ邊ニ在ル「エルピング」水道彎曲部ノ燈臺ニ向ヒ一直線ニ進ミ
 次テ同地點ヨリ眞子午線ノ東方約二百九度ノ方位ニ向ヒ「ノガット」河口ノ東端ニ達ス
 次テ「ノガット」河ノ河流ヲ溯リ同河カ「ヴィスチュラ」河（「ワイクセル」河）ト分岐スル點ニ至ル
 次テ「ヴィスチュラ」河ノ主要航行水道ヲ溯リ「マリエンウエルデ」郡及「ローゼンベルグ」郡ノ南境ヲ東方ニ進ミ東普魯西舊境界トノ接合點ニ至ル
 次テ東西普魯西間ノ舊境界並「オステローデ」及「ナイデンブルグ」兩郡間ノ境界ヲ進ミ「スコッタウ」河ノ河流ヲ下リ更

ニ「ナイア」河ノ河流ヲ溯リ「ピアルツテン」ノ西方約五吉米ニ於ケル露西亞國舊國境ニ最近キ地點ニ至ル
 次テ東方ニ向ヒ「ナイア」河「ムラヴァ」街道ト露西亞國舊國境トノ交叉點直南ノ地點ニ至ルノ間
 「ピアルツテン」ノ北方ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ露西亞國舊國境ニ沿ヒ「シユマルレニケン」東方ノ地點ニ至リ「ニーメン」河（「モーメル」河）ノ主要航行水道ヲ下リ三角洲ノ「スキルウイト」入江ヨリ「クローリツシエス」ハフニ至ル

次テ直線ヲ以テ「クローリツシエス」ノ東岸ト「ニツデン」ノ西方約四吉米ニ於ケル行政境界トノ接合點ニ至ル
 次テ此ノ行政境界ヲ進ミ「クローリツシエス」ノ西岸ニ達ス

第二十九條

前記ノ境界ハ本條約附屬百萬分一地圖（地圖第一號）上ニ赤線ヲ以テ之ヲ表示ス
 本條約ノ本文ト前項ノ地圖又ハ他ノ附屬地圖トノ間ニ相違アル場合ニ於テハ本文ニ從フモノトス

第三十條

水路ヲ以テ境界ヲ決定スル場合ニ於テ本條約ニ使用スル

第三十三條

獨逸國ハ「リエージュ」ヨリ「エークス」ヲ「シャヤル」ニ至ル道路ノ西方ニ位スル普魯西領「モレスネ」地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ白耳義國ノ爲ニ拋棄ス該道路ニシテ右地域ノ境界タル部分ハ白耳義國ニ歸屬スヘシ

第三十四條

獨逸國ハ「オイベン」マルメデー」兩郡ノ全部ニ互ル地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ白耳義國ノ爲ニ拋棄ス
 本條約實施後六月間白耳義國官憲ハ「オイベン」及「マルメデー」ニ於テ登錄簿ヲ公開スヘク前記地域ノ住民ハ同地域ノ全部又ハ一部カ引續キ獨逸國主權ノ下ニ立タムコトヲ希望スル旨右登錄簿ニ記入スルノ權利ヲ有ス

白耳義國政府ハ右民意公表ノ結果ヲ國際聯盟ニ通告スヘク白耳義國ハ聯盟ノ決定ヲ受諾スヘキコトヲ約ス

第三十五條

經濟上ノ要素及交通機關ノ關係ヲ參酌シテ白耳義獨逸兩國間ノ新國境線ヲ實查ノ上確定スル爲本條約實施後十五日以內ニ主タル同盟及聯合國ノ任命スル五名ノ委員並獨逸國及白耳義國ノ任命スル各一名ノ委員計七名ヨリ成ル委員會ヲ設置スヘシ
 該委員會ノ決定ハ過半數ニ依ルヘク且當事國ヲ拘束スヘシ

條約 第三編 歐洲政治條項 第一款 白耳義國

「河流」及「水道」ナル語ハ航行不能河川ニ在リテハ水路ノ又ハ其ノ本流ノ中央線、航行可能河川ニ在リテハ主要航行水道ノ中央線ヲ謂フ河流又ハ水道ノ移動ニ從ヒ國境線ノ變更ヲ生スヘキヤ或ハ本條約實施當時ニ於ケル河流又ハ水道ノ位置ニ依リ國境線ヲ確定スヘキヤハ本條約ニ定ムル境界委員會ニ於テ各場合ニ付之ヲ決定ス

第三編 歐洲政治條項

第一款 白耳義國

第三十一條

獨逸國ハ戰前ニ於ケル白耳義國ノ地位ヲ確立シタル千八百三十九年四月十九日ノ條約カ既ニ現時ノ要求ニ適合セサルニ至リタルコトヲ認メ該條約ノ廢棄ニ同意シ且前記千八百三十九年ノ條約ニ代フル爲主タル同盟及聯合國又ハ其ノ何レカノ國カ白耳義國政府及和蘭國政府ト共ニ締結スヘキ一切ノ條約ヲ直ニ承認遵守スルコトヲ約ス該條約又ハ其ノ何レカノ條項ニ對シ獨逸國ノ正式加入ヲ求メラルル場合ニ於テハ獨逸國ハ直ニ之ニ加入スヘキコトヲ約ス

第三十二條

獨逸國ハ「モレスネ」係爭地域（所謂「モレスネ」中立地帶）全部ニ對スル白耳義國ノ完全ナル主權ヲ承認ス

第三十六條

前掲地域ニ對スル主權ノ移轉確定シタルトキハ該地域ニ定住スル獨逸國民ハ當然確定スル白耳義國國籍ヲ取得シ獨逸國國籍ヲ喪失ス
 尤モ千九百十四年八月一日以後該地域ノ住民ト爲リタル獨逸國民ハ白耳義國政府ノ許可ヲ得ルニ非サレハ白耳義國國籍ヲ取得セサルモノトス

第三十七條

本條約ニ基キ白耳義國ニ讓渡シタル地域ニ定住スル十八歳以上ノ獨逸國民ハ該地域ニ對スル主權ノ移轉完了後二年以內ニ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有ス
 夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歳未滿ノ子ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ爾後十二月以內ニ獨逸國ニ住所ヲ移スコトヲ要ス
 右選擇權行使者ハ白耳義國ノ取得シタル地域ニ在ル其ノ不動産ヲ保有スルノ權利ヲ有ス各種ノ動産ハ之ヲ携帶スルコトヲ得ヘク該財產ノ移動ニ關シテハ一切ノ輸出税又ハ輸入税ヲ課スルコトヲ得ス

第三十八條

獨逸國政府ハ白耳義國ノ主權ノ下ニ移シタル地域内ニ於ケル民政、軍政、財政、司法其ノ他ニ關スル記録、發給簿、圖面、證書其ノ他各種ノ文書ヲ遲滞ナク白耳義國政府ニ引渡スヘシ

獨逸國政府ハ戰時中獨逸國官憲カ白耳義國官公署殊ニ「ブリニセル」ニ於ケル外務省ヨリ持去リタル各種ノ記録及文書ヲ同様白耳義國政府ニ返付スヘシ

第三十九條

白耳義國カ其ノ讓渡ヲ受ケタル地域ニ關シ負擔スヘキ獨逸國及普魯西ノ債務ノ割合及性質ハ第九編(財政條項)第二百五十四條及第二百五十六條ニ依リテ之ヲ決定スヘシ

第二款 盧森堡國

第四十條

盧森堡大公國ニ關シ獨逸國ハ千八百四十二年二月八日、千八百四十七年四月二日、千八百六十五年十月二十日、千八百六十六年八月十八日、千八百六十七年二月二十一日、同五月十一日、千八百七十一年五月十日、千八百七十二年六月十一日及千九百零二年十一月十一日ノ諸條約並此等條約ニ基ク一切ノ條約中獨逸國ノ爲ニ設ケタル一切ノ規定ノ利益ヲ拋棄ス

十三條ノ規定ニ違反シタルトキハ本條約ノ署名國ニ對シ敵對行爲ヲ爲シ且世界ノ平和ヲ攪亂スルモノト看做サルヘシ

第四款 「ザール」河流域

第四十五條

獨逸國ハ佛蘭西國北部ノ炭礦破壞ニ對スル補償トシテ又戰爭ニ基ク損害ニ付獨逸國ノ負擔スル全賠償額ノ一部支拂トシテ第四十八條ニ規定スル「ザール」河流域ニ在ル炭礦ニ對スル完全且絕對ナル所有權及之カ採掘ノ獨占權ヲ何等ノ金錢債務及負擔ヲモ伴フコトナク佛蘭西國ニ讓渡ス

第四十六條

住民ノ權利及福祉ヲ確保シ且佛蘭西國ニ對シ鑛山經營ニ關スル完全ナル自由ヲ保障スル爲獨逸國ハ本款附屬書第一章及第二章ノ規定ニ同意ス

第四十七條

「ザール」河流域ノ施政ニ關シ相當期間内ニ於テ住民ノ希望ニ適應スル永久ノ規定ヲ設ケルノ目的ヲ以テ佛蘭西國及獨逸國ハ本款附屬書第三章ノ規定ニ同意ス

第四十八條

本條款ニ掲ケル「ザール」河流域地方ノ境界ハ左ノ通之ヲ

獨逸國ハ盧森堡大公國カ千九百十九年一月一日以後獨逸關稅同盟ヲ脫退シタルコトヲ承認シ、鐵道經營ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シ、大公國ノ永世局外中立ノ終了ニ同意シ且同盟及聯合國カ大公國ニ關シテ締結スヘキ一切ノ國際協定ヲ豫メ承認ス

第四十一條

獨逸國ハ主タル同盟及聯合國カ之ヲ要求スル場合ニ於テハ經濟問題並運送及航空ニ關スル問題ニ付該諸國又ハ其ノ國民ノ爲ニ本條約中ニ規定シタル諸種ノ權利及便益ヲ盧森堡大公國ニ許與スヘキコトヲ約ス

第三款 萊因河左岸

第四十二條

獨逸國ハ萊因河ノ左岸又ハ同河ノ東方五十吉米ニ引キタル線ノ西方ニ在ル同河右岸ニ於テ築城ヲ保有シ又ハ構設スルコトヲ得ス

第四十三條

前條規定ノ地域内ニ於テハ武裝シタル兵力ノ永久又ハ一時ノ駐屯及集合並各種ノ軍事演習ヲ禁ス動員ノ爲ニスル一切ノ永久施設ノ保持ニ付亦同シ

第四十四條

獨逸國ニシテ其ノ方法ノ如何ヲ問ハス第四十二條及第四

決定ス

南方及南西方方面 本條約ニ定ムル佛蘭西國境ニ依ル北西方及北方方面 「メルチッヒ」郡北方行政境界ト佛蘭西國境トノ接合點ヨリ該行政境界ヲ進ミ「ザール」ヘルツバッハ「ブリッテン」兩村間ノ行政境界トノ接合點ニ至ル次テ該兩村ノ境界ヲ南進シ「メルチッヒ」區ノ行政境界ニ達シ「ブリッテン」村ヲ除ク外「メットラッハ」區「ザール」河流域地方ニ包含セシメ次テ前記「ザール」河流域ニ編入セラレタル「メルチッヒ」及「ハウスタット」兩區ノ北方行政境界ヲ進ミ更ニ「ザール」リス「オットワイレル」及「サン、ウエンデル」各郡ト「メルチッヒ」「トレーヴ」「トリエール」兩郡及「ビルケンフェルト」公國トノ行政境界ヲ進ミ「フルシユワイレル」村落ノ北方約五百米ノ地點(即チ「メッツェルベルグ」ノ最高點)ニ至ル

北東方及東方方面 前記ノ地點ヨリ「サン、ウエンデル」ノ東北東方約三吉米半ノ地點ニ至ルノ間

「フルシユワイレル」ノ東方「ロッシェベルグ」ノ西方及標高四一八及三二九(「ロッシェベルグ」ノ南方)ノ東方「ライテルスワイレル」ノ西方、標高四六四ノ北東方ヲ過キ分水線ヲ南方ニ進ミ「クレーセル」郡行政境界トノ接合點ニ至ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ南方ニ向ヒ「クレーセル」郡ノ境界ヲ進ミ更ニ「ホムブルグ」郡ノ境界ヲ南南東方ニ進ミ「ドゥンツワイレル」ノ西方約千
米ノ地點ニ至ル

次テ「ホルンバッハ」ノ南方約一吉米ノ地點ニ至ルノ間
標高四二四(「ドゥンツワイレル」ノ南東方約千米)、標高
三六三(「フックス、ベルグ」)、標高三二二(「ワルドモール」ノ
南西方)ヲ過キ「エーデルスブルグ」及「エルバッハ」ノ東方ヲ
經テ「ホムブルグ」ヲ繞回シ標高三六一(「ホムブルグ」市街
ノ北東微東方約二吉米半)、標高三四二(「ホムブルグ」
市街南東方約二吉米)、標高三五七(「シュタイネルス、ベ
ルグ」)、標高三五六、標高三五〇(「シュワルツェンバッハ」
ノ南東方約一吉米半)ヲ經テ「アインネド」ノ東方、標
高三二二及三三三ノ南東方、「ウーベンハイム」ノ東方
約二吉米及「ミームバッハ」ノ東方約二吉米ヲ過キ更ニ
「ミームバッハ」「ベックワイレル」街道ニ依リ橫斷セラレル
高地ノ東方ヲ經テ該街道ヲ「ザール」河流域地方ニ包
合セシメ「アルトハイム」ノ北方約二吉米ニ於ケル「ベッ
クワイレル」及「アルトハイム」ヨリ來ル兩街道ノ接合點ノ
直北ヲ過キ「リングワイレルホーフ」ノ南方及標高三二二
ノ北方ヲ過キ「ホルンバッハ」ノ南方約一吉米佛蘭西國
境ノ凸角部ニ於テ之ト合スルモノトシ實査ノ上境界線

ヲ定ム(本條約附屬十萬分一地圖第二號參照)
前記國境線ノ實査劃定ヲ行フ爲本條約實施後十五日以
內ニ佛蘭西國ノ任命スル委員一名、獨逸國ノ任命スル委
員一名及國際聯盟理事會ニ於テ右二國外ノ國ノ國民中
ヨリ選任スル委員三名合セテ五名ヨリ成ル委員會ヲ設置
スヘシ

前記境界線中行政境界ト一致セサル部分ニ付テハ委員
會ハ能フ限リ地方ノ經濟上ノ利益及現在ノ市町村ノ境
界ヲ斟酌シ指定ノ境界線ニ依ルコトニカムヘシ
右委員會ノ決定ハ過半数ニ依ルヘク且當事國ヲ拘束スヘ
キモノトス

第四十九條

獨逸國ハ受託者トシテノ國際聯盟ノ爲ニ前記地域上ノ施
政權ヲ拋棄ス

本條約實施後十五年ノ終ニ於テ前記地域ノ住民ヲシテ
何レノ主權ニ服スルコトヲ希望スルヤヲ表示セシムヘシ

第五十條

「ザール」河流域ニ於ケル鑛山ノ讓渡實行ニ關スル規定ハ
住民ノ權利福祉及該地域ノ施政ノ保障ヲ目的トスル措
置並前條ノ民意表示ニ關スル條件ト共ニ本款附屬書ニ
之ヲ規定ス該附屬書ハ本條約ノ一部ヲ爲スモノト認メラ

ルヘク且獨逸國ハ之ヲ遵守スヘキコトヲ聲明ス

附屬書

第四十五條乃至第五十條ノ規定ニ依リ獨逸國ノ佛蘭西
國ニ對スル「ザール」河流域鑛山ノ讓渡ノ實行ニ關スル規
定、住民ノ權利福祉及該地域ノ施政ヲ確保ス
ルコトヲ目的トスル措置並該住民ニ對シ其ノ何レノ主權ニ
服スルコトヲ希望スルヤヲ表示セムコトヲ求ムル條件ヲ規
定スルコト左ノ如シ

第一章 鑛山ノ讓渡及採掘

第四十八條ニ規定スル「ザール」河流域地方ニ在ル一切ノ
炭田ハ本條約實施ノ日以後完全且絕對ニ佛蘭西國ノ財
產ト爲ルモノトス

佛蘭西國ハ豫メ認諾ヲ經ルコトナク又ハ何等ノ手續ヲ履
ムコトナク該鑛山ヲ採掘シ若ハ採掘セサルノ權利又ハ之カ
採掘權ヲ第三者ニ讓渡スルノ權利ヲ有スヘシ

佛蘭西國ハ其ノ權利ヲ確實ニスル爲何時タリトモ左記ノ
獨逸國鑛業法令ノ適用ヲ請求スルコトヲ得

二

佛蘭西國ノ所有權ハ未ダ特許ヲ付與セラレサル未着手ノ
炭田ニ及フノミナラス既ニ特許ヲ付與セラレタル炭田ト雖

現所有者ノ何人タルヲ問ハズ即チ其ノ普魯西國ニ屬スル
ト巴威國ニ屬スルト其ノ他ノ國若ハ團體ニ屬スルト會社
若ハ個人ニ屬スルトヲ問ハズ又現ニ採掘セラルルト否ト又
ハ地表所有者ノ權利ト別個ノ採掘權カ認メラレタルト否
トニ拘ラス總テ之ニ及フヘシ

三

現ニ採掘中ノ鑛山ニ在リテハ佛蘭西國ニ對スル所有權讓
渡ノ效力ハ該鑛山ニ關スル一切ノ附帶機關殊ニ地表及
地下ニ於ケル其ノ諸設備及機械、採掘機、石炭ヲ電力骸
炭及副産物ニ變形スル工場設備、作業場、交通機關、電
線、引水及配水ノ設備、土地、事務所支配人使用者及勞
働者ノ住宅學校病院藥局等ノ建築物、各種ノ在庫品及
供給品、記録及圖面並概言スレハ鑛山ヲ所有シ又ハ採掘
スル者カ鑛山及其ノ附帶機關經營ノ爲占有シ又ハ享有ス
ル一切ノモノニ及フヘシ

前記讓渡ノ效力ハ佛蘭西國ノ占有前本條約署名後ノ交
付ニ係ル產出物ノ代金及取引先ノ爲シタル供託金ニ及フ
但シ取引先ノ權利ハ佛蘭西國ノ之ヲ保障スヘシ

四

佛蘭西國ハ一切ノ金錢債務及負擔ヲ負フコトナク前記ノ
財產ヲ取得スヘシ但シ鑛山及其ノ附帶機關ノ被用者カ本

條約實施ノ日ニ於テ養老又ハ癡疾年金ニ關シ既ニ取得シ又ハ取得ノ中途ニ在ル權利ハ之ニ因リテ影響ヲ受クルコトナカルヘシ獨逸國ハ右代償トシテ佛蘭西國ニ對シ該被用者ノ受クヘキ年金ニ對スル保險統計上ノ積立金ヲ支拂フコトヲ要ス

五

右佛蘭西國ニ讓渡サレタル財産ノ價額ハ第八編(賠償)第百三十三條ノ賠償委員會之ヲ決定スヘシ
右價額ハ賠償金額ノ一部支拂トシテ之ヲ獨逸國ノ貸方ニ計上スヘシ

六

獨逸國ハ當該財産ノ所有者又ハ利害關係人ノ何人タルヲ問ハス之ニ賠償ヲ爲スヘキモノトス
獨逸國ノ鐵道及運河ニ於テハ鑛山及其ノ附帶機關ノ人員若ハ產出物又ハ經營ニ必要ナル材料ノ運送ニ不利益ナル直接又ハ間接ノ差別料金率ヲ設クルコトヲ得ス右運送ニ關シテハ佛蘭西國原產ノ同種產出物ニ對シ國際鐵道條約ノ保障スル一切ノ權利及特權ヲ許與スヘシ

七

鑛山及其ノ附帶機關ノ產出物ノ發送及運送並勞働者及被用者ノ運搬ヲ確保スル爲必要ナル設備及人員ハ「ザー

ル」河流域ノ地方鐵道管理者之ヲ提供スヘシ

八

佛蘭西國カ鑛山及其ノ附帶機關ノ產出物ノ發送及運送ヲ確保スル爲必要ト認ムル鐵道又ハ水路ノ改良例ヘハ複線工事、停車場ノ擴張並構内設備及附屬物ノ建設等ニ對シテハ何等ノ障礙ヲ設クルコトヲ得ス費用ノ分擔ニ付協議調ハサルトキハ之ヲ仲裁裁判ニ付スヘシ

佛蘭西國ハ又鑛山ノ採掘ニ必要ト認ムル道路、電線及電話聯絡ノ如キ新交通機關ヲ開設スルコトヲ得

九

佛蘭西國ハ其ノ所有スルコトアルヘキ交通機關殊ニ鑛山及其ノ附帶機關ト佛蘭西國版圖内ニ在ル交通機關トヲ連結スルモノヲ自由ニ且何等ノ制限ナク經營スルコトヲ得
佛蘭西國ハ鑛山及其ノ附帶機關ノ經營ノ爲必要ト認ムル土地ヲ取得スル爲何時タリトモ千九百十八年十一月十一日現行ノ獨逸國鑛業法令ノ適用ヲ要求スルノ權利ヲ有ス但シ戰爭狀態ニ鑑ミ特ニ設ケラレタル規定ハ此ノ限ニ在ラス

右鑛山及其ノ附帶機關ノ經營ニ依リ不動產ニ及ホシタル損害ニ對スル支拂ハ前記獨逸國鑛業法令ニ依リ之ヲ行フヘシ

十

鑛山及其ノ附帶機關經營ノ權利ノ全部又ハ一部ニ付佛蘭西國カ自己ニ代位セシムル者ハ本附屬書所定ノ特權ノ利益ヲ享受スヘシ

十一

佛蘭西國ノ所有ニ歸シタル鑛山其ノ他ノ不動產ハ失權、買戻、公用徵收又ハ徵發其ノ他財産權ニ影響ヲ及ホス何等ノ處分ノ目的ト爲ルコトナシ
鑛山又ハ其ノ附帶機關ノ經營ニ關係アル人員及設備並鑛山ヨリ採掘シ又ハ其ノ附帶機關ニ依リ製造シタル產出物ハ如何ナル場合ニ於テモ何等徵發處分ノ目的ト爲ルコトナシ

十二

佛蘭西國ノ所有ニ歸シタル鑛山及其ノ附帶機關ノ經營ハ本附屬書二十三ノ規定ニ從フノ外千九百十八年十一月十一日現行ノ獨逸國法令ニ依リ定メラレタル制度ニ引續キ遵由スヘシ但シ戰爭狀態ニ鑑ミ特ニ設ケラレタル規定ハ此ノ限ニ在ラス
勞働者ノ權利ハ右二十三ノ規定ニ從フノ外前記獨逸國法令ニ依リ定メラレタル千九百十八年十一月十一日現在ノ通維持セラルヘシ

右流域外ノ地ノ勞働者ヲ鑛山及其ノ附帶機關ニ傭入レ又ハ之ヲ使用スルニ對シテハ何等ノ障礙ヲ設クルコトヲ得
佛蘭西國籍ヲ有スル被用者及勞働者ハ佛蘭西勞働組合ニ屬スルノ權利ヲ有スヘシ

十三

鑛山及其ノ附帶機關ヨリ「ザール」河流域地方ノ地方歳入又ハ市町村收入中ニ納付スヘキ金額ハ鑛山ノ價額ト該流域ニ於ケル課稅シ得ヘキ一切ノ富トノ割合ヲ案シテ之ヲ決スヘシ

十四

佛蘭西國ハ常ニ鑛山ノ附帶事業トシテ被用者及其ノ兒童ノ爲小學校又ハ技藝學校ヲ建設維持シ且該學校ニ於テ佛蘭西國ノ選定スル課程及教師ニ依リ佛蘭西語ヲ以テ教育ヲ授クルノ權利ヲ有スヘシ

十五

佛蘭西國ハ又病院、藥局、勞働者ノ住宅及庭園其ノ他慈善的及社會的ノ設備ヲ建設維持スルノ權利ヲ有スヘシ
佛蘭西國ハ鑛山及其ノ附帶機關ノ產出物ノ分配、發送及賣價ニ關シ完全ナル自由ヲ享有スヘシ
尤モ鑛山全產出額ノ多少ニ拘ラス佛蘭西國政府ハ產業

用及家事用ノ地方的消費ニ充ツル爲千九百十三年ニ於ケル「ザール」河流域ノ地方的消費額ト該流域全產出額トノ比例ニ依リ常ニ右產出物ヲ供給スヘキコトヲ約ス

第二章 「ザール」河流域地方ノ施政

十六

「ザール」河流域地方ノ施政ハ國際聯盟ヲ代表スル委員會ニ之ヲ委任スヘシ該委員會ハ「ザール」河流域地方ニ之ヲ設置ス

十七

本附屬書十六ニ規定スル施政委員會ハ國際聯盟理事會ノ選定スル五名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織シ佛蘭西國人民一名、佛蘭西國人民ニ非サル「ザール」河流域土著ノ住民一名及佛蘭西獨逸兩國以外ノ三國ニ屬スル者三名ヲ以テ之ニ充ツ

施政委員會委員ノ任期ハ一年トシ重任スルコトヲ得國際聯盟理事會ハ該委員ヲ罷免スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該理事會ハ其ノ後任者ヲ定ムヘシ

施政委員會委員ハ俸給ヲ受クルノ權利ヲ有ス俸給ノ額ハ國際聯盟理事會之ヲ定ム該俸給ハ地方收入ノ支辨トス

十八

施政委員會ノ委員長ハ委員中ヨリ國際聯盟理事會之ヲ

任命ス其ノ任期ハ一年トシ再任スルコトヲ得委員長ハ委員會ノ執行機關トシテ行動ス

十九

施政委員會ハ「ザール」河流域地方ニ於テ從來獨逸帝國、普魯西又ハ巴威ニ屬シタル一切ノ施政權ヲ保有スヘシ該施政權中ニハ官吏ヲ任免シ並其ノ必要ト認ムル行政機關及代表機關ヲ創設スルノ權能ヲ包含ス

右委員會ハ鐵道、運河其ノ他ノ公企業ヲ管理及經營スルノ全權ヲ有スヘシ

二十

獨逸國ハ「ザール」河流域地方又ハ其ノ住民ノ權利ニ關スル一切ノ公文書及記錄ニシテ獨逸國、獨逸各邦又ハ地方官憲ノ管理ノ下ニ在ルモノヲ施政委員會ノ使用ニ供スヘシ

二十一

施政委員會ハ其ノ適當ト認ムル手段及條件ニ依リ「ザール」河流域地方住民ノ利益ヲ其ノ地方外ニ於テ確實ニ保護スルノ責ニ任ス

二十二

施政委員會ハ「ザール」河流域地方ニ於テ公物又ハ私物上ニ存在シ獨逸帝國政府又ハ獨逸各邦政府ニ屬スル鑛山以外

二十四

「ザール」河流域ノ住民カ本條約實施ノ日ニ於テ既ニ取得シ又ハ取得ノ中途ニ在ル權利ニシテ獨逸國ノ保險制度又ハ各種ノ年金ニ關スルモノハ本條約ノ規定ニ依リ何等影響ヲ受クルコトナシ但シ第四項ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

二十五

獨逸國及「ザール」河流域地方政廳ハ一切ノ前記ノ權利ヲ存續セシムヘシ

二十六

「ザール」河流域地方ノ民事及刑事ノ裁判所ハ之ヲ存續スヘシ

右裁判所ノ裁判ニ對スル上訴ヲ審理シ及其ノ權限外ノ事件ヲ裁判スル爲施政委員會ハ一、民事裁判所ヲ設置スヘシ

施政委員會ハ該裁判所ノ構成及管轄ヲ決定スルノ責任ヲ有ス

裁判ハ施政委員會ノ名ニ於テ之ヲ行フ

二十七

「ザール」河流域地方ニ於ケル租稅及手数料ハ施政委員會獨リ之ヲ徵收スルノ權能ヲ有ス

右ノ租稅及手数料ハ專ラ之ヲ該地域ノ需用ニ充ツ

千九百十八年十一月十一日現行ノ財政制度ハ成ルヘク

ノ一切ノ財產ニ對シ完全ナル使用收益ノ權利ヲ有スヘシ

鐵道ニ付テハ「ザール」河流域地方政廳ト獨逸諸鐵道トヲ代表スル混合委員會ハ車輛ノ平衡ナル分配ヲ爲スヘシ

「ザール」河流域ニ出入スル人、貨物、船舶、客車、貨車及郵便物ハ第十二編(港、水路及鐵道)ニ規定スル通過及運送ニ關スル一切ノ權利及特權ヲ享有スヘシ

二十三

「ザール」河流域地方ニ於テハ千九百十八年十一月十一日現行ノ法令ハ戰爭狀態ニ基キ制定セラレタルモノヲ除クノ外引續キ之ヲ適用スヘシ

一般的理由ニ依リ又ハ本條約ノ規定ト合致セシムル爲右諸法令ニ修正ヲ加フルノ必要アルトキハ施政委員會ハ其ノ定ムル方法ニ依リ住民ノ選出代表者ト協議シタル後該修正ヲ決定シ且施行スヘシ

本附屬書十二ニ規定スル鑛山採掘ニ關スル法制ハ豫メ佛蘭西國ト協議スルニ非サレハ之ヲ修正スルコトヲ得ス但シ國際聯盟ノ採用シタル勞働ニ關スル一般規定ニ基ク修正ハ此ノ限ニ在ラス

男子、婦人及兒童ノ勞働條件及時間ヲ決定スルニ當リテハ施政委員會ハ地方勞働團體ノ表示シタル希望及國際聯盟ノ採用シタル原則ヲ參酌スルコトヲ要ス

之ヲ維持スヘシ又豫メ住民ノ選出代表者ト協議シタル場合ヲ除クノ外新ニ關稅以外ノ何等ノ租稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

二十七

本諸規定ハ「ザール」河流域地方ノ住民ノ現ニ有スル國籍ニ影響スルコトナシ
他國籍ヲ取得セムコトヲ希望スル者ニ對シテハ何等ノ障礙ヲ設クルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ新國籍ノ取得ハ其ノ他ノ國籍ヲ喪失セシムルモノトス

二十八

住民ハ施政委員會ノ監督ノ下ニ其ノ地方議會、信教ノ自由、學校及言語ヲ保持スヘシ
投票權ハ地方議會以外ノ議會ニ關シ行使セラルルコトナカルヘク又男女ノ別ナク二十歳以上ノ總テノ住民之ヲ有スヘシ

二十九

「ザール」河流域ノ住民ニシテ該地域ヲ退去セムト欲スル者ハ其ノ不動産ヲ該地域内ニ保有シ又ハ相當ノ價格ヲ以テ之ヲ賣却シ且何等ノ負擔ヲ課セラルルコトナクシテ其ノ動產ヲ撤去スルノ完全ナル自由ヲ有ス

三十

右流域ニ輸入セラレタル原料品及半製品ヲ含ム一切ノ貨物ニシテ同流域ヨリ佛蘭西國ニ運送セラルルモノノ數量ヲ千九百十一年乃至千九百十三年ニ「アルザス、ロレーヌ」及佛蘭西國ニ輸入セラレタル數量ノ平均年額迄制限スルノ權利ヲ留保ス右平均額ハ一切ノ公ノ情報及統計ヲ參照シテ之ヲ決定スヘシ

三十一

「ザール」河流域地方ニ於テハ佛蘭西國貨幣ノ流通ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得ス
佛蘭西國ハ鑛山又ハ其ノ附帶機關ノ經營ニ關スル一切ノ購買、支拂及契約ニ於テ佛蘭西國貨幣ヲ使用スルノ權利ヲ有ス

三十三

施政委員會ハ前記諸規定ノ解釋ヨリ生スル一切ノ問題ヲ決定スルノ權能ヲ有ス
佛蘭西國及獨逸國ハ前記諸規定ノ解釋ニ關スル意見ノ相違ニ基ク一切ノ爭議ヲ均シク施政委員會ニ付議スヘキコトヲ承諾ス過半数ニ依リ該委員會ノ決定ハ兩國ヲ拘束スヘシ

第三章 人民一般投票

三十四

條約 第三編 歐洲政治條項 附屬書 第三章 人民一般投票

「ザール」河流域地方ニ於テハ強制タルト志願タルト問ハス何等ノ兵役制度ヲ設クルコトナカルヘシ又同地域内ニ於テハ築城ノ構設ヲ禁止ス

三十一

秩序維持ノ爲ニスル地方憲兵ノミハ之ヲ置クコトヲ得
施政委員會ハ一切ノ場合ニ於テ「ザール」河流域内ニ於ケル人及財產ノ保護ニ任スルノ義務ヲ有ス

三十一

第四十八條ニ掲クル「ザール」河流域地方ニ於テハ佛蘭西國ノ關稅制度ニ依ルヘキモノトス地方消費ノ爲仕向ケラレタル貨物ニ對スル關稅收入ハ一切ノ徵收費ヲ控除シタル上之ヲ該地域ノ豫算ニ編入スヘシ
右地域ヨリ獨逸國ニ輸出スル冶金生産品又ハ石炭ニ對シテハ何等ノ輸出稅ヲ賦課セス「ザール」河流域地方ノ産業ニ使用スル獨逸國ノ輸出品ニ付亦同シ

三十一

獨逸國ノ版圖ヲ通過スル右流域原産ノ天產物又ハ製造品ハ何等ノ關稅ヲ賦課セラルルコトナシ該流域ヲ通過スル獨逸國產物亦同シ
右流域ノ原産ニシテ右流域ヨリ獨逸國ニ入ル生産物ニ對シテハ本條約實施ノ日以後五年間輸入稅ヲ免除スヘシ地方消費ノ爲獨逸國ヨリ右流域ニ輸入スル貨物ニ對シ亦同シ
佛蘭西國政府ハ前記五年ノ期間獨逸國ヨリ無稅ニテ

三十一

「ザール」河流域地方ノ住民ハ本條約實施後十五年ノ期間滿了ノ時ニ於テ左ノ方法ニ依リ其ノ希望ヲ表示スルコトヲ求メラルヘシ
市町村又ハ區毎ニ左ノ三者中ノ一ヲ選フ爲投票ヲ行フヘシ
(イ) 本條約及本附屬書ニ依リ設定セラレタル制度ノ維持
(ロ) 佛蘭西國トノ合併
(ハ) 獨逸國トノ合併

三十五

投票ノ日ニ於テ二十歳以上ニシテ本條約署名ノ日ニ右地域内ニ居住シタル者ハ男女ノ別ナク悉ク投票權ヲ有ス
右ノ外ノ投票ノ要件、方法及期日ハ投票ノ自由、祕密及確實ヲ保障シ得ヘキ方法ニ依リ國際聯盟理事會之ヲ決定ス

三十五

國際聯盟ハ投票ニ依リ表示セラレタル住民ノ希望ヲ考量シ右地域ノ歸屬スヘキ主權ヲ決定スヘシ
(イ) 國際聯盟カ右地域ノ全部又ハ一部ニ對シ本條約及本附屬書ニ依リ設定セラレタル制度ヲ維持スルコトニ決定シタル場合ニ於テハ獨逸國ハ國際聯盟ノ必要ト認ムル所ニ從ヒ國際聯盟ノ爲ニ主權ヲ拋棄スル

三十五

條約 第三編 歐洲政治條項 附屬書 第三章 人民一般投票

コトヲ茲ニ承諾ス國際聯盟ハ確定的ニ採用セラレタル前記制度ヲ右地域ノ永久ノ福祉及一般ノ利益ニ適應セシムル爲適當ナル處置ヲ講スルノ義務ヲ有ス

(ロ) 國際聯盟カ右地域ノ全部又ハ一部ヲ佛蘭西國ニ合併スルコトニ決定シタル場合ニ於テハ獨逸國ハ國際聯盟ノ決定ニ從ヒ佛蘭西國ニ對シ聯盟ノ指定スル地域ニ於ケル一切ノ權利及權原ヲ讓渡スヘキコトヲ承諾ス

(ハ) 國際聯盟カ右地域ノ全部又ハ一部ヲ獨逸國ニ合併スルコトニ決定シタル場合ニ於テハ國際聯盟ハ其ノ指定スル地域ニ對シ獨逸國政府ヲシテ其ノ施政ヲ再興セシムヘキ義務ヲ有ス

三十六

國際聯盟カ「ザール」河流域地方ノ全部又ハ一部ヲ獨逸國ニ合併スルコトニ決定シタルトキハ該地域ニ在ル鑛山ニ對スル佛蘭西國ノ所有權ハ金貨拂ノ價格ヲ以テ全部獨逸國之ヲ買戻スヘシ其ノ價格ハ獨逸國ノ指名スル一名佛蘭西國ノ指名スル一名、國際聯盟理事會ニ於テ佛蘭西人及獨逸人ニ非サル者ヨリ指名スル一名計三名ノ専門家之ヲ決定スヘシ右専門家ノ決定ハ過半数ニ依ル

前記獨逸國ノ支拂義務ハ賠償委員會之ヲ考量スヘシ獨

逸國ハ右支拂ニ充ツル爲同委員會ノ同意シタル細目條件ニ依リ其ノ財產又ハ收入ノ上ニ優先權ヲ設定スルコトヲ得

獨逸國カ支拂期日後一年內ニ右支拂ヲ爲サルトキハ賠償委員會ハ國際聯盟ノ訓令ニ從ヒ支拂ノ方法ヲ講シ又必要ノ場合ニ於テハ當該鑛山ヲ清算シ右支拂ニ充ツヘシ

三十七

本附屬書三十六ノ規定ニ依ル買戻ノ結果鑛山又ハ其ノ一部ノ所有權カ獨逸國ニ移轉シタルトキハ佛蘭西國及國民ハ其ノ産業用及家事用ノ爲其ノ當時必要ト認メラルル數量ノ「ザール」河流域ノ石炭ヲ購買スルノ權利ヲ有スヘシ石炭ノ數量、契約ノ存續期間及價格ニ關スル衡平ナル協定ハ適當ナル時期ニ於テ國際聯盟理事會之ヲ決定スヘシ

三十八

佛蘭西國及獨逸國ハ鑛山買戻ノ價格支拂期日以前ニ締結スル特別取極ヲ以テ本附屬書三十六及三十七ノ規定ヲ修正スルコトヲ得

三十九

國際聯盟理事會ハ本附屬書三十五ニ規定スル國際聯盟ノ決定實施後行ハルヘキ制度ノ設定ノ爲必要ナル規定ヲ

設クヘシ該規定中ニハ委員會ノ起債ニ依リ又ハ其ノ他ノ原因ニ依リ生シタル「ザール」河流域地方政廳ノ債務ノ衡平ナル分配ヲ含ムヘシ

施政委員會ノ權能ハ新制度實施ノ時ヨリ消滅ス但シ本附屬書三十五(イ)號ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

四十

本附屬書ニ掲ケル一切ノ事項ニ關スル國際聯盟理事會ノ決定ハ過半数ニ依ル

第五款 「アルザス、ロレーヌ」

締約國ハ佛蘭西國ノ權利ニ對シ並「ボルドー」會議ニ於ケル「アルザス」及「ロレーヌ」代表者ノ嚴重ナル抗議ニ拘ラス祖國ヨリ分離セラレタル右兩州人民ノ希望ニ對シ千八百七十一年獨逸國ノ加ヘタル非行ヲ是正スヘキ德義上ノ義務アルコトヲ認メ

左ノ諸條ヲ約定ス

第五十一條

千八百七十一年二月二十六日「ヴェルサイユ」ニ於テ署名セラレタル講和豫備條約及千八百七十一年五月十日ノ「フランクフルト」條約ニ依リ獨逸國ニ讓渡セラレタル地域ハ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約締結ノ日以後佛蘭西國主權ノ下ニ復歸ス

千八百七十一年以前ニ於ケル國境劃定ニ關スル諸條約ノ規定ハ其ノ效力ヲ回復スヘキモノトス

第五十二條

獨逸國政府ハ佛蘭西國主權ノ下ニ復歸シタル地域ノ民政、軍政、財政、司法其ノ他ニ關スル一切ノ記録、登錄簿、圖面、證書其ノ他各種ノ文書ヲ運滯ナク佛蘭西國政府ニ引渡スヘシ若シ以上ノ文書、記録、登錄簿、證書又ハ圖面中他ニ移シタルモノアルトキハ獨逸國政府ハ佛蘭西國政府ノ請求ニ應ジ之ヲ還付スヘシ

第五十三條

第五十一條ノ地域ニ於ケル住民ノ利益殊ニ其ノ私權、營業及業務執行ニ關シテハ佛蘭西國ト獨逸國トノ間ニ別個ノ取極ヲ締結スヘシ但シ獨逸國ハ今後本款附屬書中ニ掲ケタル右地域内ノ住民又ハ原住者ノ國籍ニ關スル規定ヲ承認受諾シ、既ニ佛蘭西人タルコトヲ何等ノ理由ニ依ルヲ問ハズ宣明セラレタル者ニ對シテハ如何ナル時又ハ如何ナル場所ニ於テモ之ヲ獨逸國民ナリト主張スルコトナク、其ノ他ノ者ハ總テ之ヲ其ノ領土内ニ引取り且第五十一條ノ地域ニ於ケル獨逸國民ノ財產ニ付テハ第十編(經濟條項)第一、二百九十七條及同第四款附屬書ノ規定ニ準據スヘキコトヲ約シタルモノトス

獨逸國民ニシテ佛蘭西國籍ヲ取得スルコトナクシテ佛蘭西國政府ヨリ前記地域内ニ居住スルノ許可ヲ受ケタル者ニ對シテハ同條ノ規定ヲ適用セス

第五十四條

本款附屬書一ニ依リ佛蘭西國籍ヲ回復シタル者ハ本款ノ適用ニ付テハ之ヲ「アルザス、ロレーヌ」人ト看做ス同附屬書二ニ掲ケタル者ハ其ノ佛蘭西國籍ヲ請求シタル日ヨリ之ヲ「アルザス、ロレーヌ」人ト看做スヘク其ノ效力ハ千九百十八年十一月十一日ニ溯及ス其ノ請求ヲ却下セラレタル者ハ却下ノ日ニ於テ其ノ特權ヲ喪失スヘシ法人ニシテ佛蘭西國行政官憲又ハ司法裁判ニ依リ其ノ資格ヲ有スト認定セラレタルモノハ亦「アルザス、ロレーヌ」人タルノ資格ヲ享有スヘシ

第五十五條

第五十一條ノ地域ハ第九編(財政條項)第二百五十五條ニ規定スル條件ニ依リ一切ノ公債ヲ負擔スルコトナク佛蘭西國ニ復歸スヘシ

第五十六條

佛蘭西國ハ第九編(財政條項)第二百五十六條ノ規定ニ依リ第五十一條ノ地域内ニ於テ獨逸帝國又ハ獨逸各邦ノ所有スル一切ノ財産及土地ヲ取得スヘク之カ爲該地域

ヲ讓渡スル各邦ニ對シ支拂ヲ爲シ又ハ債權ヲ認ムルコトナカルヘシ

本規定ハ獨逸帝國、獨逸各邦又ハ其ノ行政區劃ニ屬スル公私ノ財産タル一切ノ動産又ハ不動産並一切ノ權利ニ之ヲ適用ス

帝室財産及前獨逸皇帝其ノ他ノ獨逸君主ノ財産ハ之ノ公財産ト同視スヘシ

第五十七條

獨逸國ハ其ノ版圖ノ他ノ部分ニ於テ均シク適用セララルルニ非サル極印其ノ他立法上又ハ行政上ノ措置ニ依リ本條約署名ノ日ニ於テ法定通用力ヲ有シ且其ノ日ニ於テ佛蘭西國政府カ所有スル獨逸國ノ金錢證券又ハ貨幣ノ法律上ノ價值又ハ償還力ヲ毀損スヘキ何等ノ手段ヲ執ルコトヲ得ス

第五十八條

戰時中「アルザス、ロレーヌ」又ハ「アルザス、ロレーヌ」ニ於ケル公共團體カ獨逸帝國ノ爲獨逸國ノ法律ニ從ヒ支出シタル特別戰時費例ヘハ動員者ノ家族手當、徵發、軍隊宿舍料、追放民救助費等ニ對シ「麻」ヲ以テスル辨償ノ條件ハ特別協定ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

納スヘカリシ金額ハ前記金額ヲ決定スルニ當リ之ヲ獨逸國ノ貸方ニ計上スヘシ尤モ右貢納額ハ千九百十三年ニ於ケル「アルザス、ロレーヌ」ヨリ生シタル獨逸帝國ノ歳入ノ割合ニ依リ之ヲ算定スヘシ

第五十九條

第五十一條ノ地域ニ於テ賦課シ得ヘキ各種ノ獨逸帝國ノ租稅、賦課金及手数料ニシテ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約ノ當時未徵收ニ係ルモノハ佛蘭西國政府自己ノ爲ニ之ヲ徵收スヘシ

第六十條

獨逸國政府ハ遲滞ナク「アルザス、ロレーヌ」人(自然人、法人及營造物法人)ニ對シ千九百十八年十一月十一日ニ於テ其ノ所有シタル一切ノ財産、權利及利益ニシテ獨逸國版圖内ニ存スルモノヲ還付スヘシ

第六十一條

獨逸國政府ハ休戰條約ニ規定シタル「アルザス、ロレーヌ」ニ關スル財政條項ノ實行ヲ繼續シ且遲滞ナク之ヲ完了スルコトヲ約ス

第六十二條

獨逸國政府ハ千九百十八年十一月十一日迄ニ「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ權利ヲ取得セラレ且其ノ支出カ獨逸帝

國ノ豫算ノ負擔タリシ軍人及非軍人ノ一切ノ恩給費ヲ負擔スルコトヲ約ス

獨逸國政府ハ「アルザス、ロレーヌ」カ依然獨逸國法權ノ下ニ在リタル場合ニ於テハ「アルザス、ロレーヌ」居住者カ請求權ヲ有スヘキ「麻」計算ノ金額ヲ當該年度平均爲替相場ニ依リ「法」ヲ以テ支拂フ爲ニ必要ナル基金ヲ毎年提供スヘシ

第六十三條

同盟及聯合國ノ普通人民カ罰金ノ形式ニ於テ被リタル損害ノ賠償トシテ獨逸國カ第八編(賠償)ニ於テ承認シタル義務ニ付テハ第五十一條ノ地域ニ於ケル住民ハ之ヲ前記人民ト同視スヘシ

第六十四條

萊茵河及「モーゼル」河ノ管理ニ關スル規則ハ第十二編(港、水路及鐵道)ニ於テ之ヲ定ム

第六十五條

本條約實施後三週間以内ニ於テ「ストラスブルグ」及「ケー」ルノ兩港ハ其ノ利用ノ爲七年ヲ期間トシテ一組織ヲ爲スヘシ

右組織ノ經理ハ萊茵河中央委員會ノ任命シタル一名ノ經理長之ヲ執行スヘシ該委員會ハ經理長ヲ罷免スルノ權

能ヲ有スヘシ

右經理長ハ佛蘭西國籍ヲ有スル者タルヘシ
經理長ハ「ストラスブルグ」ニ居住シ萊因河中央委員會ノ
監督ヲ受クヘシ

第十二編(港、水路及鐵道)ノ規定ニ依リ前記兩港ニ自由
地域ヲ設定スヘシ

佛蘭西國及獨逸國ハ其ノ特殊條約ニ依リ前記組織殊ニ
其ノ財政ニ關スル細目ヲ規定スヘク右條約ハ萊因河中央
委員會ノ承認ヲ經ヘシ

本條ノ關スル限リ「ケール」港ニハ同港ノ交通及出入列車
ノ運轉ニ必要ナル全地域並同港ノ設備ヲ構成スル港内、
埠頭及鐵道、歩廊、起重機、上屋及倉庫、地下室、昇降機
及水力發電裝置ヲ包含ス

獨逸國政府ハ萊因河ノ左右兩岸ニ於テ「ケール」發着列
車ノ一切ノ組立及入換作業カ能フ限リ完全ニ處理セラ
ルコトヲ保障スル爲必要ナル一切ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス
一切ノ財產權ハ保障セラレヘシ殊ニ前記兩港經理ノ爲佛
蘭西又ハ「バーデン」ノ鐵道ノ財產權ハ何等毀損セラ
ルコトナカルヘシ

前記兩港ニ於テハ各國ノ國民、船舶及貨物ノ運送ニ關シ
均等ノ待遇ヲ保障スヘシ

國境鐵道停車場ハ追テ締結スヘキ取極ニ依リ設置セラ
ルヘシ但シ萊因河國境ニ於テハ停車場ハ同河ノ右岸ニ在
ルヘキコトヲ茲ニ豫メ規定ス

第六十八條

第五十一條ノ地域内ニ原産シ且其ノ地域ヨリ來ル天
物又ハ製造品ハ第十編(經濟條項)第一款第一章第二
百六十八條ノ規定ニ依リ本條約實施後五年間獨逸國ノ
關稅地域内ニ輸入セラレルニ當リ一切ノ關稅ヲ免除セラ
ルヘシ

佛蘭西國政府ハ此ノ免除ヲ享受スヘキ物品ノ性質及數
量ヲ毎年命令ヲ以テ定メ其ノ命令ハ獨逸國政府ニ之ヲ通
告スヘシ

右ニ依リ毎年獨逸國內ニ仕向ケ得ル各種物品ノ數量ハ
千九百十一年乃至千九百十三年ニ仕向ケラレタル毎年
ノ數量ノ平均額ヲ超過スヘカラス

右五年ノ期間獨逸國政府ハ又漂白、染色、捺染、「マーセラ
イズ」瓦斯燒、撚掛又ハ糊付艶付ノ如キ仕上工程ヲ經ル
爲獨逸國ヨリ第五十一條ノ地域内ニ仕向ケラレル一切ノ
種類及一切ノ狀態ニ於ケル織絲、織物其ノ他ノ織物原料
又ハ織物製品ニ對シ獨逸國ヨリノ輸出及獨逸國ヘノ再輸
入ヲ自由ナラシメ一切ノ關稅其ノ他ノ課金(内國課稅金

佛蘭西國ハ第六年ノ終ニ當リ「ストラスブルグ」港改良進
捗ノ程度カ尙此ノ假制度ノ期間延長ヲ要スト思考スルト
キハ之ヲ萊因河中央委員會ニ要求スルコトヲ得該委員會
ハ三年ヲ超エサル期間右延長ヲ許可スルコトヲ得

前記ノ自由地域ハ延長ノ全期間之ヲ維持スヘシ
萊因河中央委員會カ第一次經理長ヲ任命スル迄ハ主
ル同盟及聯合國ハ前記規定ニ依リ佛蘭西國人タル一名
ノ假經理長ヲ任命スルコトヲ得

本條ノ關スル限リ萊因河中央委員會ノ決定ハ總テ表決ノ
過半数ニ依ル

第六十六條

現ニ「アルザス、ロレーヌ」内ニ於テ萊因河上ニ架シタル鐵道
橋梁其ノ他ノ橋梁ハ其ノ各部分及其ノ全長共佛蘭西國
ノ財產ト爲ルヘク佛蘭西國ハ之カ維持ヲ確保スヘシ

第六十七條

佛蘭西國政府ハ獨逸帝國鐵道廳ノ管理ニ屬シ現ニ事業
ヲ行ヒ又ハ建設中ニ在ル一切ノ鐵道ニ對スル獨逸帝國ノ
一切ノ權利ニ付代位ス

右ノ規定ハ第五十一條ノ地域ニ於ケル鐵道及軌道ノ特
許ニ關スル同帝國ノ權利ニ付亦之ヲ適用スヘシ
佛蘭西國ハ右代位ノ爲何等ノ支拂ヲ爲ササルヘシ

ヲ含ム)ヲ免除スヘシ

第六十九條

第五十一條ノ地域又ハ永久若ハ一時獨逸國ヨリ佛蘭西
國ニ經營ヲ移シタル各種ノ施設ニ對シ從來電力ヲ供給シ
タル獨逸國版圖内ノ電氣供給中央作業場ハ千九百十八
年十一月十一日現存ノ諸契約ニ相當スル消費高以内ノ
供給ヲ本條約實施後十年間繼續スルノ義務アルモノトス
前記ノ供給ハ現存ノ契約ニ依リ且該作業場ニ對シ獨逸
國民ノ支拂ヲ料金率ヨリ高カラサル率ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十條

佛蘭西國政府ハ第五十一條ノ地域ニ於テ左記事項ニ付
テノ一切ノ新ナル獨逸ノ關與ヲ將來禁止スルノ權利ヲ留
保ス

- 一 鐵道、航行可能水路並水道、瓦斯及電力ノ配給
等ノ如キ公物及公企業ノ經理又ハ經營
- 二 各種ノ鑛山及採石場ノ所有及之ニ關聯スル諸事
業
- 三 冶金事業其ノ鑛山ノ經營ト關聯セサルモノト雖異
ルコトナシ

第七十一條

第五十一條ノ地域ニ於テハ獨逸國ハ加里鹽取引ニ關スル

千九百十年五月二十五日ノ法律及一般ニ加思鑛山ノ經營ニ對スル獨逸國諸團體ノ干與ニ關スル法規ニ基ク一切ノ權利ヲ千九百十八年十一月十一日以後自國及其ノ國民ノ名ニ於テ拋棄ス獨逸國ハ又右地域ニ於ケル他ノ生産物ニ關シ其ノ利益ノ爲存在スル取極又ハ法令ニ基ク一切ノ權利ヲ自國及其ノ國民ノ名ニ於テ拋棄ス

第七十二條

千九百十八年十一月十一日以前一方獨逸帝國及獨逸各邦又ハ其ノ國民ニシテ獨逸國ニ居住スルモノト他方「アルザス、ロレーヌ」ニ居住スル「アルザス、ロレーヌ」人トノ間ニ契約シタル金錢債務ニ關スル問題ノ解決ハ第十編(經濟條項)第三款ノ規定ニ依リ之ヲ行フヘシ但シ該條項中「戰前」ノ語ハ「千九百十八年十一月十一日以前」ノ語ヲ以テ之ニ代フヘシ右解決ニ際シ適用スヘキ爲替相場ハ千九百十八年十一月十一日ヲ以テ終ル一月間「ジュネーヴ」取引所ニ於ケル平均相場ニ依ルヘキモノトス

第七十三條

然レトモ本條約實施ノ日以後六月以内ニ佛蘭西國政府ヨリ獨逸國ニ對シ一般利益ノ爲其ノ取消ヲ通告シタル契約ハ總テ取消サルヘキモノトス但シ千九百十八年十一月十一日以前該契約ニ基キ金錢ノ支拂ヲ爲シ又ハ行爲ヲ爲シタルニ因リ生スル金錢債務其ノ他ノ金錢上ノ債務ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス取消ノ爲當事者ノ一方カ著シク損害ヲ被リタルトキハ該當事者ニ對シ平衡ナル補償ヲ與フヘシ右補償ハ專ラ使用資本額ニ依リテ之ヲ計算シ其ノ得ヘカリシ利潤ノ額ヲ計上セサルモノトス

第七十六條

「アルザス、ロレーヌ」人ノ工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付テノ問題ハ第十編(經濟條項)第七款ノ一般規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ但シ獨逸國法令ニ從ヒ此ノ種ノ權利ヲ有スル「アルザス、ロレーヌ」人ハ獨逸國版圖内ニ於テ依然該權利ヲ完全ニ享有スルモノトス

獨逸國ニ於ケル「アルザス、ロレーヌ」人ノ私財產、權利及利益ハ第十編(經濟條項)第四款ノ規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第七十四條

佛蘭西國政府ハ千九百十八年十一月十一日ニ於テ獨逸國民又ハ獨逸國ノ管理ノ下ニ在ル會社カ第五十一條ノ地域内ニ於テ有スル一切ノ財產、權利及利益ヲ前記第五十三條末項ノ條件ノ下ニ保有清算スルノ權利ヲ留保ス獨逸國ハ前記清算ニ依リ財產、權利及利益ヲ喪失シタル獨逸國民ニ對シ直接補償スヘシ

第七十五條

第十編(經濟條項)第五款ノ規定ニ拘ラス千九百十八年十一月三十日ノ佛蘭西國ノ命令カ「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ公布セラレタル日以前一方「アルザス、ロレーヌ」人(自然人又ハ法人)其ノ他「アルザス、ロレーヌ」居住者ト他方獨逸帝國若ハ獨逸各邦又ハ其ノ國民ニシテ獨逸國ニ居住スルモノトノ間ニ締結セラレタル一切ノ契約ハ休戰條約又ハ其ノ後ノ佛蘭西國法令ニ依リ履行ヲ停止セラレタルモノト雖其ノ效力ヲ持續スヘシ

第七十七條

獨逸國政府ハ老廢保險ノ目的ヲ以テ獨逸帝國又ハ之ニ從屬スル公私團體ニ於テ積立テタル一切ノ準備金中「ストラスブルグ」老廢保險基金ニ屬スヘキ部分ヲ佛蘭西國政府ニ交付スルコトヲ約ス

第七十八條

判決ノ執行、上訴及公訴ニ關シテハ左ノ規定ヲ適用ス
一 千九百十四年八月三日以後「アルザス、ロレーヌ」ノ裁判所ニ於テ「アルザス、ロレーヌ」人相互間、「アルザス、ロレーヌ」人ト外國人トノ間又ハ外國人相互間ノ民事及商事事件ニ付下シタル一切ノ判決ニシテ千九百十八年十一月十一日以前ニ上訴セラレサリシモノハ

之ヲ確定ト認メ更ニ手續ヲ履ムコトナク直ニ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノト認ム

「アルザス、ロレーヌ」人ト獨逸國人間又ハ「アルザス、ロレーヌ」人ト獨逸國ノ同盟國ノ臣民トノ間ノ事件ニ付下シタル判決ハ第五十一條ノ復歸地域ニ於ケル當該新裁判所ノ執行ノ命令カ發セラレタル場合ニ於テノミ之ヲ執行スルコトヲ得

二 「アルザス、ロレーヌ」人ニ對シ政治犯罪ニ付千九百十四年八月三日以後獨逸國裁判所ノ下シタル一切ノ判決ハ無効タルヘシ

三 「アルザス、ロレーヌ」ノ裁判所ノ判決ニ對スル上訴ニ付千九百十八年十一月十一日以後「ライプツヒ」帝國大審院ノ下シタル一切ノ判決ハ無効タルヘク且其ノ旨宣言セラレヘシ上記ノ判決アリタル裁判事件ニ關スル記録ハ「アルザス、ロレーヌ」ノ當該裁判所ニ之ヲ返還スヘシ

「アルザス、ロレーヌ」ノ裁判所ノ判決ニ對シ帝國大審院ニ提起セラレタル一切ノ上訴ハ之ヲ停止スヘク其ノ關係記録ハ直ニ之ヲ該事件決定ノ權限アル佛蘭西國大審院ニ移送スル爲前記條件ニ依リ返還スヘシ

四 千九百十八年十一月十一日以後本條約實施以

前ニ犯シタル犯罪ニ對スル「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ一切ノ公訴ハ佛蘭西國官憲カ該地ニ於テ合法ニ公布シタル命令ニ依リ變更セラレサル限り獨逸國法令ニ依リ之ヲ處理スヘシ

五 裁判上ノ權限、手續又ハ處理ニ關スル他ノ一切ノ問題ハ佛蘭西獨逸兩國間ノ特別條約ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第七十九條

本款附屬書ノ國籍ニ關スル規定ハ本款ノ規定ト同一ノ效力ヲ有スルモノト認メラルヘシ

「アルザス、ロレーヌ」ニ關スル他ノ一切ノ問題ニシテ本款、本款附屬書又ハ本條約ノ一般條項中ニ規定セラレサルモノハ追テ佛蘭西獨逸兩國間ニ締結スル條約ニ依ルヘシ

附屬書

一 左記ノ者ハ千九百十八年十一月十一日以後當然佛蘭西國國籍ヲ回復スヘシ

二 前號ニ掲ケタル者ノ嫡出又ハ私生ノ直系卑屬但シ

タル者及其ノ直系卑屬

五 千八百七十一年五月十日以前「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ外國人ヲ父母トシテ出生シタル者及其ノ直系卑屬

六 本附屬書一ノ規定ニ依リ佛蘭西國國籍ヲ回復シ又ハ前各號ノ規定ニ依リ佛蘭西國國籍ヲ請求取得シタル者ノ配偶者

未成年者ノ法定代理人ハ該未成年者ノ爲佛蘭西國國籍請求權ヲ行使スルコトヲ得若シ該權利ニシテ行使セラレサルトキハ該未成年者ハ其ノ成年ニ達シタル後一年以内ニ佛蘭西國國籍ヲ請求スルコトヲ得

第六號ニ掲ケタル場合ヲ除ク外佛蘭西國官憲ハ個個ノ場合ニ付佛蘭西國國籍ノ請求ヲ拒否スルノ權利ヲ留保ス

三

本附屬書二ニ規定スル場合ヲ除ク外「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ出生シ又ハ住所ヲ有スル獨逸人ハ其ノ既ニ「アルザス、ロレーヌ」ノ人民タル資格ヲ有スル者ト雖「アルザス、ロレーヌ」ノ復歸ニ因リテ佛蘭西國國籍ヲ取得スルコトナシ

右獨逸人ハ歸化ニ依リテ「佛蘭西國國籍ヲ取得スルコトヲ得但シ千九百十四年八月三日以前ヨリ「アルザス、ロレーヌ」ニ住所ヲ有スルコトヲ要シ且千九百十八年十一月

父系直系尊屬中二千八百七十年七月十五日以後「アルザス、ロレーヌ」ニ移住シタル獨逸人ヲ有スル者ヲ除ク

三 「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ出生シタル者ニシテ其ノ父母不明ナル者又ハ其ノ國籍不明ナル者

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ本條約實施後一年以内ニ佛蘭西國國籍ヲ請求スルコトヲ得

一 本附屬書一ノ規定ニ依リ佛蘭西國國籍ヲ回復セサル者ニシテ其ノ直系尊屬中二一ニ掲ケタル事情ニ因リ佛蘭西國國籍ヲ喪失シタル佛蘭西人タル男子又ハ女子ヲ有スル者

二 獨逸各邦ノ國民ニ非サル外國人ニシテ千九百十四年八月三日以前「アルザス、ロレーヌ」ノ人民タル資格ヲ取得シタル者

三 「アルザス、ロレーヌ」ニ住所ヲ有スル獨逸人ニシテ千八百七十年七月十五日以前ヨリ同地方ニ住所ヲ有スル者又ハ其ノ直系尊屬ノ一人カ該期日以前ニ於テ「アルザス、ロレーヌ」ニ住所ヲ有シ居リタル者

四 「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ出生シ又ハ住所ヲ有スル獨逸人ニシテ本戰爭中同盟及聯合國軍隊ニ從軍シ

十一日以後三年間繼續シテ該復歸地域内ニ居住シタル
コトノ證據ヲ提出スルコトヲ要ス

佛蘭西國歸化ノ請求ヲ爲シタル日以後ハ前記獨逸人ニ
對スル外交官及領事官ニ依ル保護ハ佛蘭西國專ラ其ノ
責ニ任スヘシ

四

佛蘭西國政府ハ佛蘭西國國籍回復權ノ實行ニ要スル手
續並本附屬書規定ノ國籍請求及歸化請求ノ許否ニ關ス
ル條件ヲ定ムヘシ

第六款 奧地利國

第八十條

獨逸國ハ奧地利國ト主タル同盟及聯合國トノ條約ニ依
リ決定セラルヘキ國境内ニ於ケル奧地利國ノ獨立ヲ承認
シ且嚴ニ之ヲ尊重スヘシ獨逸國ハ國際聯盟理事會ノ同意
アル場合ヲ除ク外該獨立ノ動カスヘカラサルモノナルコト
ヲ承諾ス

第七款 「チエッコ、スロヴァキア」國

第八十一條

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ既ニ執リタル措置ニ從ヒ「カル
バート」山脈南方「ルターヌ」人ノ自治地域ヲ含ム「チエッコ、
スロヴァキア」國ノ完全ナル獨立ヲ承認シ且之ト共ニ獨逸

國ハ主タル同盟及聯合國並他ノ利害關係國ノ決定シタル
「チエッコ、スロヴァキア」國ノ國境ヲ承認ス

第八十二條

千九百十四年八月三日ニ於ケル奧地利洪牙利國ト獨逸
帝國トノ舊國境ハ獨逸國ト「チエッコ、スロヴァキア」國トノ國
境ヲ構成スヘシ

第八十三條

獨逸國ハ「シレジヤ」ノ地域中左ノ區域ニ對スル一切ノ權
利及權原ヲ「チエッコ、スロヴァキア」國ノ爲ニ拋棄ス
「カツチェル」ノ南東方約二吉米ニ於ケル「レオプシニツ」及
「ラティボル」兩郡間ノ境界上ノ地點ヨリ發シ
右兩郡間ノ境界ニ從ヒ

次テ「ラティボル」―「オーデルベルグ」鐵道ノ南方ニ接スル
「オーデル」河上ノ一點ニ至ル迄獨逸及奧地利洪牙利兩國
ノ舊境界ニ依リ

次テ北西方ニ向ヒ「カツチェル」ノ南東方約二吉米ノ地點ニ
至ルノ間

「クラノウイツ」ノ西方ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ
定ム

波蘭國及「チエッコ、スロヴァキア」國間ノ國境線ヲ實查ノ上
確定スル爲本條約實施後十五日ニ於テ主タル同盟及聯

第八十五條

「チエッコ、スロヴァキア」國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル地域ニ
定住スル十八歳以上ノ獨逸國民ハ本條約實施後二年以
内ニ於テ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ獨逸國
内ニ定住スル獨逸國民タル「チエッコ、スロヴァキア」人ハ前同
様「チエッコ、スロヴァキア」國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘ
シ

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歳未滿ノ子
ニ及ブ
右選擇權ヲ行使シタル者ハ爾後十二月以内ニ其ノ選擇シ
タル國ニ住所ヲ移スコトヲ要ス

右ノ者ハ其ノ選擇權ノ行使前ニ住所ヲ有シタル他ノ國ノ
領土内ニ其ノ不動産ヲ保有スルノ權利ヲ有ス各種ノ動産
ハ之ヲ携帶スルコトヲ得ヘク該財產ノ移動ニ關シテハ一切
ノ輸出税又ハ輸入税ヲ課スルコトヲ得ズ

獨逸國民タル「チエッコ、スロヴァキア」人ニシテ外國ニ在ルモ
ノハ當該外國ノ法令ニ何等反對ノ規定ナク且未タ該外國
ノ國籍ヲ取得セサル場合ニ於テ前記期間内ニ「チエッコ、スロ
ヴァキア」國ノ定ムル要件ニ從ヒ「チエッコ、スロヴァキア」國國
籍ヲ取得シ且獨逸國國籍ヲ離脱スルノ權利ヲ有スヘシ

第八十六條

合國ノ指名スル五名、波蘭國及「チエッコ、スロヴァキア」國ノ
指名スル各一名計七名ヨリ成ル委員會ヲ設クヘシ

前記委員會ノ決議ハ過半数ニ依リ之ヲ決シ且關係當事
國ヲ拘束スヘシ

獨逸國ハ獨逸波蘭兩國ノ國境確定ノ結果「レオプシニツ」
郡中左ノ境界線内ニ在ル部分カ獨逸國ヨリ隔離シタル場
合ニ於テ此ノ部分ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ「チエッコ、
スロヴァキア」國ノ爲ニ拋棄スルコトヲ約ス

「レオプシニツ」ノ西方約五吉米ニ於ケル奧地利國舊國境
凸出部ノ南東端ヨリ南方ニ進ミ「レオプシニツ」及「ラティ
ボル」兩郡間ノ境界トノ接合點ニ至ルノ間

獨逸及奧地利洪牙利兩國ノ舊國境ニ依リ

次テ北方ニ向ヒ「カツチェル」ノ南東方約二吉米ノ地點ニ至
ル迄「レオプシニツ」及「ラティボル」兩郡間ノ行政境界ニ
依リ

次テ北西方ニ進ミ前記出發點ニ至ルノ間

「カツチェル」ノ東方ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

第八十四條

「チエッコ、スロヴァキア」國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル地域ニ
定住スル獨逸國民ハ當然「チエッコ、スロヴァキア」國國籍ヲ
取得シ且其ノ獨逸國國籍ヲ喪失スヘシ

「チエッコ、スロヴァキア」國ハ其ノ多數ノ住民ト人種、言語又ハ宗教ヲ異ニスル其ノ住民ノ利益ヲ保護スル爲主タル同盟及聯合國ニ於テ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諾ス

「チエッコ、スロヴァキア」國ハ尙他ノ國民ニ對シ通過ノ自由ト通商ノ衡平ナル取扱トヲ保護スル爲前記諸國ニ於テ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諾ス
獨逸國及普魯西ノ財政上ノ義務ニシテ「チエッコ、スロヴァキア」國カ「シレジア」ノ地域ヲ其ノ主權ノ下ニ置キタル結果負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編(財政條項)第二百五十四條ニ依リ之ヲ決定スヘシ

前記領土ノ割讓ノ結果生スヘキ一切ノ問題ニシテ本條約ニ依リテ決定セラレサルモノハ後日ノ取極ヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第八款 波蘭國

第八十七條
獨逸國ハ主タル同盟及聯合國ノ既ニ執リタル措置ニ從ヒ波蘭國ノ完全ナル獨立ヲ承認シ且波羅的海、「ロルツェンドルフ」ノ東方約二吉米ノ地點ニ至ル迄第二編(獨逸國ノ境界)第二十七條ニ定メタル獨逸國ノ東方國境、次ニ「ジムメナウ」ノ北西方約三吉米ニ於テ上部「シレジア」ノ北方境界

「ノイスタット」ノ東方約八吉米ニ於ケル舊奧地利國領「シレジア」州ノ凸出部ノ北端ヨリ獨逸國及奧地利國間ノ舊國境ニ依リ「レオプシニツ」ラ「テイポール」兩郡間ノ境界トノ接合點ニ至ル
次テ北方ニ向ヒ「カツチェル」ノ南東方約二吉米ノ地點ニ至ル迄
「レオプシニツ」ラ「テイポール」兩郡間ノ境界ニ依ル
次テ南東方ニ向ヒ「ラテイポール」ラ「オーデルベルグ」鐵道ノ南方ニ接スル「オーデル」河河流上ノ一點ニ至ルノ間
「クラノウイツ」ノ南方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ獨逸國及奧地利國間ノ舊國境、次テ獨逸國及露西亞國間ノ舊境界ニ依リ「ボズナニア」及上部「シレジア」間ノ行政境界トノ接合點ニ至ル
次テ該行政境界ニ依リ上部「シレジア」及中部「シレジア」間ノ行政境界トノ接合點ニ至ル
次テ西方ニ向ヒ右行政境界カ「ジムメナウ」ノ北西方約三吉米ニ於テ銳角ヲ以テ南東方ニ轉スル地點ニ至ルノ間
上部「シレジア」及中部「シレジア」間ノ境界ニ依ル
次テ西方ニ向ヒ「ロルツェンドルフ」ノ東方約二吉米ニ於テ實査ノ上定メラルヘキ地點ニ至ルノ間

カ銳角ヲ爲ス箇所ニ至ル線、次ニ獨逸及露西亞兩國間ノ舊國境トノ接合點ニ至ル迄右上部「シレジア」境界、次ニ「ニーメン」河ノ河流トノ交叉點ニ至ル迄右兩國間ノ舊國境並前掲第二編第二十八條ニ定メタル東普魯西ノ北境ニ依リ圍繞セラルル地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ波蘭國ノ爲ニ拋棄ス
本條ノ規定ハ第二編(獨逸國ノ境界)第二十八條及本編第十一款(「ダンチヒ」)第百條ニ定メタル東普魯西及「ダンチヒ」自由市ノ地域ニハ之ヲ適用セス
波蘭國ノ境界ニシテ本條約ニ於テ定メサルモノハ主タル同盟及聯合國追テ之ヲ決定スヘシ
波蘭國ト獨逸國トノ國境線ヲ實査劃定スル爲本條約實施後十五日以内ニ於テ主タル同盟及聯合國ノ指名スル五名、獨逸國及波蘭國ノ指名スル各一名計七名ヨリ成ル委員會ヲ設クヘシ
委員會ノ決議ハ表決ノ過半数ニ依リ之ヲ決シ且當事國ヲ拘束スヘシ

第八十八條

上部「シレジア」中左記境界内ニ在ル部分ニ於テハ住民ヲシテ其ノ獨逸國又ハ波蘭國ノ何レニ屬スルコトヲ希望スルヤヲ投票ニ依リ表示セシムヘシ

「クライン、ヘンネルスドルフ」ノ北方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム
次テ南方ニ向ヒ上部「シレジア」及中部「シレジア」間ノ境界トノ「ステッテル」ラ「カールスルーエ」街道トノ交叉點ニ至ルノ間
「ヘンネルスドルフ」ラ「ボルコウイツ」ノ「ルダウ」ラ「スタインエルスドルフ」及「ダムメル」ノ西方並「ストレーリツ」ラ「ナツサデル」ラ「エツケルスドルフ」ラ「シユウルク」及「ステッテル」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム
次テ上部「シレジア」及中部「シレジア」間ノ境界ニ依リ「ファルケンベルグ」郡ノ東境トノ接合點ニ至ル
次テ「ファルケンベルグ」郡ノ東境ニ依リ「ブシネ」ノ東方三吉米ニ位スル凸出部地點ニ至ル
次テ「ノイスタット」ノ東方約八吉米ニ位スル舊奧地利國領「シレジア」州凸出部ノ北端ニ至ルノ間
「ツェルツ」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム
前記ノ人民一般投票ノ執行及其ノ效果ニ關スル制度ハ本條附屬書ニ之ヲ規定ス
波蘭國及獨逸國ノ政府ハ本條附屬書ニ規定スル制度ノ存續中及該地方ノ終局ノ地位ノ確定スル迄上部「シレジア」ニ於テ爲シタル一切ノ政治上ノ行動ニ對シ相互ニ其ノ

條約 第三編 歐洲政治條項 第八款 波蘭國

領土ニ於テ訴追ヲ爲サス且何等ノ例外ノ手續ヲ執ラサルコトヲ茲ニ約ス
獨逸國ハ上部「シレジア」中人民一般投票ノ結果トシテ主タル同盟及聯合國ノ定メタル境界線内ノ區域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ波蘭國ノ爲ニ茲ニ拋棄ス

附屬書

一

獨逸國軍隊及本附屬書ニノ規定ニ依リ設置シタル委員會ノ指定スル獨逸國官吏ハ本條約實施後十五日以内ニ人民一般投票區域ヲ撤退スヘシ右軍隊及官吏ハ其ノ撤退完了ニ至ル迄形式ノ如何ヲ問ハズ金錢又ハ物品ノ徵發及該地方ノ物質上ノ利益ヲ害スル虞アル一切ノ行爲ヲ爲スコトナカルヘシ
右區域ニ於テ設立シタル勞兵會ハ前記期間内ニ解散スヘク同會會員中他地方人ニシテ本條約實施ノ時ニ其ノ職務ヲ行フ者又ハ千九百十九年三月一日以後其ノ職務ヲ罷メタル者ハ撤退スヘシ
右區域ニ於テ其ノ住民ノ組織シタル一切ノ軍事的及准軍事的團體ハ直ニ之ヲ解散セシムヘシ右軍事團體ノ團員ニシテ該區域内ニ住所ヲ有セサル者ハ退去セシムヘシ

二

委員會ハ投票ノ自由、公正及秘密ヲ確保スル爲其ノ適當ト思量スル一切ノ手段ヲ執ルヘク殊ニ方法ノ如何ニ拘ラス賄賂又ハ威嚇ノ手段ニ依リ人民一般投票ノ結果ヲ紛更セムト企テタル者ノ追放ヲ命スルノ權利ヲ有スヘシ
委員會ハ本條項ノ實施ヨリ生スル一切ノ問題ヲ決定スル全權ヲ有スルモノトス委員會ハ其ノ地方住民中ヨリ選任シタル專門事項顧問ヲ以テ其ノ輔佐トスヘシ
委員會ノ決議ハ表決ノ過半數ニ依ルヘシ

四

投票ハ主タル同盟及聯合國ノ定ムヘキ期日ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ前記區域ニ委員會ヲ設置シタル時ヨリ六月以後十八月以前ナルコトヲ要ス
投票權ハ男女ノ別ナク左記ニ該當スル一切ノ者ニ之ヲ付與ス

- (イ) 人民一般投票施行ノ年ノ一月一日ニ於テ滿二十歳以上ニシテ
- (ロ) 人民一般投票區域内ニ出生シタル者、千九百十九年一月一日前ニ於テ委員會ノ決定スヘキ日以來同區域内ニ住所ヲ有スル者又ハ獨逸國官憲ニ依リ追放セラレ右地域ニ住所ヲ有セサル者

政治犯罪ニ付有罪ノ宣告ヲ受ケタル者モ其ノ投票權ヲ行

人民一般投票區域ハ直ニ北米合衆國、佛蘭西國、英帝國及伊太利國ノ任命スヘキ四名ノ委員ヨリ成ル國際委員會ノ權限ノ下ニ置カルヘシ同區域ハ同盟及聯合國ニ屬スル軍隊ヲ以テ之ヲ占領スヘク獨逸國政府ハ該軍隊ヲ上部「シレジア」ニ輸送スルニ付便宜ヲ供スヘキコトヲ約ス

三

右委員會ハ立法及課稅ニ關スル場合ヲ除ク外獨逸國又ハ普魯西政府ノ行使シタル一切ノ權能ヲ有シ且州及縣ノ行政廳ニ代ルヘシ
本項ニ依リ付與セラレタル權能ニ關シ解釋ヲ下シ且如何ナル範圍ニ於テ其ノ權能ヲ行使シ又ハ之カ行使ヲ現存官憲ニ委ヌヘキカヲ決定スルハ右委員會ノ權限ニ屬スルモノトス
現行法律及現行租稅ノ變更ハ委員會ノ同意ヲ經ルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス
委員會ハ其ノ使用ニ供セラレタル軍隊ノ助力ニ依リ及其ノ必要ト認ムル限度ニ於テ地方住民中ヨリ募集シタル憲兵ヲ以テ秩序ヲ維持スヘシ
委員會ハ速ニ撤退獨逸國官吏ノ補充ニカメ且必要ナル場合ニ於テハ自ら獨逸國官憲ノ撤退ヲ命シ且必要ナル地方官憲ノ補充ヲ爲スヘシ

使スルコトヲ得

投票ハ各自ノ住所ヲ有スル市町村ニ於テ、投票區域内ニ住所ヲ有セサル者ニ在リテハ其ノ出生シタル市町村ニ於テ之ヲ行フヘシ
投票ノ結果ハ市町村毎ニ各其ノ投票ノ多數ニ依リ之ヲ決定スヘシ

五

投票終了シタルトキハ委員會ハ主タル同盟及聯合國ニ對シ各市町村ニ於ケル投票數ヲ通告スルト共ニ投票施行ニ關スル詳細ナル報告及上部「シレジア」ニ於テ獨逸國ノ國境トシテ採用スヘキ境界線ニ關スル意見ヲ提出スヘシ右意見ノ中ニ於テハ投票ニ依リ表示セラレタル住民ノ希望並該地方ノ地理上及經濟上ノ事情ヲ考慮スヘシ

六

主タル同盟及聯合國ニ於テ國境ヲ確定シタル時ハ國際委員會ハ直ニ獨逸國官憲ニ對シ獨逸國領タルヘシト認メラレタル地域ノ施政ノ引繼ヲ受クルコトヲ得ヘキ旨通牒スヘシ該官憲ハ右通牒後一月以内ニ委員會ノ指定スル方法ニ依リ之カ引繼ヲ受クルコトニ著手スルコトヲ要ス
波蘭國政府ハ同期間内ニ委員會ノ指定シタル方法ヲ以テ波蘭國領タルヘシト認メラレタル地域ノ施政ノ引繼ヲ受ク

ルコトニ着手スルコトヲ要ス

委員會ノ機能ハ獨逸國及波蘭國ノ官憲カ各當該地域ノ施政ニ任スル時ヲ以テ終了ス

占領軍ノ費用及委員會ノ經費ハ其ノ職務執行ノ爲ナルト當該地域ノ施政ノ爲ナルトヲ問ハス同區域ノ負擔トス

第八十九條

波蘭國ハ東普魯西ト獨逸國ノ他ノ地域トノ間ニ運送セラ
ルル人、貨物、船舶、客車、貨車及郵便物ニ對シ波蘭國領
土(領水ヲ含ム)通過ノ自由ヲ許ス且便宜、制限其ノ他
一切ノ事項ニ付少クトモ波蘭國又ハ之ヨリ有利ナル待遇
ヲ受クル國ノ國民及此等ノ國ノ原産地、輸入地若ハ出發
地ト爲シ又ハ此等ノ國ノ國民ノ所有ニ屬スル貨物、船舶、
客車、貨車及郵便物ト同等ノ待遇ヲ爲スヘキコトヲ約ス
通過中ノ貨物ハ一切ノ關稅其ノ他之ニ類スル稅ヲ免除セ
ラルヘシ

通過ノ自由ハ第九十八條ニ揭ケル條約ヲ以テ定メタル條
件ノ下ニ電信及電話ニ及フヘシ

第九十條

波蘭國ハ本條約ニ依リ同國ニ讓渡サレタル上部「シレジア」
ノ礦產物ノ獨逸國ヘノ輸出ヲ十五年間許スヘキコトヲ約ス
右礦產物ハ一切ノ輸出稅其ノ他ノ課金又ハ輸出制限ヲ

受クルコトナカルヘシ

波蘭國ハ波蘭國又ハ他ノ各國ノ購買者ニ同様ノ事情ノ
下ニ於テ賣却セラルル同種產物ニ對スルト同等ニ有利ナル
條件ヲ以テ前記礦產物カ獨逸國ノ購買者ニ賣却セラルル
コトヲ確保スル爲必要ナル措置ヲ執ルコトニ同意ス

第九十一條

波蘭國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル地域ニ定住スル獨逸
國民ハ當然波蘭國國籍ヲ取得シ且其ノ獨逸國國籍ヲ喪
失スヘシ

尤モ千九百八年一月一日以後ニ於テ右地域ニ居住スル
ニ至リタル獨逸國民又ハ其ノ子孫ハ波蘭國ノ特別ノ許可
アルニ非サレハ波蘭國國籍ヲ取得スルコトナカルヘシ

波蘭國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル地域ニ定住スル十八
歳以上ノ獨逸國民ハ本條約實施後二年以内ニ獨逸國國
籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ

獨逸國ニ定住スル獨逸國民タル十八歳以上ノ波蘭人ハ
前同様波蘭國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ
夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歳未滿ノ子
ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ爾後十二月以内ニ其ノ選擇シ
タル國ニ住所ヲ移スコトヲ得

前記ノ者ハ其ノ選擇權ノ行使前住所ヲ有シタル他ノ國ノ
領土内ニ其ノ不動産ヲ保有スルノ權利ヲ有ス

各種ノ動産ハ之ヲ携帶スルコトヲ得ヘク該財產ノ移動ニ
關シテハ一切ノ輸出稅輸入稅又ハ課金ヲ課スルコトヲ得
ス

獨逸國民タル波蘭人ニシテ外國ニ在ルモノハ當該外國ノ
法令ニ何等反對ノ規定ナク且未タ該外國ノ國籍ヲ取得セ
サル場合ニ於テ前記期間内ニ波蘭國ノ定ムル要件ニ從ヒ
波蘭國國籍ヲ取得シ且獨逸國國籍ヲ離脱スルノ權利ヲ
有スヘシ

上部「シレジア」中人民一般投票ニ付シタル地域ニ於テハ
本條ノ規定ハ右地域ノ所屬確定ノ時ヨリノミ其ノ效力ヲ
生スヘシ

第九十二條

獨逸國及普魯西ノ財政上ノ義務ニシテ波蘭國カ負擔スヘ
キモノノ割合及性質ハ第九編(財政條項)第二百五十四
條ニ依リ之ヲ決定スヘシ

右財政上ノ義務中前記第二百五十四條ニ規定スル賠償
委員會ノ判定ニ依リハ獨逸國及普魯西ノ政府カ波蘭國
ニ於ケル獨逸殖民ノ爲ニ執リタル措置ニ因リ發生シタル部
分ハ波蘭國ノ分擔額ヨリ之ヲ除外スヘシ

領土ノ移轉ト共ニ波蘭國ニ引渡スヘキ獨逸帝國又ハ獨逸
各邦ニ屬スル財產及所有物ノ價額ヲ第二百五十六條ニ
依リ決定スルニ當リテハ賠償委員會ハ波蘭國王國ニ屬シ
タル建物、森林其ノ他ノ國有財產ヲ該評價額ヨリ除外ス
ヘク波蘭國ハ一切ノ費用及賦課ヲ負フコトナク此等ノ財
產ヲ取得スヘシ

本條約ニ依リ讓渡サレ且確定的ニ波蘭國ノ一部ヲ爲スト
認メラレタル獨逸國ノ領土ニ於ケル獨逸國民ノ財產、權
利及利益ニ付テハ波蘭國政府ハ左ノ規定ニ依リニ非サレ
ハ第二百九十七條ノ清算ヲ行フコトヲ得ス

- 一 清算殘高ハ直接所有者ニ之ヲ支拂フヘシ
- 二 所有者カ第十編(經濟條項)第六款ニ規定スル混
合仲裁裁判所又ハ同裁判所ノ任命スル仲裁人ニ對
シ波蘭國政府ノ一般法令ノ規定外ニ互リテ執リタ
ル措置又ハ賣却條件カ取得價格ニ付所有者ニ不當
ニ損害ヲ與ヘタルモノナルコトヲ證明スルトキハ同裁
判所又ハ仲裁人ハ波蘭國政府ヲシテ所有者ニ對
平ナル賠償ヲ爲サシムルノ判定ヲ與フルノ裁量ヲ有
ス

前記領土ノ讓渡ヨリ生スル諸問題ニシテ本條約ニ規定セ
サルモノハ總テ今後ノ取極ニ依リテ之ヲ規定スヘシ

第九十三條

波蘭國ハ其ノ多數ノ住民ト人種言語又ハ宗教ヲ異ニスル其ノ住民ノ利益ヲ保護スル爲主タル同盟及聯合國ニ於テ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諾ス

第九十四條

第二編(獨逸國ノ境界)第二十八條ニ掲ケル東普魯西ノ南方境界ト左記ノ線トノ間ニ在ル地域ニ於テハ住民ヲシテ投票ニ依リ其所屬ヲ希望スル國ヲ指示セシムヘシ

第九十五條

獨逸國ノ軍隊及官憲ハ本條約實施後十五日以内ニ前掲地域ヨリ撤退スヘシ該撤退完了ニ至ル迄右軍隊及官憲ハ

一切ノ金錢又ハ物品ノ徵發及該地方ノ經濟上ノ利益ニ害アル一切ノ處置ヲ爲スコトナカルヘシ
前記ノ期間滿了シタルトキハ右地域ハ之ヲ主タル同盟及聯合國ノ任命シタル五名ノ委員ヨリ成ル國際委員會ノ權限ノ下ニ置クヘシ該委員會ハ施政上ノ一般權能ヲ有シ殊ニ投票ノ準備ヲ爲スノ任務及其ノ自由、公正及秘密ヲ確保スルニ必要ト認ムル措置ヲ執ルノ任務ヲ負ヒ尙此等規定ノ施行ニ因リテ生スヘキ各問題ヲ決定スルニ必要ナル一切ノ權限ヲ有ス委員會ハ地方住民中ヨリ其ノ選任シタル吏員ヲシテ其ノ職務ノ實行ヲ幫助セシムル爲必要ナル措置ヲ講スヘシ委員會ノ決議ハ過半数ニ依ル
左記ニ該當スル者ハ男女ノ別ナク總テ投票ノ權利ヲ有ス
(イ) 本條約實施ノ日ニ於テ滿二十歳以上ニシテ且投票ヲ行フヘキ地域内ニ出生シタル者又ハ委員會ノ決定スヘキ日以來同地域内ニ定住シタル者
(ロ) 投票ハ各自ノ定住スル市町村ニ於テ、右地域内ニ定住セサル者ニ在リテハ其ノ出生シタル市町村ニ於テ之ヲ行フヘシ
投票ノ結果ハ市町村毎ニ各其ノ投票ノ過半数ニ依リ之ヲ決定スヘシ

投票終了シタルトキハ委員會ハ主タル同盟及聯合國ニ對シ各市町村ニ於ケル投票數ヲ通告スルト共ニ投票施行ニ關スル詳細ナル報告及該地方ニ於テ東普魯西ノ國境トシテ採用スヘキ境界線ニ關スル意見ヲ提出スヘシ右意見中ニハ投票ニ依リ表示セラレタル住民ノ希望及該地方ノ地理上及經濟上ノ事情ヲ考慮スヘキモノト主タル同盟及聯合國ハ乃チ此ノ地方ニ於ケル東普魯西及波蘭國間ノ國境ヲ確定スヘシ

主タル同盟及聯合國ニ依リ確定セラレタル境界線ニシテ第九十四條ニ掲ケル地域ノ一部分ヲ東普魯西ヨリ除外スルモノナルトキハ獨逸國カ第八十七條ノ規定ニ依リ波蘭國ノ爲ニスル權利拋棄ハ右除外セラレタル地方ニ及フヘシ

主タル同盟及聯合國ニ於テ境界線ヲ確定シタルトキハ國際委員會ハ直ニ東普魯西ノ施政ニ任スヘキ官憲ニ對シ該境界線ノ北方ニ當ル地域ノ施政ヲ引繼クコトヲ得ヘキ旨通牒スヘシ該官憲ハ右通牒後一月以内ニ委員會ノ指定スル方法ニ依リ之カ引繼ニ着手スヘシ波蘭國政府ハ同期間内ニ委員會ノ指定ニ從ヒ同境界線ノ南方ニ當ル地域ノ施政ノ引繼ニ着手スルコトヲ要ス委員會ノ權能ハ東普魯西及波蘭國ノ官憲カ各自當該地域ノ施政ニ任スル時ヲ

第九十六條

以テ終了ス
委員會ノ經費ハ其ノ職務執行ノ爲ナルト當該地域ノ施政ノ爲ナルトヲ問ハス該地方ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス東普魯西ハ主タル同盟及聯合國カ決定スヘキ不足金ノ割當額ヲ負擔スヘシ

第九十七條

獨逸國ノ軍隊及官憲ハ本條約實施後十五日以内ニ第九十六條ニ掲ケル地域ヨリ撤退スヘシ該撤退完了ニ至ル迄右軍隊及官憲ハ一切ノ金錢又ハ物品ノ徵發及該地方ノ經濟上ノ利益ニ害アル一切ノ處置ヲ爲スコトナカルヘシ前記ノ期間滿了シタルトキハ右地域ハ之ヲ主タル同盟及聯合國ノ任命シタル五名ノ委員ヨリ成ル國際委員會ノ權限ノ下ニ置クヘシ該委員會ハ必要ノ場合ニ於テハ所必要ノ兵力ヲ支持ヲ受クヘク施政上ノ一般權能ヲ有シ殊ニ投票ノ

準備ヲ爲スノ任務及其ノ自由、公正及秘密ヲ確保スルニ必要ト認ムル措置ヲ執ルノ任務ヲ負フヘシ委員會ハ能フ限リ「アレクサンダー」地方ニ於ケル人民一般投票ニ關スル本條約ノ規定ニ從フヘシ委員會ノ決議ハ過半数ニ依ル委員會ノ經費ハ其ノ職務執行ノ爲ナルト當該地域ノ施政ノ爲ナルトヲ問ハス該地方ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

投票終了シタルトキハ委員會ハ主タル同盟及聯合國ニ對シ市町村ニ於ケル投票數ヲ通告スルト共ニ投票ノ施行ニ關スル詳細ナル報告及該地方ニ於テ東普魯西ノ境界トシテ採用スヘキ境界線ニ關スル意見ヲ提出スヘシ右意見ノ中ニ於テハ投票ニ依リ表示セラレタル住民ノ希望並該地方ノ地理上及經濟上ノ事情ヲ考慮スヘキモノト主タル同盟及聯合國ハ乃チ此ノ地方ニ於ケル東普魯西及波蘭國間ノ境界ヲ確定スヘシ但シ如何ナル場合ニ於テモ「ヴィスチユラ」河沿岸區域全部ニ互リ同河ニ對スル完全ナル管理權ヲ波蘭國ニ保有セシムヘク該管理權ハ「ヴィスチユラ」河ノ取締及改良ニ必要ナル範圍ニ於テ其ノ東岸一帯ニ及フヘシ

獨逸國ハ引續キ獨逸領タル前記地域中ノ何レノ部分ニ於テモ又如何ナル時ニ於テモ築城ヲ構設セザルコトヲ約ス主タル同盟及聯合國ハ之ト同時ニ東普魯西ノ人民ニ對シ

充分ニ且衡平ナル條件ノ下ニ該人民並其ノ通商及船舶ノ爲「ヴィスチユラ」河ニ往來シ及之ヲ使用スルコトヲ確保スヘキ規則ヲ設クヘシ

國境ノ確定及前記ノ規則ハ一切ノ當事國ヲ拘束ス

委員會ノ機能ハ東普魯西及波蘭國ノ官憲力各自當該地域ノ施政ニ任スル時ヲ以テ終了ス

第九十八條

獨逸國及波蘭國ハ本條約實施後一年以内ニ一方ニ於テハ獨逸國ニ對シ東普魯西ト獨逸國ノ他ノ地域トノ間ノ交通ノ爲其ノ間ニ介在スル波蘭國領土ニ於テ充分且適當ナル鐵道、電信及電話ノ便益ヲ確保シ又他方ニ於テハ波蘭國ニ對シ波蘭國ト「ダンナッヒ」自由市トノ間ノ交通ノ爲「ヴィスチユラ」河ノ右岸ニ於テ波蘭國ノ領土ニ於テ充分且適當ナル鐵道、電信及電話ノ便益ヲ確保スルノ目的ヲ以テ條約ヲ締結スヘク且其ノ條項ニ關シ爭議アルトキハ國際聯盟理事會ヲシテ之ヲ決定セシムヘキコトヲ約ス

第九十九條

獨逸國ハ波羅的海、第二編(獨逸國ノ境界)第二十八條ニ定メタル東普魯西ノ北東方國境及獨逸露西亞兩國間

ノ舊國境ヲ以テ包括シタル地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄ス

獨逸國ハ右地域ニ關シ殊ニ其ノ住民ノ國籍ニ付主タル同盟及聯合國ノ爲シタル決定ヲ承認スヘキコトヲ約ス

第十一款 「ダンナッヒ」自由市

第百條

獨逸國ハ左記境界内ノ地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄ス

波羅的海ヨリ南方ニ進ミ「ノガット」河及「ヴィスチユラ」河(「ワイタセル」河)主要航行水道ノ會合點ニ至ルノ間

第二編(獨逸國ノ境界)第二十八條ニ規定スル東普魯西ノ境界ニ依ル

次テ「ヴィスチユラ」河主要航行水道ヲ下リ「ディルシャウ」橋ノ北方約六吉米半ノ地點ニ至ル

次テ北西方ニ向ヒ「ギェットランド」教會堂ノ南東方一吉米半標高五ノ地點ニ至ルノ間

實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ略南方ニ向ヒ「シェーネック」ノ北東方八吉米半ニ於ケル「ペーレント」郡境界ノ凸出部ニ至ルノ間

「ミュールバンツ」ノ北方、「ラムベルチユ」ノ南方ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ペーレント」郡ノ境界ヲ西方ニ進ミ「シェーネック」ノ北西方六吉米ノ凹入部ニ至ル

次テ「ロンケネル、ゼー」ノ中央線上ノ一點ニ至ルノ間

「ノイ、フィーツ」及「シャタルビ」ノ北方、「パーレンヒュテ」及「ロンケン」ノ南方ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ロンケネル、ゼー」ノ中央線ニ從ヒ其ノ北端ニ至ル

次テ「ポレンチーネル、ゼー」ノ南端ニ至ルノ間

實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ポレンチーネル、ゼー」ノ中央線ニ從ヒ其ノ北端ニ至ル

次テ北東方ニ向ヒ「コリーブケン」教會堂ノ南方約一吉米ニ於ケル「ダンナッヒ」ノ「ノイスタット」鐵道カ小河ヲ橫斷スル地點ニ至ルノ間

「カメーレン」「クリツサウ」「フィドリン」「ズルミン」「リヒトホーフ」「マッテルン」「シェーフェライ」ノ南東方ヲ過キ「ノイエンドルフ」「マルシャウ」「ツァピールケン」「ホッホ、ケルピン」「クライン、ケルピン」「ブルフェルミュール」「レンネベルグ」及

「オリヴァ」ツポット「兩市街ノ北西方ヲ過ルモノトシ實
查ノ上境界線ヲ定ム
次テ前記小河ノ河流ニ從ヒ波羅的海ニ至ル
本條ノ境界ハ本條約附屬十萬分一獨逸地圖(地圖第三
號)ニ之ヲ表示ス

第一百一條

市町村ノ現在ノ境界ヲ能ク限リ參酌シテ實查ノ上前記地
域ノ境界ヲ劃定セムカ爲本條約實施後十五日以内ニ委
員會ヲ設置スヘシ該委員會ハ主タル同盟及聯合國ノ任命
スル三名(委員長タル高級委員ヲ含ム)、獨逸國及波蘭國
ノ任命スル各一名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第一百二條

主タル同盟及聯合國ハ「ダンチャヒ」市ヲ第一百條ニ掲クル爾
餘ノ地域ト共ニ自由市ト爲スコトヲ約ス右自由市ハ國際
聯盟ノ保護ノ下ニ置カルヘシ

第一百三條

「ダンチャヒ」自由市ノ憲法ハ該自由市ノ正當ニ任命スル代
表者ニ於テ國際聯盟ノ任命スル高級委員ト協議ノ上之ヲ
起草スヘシ該憲法ハ國際聯盟之ヲ保障スヘシ

高級委員ハ本條約又ハ之ニ基ク協定若ハ取極ニ關シ波
蘭國ト「ダンチャヒ」自由市トノ間ニ發生スル一切ノ紛議ヲ
第一次ニ處理スルノ任務ヲ付託セラルヘシ
高級委員ハ「ダンチャヒ」ニ駐在スヘシ

第一百四條

主タル同盟及聯合國ハ波蘭國政府ト「ダンチャヒ」自由市ト
ノ間ニ同自由市ノ設立ト同時ニ實施スヘキ左ノ目的ヲ有
スル條約ノ商議ヲ爲スコトヲ約ス

一 「ダンチャヒ」自由市ヲ波蘭國關稅地域ニ編入シ且
同港ニ一ノ自由地域ヲ設定スルコト

二 自由市地域内ニ存スル波蘭國ノ輸出入品ノ爲必
要ナル一切ノ水路、船渠、泊船渠、埠頭其ノ他ノ工作
物ノ自由使用ヲ波蘭國ニ對シ何等ノ制限ナク保障ス
ルコト

三 波蘭國ニ對シ「ヴィスチエラ」河及右自由市内ニ在ル
鐵道系全部並「ダンチャヒ」波蘭國間ノ郵便、電信及
電話ノ管理經營權ヲ保障スルコト但シ主トシテ同自
由市ノ用ニ供セラルル市街鐵道其ノ他ノ鐵道ハ此ノ
限ニ在ラス

四 波蘭國ニ對シ水路、船渠、泊船渠、埠頭、鐵道其ノ
他本條ニ掲クル工作物及交通機關ヲ改良シ發達セ
シムルノ權利並右目的ノ爲必要ナル土地其ノ他ノ財
產ヲ適當ナル手續ニ依リ賃借又ハ買收スルノ權利ヲ
保障スルコト

五 「ダンチャヒ」自由市内ニ於テ波蘭國人民及波蘭系
ニ屬シ又ハ波蘭語ヲ用キル人民ニ不利益ナル差別待
遇ヲ爲ササル規定ヲ設クルコト

六 波蘭國政府ヲシテ「ダンチャヒ」自由市ノ外交關係
ヲ處理シ且外國ニ在ル該市人民ノ外交上ノ保護ニ
當ラシムルノ規定ヲ設クルコト

第一百五條

第一百條ニ掲クル地域内ニ定住スル獨逸國民ハ本條約實
施ト同時ニ「ダンチャヒ」自由市ノ人民ト爲ル爲當然獨逸
國國籍ヲ離脱スヘシ

第一百六條

第一百條ニ掲クル地域内ニ定住スル十八歳以上ノ獨逸國
民ハ本條約實施後二年内ニ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權
利ヲ有ス

第一百七條

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歳未滿ノ子
ニ及フ
右選擇權ヲ行使シタル者ハ總テ爾後十二月以内ニ獨逸
國ニ住所ヲ移スコトヲ要ス
右選擇權行使者ハ「ダンチャヒ」自由市地域内ニ其ノ不動
產ヲ保有スルノ權利ヲ有ス其ノ各種ノ動產ハ之ヲ攜帶ス
ルコトヲ得右ニ關シテハ輸出稅又ハ輸入稅ヲ課スヘカラ
ス

第一百八條

「ダンチャヒ」自由市ノ地域内ニ存スル一切ノ財產ニシテ獨
逸帝國又ハ獨逸各邦ニ屬スルモノハ主タル同盟及聯合國
ノ衡平ナリト思惟スル所ニ從ヒ「ダンチャヒ」自由市又ハ波
蘭國ニ之ヲ引渡ス爲右同盟及聯合國ニ移轉ス

第一百九條

獨逸國及普魯西ノ財政上ノ義務ニシテ「ダンチャヒ」自由
市カ負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編(財政條項)第
二百五十四條ノ規定ニ依リ之ヲ決定スヘシ
第一百條ニ掲クル領土ノ讓渡ヨリ生スル他ノ一切ノ問題ハ
今後ノ取極ヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第十二款 「シユレスウイヒ」
第百九條

獨逸丁抹兩國間ノ國境ハ住民ノ希望ニ從ヒ之ヲ決定ス
此ノ目的ノ爲東方ヨリ西方ニ向ヒ劃シタル左記ノ線(本條
約附屬地圖第四號ノ褐色線)ノ北方ニ位スル舊獨逸帝國
版圖内ノ住民ヲシテ本條第一號乃至第四號ノ條件ノ下
ニ行フヘキ投票ニ依リ其ノ希望ヲ表示セシムヘシ
「フレンスブルグ」ノ東北東方約十三吉米ニ於テ波羅的
海ヲ離レ

南西方ニ走リ「シグム」リングスベルグ「ムンクブラルツ」
「アデルビー」タストルツ「ヤルブルンド」オーヴェルゼーノ
南東方及「ラングバリクホルツ」ラングバリク「ベンスト
ルツ」リユルシャウ「ウゼビー」クラインウォルストルツ
「グロースゾルト」ノ北西方ヲ過キ
次テ西方ニ向ヒ「フレルルツ」ノ南方「ヴァンデルツ」ノ北
方ヲ過キ
次テ南西方ニ進ミ「オックスルンド」「ステイグランド」及
「オステナウ」ノ南東方及「ワンデルツ」ノ「コルンド」街道
上ニ在ル諸村ノ北西方ヲ過キ

五六

次テ北西方ニ向ヒ「レーヴェンステット」「ヨルデルンド」「ゴ
ルデルンド」ノ南西方及「コルケルハイデ」「ヘーゲル」ノ北
東方ヲ過キ「ゾホルム」ノ東方約一吉米、「ゾホルメル、ア
ウ」ト「トナデルン」郡ノ南境トノ會合點ニ於ケル「ゾホルメ
ル、アウ」ノ彎曲部ニ至リ
次テ該境界ヲ進ミ北海ニ至リ
次テ「フール」「アムルム」兩島ノ南方及「オランダ」「ランゲ
ネス」兩島ノ北方ヲ過ク

一 獨逸國軍隊及官憲(州知事、縣知事、郡長、警察區
長、市長ヲ含ム)ハ本條約實施後十日以内ニ前記境界
線ノ北ニ位スル地帯ヨリ撤退スヘシ
右地帯内ニ設立セラレタル勞兵會ハ同期間内ニ解散
スヘシ該會員ニシテ他ノ地方ニ出生シ且本條約實施
ノ際其ノ職務ヲ行フ者又ハ千九百十九年三月一日以
後其ノ職務ヲ去リタル者ハ共ニ右地帯ヨリ撤退セシム
ヘシ

前記地帯ハ直ニ之ヲ五名ノ委員ヨリ成ル國際委員會ノ
權限ノ下ニ置クヘシ該委員ノ中三名ハ主タル同盟及聯
合國之ヲ任命シ諾威國政府及瑞典國政府ニ對シ其ノ

各一名ノ任命ヲ委囑スヘシ右兩國政府任命ヲ爲サザル
トキハ右二名ノ委員ハ主タル同盟及聯合國之ヲ選任
ス

右委員會ハ施政上ノ一般權能ヲ有シ必要ノ場合ニ於
テハ所要兵力ノ援助ヲ受クヘシ殊ニ委員會ハ撤退シタ
ル獨逸國官憲ノ地位ヲ充ス爲直ニ措置ヲ講シ且必要ア
ルトキハ自ラ獨逸國官憲ニ撤退ヲ命シ及必要ナル地方
官憲ノ地位ヲ充スヘシ委員會ハ投票ノ自由公正及秘
密ヲ確保スル爲其ノ適當ト認ムル一切ノ手段ヲ執ルヘ
シ委員會ハ地方人民中ヨリ選任シタル獨逸人及丁抹
人ノ専門事項顧問ヲ其ノ輔佐トスヘシ委員會ノ決議ハ
過半数ニ依ル

委員會ノ經費及人民一般投票ニ要シタル經費ハ獨逸
國其ノ半額ヲ支拂フヘシ
二 投票ノ權利ハ男女ノ別ナク左記ニ該當スル一切ノ者
ニ之ヲ付與ス

(イ) 本條約實施ノ日ニ於テ滿二十歳以上ニシテ且
(ロ) 人民一般投票ヲ行フ地帯ニ出生シタル者、千九百
年一月一日前ヨリ該地帯内ニ住所ヲ有スル者又ハ獨

逸國官憲ニ依リ追放セラレ該地帯内ニ住所ヲ有セザ
ル者

各人ハ其ノ住所又ハ出生地タル市町村ニ於テ投票ヲ
行フヘシ
人民一般投票ヲ行フ「シユレスウイヒ」ノ地帯ニ出生シタ
ル獨逸國陸軍ノ軍人、將校又ハ下士卒ハ其ノ郷里ニ於
ケル投票ニ參加スル爲歸郷スルノ機會ヲ與ヘラルヘシ
三 撤退地帯中東方ヨリ西方ニ向ヒ劃シタル左記ノ線
(本條約附屬地圖第四號ノ赤線)ノ北方ニ位スル區域
内ニ於ケル前記ノ投票ハ獨逸國ノ軍隊及官憲カ該地方
ヲ撤退シタル後三週間以内ニ之ヲ行フヘシ

「アルゼン」島ノ南方ヲ過キ「フレンスブルグ、フイヨール
ド」ノ中央線ヲ進ミ
次テ「フレンスブルグ」ノ北方約六吉米ニ於テ「フイヨ
ルド」ヲ離レ「クッフェルミユール」ヲ過ル小河ノ河流ヲ溯
リ「ニーフリス」北方ノ地點ニ至リ
次テ「バットブルグ」「エルンド」ノ北方及「フレスレー」ノ
南方ヲ過キ「トナデルン」郡ノ東境ト舊「スロッグス」及
「クエール」管轄區域(「スロッグス、ヘレッド」及「クエール、

ヘレッド)間ノ境界トノ接合點ニ至ル

次テ前記舊管轄區域間ノ境界ヲ進ミ其ノ「シャイデベック」河ト會合スル所ニ至リ

次テ「シャイデベック」(「アルテ、アウ」)、「ジューデル、アウ」及「ウィルド、アウ」ノ河流ニ從ヒ「ルッテビュル」ノ西方約千五百米ニ於テ「ウィルド、アウ」ノ河流カ北方ニ彎曲スル地點ニ至リ

次テ西北西方ニ向ヒ「ジールトフト」ノ北方ニ於テ北海ニ至リ

次テ「ジルト」島ノ北方ヲ過ク

投票ノ結果ハ右區域ノ全部ニ於テ行ヒタル投票ノ過半數ヲ以テ決スヘシ此ノ結果ハ委員會直ニ之ヲ主タル同盟及聯合國ニ通告シ且公表スヘシ

投票ノ結果右地域ヲ再ヒ丁抹王國ニ合併スルヲ可トスルニ至リタルトキハ丁抹國政府ハ委員會ノ同意ヲ經テ前記公表ノ後直ニ其ノ軍隊及行政官憲ヲ以テ之カ占領ヲ行フノ權利ヲ有ス

四 撤退地帯中前號ノ區域ノ南方、「フレンスブルグ」ヨリ十三吉米ニ於テ波羅的海ヲ離レ「オランダ」「ランゲネス」

五日以内ニ七人ノ委員ヨリ成ル委員會ヲ組織スヘシ該委員ノ中五名ハ主タル同盟及聯合國、一名ハ丁抹國、他ノ一名ハ獨逸國之ヲ指名スヘシ

第一百十二條

右委員會ノ決議ハ過半數ニ依リ且當事國ヲ拘束スヘシ
丁抹國ニ還付セラレタル地域ノ住民ハ總テ當然丁抹國國籍ヲ取得シ且獨逸國國籍ヲ喪失スヘシ
尤モ千九百十八年十月一日以後右地域内ニ定住スルニ至リタル者ハ丁抹國政府ノ許可ヲ得ルニ非サレハ丁抹國國籍ヲ取得スルコトヲ得ス

第一百十三條

人民一般投票ヲ行ヒタル「シュレスウイヒ」地域ノ全部又ハ一部ニ對スル主權カ丁抹國ニ復歸シタル日ヨリ二年以内ニ

丁抹國ニ復歸シタル地域ニ出生シ該地方ニ定住セス且獨逸國國籍ヲ有スル十八歳以上ノ者ハ丁抹國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有ス

丁抹國ニ復歸シタル地域ニ定住スル十八歳以上ノ者ハ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有ス

兩島ノ北方ニ至ル線ノ北方ニ位スル區域ニ於ケル投票ハ第一區域ニ於ケル人民一般投票ノ後五週間以内ニ於テ之ヲ行フヘシ
投票ノ結果ハ市町村毎ニ各其ノ投票ノ過半數ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第一百十條

實查劃定ニ至ル迄國境線ハ投票ノ結果ニ基キ且國際委員會ニ依リ提議セラレタル境界線ニ依リ更ニ當該地方ノ地理上及經濟上ノ特殊ノ事情ヲ參酌シテ主タル同盟及聯合國之ヲ決定ス

右決定ノ後ハ丁抹國政府ハ其ノ文武官憲ヲ以テ前記地域ノ占領ヲ行フコトヲ得又獨逸國政府ハ曩ニ撤退シタル獨逸國ノ文武官憲ヲ前記國境線迄復歸セシムルコトヲ得獨逸國ハ右ノ規定ニ依リ決定セラレタル國境線ノ北方ニ在ル地域ニ對スル主權ノ全部ヲ茲ニ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ確實ニ拋棄ス主タル同盟及聯合國ハ該地域ヲ丁抹國ニ引渡スヘキモノトス

第一百十一條

國境線ノ實查劃定ノ爲投票ノ最終結果判明ノ日ヨリ十

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歳未滿ノ子ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ總テ爾後十二月以内ニ其ノ選擇シタル國ニ住所ヲ移スコトヲ要ス

右選擇權行使者ハ選擇權行使前ニ定住シタル他ノ國ノ領土内ニ其ノ不動産ヲ保有スルノ權利ヲ有ス其ノ各種ノ動産ハ之ヲ携帶スルコトヲ得右財產ノ移動ニ關シテハ一切ノ輸出税又ハ輸入税ヲ課スルコトヲ得ス

第一百十四條

獨逸國及普魯西ノ財政上其ノ他ノ義務ニシテ丁抹國カ負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編(財政條項)第二百五十四條ノ規定ニ依リ之ヲ決定スヘシ

丁抹國カ千八百六十四年十月三十日ノ條約ニ依リ奪取セラレタル地域ノ全部又ハ一部ヲ丁抹國ニ引渡ス結果生スヘキ他ノ諸問題ハ今後ノ取極ヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第十三款 「ヘリゴランド」

第一百十五條

「ヘリゴランド」島及「デューネ」島ノ築城、軍事建設物及港ハ

主タル同盟國政府ノ監視ノ下ニ其ノ定ムル期間内ニ獨逸國ノ勞力ニ依リ且獨逸國ノ費用ヲ以テ之ヲ破壞スヘシ
「港」ナル語ニハ東北突堤、西岸壁、内外防波堤及其ノ内方ニ在ル埋立地並千九百十八年四月十九日ノ英國海軍省海圖第百二十六號ニ掲クル左ノ諸點ヲ連結スル諸線ノ間ニ在ル構設濟又ハ構設中ノ一切ノ海陸軍用ノ工作物、築城及建物ヲ包含スヘシ

- (イ) 北緯 五十四度十分四十九秒 東經 七度五十三分三十九秒
 - (ロ) 北緯 五十四度十分三十五秒 東經 七度五十四分十八秒
 - (ハ) 北緯 五十四度十分四十四秒 東經 七度五十四分
 - (ニ) 北緯 五十四度十分十七秒 東經 七度五十三分三十七秒
 - (ホ) 北緯 五十四度十分四十四秒 東經 七度五十三分二十六秒
- 前記ノ築城、軍事建設物及港ハ之ヲ再構設スヘカラス又將來何等之ニ類スル工作物ヲ構設スヘカラス

第十四款 露西亞及露西亞諸國 第一百十六條

獨逸國ハ千九百十四年八月一日ニ於テ前露西亞帝國ノ一部ヲリシ一切ノ地域ノ獨立ヲ永久不變ノモノトシテ承認シ且之ヲ尊重スヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ第九編(財政條項)第二百五十九條及第十編(經濟條項)第二百九十二條ノ規定ニ從ヒ「ブレスト、トリウスク」條約並其ノ露西亞過激派政府ト締結シタル一切ノ條約及取極ノ失效ヲ確認ス

同盟及聯合國ハ露西亞國カ本條約ノ原則ニ基ク回復及賠償ヲ獨逸國ヨリ取得スルノ權利ヲ明確ニ留保ス

第一百十七條

獨逸國ハ同盟及聯合國カ千九百十四年八月一日ニ於ケル前露西亞帝國ノ全部又ハ一部ニ於テ現ニ存シ又ハ將來成立スル諸國ト締結スヘキ一切ノ條約又ハ取極ノ完全ナル效力ヲ承認シ且右條約又ハ取極中ニ決定スル此等諸國ノ國境ヲ承認スヘキコトヲ約ス

第四編 獨逸國外ニ於ケル獨逸國ノ權利及利益 第一百十八條

獨逸國ハ本條約ニ定メタル其ノ歐羅巴ニ於ケル國境外ノ地域ニ於テ自國又ハ其ノ同盟國ノ領土内ニ又ハ該領土ニ

第一百二十一條

第十編(經濟條項)第一款及第四款ノ規定ハ前記地域ニ對スル施政ノ形式如何ニ拘ラス該地域ニ付之ヲ適用スヘシ

第一百二十二條

前記地域ニ對シ權限ヲ行使スル政府ハ該地域内ニ在ル獨逸國民ノ送還ニ關シ及歐羅巴系獨逸國臣民ノ該地域ニ於ケル居住、財産保有、營業又ハ職業ヲ許可シ又ハ禁止スルノ條件ニ關シ其ノ適當ト認ムル處置ヲ執ルコトヲ得

第一百二十三條

第九編(財政條項)第二百六十條ノ規定ハ獨逸國海外屬地ニ於ケル公共工事ノ實行又ハ經營ノ爲獨逸國民ト締結シタル一切ノ取極及該取極ニ基キ獨逸國民ニ許與シ又ハ之ト締結シタル下請負又ハ契約ニ之ヲ適用スヘシ

第一百二十四條

獨逸國ハ佛蘭西國政府カ提出シテ賠償委員會ノ承認ヲ受クヘキ見積ニ從ヒ佛蘭西國民カ千九百年一月一日ヨリ千九百十四年八月一日ニ至ル期間ニ「カメルーン」又ハ其

關シテ有スル一切ノ權利、權原及特權並發生事由ノ如何ヲ問ハス同盟及聯合國ニ對シテ有スル一切ノ權利、權原及特權ヲ拋棄ス

獨逸國ハ前項ノ規定實行ノ爲主タル同盟及聯合國カ必要ナル場合ニハ第三國ト協議シテ現在又ハ將來ニ於テ執ルコトアルヘキ措置ヲ承認シ且之ニ違由スルコトヲ茲ニ約ス

獨逸國ハ殊ニ特定事項ニ關スル左ノ各條ヲ受諾スルコトヲ聲明ス

第一款 獨逸國殖民地

第一百十九條

獨逸國ハ其ノ海外屬地ニ關スル一切ノ權利及權原ヲ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄ス

第一百二十條

前記地域ニ於ケル一切ノ動産及不動産ニシテ獨逸帝國又ハ獨逸各邦ニ屬スルモノハ總テ第九編(財政條項)第二百五十七條ニ規定スル條件ニ從ヒ該地域ニ對シ權限ヲ行使スル政府ニ歸屬スヘシ右財産ノ性質ニ關スル爭議ニ付テハ該地方ノ裁判所ノ判決ヲ以テ確定ト爲スヘシ

ノ國境地帯ニ於テ獨逸國文武官憲及獨逸國私人ノ行爲ニ因リ受ケタル損害ノ賠償ヲ支拂フコトヲ茲ニ約ス

第二百二十五條

獨逸國ハ赤道地帯阿弗利加ニ關スル千九百十一年十一月四日及千九百十二年九月二十八日ノ佛蘭西國トノ條約及取極ニ基ク一切ノ權利ヲ拋棄ス獨逸國ハ佛蘭西國政府カ提出シテ賠償委員會ノ承認ヲ受クヘキ見積ニ從ヒ右條約及取極ニ依リ獨逸國ノ爲ニ爲シタル一切ノ保證金、貸金、前貸金等ヲ佛蘭西國政府ニ支拂フコトヲ約ス

第二百二十六條

獨逸國ハ武器及火酒ノ取引ニ關シ竝千八百八十五年二月二十六日ノ柏林一般議定書、千八百九十年七月二日ノ「ブリュセル」一般議定書及之ヲ補足シ又ハ變更スル條約ニ規定スル事項ニ關シ同盟及聯合國又ハ其ノ數國ト他國トノ間ニ締結シタル又ハ締結スルコトアルヘキ取極ヲ受諾シ且遵守スルコトヲ約ス

第二百二十七條

舊獨逸國海外屬地ノ土人ハ該地域ニ對シ權限ヲ行使ス

ル政府ノ外交上ノ保護ヲ受クルノ權利ヲ有スヘシ

第二款 支那國

第二百二十八條

獨逸國ハ千九百十一年九月七日北京ニ於テ署名シタル最終議定書ノ規定竝之ヲ補足スル一切ノ附屬書、公文及文書ヨリ生スル利益及特權ヲ總テ支那國ノ爲ニ拋棄ス獨逸國ハ又該議定書ニ基ク千九百十七年三月十四日以後ノ債金請求權ヲ支那國ノ爲ニ拋棄ス

第二百二十九條

締約國ハ本條約實施後各自國ノ關スル限リ左ノ協定ヲ適用スヘシ

一 支那新關稅率ニ關スル千九百二十年八月二十九日ノ協定

二 黃浦江ニ關スル千九百五年九月二十七日ノ協定及千九百十二年四月四日ノ追加協定

但シ支那國ハ前記協定ニ依リ獨逸國ニ許與シタル利益又ハ特權ヲ今後獨逸國ニ認ムルノ義務ナシ

第二百三十條

獨逸國ハ天津及漢口ニ在ル獨逸專管居留地其ノ他支那

國領土内ニ存在シ又ハ存在スルコトアルヘキ獨逸國政府所屬ノ一切ノ建築物、埠頭及躉船、兵營、堡壘、兵器及軍需品、各種艦船、無線電信設備其ノ他ノ公財產ヲ支那國ニ讓渡ス但シ本編第八款ノ規定ノ適用ヲ妨ケス
外交官又ハ領事官ノ住宅又ハ事務所ニ使用シタル土地建物ハ之ヲ前記讓渡物件中ニ包含セス又支那國政府ハ千九百十一年九月七日ノ最終議定書ノ本條約實施當時ノ當事國タル列國ノ外交代表者ノ同意アルニ非サレハ所謂北京公使館區域内ニ在ル獨逸ノ公私財產ノ處分ニ付何等ノ處置ヲ執ルコトヲ得ス

第二百三十一條

獨逸國ハ千九百十一年ニ於テ其ノ軍隊カ支那國ヨリ撤去シタル天文機械ノ全部ヲ本條約實施後十二月以內ニ支那國ニ還付シ且該機械ノ取外、荷造、運搬、保險及北京ニ於ケル據附等該機械ノ還付實行ノ爲要スヘキ一切ノ費用ヲ支辨スルコトヲ約ス

第二百三十二條

獨逸國ハ支那國政府ヨリ取得シ漢口及天津ニ於テ獨逸專管居留地ヲ現ニ保有スルノ基礎タル租地權ノ失効ニ同

意ス

支那國ハ前記地域ニ於テ其ノ主權ノ完全ナル行使ヲ回復スルト共ニ各國人ノ居住及通商ノ爲之ヲ開放スルノ意思ヲ聲明ス尙支那國ハ前記專管居留地ヲ現ニ保有スルノ基礎タル租地權ノ失効カ其ノ專管居留地内ニ於ケル地區ノ保有者タル同盟及聯合國國民ノ財產權ニ影響ナカルヘキコトヲ聲明ス

第二百三十三條

獨逸國ハ支那國ニ於ケル獨逸國民ノ抑留及送還ニ因リ生スル支那國政府又ハ同盟國若ハ聯合國政府ニ對スル一切ノ請求ヲ拋棄ス尙獨逸國ハ千九百十七年八月十四日以後支那國ニ於ケル獨逸船舶ノ拿捕及捕獲又ハ獨逸ノ財產、權利及利益ニ對スル清算、保管若ハ管理ニ因リ生スル一切ノ請求ヲ拋棄ス但シ清算殘高ニ對スル利害關係人ノ權利ハ第十編(經濟條項)ノ規定ノ適用ヲ受クヘキモノニシテ本條ノ規定ハ其ノ權利ニ影響スルコトナカルヘシ

第二百三十四條

獨逸國ハ廣東沙面ニ於ケル英吉利專管居留地内ニ在ル獨逸國有財產ヲ大不列顛國政府ノ爲ニ拋棄シ又上海ニ

於ケル佛蘭西專管居留地内ニ在ル獨逸學校ノ財産ヲ佛蘭西支那兩國政府ノ爲ニ拋棄ス

第三款 暹羅國

第三百三十五條

獨逸國ハ其ノ暹羅國トノ間ニ締結シタル一切ノ條約及取極並之ニ基ク一切ノ權利、權原及特權ハ治外法權ニ關スル一切ノ權利ト共ニ千九百十七年七月二十二日以後消滅シタルコトヲ承認ス

第三百三十六條

暹羅國內ニ於ケル獨逸帝國又ハ獨逸各邦所屬ノ一切ノ物件及財産ハ外交官又ハ領事官ノ住宅又ハ事務所トシテ使用スル土地建物ヲ除クノ外當然且無償ニテ暹羅國政府ニ歸屬ス

暹羅國ニ於ケル獨逸國民ノ物件、財産及私權ハ第十編(經濟條項)ノ規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第三百三十七條

獨逸國ハ獨逸船舶ノ拿捕及捕獲、獨逸財産ノ清算又ハ暹羅國ニ於ケル獨逸國民ノ抑留ニ因リ生シタル暹羅國政

府ニ對スル一切ノ請求權ヲ自國又ハ其ノ國民ノ名ニ於テ拋棄ス但シ清算殘高ニ對スル利害關係人ノ權利ハ第十編(經濟條項)ノ規定ノ適用ヲ受クヘキモノニシテ本條ノ規定ハ其ノ權利ニ影響スルコトナカルヘシ

第四款 「リベリア」國

第三百三十八條

獨逸國ハ「リベリア」國ニ關スル千九百十一年及千九百十二年ノ協定ニ基ク一切ノ權利及特權ヲ、殊ニ「リベリア」國ニ於テ獨逸國人ノ關稅徵收官ヲ任命スルノ權利ヲ拋棄ス

第三百三十九條

獨逸國ハ獨逸國ト「リベリア」國トノ間ノ一切ノ條約及協定カ千九百十七年八月四日以後消滅シタルコトヲ承認ス

第四百十條

「リベリア」國ニ於ケル獨逸國人ノ財産、權利及利益ハ第十編(經濟條項)ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第五款 摩洛哥國

第四百十一條

獨逸國ハ千九百十六年四月七日ノ「アルヘシラス」一般議定書並千九百九年二月九日及千九百十一年十一月四日ノ佛蘭西獨逸兩國間ノ取極ニ依リ獨逸國ニ付與セラレタル一切ノ權利、權原及特權ヲ拋棄ス獨逸國カ摩洛哥帝國ト締結シタル一切ノ條約、取極、協定及契約ハ千九百十四年八月三日以後廢棄セラレタルモノト看做ス

獨逸國ハ如何ナル場合ニ於テモ前記文書ヲ援用スルコトヲ得ス又佛蘭西國ト他ノ諸國トノ間ニ生スルコトアルヘキ摩洛哥國ニ關スル商議ニ何等干渉セサルコトヲ約ス

第四百十二條

獨逸國ハ摩洛哥國ニ於ケル佛蘭西國ノ保護權ヲ承認シタルニ因リ茲ニ其ノ保護權確立ノ一切ノ結果ヲ承認シ且摩洛哥國ニ於ケル治外法權ヲ拋棄ス

第四百十三條

右拋棄ハ千九百十四年八月三日ヨリ其ノ效力ヲ有スルモノトス

摩洛哥國政府ハ摩洛哥國ニ於ケル獨逸國民ノ地位及其ノ居住營業ノ條件ヲ定ムルコトニ付行動ノ完全ナル自由ヲ有スヘシ

第四百十四條

獨逸ノ保護民、仲買人及農業組合員ハ千九百十四年八月三日以後其ノ地位ニ付特權ヲ享有セザルニ至リタルモノト看做シ普通法ノ適用ヲ受ケシムヘシ

摩洛哥帝國内ニ於ケル獨逸帝國及獨逸各邦ノ一切ノ財産及所有物ハ無償ニテ摩洛哥國政府ニ歸屬ス

右條項ノ適用ニ付テハ獨逸帝國及各邦ノ財産及所有物ニハ帝室、帝國又ハ各邦ノ一切ノ財産及前獨逸皇帝其ノ他ノ王族ノ私財産ヲ包含スルモノト認ムヘシ

第四百四十五條

獨逸國政府ハ摩洛哥國立銀行ノ資本金中獨逸國ノ持分ニ相當スル株券ヲ佛蘭西國政府ノ指定シタル者ニ讓渡スルコトヲ確保スヘシ該株券ノ價額ハ賠償委員會ノ評定ヲ經タル上賠償金額ニ充當スル爲獨逸國ノ貸方トシテ賠償委員會ニ之ヲ支拂フヘシ獨逸國政府ハ之ニ依リ權利ヲ喪失シタル獨逸國民ニ對シ賠償ノ責ニ任スヘシ

第四百四十六條

前記讓渡ハ獨逸國民カ摩洛哥國立銀行ニ對シ負擔シタル金錢債務ノ辨濟ヲ害スルコトナクシテ行ハルヘシ

第六款 埃及國

第四百四十七條

獨逸國ハ千九百十四年十二月十八日大不列顛國カ宣言シタル埃及國ニ對スル保護權ヲ承認シ且埃及國ニ於ケル治外法權ヲ拋棄スルコトヲ聲明ス
右拋棄ハ千九百十四年八月四日ヨリ其ノ効力ヲ有ス

第四百四十八條

獨逸國カ埃及國ト締結シタル一切ノ條約、取極、協定及契約ハ千九百十四年八月四日以後廢棄セラレタルモノト看做ス
獨逸國ハ如何ナル場合ニ於テモ前記文書ヲ援用スルコトヲ得ス又大不列顛國ト他ノ諸國トノ間ニ生スルコトアルヘキ埃及國ニ關スル商議ニ何等干涉セサルコトヲ約ス

第四百四十九條

一般管轄權ヲ有スル裁判所ヲ設置スル埃及國裁判所構成法施行ニ至ル迄ハ埃及國王殿下ノ發布スル命令ニ依リ英國領事裁判所ニ於テ獨逸國ノ國民及財産ニ對スル裁判權ヲ行使シ得ルノ規定ヲ設クヘシ

第四百五十條

埃及國政府ハ埃及國ニ於ケル獨逸國民ノ地位及其ノ居住營業ノ條件ヲ定ムルコトニ付行動ノ完全ナル自由ヲ有スヘシ

第四百五十一條

獨逸國ハ埃及太守殿下カ埃及國公債委員會ニ關シ發布シタル千九百十四年十一月二十八日ノ命令ヲ廢棄シ又ハ

埃及國政府ノ希望スル變更ヲ同命令ニ加フルコトニ同意ス

第四百五十二條

獨逸國ハ自國ノ關スル限リ蘇士運河ノ自由航行ニ付千八百八十八年十月二十九日「コンスタンティノール」ニ於テ署名シタル條約ニ依リ土耳其國皇帝陛下ニ付與セラレタル權能ヲ英國政府ニ移轉スルコトニ同意ス
獨逸國ハ埃及國ノ衛生、海事及檢疫委員會ニ干與スル一切ノ權利ヲ拋棄シ又其ノ關スル限リ右委員會ノ權能ヲ埃及國官憲ニ移轉スルコトニ同意ス

第四百五十三條

埃及國ニ於ケル獨逸帝國及獨逸各邦ノ一切ノ財産及所有物ハ無償ニテ埃及國政府ニ歸屬ス
右條項ノ適用ニ付テハ獨逸帝國及各邦ノ財産及所有物ニハ帝室、帝國又ハ各邦ノ一切ノ財産及前獨逸皇帝其ノ他ノ王族ノ私財産ヲ包含スルモノト認ムヘシ
埃及國內ニ於ケル獨逸國民所屬ノ一切ノ動産及不動産ハ第十編(經濟條項)第三款及第四款ニ依リ之ヲ處理ス

ヘシ

第四百五十四條

獨逸國ニ輸入スル埃及國ノ貨物ハ英國ノ貨物ニ許與セラレル待遇ヲ享受スヘシ

第四百五十五條

獨逸國ハ土耳其國及勃爾牙利國ニ於テ獨逸國又ハ其ノ國民ノ請求スルコトアルヘキ一切ノ權利、利益及特權ニシテ本條約ニ其ノ規定ヲ設ケサルモノニ關シ同盟及聯合國カ土耳其國及勃爾牙利國ト爲スコトアルヘキ一切ノ協定ヲ認諾スヘキコトヲ約ス

第八款 山東

第四百五十六條

獨逸國ハ千八百九十八年三月六日獨逸國ト支那國トノ間ニ締結シタル條約及山東省ニ關スル他ノ一切ノ協定ニ依リ取得シタル權利、權原及特權ノ全部殊ニ膠州灣地域、鐵道、鑛山及海底電信線ニ關スルモノヲ日本國ノ爲ニ拋棄ス

青島濟南府間ノ鐵道(其ノ支線ヲ含ミ)並各種ノ附屬財產、停車場、工場、固定物件及車輛、鑛山、鑛業用設備及材料ヲ包含ス)ニ關スル一切ノ獨逸ノ權利ハ之ニ附帶スル一切ノ權利及特權ト共ニ日本國之ヲ取得保持ス
青島上海間及青島芝罘間ノ獨逸國有海底電信線ハ之ニ附帶スル一切ノ權利、特權及財產ト共ニ無償且無條件ニテ日本國之ヲ取得ス

第五十七條

膠州灣地域内ニ於ケル獨逸國有ノ動產及不動產並該地域ニ關シ獨逸國カ直接又ハ間接ニ施設若ハ改良ヲ爲シ又ハ費用ヲ負擔シタル爲其ノ主張シ得ヘキ一切ノ權利ハ無償且無條件ニテ日本國之ヲ取得保持ス

第五十八條

獨逸國ハ膠州灣地域ノ民政、軍政、財政、司法其ノ他ニ關スル記録、登錄簿、圖面、證書其ノ他各種ノ文書ヲ其ノ所在ノ如何ニ拘ラス本條約實施後三月以内ニ日本國ニ引渡スヘシ
獨逸國ハ前二條ニ規定シタル權利、權原又ハ特權ニ關スル

一切ノ條約、協定又ハ取極ニ付其ノ詳細ヲ前記期間内ニ日本國ニ通告スヘシ
第五編 陸軍海軍及航空條項
各國軍備ノ一般の制限ノ企圖ヲ實現セシムル爲獨逸國ハ左ニ掲クル陸軍海軍及航空條項ヲ嚴ニ遵守スルコトヲ約ス

第一款 陸軍條項

第一章 獨逸國陸軍ノ兵力及幹部

第五十九條

獨逸國陸軍ハ左ニ規定スル所ニ從ヒ復員シ且縮少スヘシ
第六十條
一 獨逸國陸軍ハ千九百二十年三月三十一日迄ニ之ヲ步兵七師團及騎兵三師團以下ト爲スコトヲ要ス
獨逸國ヲ組織スル諸邦ノ陸軍總兵員數ハ前記ノ期限以後將校及補充部隊要員ヲ合セ十萬人ヲ超ユルコトヲ得ス獨逸國陸軍ハ專ラ其ノ版圖内ノ秩序維持及國境ノ警備ニ從事スヘキモノトス
將校ノ總員數ハ其ノ編成ノ如何ヲ問ハス司令部ノ要員

ハ之ト同一ノ地位ニ在ル者ノ員數ハ三百人ヲ超ユヘカラス向此ノ人員ハ本條第一號第三項ニ規定スル最大限四千人ノ中ニ包含セラルルモノトス
第六十一條
本條約規定ノ兵員中ニ包含セサル文官ヲ以テ組織スル軍政諸機關ノ人員ハ其ノ各級ニ於テ千九百十三年年度豫算ニ計上シタルモノノ十分ノ一二之ヲ減スヘシ
第六十二條
獨逸國各邦ニ於ケル稅關吏、森林看守及海岸監視者ノ如キ官吏又ハ備員ノ數ハ千九百十三年ノ現在數ヲ超ユヘカラス
地方又ハ市町村警察ノ憲兵及官吏又ハ備員ノ數ハ當該地方又ハ市町村ニ於ケル千九百十三年以後ノ人口増加ニ相應スル範圍ニ限り之ヲ増員スルコトヲ得
前記ノ官吏及備員ハ軍事教育ノ爲之ヲ召集スルコトヲ得ス
第六十三條
第六十條ニ規定スル獨逸國陸軍兵力ノ縮少ハ左ノ方法ニ依リ漸次之ヲ施行スルコトヲ得
本條約實施後三月以内ニ總兵力ヲ二十萬人ニ縮少スル

ヲ合セ四千人ヲ超ユルコトヲ得ス

二 師團及軍團司令部ノ編制ハ本款第一附屬表ニ依リ前記附屬表ニ掲クル步兵、砲兵及工兵ノ部隊並特種勤務部隊ノ數並人員數ハ超過スヘカラサル最大限ヲ示スモノトス
左ノ部隊ハ各其ノ補充部隊ヲ有スルコトヲ得
步兵 聯隊
騎兵 聯隊
野戰砲兵聯隊
工兵 大隊

三 師團ハ之ヲ二箇ヲ超ユル軍團司令部ノ下ニ編合スルコトヲ得ス

軍團ノ統率又ハ戰爭準備ノ爲右ト異リテ編合セラレタル軍團又ハ他ノ機關ヲ維持シ又ハ設クルコトヲ禁止ス
獨逸國參謀本部及之ニ類似スル一切ノ機關ハ之ヲ廢止スヘク且如何ナル形式ヲ以テスルモ再ヒ之ヲ設置スルコトヲ得ス
獨逸國各邦ノ陸軍省及其ノ附屬諸官衙ニ在ル將校又

コトヲ要ス但シ其ノ部隊ノ數ハ第六十條ニ規定スルモノノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間満了ノ時及爾後毎三月ノ終ニ於テ主タル同盟及聯合國ノ軍事専門家ノ會議ハ次ノ三月間ニ行フヘキ縮少ノ程度ヲ決定シ以テ遅クトモ千九百二十年三月三十一日迄ニ獨逸國ノ總兵力ヲ第六十條ニ規定スル最大限十萬人ヲ超エサルニ至ラシムルモノトス右各次ノ縮少ニ際シテハ同條ニ規定スル將校數ト下士卒數トノ比率及各種部隊間ノ比率ヲ維持スヘシ

第二章 兵器、彈藥及材料

第六十四條

獨逸國カ國際聯盟加入ヲ許容セラルルニ至ル迄同國陸軍ハ本款第二附屬表ノ定數ヲ超ユル數ノ兵器ヲ有スルコトヲ得ス但シ專ラ臨時必要ノ補充ニ供スル爲携帶兵器ニ在リテハ二十五分の一、火炮ニ在リテハ五十分の一ヲ超エサル範圍内ニ於テ任意其ノ數ヲ増加スルコトヲ得

獨逸國ハ前記附屬表ノ兵器ノ定數カ其ノ國際聯盟ノ一

國ト爲リタル後ト雖聯盟理事會ニ於テ之ヲ修正スル迄引續キ效力ヲ有スヘキコト及此ノ問題ニ關シ聯盟理事會ノ決定ヲ嚴守スヘキコトヲ約ス

第六十五條

本條約實施ノ時ヨリ第六十條ニ規定スル千九百二十年三月三十一日ニ至ル期間ニ於テ獨逸國カ有スルコトヲ得ヘキ火炮、機關銃、迫撃砲及小銃ノ最大數並彈藥及裝備ノ量ト本款第三附屬表ノ定數トノ比率ハ第六十三條ニ依リ逐次縮少セラルル獨逸國陸軍兵力ト第六十條ニ依リ承認セラルル兵力トノ比率ニ均シカルヘシ

第六十六條

獨逸國陸軍カ任意ニ處分シ得ヘキ彈藥ノ貯藏量ハ千九百二十年三月三十一日ニ於テ本款第三附屬表ノ定數ヲ超ユルコトヲ得ス

獨逸國政府ハ右期限迄ニ前項ノ貯藏彈藥ヲ特定ノ地點ニ集積シ其ノ地點ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ通知スヘシ獨逸國政府ハ右ノ外彈藥ノ貯藏所、補給廠又ハ豫備彈藥ヲ存置スルコトヲ得ス

第六十七條

獨逸國カ存置ヲ許サレタル築城工事、堡壘、陸地要塞及海岸要塞ノ兵備ヲ構成スル火炮ノ數及口徑ハ本條約實施ノ日ノ現在ニ依リ獨逸國政府速ニ之ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ通知スヘク且之ヲ以テ超過シ得サル最大限ト爲スヘシ

前記火炮用ノ彈藥ノ最大貯藏量ハ本條約實施後二月以内ニ之ヲ左ノ定率ニ低減シ且之ヲ持續スヘシ

- 口徑十厘半以下ノ火炮 一門ニ付 千五百發
- 口徑十厘半ヲ超ユル火炮 一門ニ付 五百發

第六十八條

兵器、彈藥其ノ他ノ軍用材料ハ主タル同盟及聯合國政府ニ通告シテ其ノ承認ヲ經タル地ノ工場又ハ製造所ニ限リ之ヲ製造スルコトヲ得主タル同盟及聯合國政府ハ右工場又ハ製造所ノ數ヲ制限スルノ權利ヲ留保ス

兵器、彈藥其ノ他一切ノ軍用材料ノ製造、準備、貯藏又ハ設計ヲ目的トスル前記以外ノ設備ハ本條約實施後三月以内ニ總テ之ヲ閉鎖スヘシ承認セラレタル彈藥ノ補給廠トシテ使用スルモノヲ除ク外一切ノ軍用工場ニ付亦同シ

右軍用工場ニ使用スル人員ハ同一期間内ニ之ヲ解備スヘシ

第六十九條

獨逸國內ニ在ル獨逸國ノ兵器、彈藥及軍用材料(對航空機材料ヲ含ム)ニシテ承認セラレタル數量ヲ超ユルモノハ本條約實施後二月以内ニ破壊又ハ廢棄ノ爲之ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ引渡スコトヲ要ス承認セラレタル獨逸國陸軍ノ裝備ニ必要ト認メラルルモノヲ除ク外軍用材料ノ製造ヲ目的トスル特別設備ニ付亦同シ

前項ノ引渡ハ主タル同盟及聯合國政府ノ指定スル獨逸國版圖内ノ地點ニ於テ之ヲ實行スヘシ

獨逸國ノ原産ニ非サル兵器、彈藥及軍用材料(對航空機材料ヲ含ム)ハ其ノ狀態ノ如何ヲ問ハス右期間内ニ之ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ引渡スヘク同政府ハ其ノ處分ヲ決スヘシ

獨逸國陸軍兵力ノ逐次縮少ノ結果第二及第三附屬表ノ定數ヲ超過スルニ至リタル兵器、彈藥ハ第六十三條ノ會議ニ於テ決定スル期間内ニ右同様之ヲ引渡スコトヲ要ス

第七十條

獨逸國ニ對スル兵器、彈藥及一切ノ軍用材料ノ輸入ハ嚴ニ之ヲ禁止ス
前項ノ規定ハ外國ノ爲ニスル兵器、彈藥及一切ノ軍用材料ノ製造及外國ニ對スル其ノ輸出ニ之ヲ適用ス

第七十一條

窒息性、毒性其ノ他ノ瓦斯及之ニ類似スル一切ノ液體、材料又ハ考案ハ其ノ使用ヲ禁止セラレアルニ因リ獨逸國內ニ於テ之ヲ製造シ又ハ輸入スルコトヲ嚴禁ス
前項ノ規定ハ特ニ右物品又ハ考案ノ製造、貯藏及使用ヲ目的トスル材料ニ付之ヲ適用ス

裝甲車、「タンク」及軍用ニ供シ得ヘキ之ニ類似スル一切ノ製品亦之カ製造及獨逸國ヘノ輸入ヲ禁止ス

第七十二條

獨逸國政府ハ戰時中獨逸國ノ使用シ又ハ使用ノ目的ヲ以テ準備シタル一切ノ爆藥、有毒材料其ノ他類似ノ化學製品ノ性質及製造方法ヲ本條約實施後三月以内ニ主タル同盟及聯合國政府ニ開示スヘシ

第三章 募兵及軍事教育

第七十三條

獨逸國ニ於ケル一般義務兵役制度ハ之ヲ廢止スヘシ
獨逸國陸軍ハ志願兵制度ノミニ依リ之ヲ組織シ且補充スルコトヲ得

第七十四條

下士及兵卒ノ服役期間ハ繼續十二年タルコトヲ要ス
服役期間滿了前理由ノ如何ヲ問ハス服役ヲ免セラルル下士及兵卒ノ數ハ毎年第六十條第一號第二項ノ總兵員定數ノ百分ノ五ヲ超ユヘカラス

第七十五條

獨逸國陸軍ニ引續キ在職スル將校ハ少クトモ四十五歳迄服役スルノ義務ヲ約スルコトヲ要ス
新ニ任命セラルル將校ハ少クトモ繼續二十五年間ノ現役服務ヲ約スルコトヲ要ス

從前獨逸國陸軍ノ編成ニ屬シタル將校ニシテ存置ヲ承認セラレタル部隊ニ引續キ在職スルニ非サルモノハ學理ト實地トヲ問ハス一切ノ軍事教育ニ參加スルコトヲ得ス且何

等軍事上ノ義務ヲ負擔スルコトナカルヘシ
服役期間滿了前理由ノ如何ヲ問ハス服役ヲ免セラルル將校ノ數ハ毎年第六十條第一號第三項ノ將校總員定數ノ百分ノ五ヲ超ユヘカラス

第七十六條

本條約實施後二月ノ終ニ於ケル獨逸國內陸軍學校ノ數ハ承認セラレタル部隊ノ將校ヲ補充スル爲絶對ニ必要ナルモノニ限ル右學校ハ各兵科ニ付一校ノ割合ヲ以テ專ラ其ノ兵科將校ノ補充ヲ目的トスヘキモノトス

前記學校ノ課程ヲ修ムルノ許可ヲ得タル學生ノ數ハ將校定員中充足スヘキ關員ノ數ト嚴ニ比例スルコトヲ要ス此等學生及幹部ノ數ハ第六十條第一號第二項及第三項ノ兵員定數中ニ算入スヘキモノトス

依テ獨逸國內ニ在ル陸軍大學校又ハ之ニ類似スル機關及將校、將校候補者(アシピランテン)、幼年生徒、下士又ハ下士候補者(アシピランテン)ノ爲設置シタル各種陸軍學校ハ右ニ規定スルモノヲ除クノ外右期間内ニ總テ之ヲ廢止スヘシ

第七十七條

獨逸國ハ本條約實施後陸軍、海軍又ハ航空委員ヲ外國ニ駐節セシメ若ハ派遣セス又ハ其ノ出國ヲ容認セサルコトヲ約ス又獨逸國ハ其ノ國民ニシテ外國ノ陸海若ハ空軍ニ編入セラルル爲又ハ外國ニ於テ陸海若ハ空軍ノ訓練ヲ援助シ其ノ他其ノ教育ヲ爲スノ目的ヲ以テ外國ノ陸海若ハ空軍ニ附屬スル爲獨逸國領土ヲ離ルルモノヲ防止スヘキ

第七十八條

前記ノ會、團體、教育機關及大學ハ陸軍省其ノ他ノ陸軍官憲ト何等ノ關係ヲ有スルコトヲ得ス
動員又ハ之ニ關スル一切ノ措置ハ之ヲ禁止ス
如何ナル場合ト雖軍隊、官衙又ハ司令部ハ定員外ノ幹部ヲ有スルコトヲ得ス

第七十九條

獨逸國ハ本條約實施後陸軍、海軍又ハ航空委員ヲ外國ニ駐節セシメ若ハ派遣セス又ハ其ノ出國ヲ容認セサルコトヲ約ス又獨逸國ハ其ノ國民ニシテ外國ノ陸海若ハ空軍ニ編入セラルル爲又ハ外國ニ於テ陸海若ハ空軍ノ訓練ヲ援助シ其ノ他其ノ教育ヲ爲スノ目的ヲ以テ外國ノ陸海若ハ空軍ニ附屬スル爲獨逸國領土ヲ離ルルモノヲ防止スヘキ

適當ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

同盟及聯合國ハ其ノ關スル限リ本條約實施後其ノ陸海又ハ空軍ノ軍事教育ヲ援助セシムル目的ヲ以テ獨逸國民ヲ其ノ陸海又ハ空軍ニ編入シ又ハ附屬セシメ其ノ他陸海又ハ空軍ノ教官トシテ獨逸國民ヲ雇入レサルコトヲ約ス

尤モ本條ノ規定ハ佛蘭西國カ佛蘭西國陸軍法令ニ依リ外人聯隊ノ募兵ヲ爲スノ權利ヲ妨ケサルモノトス

第四章 築城

第一百八十條

萊茵河ノ東方五十吉米ニ引カレタル線ノ西方ニ位スル獨逸國版圖内ニ在ル一切ノ築城工事、堡壘及陸地要塞ハ其ノ武裝ヲ解除シ且防備ヲ撤廢スヘシ

前記ノ築城工事、堡壘及陸地要塞ニシテ同盟及聯合軍ノ占領地域内ニ在ラサルモノハ本條約實施後二月以内ニ其ノ武裝ヲ解除シ爾後四月以内ニ其ノ防備ヲ撤廢スヘシ同盟及聯合軍ノ占領地域内ニ在ルモノハ同盟軍最高統帥部ノ定ムル期間内ニ其ノ武裝ヲ解除シ且防備ヲ撤廢スヘシ

本條第一項ノ地帯内ニ於テハ其ノ性質ノ如何及重要ノ程度ヲ論セス新築城ノ構設ヲ禁止ス

獨逸國ノ南方及東方國境ニ於ケル築城工事ハ現状ノ儘之ヲ存置スヘキモノトス

第一附屬表 軍團司令部、步兵師團及騎兵師團ノ編制

左ノ諸表ハ獨逸國ニ課スヘキ確定ノ編制ヲ示スモノニ非サルモ諸表中ニ掲クル員數(部隊及人員數)ハ如何ナル場合ニ於テモ超過スヘカラサル最大限ヲ示スモノトス

一 軍團司令部

部	隊	承認最大數	各部隊ノ最大人員
軍團司令部	部	二	將校 下士卒
軍團司令部合計		六〇	一五〇
			三〇〇

二 步兵師團ノ編制

部	隊	一師團内各部隊ノ最大數	各部隊ノ最大人員
步兵師團司令部	部	一	將校 下士卒
步兵師團司令部合計		一	二五
			七〇
			三〇〇

第二附屬表 步兵師團七、騎兵師團三及軍團司令部二ニ對スル兵器最大限數表

品目	步兵師團(一)	步兵師團(二)	騎兵師團(三)	騎兵師團(四)	軍團司令部(五)	軍團司令部(六)
步兵銃	二二,〇〇〇	八,〇〇〇	一	一	六,〇〇〇	一八,〇〇〇
騎兵銃	一	一	一	一	一	一
重機關銃	一〇八	七五	一	一	一	一
輕機關銃	一六三	一三三	一	一	一	一
中迫撃砲	九	六三	一	一	一	一
輕迫撃砲	三七	一八九	一	一	一	一
七・七珊野砲	三三	一六八	一	一	一	一
一〇・五珊榴彈砲	三	八	一	一	一	一

第三附屬表 承認最大貯藏量表

品目	承認最大數	一銃一砲ノ彈藥定數	最大數合計
步兵銃	八四,〇〇〇	四〇〇	四〇,〇〇〇,〇〇〇
騎兵銃	一八,〇〇〇	四〇〇	四〇,〇〇〇,〇〇〇
重機關銃	七九二	八〇〇	一五,四〇八,〇〇〇
輕機關銃	一,一三三	一,〇〇〇	一,一三三,〇〇〇

三 騎兵師團ノ編制

部	隊	一師團内各部隊ノ最大數	各部隊ノ最大人員
騎兵師團司令部	部	一	將校 下士卒
騎兵師團司令部合計		一	一五
			五〇
騎兵聯隊	隊	六	四〇
騎兵大隊	隊	一	二〇
騎兵師團合計		一	二七五
			五,二五〇

條約 第五編 陸軍海軍及航空條項 第一款 陸軍條項 第四章 築城 第一、第二、第三附屬表

中道 擊 砲	六三	四〇〇發	二五二〇〇發
輕道 擊 砲	一八九	八〇〇發	一五一、二〇〇發
野 砲	二〇四	一、〇〇〇發	二〇四、〇〇〇發
七・七 珊 野 砲			
一〇五 珊 榴 彈 砲	八四	八〇〇發	六七、二〇〇發

第二款 海軍條項

第一百八十一條

本條約實施後二月ノ期間滿了後ニ於テ獨逸國常備海軍力ハ左ノ定數ヲ超エサルコトヲ要ス

- 「ドイチュランド」又ハ「ロートリンゲン」型戰艦 六 隻
- 輕巡洋艦 六 隻
- 驅逐艦 十二隻
- 水雷艇 十二隻

又ハ第一百九十條ノ規定ニ依リ右艦艇ノ代艦トシテ建造セラルル同數ノ艦艇

前項ノ海軍力中ニハ潜水艦ヲ包含セサルモノトス 爾餘ノ艦艇ハ本條約中ニ反對ノ規定ナキ限り總テ之ヲ豫備ニ編入シ又ハ商業上ノ目的ニ專用スルコトヲ要ス

第一百八十二條

第一百九十三條ニ規定スル機雷掃海ノ完了ニ至ル迄獨逸

現ニ中立國港灣ニ抑留セラルル獨逸國船舶ハ該港灣ニ於テ主タル同盟及聯合國ニ之ヲ引渡スヘシ獨逸國政府ハ本條約實施ノ時ニ其ノ旨中立國ニ通告スルコトヲ要ス

第一百八十五條

次ニ列記スル獨逸國水上艦艇ハ本條約實施後二月以内ニ主タル同盟及聯合國政府ニ其ノ指定スル同盟國港灣ニ於テ之ヲ引渡スヘシ

此等艦艇ハ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約第二十三條ノ規定ニ依リ豫メ其ノ武裝ヲ解除スヘシ但シ砲全部ハ之ヲ艦内ニ存置スルコトヲ要ス

戰艦

- 「オルデンブルグ」 「ボーゼン」
- 「テューリンゲン」 「ウエストファーレン」
- 「オストフリースランド」 「ラインランド」
- 「ヘルゴランド」 「ナッサウ」
- 輕巡洋艦
- 「ステッティン」 「ストラールズント」
- 「ダンチャヒ」 「アウグスブルグ」
- 「ミュンヒェン」 「コールベルグ」

條約 第五編 陸軍海軍及航空條項 第二款 海軍條項

國ハ主タル同盟及聯合國政府ノ指定スル隻數ノ機雷掃海船ヲ常備スヘシ

第一百八十三條

本條約實施後二月ノ期間滿了後ニ於テ獨逸國海軍所屬總人員ハ艦隊乘員及沿岸防禦、望樓、官衙其ノ他ノ陸上勤務者ヲ合セ各兵種及各階級ノ准士官以上及下士卒ヲ通シテ一萬五千人ヲ超エサルコトヲ要ス

准士官以上ノ總員數ハ千五百人ヲ超ユヘカラス 前記員數ヲ超過スル人員ハ本條約實施後二月以内ニ之ヲ復員スヘシ

獨逸國ニ於テハ前記員數以外ニ海軍ニ關係アル海上若ハ陸上ノ部隊又ハ豫備兵力ヲ編成スルコトヲ得ス

第一百八十四條

獨逸國港灣ニ現在セサル一切ノ獨逸國水上艦艇ハ本條約實施後獨逸國ニ屬セス獨逸國ハ該艦艇ニ對スル一切ノ權利ヲ拋棄ス

千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約ニ依リ現ニ同盟及聯合國港灣ニ抑留セラルル獨逸國船舶ハ確實ニ之ヲ引渡シタルモノト聲明ス

「リューベック」 「ストラットガルト」

右ノ外主タル同盟及聯合國政府ノ選定スル新式驅逐艦四十二隻及新式水雷艇五十隻

第一百八十六條

獨逸國政府ハ本條約實施ノ時ニ現ニ建造中ノ一切ノ獨逸國水上艦艇ノ解體ヲ主タル同盟及聯合國政府ノ監視ノ下ニ行フコトヲ要ス

第一百八十七條

左ニ列記スル獨逸國補助巡洋艦及補助特務船ハ武裝ヲ解除シ商船トシテ之ヲ取扱フヘシ

- 中立國ニ抑留中ノモノ
- 「ベルリン」 「ザイドリッツ」
- 「サンタ、フェ」 「ヨルク」
- 獨逸國ニ在ルモノ
- 「アムモン」 「フニールスト、ビューロー」
- 「アンズワルド」 「ダルトルード」
- 「ボスニア」 「キゴマ」
- 「コルドバ」 「ルギア」
- 「カッセル」 「サンタ、エレナ」

「ダニア」 「シユレスウイヒ」

「リオ、ネグロ」 「モエーウエ」

「リオ、バルド」 「シエラ、ヴェンタナ」

「サンタ、クルーズ」 「テムニッツ」

「シユワーベン」 「エミル、ゲオルグ、フォン、ストラウス」

「ゾーリンゲン」 「ハプスブルグ」

「スタイゲルワルド」 「メテオル」

「フランケン」 「ワルトラウテ」

「グンドマール」 「シャルンホルスト」

第百八十八條

獨逸國潜水艦、潜水艦救難船及潜水艦用船渠管狀船渠ヲ含ムハ本條約實施後一月ノ終ニ於テ總テ主タル同盟及聯合國政府ニ引渡濟ナルコトヲ要ス

此等潜水艦、救難船及船渠中主タル同盟及聯合國政府カ自力航行又ハ被曳航ニ堪フト認メタルモノハ指定セラレタル同盟國港灣ニ獨逸國政府之ヲ回航スヘシ

爾餘ノモノ及建造中ノモノハ主タル同盟及聯合國政府ノ監視ノ下ニ獨逸國政府全部之ヲ解體スヘシ該解體作業ハ本條約實施後運クトモ三月以内ニ之ヲ完了スルコトヲ

要ス

第百八十九條

水上艦艇タルド潜水艦タルトヲ問ハス各種ノ獨逸國艦艇ノ解體ニ因リテ生シタル物品、機械及材料ハ純然タル産業上又ハ商業上ノ目的外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス
前項ノ物品、機械及材料ハ之ヲ外國ニ賣却シ又ハ讓渡ス
コトヲ得ス

第百九十條

獨逸國ハ第百八十一條ニ規定スル常備艦艇ノ代艦ノ外如何ナル艦艇ヲモ建造又ハ取得スルコトヲ得ス
前項ノ代艦ハ左記排水量ヲ超ユルコトヲ得ス

裝甲艦 一萬噸

輕巡洋艦 六千噸

驅逐艦 八百噸

水雷艇 二百噸

各種艦艇ハ喪失ノ場合ヲ除クノ外進水ヨリ起算シ戰艦及巡洋艦ハ二十年、驅逐艦及水雷艇ハ十五年ノ期間ノ終ニ非サレハ代艦ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ス

第百九十一條

一 北緯五十三度ト北緯五十九度トノ間

二 北緯六十度三十分以北

獨逸國ハ前項ノ區域内ニ機雷ノ存在スルモノナカラシムルコトヲ要ス

獨逸國ハ又今後主タル同盟及聯合國政府ノ指定スル區域内ノ波羅的海ニ於テ掃海ヲ行ヒ且機雷ノ存在スルモノナカラシムルコトヲ要ス

第百九十四條

獨逸國海軍人員ハ准士官以上ハ繼續二十五年、下士卒ハ繼續十二年ヲ最短期間トスル志願契約ニ依リ總テ之ヲ採用スヘシ

服役期間滿了前理由ノ如何ヲ問ハス服役ヲ免セラルル人員ノ補充數ハ毎年本款(第百八十三條)ノ總人員定數ノ百分ノ五ヲ超ユヘカラス

海軍ノ服役ヲ免セラルル者ハ各種ノ海陸軍軍事教育ヲ受ケス又ハ再ヒ海陸軍ノ勤務ニ服セサルコトヲ要ス

獨逸國海軍ニ屬スル准士官以上ニシテ復員セラレサルモノハ正當ノ理由ニ因リ服役ヲ免セラルル場合ヲ除クノ外四十五歳迄ノ服役ヲ約スルコトヲ要ス

獨逸國ニ於テハ如何ナル潜水艦船ヲモ建造又ハ取得スルコトヲ得ス其ノ商業上ノ目的ニ供セラルルモノト雖異ルコトナシ

第百九十二條

獨逸國常備艦艇ハ主タル同盟及聯合國ノ指定スル數量ノ兵器、彈藥及軍用材料ノミヲ艦内ニ備ヘ又ハ豫備トシテ保有スヘシ

現ニ獨逸國政府ノ保有スル兵器、彈藥及各種軍用材料(機雷及魚雷ヲ含ム)ニシテ前項ノ數量ヲ超ユルモノハ該數量指定後一月以内ニ主タル同盟及聯合國政府ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ同政府ニ引渡スヘシ右ノ兵器、彈藥及軍用材料ハ之ヲ破壊シ又ハ廢棄スヘシ

前記以外ノ兵器、彈藥又ハ各種海軍軍用材料ノ貯藏品、補充品又ハ豫備品ハ之ヲ保有スルコトヲ得ス

獨逸國版圖内ニ於テ外國ノ爲ニスル前記物件ノ製造及外國ニ對スル其ノ輸出ハ之ヲ禁止ス

第百九十三條

獨逸國ハ本條約實施後直ニ綠威東經四度以東左ノ區域内ノ北海ニ於テ機雷掃海ヲ行フヘシ

獨逸國商船ノ高級船員又ハ乗組員ハ海軍ニ於テ何等ノ教育ヲ受クルコトヲ得ス

第九十五條

波羅的海ニ至ル自由航行ヲ各國ニ保障スル爲獨逸國ハ北緯五十五度二十七分及北緯五十四度ノ兩緯線ト緯線東經九度及同東經十六度ノ兩子午線トヲ以テ劃シタル區域内ニ於テ要塞ヲ構築スルコトヲ得ス又北海波羅的海間ノ海路ヲ管制スヘキ砲ヲ裝備スルコトヲ得ス右區域内ニ現存スル要塞ハ同盟國政府ノ監視ノ下ニ且其ノ指定期間内ニ之ヲ破壊シ其ノ砲ヲ除去スヘシ
獨逸國政府ハ波羅的海北海間ノ海峽及隣接水域ニ關スル一切ノ水路圖誌ニシテ其ノ現ニ有スルモノヲ主タル同盟及聯合國政府ニ提供スヘシ

第九十六條

第九十五條及第三編(歐洲政治條項)第十三款(ヘリゴランド)ニ掲クルモノノ外ノ築城工事及築城ニシテ現ニ獨逸國海岸ヨリ五十吉米以内ニ在ルモノ又ハ獨逸國沿岸ノ獨逸國島嶼内ニ在ルモノハ總テ防禦ノ性質ヲ有スルモノト認メ現狀ノ儘之ヲ存置スルコトヲ得

第三款 航空條項

第九十八條

獨逸國軍ニハ陸軍又ハ海軍ノ航空隊ヲ包含セサルコトヲ要ス
獨逸國ハ千九百十九年十月一日迄ノ期間水中機雷ノ搜索ニ專ラ使用セラレ且此ノ目的ノ爲必要ナル裝備ヲ有スル水上飛行機又ハ飛行艇百隻以内ヲ存置スルコトヲ得該水上飛行機又ハ飛行艇ハ如何ナル場合ニ於テモ何等ノ兵器、彈藥又ハ爆彈ヲ携行スルコトヲ得ス
前項ノ水上飛行機又ハ飛行艇ニ對シテハ之ニ裝置スル發動機ノ外各機艇ノ各發動機ニ付一箇ノ豫備發動機ヲ準備シ置クコトヲ得
航空船ハ之ヲ保有スルコトヲ得ス

第九十九條

獨逸國陸海軍軍人名簿ニ錄セラルル航空隊ノ兵員ハ本條約實施後二月以内ニ復員スルコトヲ要ス尤モ獨逸國ハ千九百十九年十月一日ニ至ル迄ノ間一切ノ軍隊及官衛等ニ於テ幹部及兵員(飛行者及非飛行者共)ヲ合セ將校

前項ノ限界内ニハ新ニ要塞ヲ構築スルコトヲ得ス又前項防備ノ兵裝ハ砲數及口径ニ付本條約實施當時現存ノ兵裝ヲ超ユルコトヲ得ス獨逸國政府ハ速ニ右兵裝ニ關スル細項ヲ歐洲各國政府ニ通報スヘシ

本條約實施後二月ノ期間滿了ノ時ニ於ケル前記砲用ノ彈藥ノ貯藏量ハ最大限ニ於テ口径四・一吋以下ノ砲ニ在リテハ一門ニ付千五百發、之ヨリ大ナル口径ノ砲ニ在リテハ一門ニ付五百發ニ低減シ之ヲ持續スヘシ

第九十七條

本條約實施後三月ノ期間「ナウエン」、「ハノーヴァー」及柏林ノ大電力無線電信所ハ主タル同盟及聯合國政府ノ承認アルニ非サレハ獨逸國又ハ戰時中獨逸國ト同盟シタル各國ニ利害關係アル海陸軍事又ハ政治ノ問題ノ通信ニ之ヲ使用スヘカラス此等無線電信所ハ前記政府ノ監視ノ下ニ於テノ商業上ノ目的ニ之ヲ使用スルコトヲ得其ノ使用スル波長ハ右政府之ヲ決定ス

前項ノ期間獨逸國ハ其ノ版圖内又ハ塊地利國、洪牙利國、勃爾牙利國若ハ土耳其國ノ版圖内ニ大電力無線電信所ヲ増設スルコトヲ得ス

第二百條

ヨ合ニ總員千人ヲ存置スルコトヲ得
同盟及聯合國ノ航空機ハ同盟及聯合國軍隊ノ獨逸國版圖内ヨリ完全ニ撤退スルニ至ル迄ノ間獨逸國內ニ於テ航空ノ自由並通過及著陸ノ自由ヲ有ス

第二百一條

航空機、航空機ノ部品、航空機用發動機及航空機用發動機ノ部品ノ製造及輸入ハ本條約實施後六月間獨逸國全版圖内ニ於テ之ヲ禁止ス

第二百二條

第九十八條第二項及第三項ニ掲クル航空器材ヲ除クノ外一切ノ陸海軍用航空材料ハ本條約實施ノ時ニ之ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ引渡スコトヲ要ス

前項ノ引渡ハ前記政府ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ行ヒ且三月以内ニ之ヲ完了スルコトヲ要ス

前記ノ材料ニハ軍用ノ目的ヲ以テ使用セラルル若ハ使用セラレタル又ハ設計セラレタル左記各項ノ物件ヲ特ニ包含スルモノトス

飛行機及水上飛行機ニシテ完成シタルモノ並製造、修理又ハ取纏中ノモノ
航空船ニシテ飛行ニ堪フルモノ又ハ製造、修理又ハ取纏中ノモノ
水素製造装置

航空船格納庫及航空機用各種格納庫

航空船ハ交付ノ時迄獨逸國ノ費用ヲ以テ水素ヲ充タシ置クヘク水素製造装置及航空船格納庫ハ前記諸國ノ裁量ニ依リ航空船交付ノ時迄之ヲ獨逸國ニ存置スルコトヲ得

航空機用發動機

座框及胴體

武裝(火砲、機關銃、輕機關銃、爆彈投下機、魚雷投下機、同調機、照準機)

彈藥(藥筒、彈丸、填實シ又ハ填實セサル爆彈、貯藏爆藥及此等ノ製造ニ用井ル原料)

航空機用器械

航空機用無線電信機、無線電話機及寫真機又ハ活

動寫真機

以上諸項ニ列記スル各品目ニ屬スル部品
右ノ材料ハ前記政府ノ特別ノ許可アルニ非サレハ之ヲ移動スルコトヲ得ス

第四款 同盟國國際監督委員會

第二百三條

本條約中ノ陸軍海軍及航空條項ニシテ其ノ履行ニ付期限ヲ定メタルモノハ總テ主タル同盟及聯合國ノ之カ爲特ニ任命シタル同盟國國際監督委員會ノ監督ノ下ニ獨逸國之ヲ履行スヘシ

第二百四條

同盟國國際監督委員會ハ本條約ニ依リ獨逸國政府ノ費用ヲ以テ實行スヘキ引渡、破壊、爆破及廢棄ノ完了ヲ監視スルノ任務ヲ特ニ委託セラルヘシ
右委員會ハ主タル同盟及聯合國カ其ノ留保シタル權利ニ基キテ爲シ又ハ陸軍海軍及航空條項ノ履行上ノ必要ニ基キテ爲サレタル決定ヲ獨逸國官憲ニ通告スヘシ

第二百五條

之ヲ負擔スヘシ

第二百八條

同盟國國際監督委員會ハ獨逸國中央政府ノ所在地ニ其ノ機關ヲ設置スルコトヲ得
右委員會ハ隨時獨逸國版圖内ノ各地ニ移動シ、小委員會ヲ派遣シ又ハ一名若ハ數名ノ委員ヲ出張セシムルノ權利ヲ有ス

第二百六條

獨逸國政府ハ同盟國國際監督委員會及其ノ委員ニ對シ其ノ任務ノ遂行上必要ナル一切ノ便宜ヲ供與スルコトヲ要ス

獨逸國政府ハ各同盟國國際監督委員會ニ權能アル一名ノ代表者ヲ附屬セシメ該委員會ヨリ獨逸國政府ニ宛テ發送スル通告ヲ受領シ且該委員會ノ爲必要ナル一切ノ情報又ハ文書ヲ供給又ハ蒐集セシムヘシ

獨逸國政府ハ每ニ其ノ費用ヲ以テ本條約ニ規定スル引渡並破壊、防備撤廢、爆破及廢棄ノ作業ノ實行ニ必要ナル一切ノ勞力及材料ヲ提供スルコトヲ要ス

第二百七條

監督委員會ノ維持及費用並其ノ事業上ノ費用ハ獨逸國

同委員會ハ兵器、彈藥及軍用材料ノ引渡ヲ受ケ、該交付ノ行ハルヘキ地點ヲ指定シ且本條約ニ依リ實行スヘキ破壊、爆破及廢棄ノ作業ヲ監視ス

獨逸國政府ハ同盟國國際陸軍監督委員會ニ於テ陸軍條項ノ完全ナル履行ヲ保障スルニ必要ト認ムル情報及文書殊ニ一切ノ立法上及行政上ノ文書並規則ヲ該委員會ニ提供スルコトヲ要ス

第二百九條

同盟國國際海軍監督委員會ハ海軍條項ノ履行ニ關スル一切ノ事項ニ付獨逸國政府トノ交渉ニ於テ主タル同盟及聯合國政府ヲ代表ス

右委員會ハ特ニ造船所ニ就キテ建造中ノ艦艇ノ解體ヲ監視シ、一切ノ水上艦艇、潜水艦、救難船、船渠及管狀船渠ノ引渡ヲ受ケ且所定ノ破壞及解體ヲ監視スルノ任務ヲ有ス

獨逸國政府ハ同盟國國際海軍監督委員會ニ於テ海軍條項ノ完全ナル履行ヲ保障スルニ必要ト認ムル情報及文書殊ニ艦艇ノ設計、其ノ兵裝ノ組織、砲類、彈藥、魚雷、機雷、爆藥、無線電信機其ノ他一切ノ海軍軍用材料ニ關スル細目及模型並一切ノ立法上若ハ行政上ノ文書又ハ規則ヲ該委員會ニ提供スルコトヲ要ス

第二百十條

同盟國國際航空監督委員會ハ航空條項ノ履行ニ關スル一切ノ事項ニ付獨逸國政府トノ交渉ニ於テ主タル同盟及聯合國政府ヲ代表ス

右委員會ハ特ニ獨逸國版圖内ニ在ル航空用材料ノ目錄

第二百十二條

千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約中第六條、第七條第一項第二項第六項第七項、第九條、第二附屬書第一項第二項第五項及右休戰條約ニ追加セラルル千九百十九年四月四日ノ議定書ハ前記諸規定ニ反セサル限り引續キ其ノ效力ヲ有ス

第二百十三條

本條約カ效力ヲ有スル限り獨逸國ハ國際聯盟理事會カ所要ノ場合ニ其ノ過半数決ヲ以テ必要ト認メタル一切ノ調査ニ付各種ノ便宜ヲ供與スルコトヲ約ス

第六編 俘虜及墳墓

第一款 俘虜

第二百十四條

俘虜及抑留人民ノ送還ハ本條約實施後成ルヘク速ニ之ニ着手シ且最迅速ニ之ヲ實行スヘシ

第二百十五條

獨逸俘虜及抑留獨逸人民ノ送還ハ第二百十四條ニ依リ同盟及聯合國ノ代表者並獨逸國政府ノ代表者ヲ以テ組

ヲ調製シ、飛行機、氣球及發動機ノ製造所並航空機ニ使用シ得ヘキ兵器、彈藥及爆藥ノ製造場ヲ檢閲シ、一切ノ飛行場、格納庫、著陸場、集積場及補給廠ヲ臨檢シ、必要ノ場合ニハ材料ノ移動ヲ許シ且該材料ノ引渡ヲ受クルノ任務ヲ有ス

獨逸國政府ハ同盟國國際航空監督委員會ニ於テ航空條項ノ完全ナル履行ヲ保障スルニ必要ト認ムル一切ノ情報及立法上行政上其ノ他ノ文書殊ニ獨逸國航空勤務總人員表、現存材料及製造中又ハ註文中ノ材料ノ目錄並航空ニ關スル一切ノ設備、其ノ位置及一切ノ格納庫著陸場ニ關スル表ヲ該委員會ニ提供スルコトヲ要ス

第五款 一般規定

第二百十一條

獨逸國ノ法令ハ本條約實施後三月ノ期間滿了迄ニ之ヲ修正シテ本編ノ規定ニ適應セシメ且之ヲ維持スヘシ

本編ノ履行ニ關スル行政上其ノ他ノ措置ハ總テ前記期間内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

織スル委員會ニ於テ之ヲ實行スヘシ

各同盟及聯合國ニ在リテハ當該國代表者及獨逸國政府ノ代表委員ノミヲ以テ組織スル小委員會ニ於テ俘虜送還ノ實施ニ關スル細目ヲ定ムヘシ

第二百十六條

獨逸國官憲ハ前記俘虜及抑留人民ノ引渡ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ各自ノ郷里ニ歸還セシムヘシ
前記俘虜及抑留人民中同盟及聯合國軍隊ノ占領地域内ニ戰爭前常住シタル者ハ亦之ヲ各自ノ郷里ニ歸還セシムヘシ尤モ同盟及聯合國ノ占領軍官憲ノ許可及監督ヲ受クルモノトス

第二百十七條

獨逸國政府ハ送還ニ要スル出發以後ノ一切ノ費用ヲ負擔シ且第二百十五條ノ委員會ニ於テ必要ト認ムル海陸輸送方法及職員ヲ準備スヘシ

第二百十八條

紀律違反ノ犯行ニ付取調中又ハ處罰中ノ俘虜及抑留人民ハ其ノ處罰又ハ取調手續ノ完了スルト否トヲ問ハス之

ヲ送還スヘシ

前項ノ規定ハ千九百十九年五月一日以後ノ犯行ニ付罰ヲ受クル俘虜及抑留人民ニハ之ヲ適用セス
送還未了ノ間俘虜及抑留人民ハ總テ引續キ現行ノ規則殊ニ作業及紀律ニ關スル規則ノ適用ヲ受クヘシ

第二百十九條

紀律違反以外ノ犯行ニ付取調中又ハ處罰中ノ俘虜及抑留人民ハ尙之ヲ抑留スルコトヲ得

第二百二十條

獨逸國政府ハ送還セラルヘキ一切ノ者ニ對シ差別ヲ設クルコトナク之ヲ自國版圖内ニ入國セシムルコトヲ約ス
俘虜其ノ他ノ獨逸國民ニシテ送還ヲ欲セサル者ハ之ヲ送還セサルコトヲ得但シ同盟及聯合國政府ハ右ノ者ヲ送還シ中立國ニ送致シ又ハ自國版圖内ノ居住ヲ之ニ許可スルノ權利ヲ留保ス

獨逸國政府ハ右ノ者又ハ其ノ家族ニ對シ何等例外的取扱方法ヲ設ケス又從テ何等抑壓的若ハ煩瑣ナル措置ヲ執ラサルコトヲ約ス

第二百二十一條

第二百二十四條

締約國ハ各自國版圖内ニ於ケル俘虜收容ニ因ル費用ノ償還ノ要求ヲ總テ相互的ニ拋棄ス

第二款 墳墓

第二百二十五條

同盟及聯合國政府並獨逸國政府ハ各其ノ版圖内ニ埋葬セラレタル陸海軍軍人ノ墳墓ヲ尊重シ且保存スヘシ

前記諸國政府ハ同盟國又ハ聯合國政府ニ於テ右墳墓ノ識別、登錄若ハ管理ノ爲又ハ其ノ上ニ適當ナル記念碑ヲ建設スル爲任命シタル委員ヲ承認シ且其ノ職務執行ニ便宜ヲ供與スルコトヲ約ス

尙前記諸國政府ハ自國ノ法令上及公共衛生上差支ナキ限り陸海軍軍人ノ遺骸ヲ其ノ本國ニ移サントスル要求ヲ實現スル爲一切ノ便宜ヲ供與スルコトヲ約ス

第二百二十六條

各交戰國國民タル俘虜及抑留人民ニシテ拘束中死亡シタルモノノ墳墓ハ第二百二十五條ニ依リ適當ニ之ヲ保存スヘシ

同盟及聯合國政府ハ獨逸國政府ヲシテ同國內ニ俘虜トシテ殘存スルコトアルヘキ自國民ニ關シ直ニ通告ヲ爲サシメ且直ニ之ヲ解放セシムルコトヲ以テ其ノ權内ニ在ル獨逸俘虜及獨逸國民送還ノ條件ト爲スノ權利ヲ留保ス

第二百二十二條

獨逸國ハ左ノ事項ヲ約ス

- 一 失踪者調査委員ニ對シ一切ノ便宜ヲ供與シ必要ナル一切ノ輸送手段ヲ提供シ收容所、監獄、病院其ノ他一切ノ場所ニ出入スルコトヲ許容シ及調査ヲ容易ナラシムヘキ公私一切ノ書類ヲ其ノ使用ニ供スルコト
- 二 同盟及聯合國國民ノ所在ヲ隱蔽シ又ハ其ノ所在ヲ知リタル後之カ報告ヲ怠リタル獨逸國官吏又ハ人民ヲ處罰スルコト

第二百二十三條

獨逸國ハ同盟及聯合國國民ニ屬シ獨逸國官憲ノ押收シタル一切ノ物品、現金、證券及書類ヲ本條約實施後遲滞ナク返還スルコトヲ約ス

同盟及聯合國政府並獨逸國政府ハ相互ニ左記ノモノヲ提供スルコトヲ約ス

- 一 死亡者全表及識別上必要ナル一切ノ情報
- 二 識別セラレヌシテ埋葬セラレタル者ノ墳墓ノ數及其ノ位置ニ關スル一切ノ情報

第七編 制裁

第二百二十七條

同盟及聯合國ハ國際道義ニ反シ條約ノ神聖ヲ瀆シタル重大ノ犯行ニ付前獨逸皇帝「ホーヘンツォルレルン」家ノ維廉二世ヲ訴追ス

右被告審理ノ爲特別裁判所ヲ設置シ被告ニ對シ辯護權ニ必要ナル保障ヲ與フ該裁判所ハ五名ノ裁判官ヲ以テ之ヲ構成シ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國及日本國各一名ノ裁判官ヲ任命ス

右裁判所ハ國際間ノ約諾ニ基ク嚴正ナル義務ト國際道義ノ嚴存トヲ立證セムカ爲國際政策ノ最高動機ノ命スル所ニ從ヒ判決スヘシ其ノ至當ト認ムル刑罰ヲ決定スルハ該裁判所ノ義務ナリトス

同盟及聯合國ハ審理ノ爲前皇帝ノ引渡ヲ和蘭國政府ニ要求スヘシ

第二百二十八條

獨逸國政府ハ戰爭ノ法規慣例ニ違反スル行爲アリトシテ訴追セラルル者ヲ軍事裁判所ニ出廷セシムル同盟及聯合國ノ權利ヲ承認ス上記ノ者有罪ト決シタルトキハ之ヲ法定ムル刑罰ニ處スヘシ本規定ハ獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ裁判所ニ於ケル訴訟手續又ハ公訴ノ爲其ノ適用ヲ妨ケラルルコトナシ

獨逸國政府ハ戰爭ノ法規慣例ニ違反スル行爲アリトシテ訴追セラルル者ニシテ其ノ氏名又ハ獨逸國官憲ノ下ニ於テ其ノ有シタル地位官職ヲ明示セラレタルモノハ總テ之ヲ同盟及聯合國又ハ引渡ヲ要求スル其ノ一國ニ引渡スヘシ

第二百二十九條

同盟及聯合國中ノ一國ノ國民ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ該國ノ軍事裁判所ノ裁判ニ付ス
同盟及聯合國中ノ二國以上ノ國民ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ該諸國ノ軍事裁判所ノ職員ヲ以テ組織スル軍事裁判所ノ裁判ニ付ス

判所ノ裁判ニ付ス

被告ハ何レノ場合ニ於テモ自己ノ辯護人ヲ指定スルノ權ヲ有ス

第二百三十條

獨逸國政府ハ犯罪行爲ノ知悉、犯罪者ノ發見及責任ノ適正ナル量定ニ必要ト認メラルル一切ノ文書及資料ノ提供ヲ約ス

第八編 賠償

第一款 一般規定

第二百三十一條

同盟及聯合國政府ハ獨逸國及其ノ同盟國ノ攻撃ニ因リテ強ヒラレタル戰爭ノ結果其ノ政府及國民ノ被リタル一切ノ損失及損害ニ付テハ責任ノ獨逸國及其ノ同盟國ニ在ルコトヲ斷定シ獨逸國ハ之ヲ承認ス

第二百三十二條

同盟及聯合國政府ハ獨逸國ノ資源カ本條約ノ他ノ規定ノ結果永遠ニ減少スヘキコトヲ考量シ其ノ右損失及損害ノ全部ニ對シ完全ナル賠償ヲ爲スニ充分ナラサルコトヲ認

フ通牒スルノ權限ヲ有ス

第二百三十三條

獨逸國ノ賠償スヘキ前記損害ノ總額ハ賠償委員會ト稱スル同盟國國際委員會之ヲ決定スヘシ該委員會ノ組織及權能ハ本款及本款第二乃至第七附屬書ノ定ムル所ニ依ル

右委員會ハ請求ヲ審查シ且意見陳述ノ公平ナル機會ヲ獨逸國政府ニ與フヘシ

前記損害額ニ關スル委員會ノ査定ハ獨逸國政府ノ債務ノ範圍ヲ示スモノトシテ千九百二十一年五月一日前ニ之ヲ確定シ且獨逸國政府ニ通告スヘシ

委員會ハ同時ニ千九百二十一年五月一日以後三十年ノ期間内ニ獨逸國カ右債務全部ヲ辨濟スヘキ時期及方法ヲ定ムル支拂一覽表ヲ調製スヘシ但シ獨逸國カ右期間内ニ其ノ債務ヲ辨濟セサル場合ニ於テハ未拂額ハ委員會ノ裁量ニ依リ其ノ決濟ヲ後年ニ延期シ又ハ同盟及聯合國政府カ本編所定ノ手續ニ從ヒ決定スヘキ方法ニ依リ之ヲ處理スルコトヲ得

第二百三十四條

賠償委員會ハ千九百二十一年五月一日以後隨時獨逸國ノ資源及能力ヲ審査シ且意見陳述ノ公平ナル機會ヲ獨逸國ノ代表者ニ與ヘタル後第二百三十三條ニ依リ定ムル支拂時期ヲ延長シ又ハ其ノ方法ヲ變更スルノ裁量ヲ有ス但シ委員會ニ代表セラルル各國政府ノ特定ノ承認アル場合ヲ除クノ外債務ノ何レノ部分ヲモ免除スルコトヲ得ス

第二百三十五條

獨逸國ハ同盟及聯合國ヲシテ其ノ請求額ノ確定ニ先テ速ニ其ノ産業及經濟生活ノ回復ニ著手スルコトヲ得シムル爲賠償委員會ノ定ムル割賦及方法ニ從ヒ(金、貨物、船舶、有價證券其ノ他ヲ以テ)千九百十九年及千九百二十年申並千九百二十一年四月末日迄ニ二百億「麻」金貨ニ相當スル額ヲ支拂フヘシ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約以後ニ於ケル占領軍ノ費用ハ右金額中ヨリ先ツ之ヲ支辨スヘシ主タル同盟及聯合國政府ニ於テ獨逸國ヲシテ其ノ賠償義務ヲ履行セシムル爲必要ナリト認メタル糧食及原料ノ供給ニ對シテハ右政府ノ承認ヲ經テ該金額中ヨリ亦之カ支辨ヲ爲スコトヲ得殘額ハ賠償義務額ノ清算

ニ之ヲ充當スヘシ獨逸國ハ右ノ外尚本款第二附屬書十ニノ(ハ)號ニ掲クル債券ヲ供託スヘシ

第二百三十六條

獨逸國ハ尙商船、物質的の回復、石炭及其ノ製品並染料其ノ他ノ化學製品ニ付各第三乃至第六附屬書ニ依リ直接其ノ經濟資源ヲ賠償ニ充ツルコトニ同意ス但シ右各附屬書ニ依リ獨逸國ノ讓渡シタル財產及履行シタル債務ノ價額ハ常ニ上記各附屬書ニ掲クル方法ヲ以テ之ヲ評價シ前各條ニ依ル債務ノ清算ニ際シ獨逸國ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

第二百三十七條

前記請求ニ應シ獨逸國ノ支拂ヒタル累次ノ割賦(前記ノ額ヲ含ム)ハ同盟及聯合國政府ニ於テ一般の衡平及各國政府ノ權利ヲ基礎トシテ豫メ決定シタル割合ヲ以テ同政府間ニ之ヲ分配スヘシ
右分配ニ付テハ第二百四十三條及第三乃至第七附屬書ニ依リ讓渡シタル財產及履行シタル債務ノ價額ハ之ヲ當該年度ニ於ケル現金支拂ト同様ニ計算スヘシ

第二百三十八條

前記支拂ノ外獨逸國ハ尙賠償委員會ノ定ムル手續ニ從ヒ其ノ奪取シ差押ヘ又ハ保管シタル現金ハ現金ヲ以テ還付スヘク又奪取シ差押ヘ又ハ保管シタル動物、各種物件及有價證券ハ獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ領土内ニ於テ之ヲ識別シ得ヘキ場合ニ於テハ之ヲ還付スルコトヲ要ス
右手續ノ決定ニ至ル迄還付ハ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約、其ノ更新取極及同附屬議定書ノ規定ニ依リ之ヲ繼續スヘシ

第二百三十九條

獨逸國政府ハ第二百三十八條ニ定ムル還付ヲ直ニ實行シ且第二百三十三條乃至第二百三十六條ニ定ムル支拂及引渡ヲ實行スヘキコトヲ約ス

第二百四十條

獨逸國政府ハ第二百三十三條ノ委員會ヲ第二附屬書ニ依リ同盟及聯合國政府ノ組織スヘキ委員會トシテ承認シ且該委員會カ本條約ニ依リ付與セラレタル權能及權限ヲ有シ且之ヲ行使スルコトニ確實ニ同意ス

獨逸國政府ハ金融ノ状態及作用、獨逸國及其ノ國民ノ

財產及生産力並其ノ原料及製造品ノ貯藏額及當時ノ產額ニ關シ賠償委員會ノ要求スヘキ一切ノ情報其ノ他第一附屬書ニ規定スル獨逸國賠償債務ノ査定上該委員會ノ必要ト認ムヘキ軍事行動ニ關スル情報ヲ該委員會ニ提供スヘシ

獨逸國政府ハ其ノ友好國ノ正式ニ任命シタル外交官カ獨逸國ニ於テ享有スルト同一ノ權利及免除ヲ賠償委員會ノ委員及其ノ權限アル吏員ニ許與スヘシ

獨逸國ハ尙委員會及其ノ使用スル職員ノ俸給及費用ヲ支辨スルコトニ同意ス

第二百四十一條

獨逸國ハ此等諸規定ノ完全ナル實行ニ必要ナル法律命令ヲ制定シ、公布シ及施行スルコトヲ約ス

第二百四十二條

本編ノ規定ハ第十編(經濟條項)第三款及第四款ニ掲クル財產、權利及利益並其ノ清算殘高二之ヲ適用セス但シ第二百四十三條第一項(イ)號ニ依リ獨逸國ノ受取勘定ト爲ルヘキ最終殘額ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第二百四十三條

左ニ掲クルモノハ獨逸國ノ賠償債務ニ關シ其ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

- (イ) 第三編(歐洲政治條項)第五款(アルザス、ロレーヌ)並第十編(經濟條項)第三款及第四款ノ規定ニ依リ獨逸國ノ受取勘定ト爲ルヘキ最終殘額
- (ロ) 第三編(歐洲政治條項)第四款(ザール)河流域、第九編(財政條項)及第十二編(港、水路及鐵道)ニ依ル讓渡ニ關シ獨逸國ニ支拂フヘキ額
- (ハ) 右ノ外本條約ニ依リ財產、權利、利權其ノ他ノ利益ヲ讓渡シタル結果賠償委員會ニ於テ獨逸國ノ貸方ニ計上スヘシト決定シタル額

本編第二百三十八條ノ規定ニ依リ還付シタル財產ハ如何ナル場合ニ於テモ獨逸國ノ貸方ニ之ヲ計上スルコトナシ

第二百四十四條

本條約ニ特別ノ規定ヲ設ケサル獨逸海底電信線ノ讓渡ハ本款第七附屬書ノ規定ニ依ル

第一附屬書

補償ハ第二百三十二條ニ依リ左記種目ノ全損害ニ付之

獨逸國ニ請求スルコトヲ得

- 一 戰爭ノ行爲(陸上、海上又ハ空中ノ砲撃其ノ他ノ攻撃、其ノ一切ノ直接ノ結果及場所ノ如何ヲ問ハス交戰國ノ雙方ノ行ヘル軍事行動ノ一切ノ直接ノ結果ヲ含ム)ニ因ル普通人民ノ傷害又ハ死亡ノ爲該負傷者及生存被扶養者ノ受クル損害
- 二 場所ノ如何ヲ問ハス獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ殘忍、兇暴又ハ虐待行爲(監禁、追放、抑留、退去命令、海上遺棄又ハ強制労働ノ結果タル生命又ハ健康ノ危害ヲ含ム)ノ犠牲ト爲リタル普通人民及其ノ生存被扶養者ノ損害
- 三 獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ領土、占領地又ハ侵入地ニ於テ該諸國カ行ヒタル健康、活動力又ハ名譽ヲ害スル一切ノ行爲ノ犠牲ト爲リタル普通人民及其ノ生存被扶養者ノ損害
- 四 俘虜ニ對スル各種ノ虐待ニ基ク損害
- 五 同盟及聯合國國民ノ被リタル損害トシテ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リ又ハ不具癡疾ト爲リテ戰爭ノ犠牲ト爲リタル陸海軍軍人(空軍軍人ヲ含ム)及其ノ被扶養者

者ニ對スル一切ノ恩給金及恩給金ノ性質ヲ有スル一切ノ補償金但シ同盟及聯合國政府ニ支拂フヘキ右金額ハ本條約實施ノ日ニ於ケル佛蘭西國現行ノ率ヲ基礎トシ同時期ニ於テ恩給金及補償金ヲ一時金ニ換算シタル額ニ依リ右各國政府毎ニ之ヲ計算スヘシ

六 俘虜並其ノ家族及被扶養者ニ對スル同盟及聯合國政府ノ扶助費

七 動員セラレタル者又ハ軍務ニ服シタル者ノ家族及被扶養者ニ對スル同盟及聯合國政府ノ給與額但シ同盟及聯合國政府ニ支拂フヘキ給與額ハ戰時狀態ニ在リタル各曆年毎ニ當該年ニ於テ佛蘭西國ニ行ハレタル此ノ種支拂ノ平均率ヲ基礎トシ右各國政府毎ニ之ヲ計算スヘシ

八 獨逸國又ハ其ノ同盟國カ正當ノ報酬ナクシテ労働ヲ強制シタル爲普通人民ノ受ケタル損害

九 陸海軍ノ工作物又ハ材料ヲ除ク外同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ國民ニ屬スル一切ノ財產ニシテ其ノ所在地ノ如何ヲ問ハス陸上、海上又ハ空中ニ於ケル獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ行爲ニ因リ撤去、差押、毀

損又ハ破壊セラレタルモノニ關スル損害並敵對行爲又ハ軍事行動ノ直接ノ結果タル損害

十 獨逸國又ハ其ノ同盟國カ普通人民ニ課シタル賦金、罰金其ノ他之ニ類スル強制徵收ノ形式ニ依ル損害

第二附屬書

第二百三十三條ノ委員會ニハ「賠償委員會」ノ名稱ヲ附スヘク以下之ヲ「委員會」ト稱ス

二

本委員會ノ委員ハ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、白耳義國及「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國之ヲ任命スヘシ右諸國ハ各委員一名副委員一名ヲ任命スヘシ副委員ハ委員ノ病氣又ハ已ムヲ得サル關席ノ場合ニ於テ之ニ代ルヘク其ノ他ノ場合ニ於テハ單ニ會議ニ出席スルノ權利ヲ有シ議事ニ參與スルコトヲ得ス

上記諸國ニシテ其ノ委員カ委員會ノ議事ニ參與シ且表決ノ數ニ加ハルノ權利ヲ有スルモノハ如何ナル場合ニ於テモ五國ヲ超ユルコトナシ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國及伊太利國ノ委員ハ一切ノ場合ニ於テ此ノ權利ヲ有

ス白耳義國ノ委員ハ以下ノ場合ヲ除クノ外一切ノ場合ニ於テ此ノ權利ヲ有ス日本國ノ委員ハ海上ニ於ケル損害ニ關スル問題及第九編(財政條項)第二百六十條ニ基キ發生シ日本國ノ利害ニ關係アル問題ヲ審議スル場合ニ於テ此ノ權利ヲ有スセルブ、クロアチア、スロヴェニア、國ノ委員ハ埃地利國、洪牙利國又ハ勃爾牙利國ニ關スル問題ヲ審議スル場合ニ於テ此ノ權利ヲ有ス

三

委員會ニ代表セラルル各政府ハ委員會ニ對スル十二月前ノ豫告及該豫告ノ日以後第六月中ニ爲ス確認ニ依リ委員會ヨリ脱退スルノ權利ヲ有ス

四

委員、副委員又ハ陪席委員ノ死亡、辭任又ハ召還ノ場合ニ於テハ成ルヘク速ニ後任者ヲ任命スヘシ

五

前記以外ノ同盟及聯合國ニシテ利害關係ヲ有スルモノハ各自國ノ請求及利益ノ審査討議中ニ限リ陪席委員トシテ出席シ且行動スル委員一名ヲ任命スルノ權利ヲ有ス該委員ハ表決ノ數ニ加ハルコトナシ

九

委員會ハ獨逸國政府ノ請求アルトキハ隨時期間ヲ定メ獨逸國ノ支拂能力ニ關スル問題ニ付其ノ證明及辯論ヲ聽取スヘシ

十

委員會ハ各請求ヲ審査シ且意見陳述ノ公平ナル機會ヲ獨逸國政府ニ與フヘシ但シ獨逸國政府ハ委員會ノ決定ニ何等參與スルコトナシ委員會ハ問題カ獨逸國ノ同盟國ノ利害ニ關スルコトヲ認メタルトキハ獨逸國ノ場合ト同様ニ意見陳述ノ機會ヲ該同盟國ニ與フヘシ

十一

委員會ハ何等特定ノ法典、法規又ハ證憑若ハ手續ニ關スル何等特定ノ規則ニ拘束セラルルコトナク正義、衡平及信義ニ準據スヘシ委員會ノ決定ハ其ノ適用シ得ル限リ一切ノ場合ヲ通シテ同一ノ原則及規則ニ準據スルコトヲ要ス委員會ハ請求ノ立證方法ニ關スル規則ヲ設クヘシ委員會ハ信憑シ得ヘキ如何ナル計算方法ニモ準據スルコトヲ得

十二

條約 第八編 賠償 第一款 一般規定 第二附屬書

委員會ハ其ノ常設事務局本部ヲ巴里ニ設ケ本條約實施後成ルヘク速ニ其ノ第一回會議ヲ巴里ニ開クヘシ爾後ハ其ノ便宜ナリト認メ且其ノ職務ノ最敏活ナル執行ニ必要ナル地及時期ニ於テ開會スヘシ

六

委員會ハ其ノ第一回會議ニ於テ前記委員中ヨリ議長一名及副議長一名ヲ選舉スヘシ議長及副議長ノ任期ハ一年トシ再選ヲ妨ケス任期中議長及副議長ニ關員ヲ生シタルトキハ委員會ハ當該任期ノ殘餘ニ對シ新ニ選舉ヲ行フヘシ

七

委員會ハ其ノ職務ノ執行ニ必要ナル一切ノ役員、吏員及使用人ヲ任命シ、其ノ給與額ヲ定メ、必シモ本委員會ノ委員タルコトヲ要セサル委員ヨリ成ル小委員會ヲ組織シ、任務ノ遂行ニ必要ナル一切ノ執行手段ヲ講シ且役員、吏員及小委員會ニ其ノ權限及裁量ヲ委任スルノ權限ヲ有ス

八

委員會ノ一切ノ議事ハ之ヲ公開セス但シ特殊ノ理由ニ因リ委員會カ特ニ別段ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ此ノ

委員會ハ本條約ニ依リ其ノ付與セラレタル一切ノ權能ヲ有シ且其ノ付託セラレタル一切ノ職務ヲ行フヘシ

委員會ハ本編ニ規定スル賠償問題全部ノ管掌及處理ニ付一般ニ廣汎ナル權能ヲ有シ且本編ノ規定ヲ解釋スル權限ヲ有スヘシ本條約ノ規定ニ依リノ外委員會ハ本編ノ規定ニ依リテ爲スヘキ賠償支拂ノ受領、賣却、保有及分配ニ付前記二及三ノ各同盟及聯合國政府ニ依リ各自ノ唯一ノ代理者トシテ組織セラルルモノトス委員會ハ左記ノ條件及規定ニ遵守スルコトヲ要ス

(イ) 確定シタル請求金額中金ヲ以テ又ハ船舶、有價證券、貨物其ノ他ヲ以テ支拂ハレサル部分ニ付テハ獨逸國ニ對シ該部分ノ金錢債務ノ承認ヲ明ニスル爲擔保トシテ同額ノ債券、債務證書其ノ他ヲ委員會ノ決定スル條件ニ依リ發行スルコトヲ要求スヘシ

(ロ) 委員會ハ獨逸國ノ支拂能力ヲ定期ニ評定スルニ際シ第一ニ獨逸國ノ支拂フヘキ賠償額ヲ內國債ノ利息支拂又ハ償還ニ先チ獨逸國ノ全歳入ニ課スル爲第二ニ一般ニ獨逸國ノ租稅制度カ委員會ニ代表セラルル何レノ國ノ租稅制度ト比較スルモ其ノ負擔決シテ輕

カラサル事實ニ付確信ヲ得ル爲獨逸國ノ租稅制度ヲ
檢査スヘシ

- (ハ) 同盟及聯合國ノ經濟生活ノ即時ノ回復ヲ容易ナ
ラシメ且之ヲ繼續セシムル爲委員會ハ第二百三十五
條ノ規定ニ從ヒ獨逸國ヨリ其ノ金錢債務ノ保證及承
認トシテ金貨無記名債券ノ第一回割賦ヲ受領スヘシ
該債券ハ獨逸帝國若ハ獨逸各邦ノ政府又ハ之ニ屬
スル官憲ノ課シ又ハ課スルコトアルヘキ各種ノ租稅及
負擔ヲ總テ免除セラルヘシ右債券ハ內金拂トシテ左
記ノ通三分シテ之ヲ交付スヘシ其ノ「麻」金貨ノ支拂
ニ付テハ第九編(財政條項)第二百六十二條ニ依ル
一) 千九百二十一年五月一日迄ニ支拂フヘキ二百
億「麻」金貨ノ無利息無記名債券ヲ直ニ發行スル
コト 獨逸國カ第二百三十五條ニ從ヒ履行ヲ約
シタル支拂額ハ占領軍隊ノ費用ノ償還並食料及
原料ノ支拂ニ供シタル金額ヲ控除シタル上特ニ
之ヲ本債券ノ償却ニ充當スヘシ右債券ニシテ千九
百二十一年五月一日迄ニ償却セラレサルモノハ次
(十二ノハ)號ノ(二)ニ規定スル債券ト同一様式ノ

新債券ヲ以テ之ト引換フヘシ

- (二) 前記ノ外向四百億「麻」金貨ノ無記名債券ヲ直
ニ發行スルコト 本債券ニハ千九百二十一年ヨリ
千九百二十六年迄ハ年二分五厘、爾後八年五分
ノ利息ヲ附シ更ニ千九百二十六年ヨリ開始スヘキ
償還ノ爲發行總額ニ對シ一分ヲ添加セシム
- (三) 獨逸國カ前記ノ利息及減債基金ノ債務ヲ履行
シ得ルコトヲ委員會ニ於テ確認スルニ至リタルトキ
始メテ更ニ四百億「麻」金貨年五分利附無記名債
券ヲ發行スヘキ旨ノ約束書ヲ直ニ委員會ニ交付ス
ルコト 本債券ノ元利支拂ノ時期及方法ハ委員
會之ヲ決定スヘシ
- (二) 賠償金錢債務ノ保證又ハ承認トシテ獨逸國ノ發
行シタル債券、債務證書其ノ他ノ債務證書ニシテ獨

- 逸國ノ原賠償債務ヲ發生セシメタル諸政府以外ノ者
ニ擔保ノ爲ニ非スシテ完全ニ讓渡サレタル場合ニ於テ
ハ該賠償金錢債務額ハ右ノ如ク完全ニ讓渡サレタル
債券等ノ券面價額ニ相當スル額ヲ限リ消滅シタルモ
ノト看做サルヘシ此ノ債券ニ關スル獨逸國ノ債務ハ債
券所持人ニ對スル券面記載ノ義務ニ限定セラルヘシ
- (ホ) 侵略及暴掠ヲ受ケタル地方ノ財產ノ修繕、再造及
再建(家具、機械其ノ他ノ設備ノ再裝置ヲ含ム)ニ關
ル損害ハ其ノ作業ヲ實行シタル時期ニ於ケル費額ニ
依リ之ヲ計算スヘシ
- (ハ) 獨逸國ノ確定金錢債務ノ元本又ハ利息ノ全部又
ハ一部ノ免除ニ關スル委員會ノ決定ニハ其ノ理由ヲ
附スルコトヲ要ス

十三

委員會ハ表決ニ關シ左ノ規則ヲ遵守スヘシ
委員會ノ決定ヲ爲スニ當リテハ表決權ヲ有スル各委員ノ
表決、其ノ關席ノ場合ニ於テハ其ノ副委員ノ表決ヲ記錄
スヘシ表決ノ棄權ハ審議中ノ議案ニ反對スル表決トシテ
之ヲ取扱フヘシ陪席委員ハ表決權ヲ有セス

左記ノ問題ニ關シテハ全會ノ一致ヲ要ス

- (イ) 同盟及聯合國中ノ一國ノ主權ニ關スル問題又ハ
獨逸國ノ金錢債務若ハ債務ノ全部若ハ一部ノ免除
ニ關スル問題
 - (ロ) 獨逸國政府ノ發行スヘキ債券其ノ他ノ債務證書
ノ金額及條件ヲ定ムル問題及該債券ノ賣却、讓渡又
ハ分配ノ時期及方法ヲ定ムル問題
 - (ハ) 千九百二十一年五月一日以後千九百二十六年
末日以前支拂期ニ達スヘキ割賦ノ全部又ハ一部ノ
支拂ヲ千九百三十年末日ヨリ後ニ延期スルコト
 - (ニ) 千九百二十六年ヨリ後ニ於テ支拂期ニ達スヘキ割
賦ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ三年ヲ超ユル期間延期ス
ルコト
 - (ホ) 特定ノ場合ニ於テ從來同様ノ場合ニ適用シタルモ
ノト異ナル損害計算方法ヲ適用スル問題
 - (ヘ) 本編ノ規定ノ解釋ニ關スル問題
- 前記ノ外一切ノ問題ハ表決ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
一ノ問題カ其ノ決定ニ全會一致ヲ要スルモノナリヤ否ヤニ
付委員會間ニ意見ノ相違アリテ其ノ本國政府ニ請調スルモ

尙解決スルコト能ハサル場合ニ於テハ速ニ之ヲ各本國政府ノ同意シタル公平ナル人士ノ仲裁ニ付スヘク同盟及聯合國政府ハ其ノ裁定ヲ承認スルコトヲ約ス

十四

委員會カ其ノ付與セラレタル權能ニ依リテ下シタル決定ハ即時ニ其ノ拘束力ヲ有スヘク且更ニ他ノ手續ヲ經スシテ直ニ之ヲ執行スルコトヲ得

十五

委員會ハ其ノ定ムル様式ニ依リ關係各國ニ對シ左ノ證明書ヲ發スヘシ

- 一 委員會カ當該國ノ計算ニ於テ前記發行ノ債券ヲ保有スル旨ヲ記載シタル證明書 本證明書ハ當事國ノ要求アルトキハ五箇ヲ超エサル部分ニ之ヲ分割スルコトヲ得
- 二 委員會カ獨逸國ニ依リ其ノ賠償金錢債務ニ基キテ引渡サレ且當該國ノ計算ニ於テ保有スル物品ヲ記載シタル時時ノ證明書

右證明書ハ登錄セラレヘク且委員會ニ通知シタル後裏書ヲ以テ之ヲ讓渡スルコトヲ得

十八

獨逸國カ故意ニ履行ヲ怠リタル場合ニ同盟及聯合國カ執ルノ權利ヲ有スル措置ニハ經濟上及金融上ノ禁止及報復其ノ他ノ一般ニ各當該國政府ニ於テ事情ニ應シ必要ト決定シタル措置ヲ包含ス獨逸國ハ右措置ヲ以テ戰爭行為ト認メサルコトヲ約ス

十九

同盟及聯合國ノ確定請求ニ基金金又ハ之ニ相當スルモノヲ以テ爲スヘキ支拂ハ委員會ニ於テ獨逸國領土ノ内外ニ在ル動産、不動産、貨物、營業、權利若ハ利權、船舶、債券、株券若ハ各種ノ有價證券又ハ獨逸國若ハ他ノ國ノ通貨ヲ以テ何時ニテモ之ヲ受領スルコトヲ得右金ノ代物ノ價額ハ委員會自ラ公平且正當ナリト認ムル額ニ於テ之ヲ定ム

二十

委員會ハ特定ノ財産又ハ權利ヲ以テスル支拂ヲ確定シ又ハ受領スルニ當リ同盟及聯合國若ハ中立國又ハ其ノ國民カ之ニ對シ有スル法律上又ハ衡平上ノ利益ヲ相當尊重スヘシ

二十一

條約 第八編 賠償 第一款 一般規定 第三附屬書

債券カ賣買又ハ讓渡ノ爲發行セラレタルトキ及物品カ委員會ヨリ引渡サレタルトキハ其ノ價額ニ相當スル證明書ハ之ヲ回收スルコトヲ要ス

十六

委員會ニ於テ決定シタル獨逸國ノ金錢債務中現金ノ支拂若ハ之ニ相當スルモノニ依リ、委員會ニ對シ獨逸國ノ發行シタル債券ニ依リ又ハ第二百四十三條ニ依リ既ニ辨済シタル金額ヲ控除シタル殘額ニ對シ千九百二十一年五月一日以後ノ利息ハ之ヲ獨逸國ノ借方ニ計上スヘシ其ノ利率ハ將來委員會ニ於テ其ノ變更ヲ正當トスル事情アリト決定シタル場合ヲ除クノ外年五分トス

十七

委員會ハ千九百二十一年五月一日ニ於テ獨逸國ノ金錢債務總額ヲ決定スルニ當リ物質的損害ノ賠償額ニ對スル千九百十八年十一月十一日ヨリ千九百二十一年五月一日ニ至ル迄ノ間ノ利息ヲ算入スルコトヲ得

委員會ノ委員ハ委員トシテノ作爲又ハ不作爲ニ付任命國ニ對スルノ外其ノ責ニ任セス各同盟及聯合國政府ハ他ノ政府ニ關シテハ何等ノ責ニ任スルコトナシ

二十二

本條約ノ規定ニ依ルノ外本附屬書ハ時時委員會ニ代表セラレル政府ノ一致ノ決定ヲ以テ之ヲ修正スルコトヲ得

二十三

委員會ハ本條約又ハ委員會ノ決定ニ依リ獨逸國及其ノ同盟國カ負擔スル總額ノ辨済ヲ受ケ且受領シタル一切ノ金額又ハ之ニ相當スルモノヲ關係諸國ニ分配ヲ了シタルトキハ解散スヘシ

第三附屬書

一

獨逸國ハ戰爭ニ因リ喪失シ又ハ損害ヲ受ケタル一切ノ商船及漁船ニ對シ噸數對噸數(總噸數)及等級對等級ノ現物代償ヲ受クル同盟及聯合國ノ權利ヲ承認ス
尤モ獨逸國ノ現存船舶ノ噸數ハ其ノ攻撃ニ因リ同盟及聯合國ニ於テ喪失シタル船舶ノ噸數ニ比スレハ遙ニ小ナリト雖右承認セラレタル權利ハ左記條件ニ依リ獨逸船舶ニ

對シテ之ヲ行使スヘシ

獨逸國政府ハ自己ノ名ニ於テ且一切ノ他ノ關係者ヲ拘束シテ總噸數千六百噸以上ノ獨逸商船全部、總噸數千噸以上千六百噸未滿ノ船舶ノ噸數計算ニ依ル二分ノ一、「トロール」汽船ノ噸數計算ニ依ル四分ノ一及其ノ他ノ漁船ノ噸數計算ニ依ル四分ノ一ニ對スル所有權ヲ同盟及聯合國政府ニ讓渡ス

二

獨逸國政府ハ本條約實施後二月以內ニ一ニ掲クル一切ノ船舶ヲ賠償委員會ニ引渡スヘシ

三

一ニ掲クル船舶ニハ(イ)獨逸商船旗ヲ掲揚スルモノ又ハ掲揚スルノ權利アルモノ(ロ)獨逸國ノ國民、會社若ハ法人ノ所有ニ屬スルモノ又ハ同盟及聯合國ニ非サル國ノ會社若ハ法人ニシテ獨逸國民ノ管理若ハ指揮ノ下ニ在ルモノノ所有ニ屬スルモノ(ハ)獨逸國內ニ於テ建造中ノモノ(ニ)獨逸國ノ國民、會社又ハ法人ノ計算ニ於テ同盟及聯合國ニ非サル國ニ於テ建造中ノモノノ全數ヲ含ム

四

(二) 建造スヘキ船舶ノ細目、建造及引渡ノ條件、賠償委員會ノ計算ニ供スヘキ噸當リ價格其ノ他一切ノ問題ニシテ船舶ノ計算、注文、建造及引渡ニ關スルモノハ委員會之ヲ決定スヘシ

六

獨逸國ハ千九百十四年八月一日以後如何ナル手段ニ依ルヲ問ハス自國又ハ自國民ノ占有ニ歸シタル内地航行用ノ船舶其ノ他ノ可動具ニシテ之ヲ識別シ得ルモノヲ賠償委員會ノ定ムル手續ニ依リ本條約實施後二月以內ニ現物ノ儘普通ノ保存状態ニ於テ同盟及聯合國ニ還付スヘキコトヲ約ス

戰時中原因ノ如何ヲ問ハス同盟及聯合國ノ被リタル内地航行船舶ノ損失ニシテ前記ノ還付ニ依リ填補スルコト能ハサルモノヲ補償スル爲獨逸國ハ右損失ノ總額ニ達スル迄獨逸國河川船除ノ一部ヲ賠償委員會ニ讓渡スルコト同意ス但シ該讓渡ハ千九百十八年十一月十一日現在ノ河川船除ノ二割ヲ超エサルヘシ

右讓渡ノ條件ハ特定ノ河川ニ適用セラルヘキ新國際制度ニ因リ又ハ該河川ニ關係ヲ有スル領土ノ變更ニ因リ生ス

獨逸國政府ハ右ノ如ク引渡スヘキ船舶ニ對スル權原證書ヲ提供スル爲

- (イ) 各船舶ニ付一切ノ負擔、擔保及留置權ヲ附帶セシムルコトヲシテ船舶ノ全所有權ヲ賠償委員會ニ移轉シタルコトヲ證明スル賣渡證書其ノ他ノ權原證書ヲ賠償委員會ノ要求ニ從ヒ同委員會ニ交付スヘシ
- (ロ) 船舶ヲ賠償委員會ノ處分ニ委スルコトヲ確保スル爲其ノ指示スル一切ノ措置ヲ執ルヘシ

五

獨逸國ハ賠償ノ附加トシテ同盟及聯合國政府ノ爲ニ獨逸造船所ニ於テ左ノ商船ヲ建造セシムルコトヲ約ス

- (イ) 賠償委員會ハ本條約實施後三月以內ニ其ノ三月ニ續ク二年間毎年獨逸造船所ニ於テ起工スヘキ噸數ヲ獨逸國政府ニ通告スヘシ
- (ロ) 賠償委員會ハ本條約實施後二年以內ニ前號ノ二年ニ續ク三年間毎年起工スヘキ噸數ヲ獨逸國政府ニ通告スヘシ
- (ハ) 毎年起工スヘキ噸數ハ總噸數合計二十萬噸ヲ超エサルモノトス

サルモノトス

ヘキ河川航行船舶ノ分配ニ關スル紛争ヲ裁定スルノ任務ヲ有スル第十二編(港、水路及鐵道)第三百二十九條ノ仲裁委員會之ヲ決定スヘシ

七

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ同意ナクシテ戰時中中立國國籍ニ移轉シ又ハ現ニ移轉ノ中途ニ在ル一切ノ船舶ニ對シ完全ナル所有權ヲ取得スル爲賠償委員會ノ指示スル一切ノ措置ヲ執ルコトニ同意ス

八

獨逸國ハ一切ノ獨逸船舶ノ抑留、使用、喪失又ハ損害ニ付同盟及聯合國政府並其ノ國民ニ對スル各種ノ請求權ヲ拋棄ス但シ千九百十九年一月十三日ノ休戰取極及其ノ後ノ取極ニ依ル船舶使用ニ關スル支拂ハ此ノ限ニ在ラズ

九

獨逸商船ノ引渡ハ中斷スルコトヲ右取極ニ從ヒ之ヲ繼續スルコトヲ要ス

獨逸國ハ同盟國若ハ聯合國政府又ハ其ノ國民カ所有者、備船者、保險者其ノ他トシテ利害關係ヲ有スル船舶又ハ

其ノ載貨ニシテ海軍ノ行動ニ依リ又ハ其ノ結果トシテ沈没シ其ノ後救助セラレタルモノニ對シ獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ捕獲審檢所ニ於テ捕獲ノ宣告アリタル場合ト雖一切ノ請求權ヲ拋棄ス

第四附屬書

一 同盟及聯合國ハ獨逸國カ本編ニ掲クル其ノ債務ノ一部履行トシテ以下規定スル所ニ從ヒ同盟及聯合國ノ被侵入地ノ物質的回復ノ爲該諸國ノ決定スル範圍内ニ於テ獨逸國ノ經濟的資源ヲ直接提供スヘキコトヲ要求シ獨逸國ハ之ヲ爲スコトヲ約ス

二

同盟及聯合國政府ハ左記ノ品目表ヲ賠償委員會ニ提出スルコトヲ得

(イ) 獨逸國カ差押ヘ消費シ若ハ破壊シ又ハ軍事行動ノ直接ノ結果破壊セラレタル動物、機械、設備、器具其ノ他商の性質ヲ有スル類似ノ物品ニシテ同盟及聯合國政府ニ於テ即時緊急ノ必要ニ應スル爲本條約實施ノ日ニ於テ獨逸國領土内ニ現存スル同種ノ動物

及物品ヲ以テ代償セララルコトヲ欲スルモノ
(ロ) 再築材料(石材、煉瓦、硬質煉瓦、瓦、木材、窓硝子、鋼鐵、石灰「セメント」等)、機械、暖房具、家具其ノ他商の性質ヲ有スル類似ノ物品ニシテ同盟及聯合國政府ニ於テ被侵入地ノ回復ノ爲獨逸國ニ於テ生産又ハ製造セシメ且交付セシムコトヲ欲スルモノ

三

右二ノイ)號ニ掲クル物品ノ品目表ハ本條約實施後六十日以内ニ之ヲ提出スヘシ

二ノロ)號ニ掲クル物品ノ品目表ハ千九百十九年十二月三十一日以前ニ之ヲ提出スヘシ

品目表ニハ當該物品ノ取引ニ關スル商業契約ノ慣習ニ從ヒ品種、引渡期日(但シ四年ヲ超ユルコトヲ得ス)及引渡地ヲ含ム一切ノ細目ヲ記載スヘシ尤モ物品ノ價格又ハ價額ハ左記ノ規定ニ從ヒ委員會之ヲ決定スヘシ

四

右品目表委員會ニ提出セラレタルトキハ委員會ハ直ニ獨逸國ニ要求スヘキ前記品目表ニ記載スル材料及動物ノ數量ヲ審査スヘシ委員會ハ此ノ決定ヲ爲スニ當リ獨逸國ノ

ハ其ノ提出スル細目ニ該當セサル場合又ハ委員會ニ於テ回復作業ニ利用スルニ適セスト認ムル場合ヲ除クノ外此等ノ物品ヲ受領スヘキコトヲ各自ニ承諾ス

五

委員會ハ右規定ニ依リ交付セラルヘキ材料、物品及動物ノ價額ヲ決定スヘシ該物件ヲ受領スル各同盟及聯合國ハ該價額ヲ引受クヘキコトヲ承諾シ其ノ額ハ之ヲ本編第二百三十七條ノ規定ニ依リテ分配スヘキ獨逸國ノ支拂トシテ取扱フヘシ

前記物質的回復ヲ要求スル權利ヲ行使シタル場合ニ於テハ委員會ハ獨逸國ノ賠償義務ニ對シ其ノ貸方ニ計上セララルヘキ額カ獨逸國ノ爲シタル役務又ハ供給シタル材料ノ公正ナル價額タルヘキコト及關係國ノ要求ハ物質的回復ヲ以テ現ニ補償セラレタル損害ニ付テハ其ノ請求全損害額ニ對スル既補償損害額ノ割合ヲ限度トシテ銷除セラルヘキコトヲ確保スヘシ

六

二ノイ)號ニ掲クル動物ニ付テハ獨逸國ハ即時ノ前渡トシテ本條約實施後三月内ニ均一ノ月賦ヲ以テ左記頭數ノ家

社會的及經濟的生活ノ維持ニ緊要ナリト思考スル獨逸國ノ國內需要、獨逸品ニ對シ定ムヘキ價格及期日ト同盟及聯合國ニ於テ同種物品ヲ取得スルニ要スル價格及期日トノ差等並他ノ賠償義務ヲ履行スル獨逸國ノ能力ヲ阻礙スルニ至ルヘキ獨逸國ノ産業生活ノ攪亂ヲ生セシメサルコトニ付同盟及聯合國ノ一般的利益ヲ考量スヘシ
現ニ産業ニ使用中ノ機械、設備、器具及商の性質ヲ有スル類似ノ物品ハ現ニ使用セラレサル貯藏額ニシテ利用シ得ヘキモノナキ限リ獨逸國ニ之ヲ要求スルコトヲ得但シ其ノ要求額ハ一事業所又ハ一企業ヨリ各其ノ使用量三割以内ニ限ルヘシ
委員會ハ前記材料、物品及動物ヲ供給シ得ル獨逸國政府ノ能力ニ關シ意見陳述ノ機會及時間ヲ獨逸國政府ノ代表者ニ與フヘシ
委員會ノ決定ハ其ノ法定後成ルヘク速ニ獨逸國政府及利害關係ヲ有スル各同盟及聯合國政府ニ之ヲ通告スヘシ
獨逸國政府ハ該通告中ニ指定スル材料、物品及動物ヲ交付スヘキコトヲ約シ利害關係ヲ有スル同盟及聯合國政府

畜ヲ交付スヘキコトヲ約ス

一 佛蘭西國政府ニ

種牡馬 (三歳乃至七歳)

仔牝馬及牝馬 (十八月乃至七歳)

馬種ハ「アルデヤネー」、「ブーロンネー」又ハ白耳義種

牝牛 (十八月乃至三歳)

乳牛 (二歳乃至六歳)

牡牛

細羊

山羊

二 白耳義國政府ニ

種牡馬 (三歳乃至七歳)

牝馬 (三歳乃至七歳)

仔牝馬 (十八月乃至三歳)

牝牛 (十八月乃至三歳)

乳牛 (二歳乃至六歳)

仔牝牛

細羊

牝豚

一萬五千頭

引渡動物ハ普通ノ健康及狀態ヲ有スルモノタルヘシ

引渡サレタル動物彙ニ奪取セラレ又ハ差押ヘラレタルモノ

ト識別シ得サルトキハ該動物ノ價額ハ本附屬書五ニ依リ

獨逸國ノ賠償債務ニ對シ其ノ貸方ニ計上スヘシ

七

獨逸國ハ本附屬書四ニ掲クル委員會ノ決定ヲ俟ツコトナ

ク千九百十九年一月十六日ノ休戰更新取極第三條ニ依

ル佛蘭西國ニ對スル農業材料ノ引渡ヲ繼續スルコトヲ要

ス

第五附屬書

一

獨逸國ハ下記ノ本條約署名國ニ對シ石炭及石炭製品ノ

引渡ニ付左ノ選擇權ヲ付與ス

二

獨逸國ハ十年間毎年石炭七百萬噸ヲ佛蘭西國ニ引渡ス

コトヲ約ス尙獨逸國ハ十年ヲ超エサル期間戰爭ノ結果破

壞セラレタル「ノール」及「パド、カレ」兩縣内ノ炭礦ノ戰

前年産額ト右期間ニ於ケル同地ノ炭礦ノ産額トノ差額ニ

現實引渡産量ノ少クトモ三分ノ二ハ陸上輸送タルヘシ

五

獨逸國ハ賠償委員會ノ指定アルトキハ更ニ盧森堡國ニ對

シ戰前同國ニ於ケル獨逸石炭ノ消費年額ニ相當スル石炭

ヲ毎年引渡スコトヲ約ス

六

前記選擇權ニ基キ引渡サルル石炭ニ對シ支拂フヘキ價格

ハ左ノ通トス

(イ) 陸上引渡(搬船ニ依ル引渡ヲ含ム)ニ對シテハ獨逸

國民ニ對スル獨逸國坑口渡值段ニ佛蘭西國、白耳義

國、伊太利國又ハ盧森堡國境ニ至ル運賃ヲ加ヘタル

モノタルヘシ但シ右獨逸國坑口渡值段ハ輸出向英吉

利國石炭坑口渡值段ヲ超エサルコトヲ條件トス白耳

義國船用炭ノ場合ニ於テハ其ノ價格ハ和蘭國船用

炭ノ價格ヲ超ユヘカラス

鐵道及搬船運賃ハ獨逸國ニ於テ支拂ハルル同種最

低率ヲ超ユヘカラス

(ロ) 海上引渡ニ對シテハ獨逸港ニ於ケル船渡輸出值

段又ハ英吉利港ニ於ケル船渡輸出值段ノ中低廉ナ

相當スル石炭ヲ毎年佛蘭西國ニ引渡スコトヲ約ス該引渡

ハ最初ノ五年間八年二千萬噸、其ノ後ノ五年間八年八百

萬噸ヲ超エサルヘシ

「ノール」及「パド、カレ」兩縣内ノ破壞セラレタル炭礦ノ回

復ニ付テハ相當ノ努力ヲ爲サルヘキモノトス

三

獨逸國ハ十年間毎年石炭八百萬噸ヲ白耳義國ニ引渡ス

コトヲ約ス

四

獨逸國ハ伊太利國ニ對シ左記數量迄ノ石炭ヲ引渡スコト

ヲ約ス

千九百十九年七月ヨリ千九百二十年六月ニ至ル間

四百五十萬噸

千九百二十年七月ヨリ千九百二十一年六月ニ至ル

間 六百萬噸

千九百二十一年七月ヨリ千九百二十二年六月ニ至

ル間 七百五十萬噸

千九百二十二年七月ヨリ千九百二十三年六月ニ至

ル間 八百萬噸

千九百二十三年七月ヨリ千九百二十四年六月ニ至

ル間及其ノ後ノ五年間毎年 八百五十萬噸

ルモノニ依ル

七

關係同盟及聯合國政府ハ石炭四噸ニ對シ骸炭三噸ノ割合ヲ以テ石炭ノ代リニ冶金用骸炭ノ引渡ヲ要求スルコトヲ得

八

獨逸國ハ本條約實施後三年間毎年左記生産品ヲ佛蘭西國ニ引渡シ且鐵道又ハ水路ニ依リ佛蘭西國境迄之ヲ輸送スルコトヲ約ス

「ベンゾール」

三萬五千噸

「コールター」

五萬噸

硫酸安母尼亞

三萬噸

「コールター」ノ全部又ハ一部ハ佛蘭西國政府ノ選擇ニ依リ之ニ相當スル數量ノ輕油、重油、「アンストラシーン」、「ナフタリン」又ハ「ピッチ」ノ如キ乾溜生産品ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

九

骸炭及前項記載ノ物品ノ價格ハ發送及佛蘭西國境又ハ獨逸港迄ノ運送ニ關スル一切ノ條件カ同種生産品ニ付獨逸國民ニ許容セララルル最有利ナルモノナル場合ニ於テ獨

逸國民ノ支拂フモノト同額タルヘシ

十

前記ノ選擇權ハ賠償委員會ノ仲介ヲ經テ之ヲ行使スヘシ該委員會ハ之ニ關スル特別規定ニ依リ手續、生産品ノ品質及數量、石炭ニ代リ得ヘキ骸炭ノ數量並引渡及支拂ノ時期及方法ニ關スル一切ノ問題ヲ決定スル權能ヲ有ス委員會ハ獨逸國政府ニ對シ右選擇權ノ通告ヲ爲スニ當リ千九百二十年一月一日ヨリ後ニ於テ行ハルヘキ引渡ニ付テハ少クトモ百二十日前、本條約實施後千九百二十年一月一日前ニ於テ行ハルヘキ引渡ニ付テハ少クトモ三十日前ニ豫告スヘシ千九百十八年十二月二十五日ノ議定書(千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約第六條ノ施行)ノ規定ハ獨逸國カ本規定中ニ掲クル要求ヲ接受スル迄其ノ效力ヲ有ス七及八ニ依リ付與セラレタル代物要求權ノ行使ニ付獨逸國政府ニ與フヘキ豫告ハ賠償委員會ニ於テ充分ト認ムル期間ヲ存スヘシ委員會前記選擇權ノ全部ノ行使ヲ以テ獨逸國ノ産業上ノ需要ヲ適當ニ阻礙スヘシト認メタルトキハ引渡ノ延期又ハ取消ヲ爲シ且之ニ伴フ優先ニ關スル一切ノ問題ヲ決定スルノ權限ヲ有ス但シ破壊セラ

レタル炭鑛ノ石炭ヲ代償スヘキ石炭ハ他ノ引渡ニ對シ優先スヘシ

第六附屬書

一

獨逸國ハ本條約實施ノ日ニ於テ獨逸國ニ現存シ又ハ其ノ管理ニ屬スル各種染料及化學藥品貯藏額總量ノ各百分ノ五十ヲ超エサル範圍内ニ於テ委員會ノ指定スル數量及種類ノ染料及化學藥品ヲ引渡スコトヲ賠償ノ一部トシテ獨逸國ニ要求スルノ選擇權ヲ賠償委員會ニ許與ス

右選擇權ハ委員會ニ於テ其ノ必要ト認ムル貯藏額明細書ヲ受領シタル後六十日以内ニ之ヲ行使スヘシ

二

獨逸國ハ更ニ本條約實施ノ日ヨリ千九百二十年一月一日ニ至ル期間及爾後千九百二十五年一月一日ニ至ル迄毎六月ノ期間各前六月間ニ於ケル獨逸國ノ全產額ノ百分ノ二十五ヲ超エサル限度ニ於テ各種特定ノ染料及化學藥品ヲ引渡スコトヲ要求スルノ選擇權ヲ賠償委員會ニ許與ス委員會上記各前六月間ノ生産額カ普通ノ生産額ヨリ少カリシコトヲ認ムルトキハ何レノ場合ニ於テモ其ノ要求

額ヲ普通生産額ノ百分ノ二十五ト爲スコトヲ得

右選擇權ハ委員會ニ於テ其ノ必要ト認ムル形式ヲ具フル生産明細書ヲ受領シタル後四週間以内ニ之ヲ行使スヘシ該明細書ハ毎六月ノ期間滿了後直ニ獨逸國政府ヨリ之ヲ提出スヘシ

三

一ニ依リ引渡サレタル染料及化學藥品ノ價格ハ其ノ戰前ノ純輸出價格及爾後ノ生産費増加ヲ參酌シテ委員會之ヲ決定ス

二ニ依リ引渡サレタル染料及化學藥品ノ價格ハ其ノ戰前ノ純輸出價格及爾後ノ生産費變動又ハ他ノ購買者ニ對スル同種染料及化學藥品ノ最低純賣價ヲ參酌シテ委員會之ヲ決定ス

四

選擇權行使及引渡ノ方法及時期其ノ他ノ一切ノ細目並本協定ノ下ニ發生スル他ノ一切ノ問題ハ賠償委員會之ヲ決定ス獨逸國政府ハ委員會ニ對シ其ノ要求スル一切ノ必要ナル情報其ノ他ノ援助ヲ供與スヘシ

前記「染料及化學藥品」ニハ販賣ノ目的ヲ以テ製造スル一切ノ人造染料、人造藥品及染色ニ關聯シテ使用セラルル中間生産物其ノ他ノ生産物ヲ含ム本協定ハ規那皮及規那鹽類ニ對シ亦之ヲ適用ス

第七附屬書

獨逸國ハ自己及其ノ國民ノ名ニ於テ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ左記海底電信線又ハ其ノ一部ニ關スル各種ノ權利、權原又ハ特權ヲ總テ拋棄ス

- 「エムデン」―「ヴィゴ」
- 「ドールヴァー」海峽ヨリ「ヴィゴ」沖ニ至ル
- 「エムデン」―「プレスト」
- 「シエルプール」沖ヨリ「プレスト」ニ至ル
- 「エムデン」―「テネリッフェ」
- 「ダネルク」沖ヨリ「テネリッフェ」沖ニ至ル
- 「エムデン」―「アンノレス」(一)
- 「ドールヴァー」海峽ヨリ「フアヤール」ニ至ル
- 「エムデン」―「アンノレス」(二)
- 「ドールヴァー」海峽ヨリ「フアヤール」ニ至ル

- 「アンノレス」―紐育(一)
- 「アンノレス」―紐育(二)

「フアヤール」ヨリ紐育ニ至ル
「フアヤール」ヨリ「ハリファック」ノ經度ニ至ル

- 「テネリッフェ」―「モンロヴィア」

「テネリッフェ」沖ヨリ「モンロヴィア」沖ニ至ル

- 「モンロヴィア」―「ローム」

北緯二度三十分、緯度西經七度四十分ノ邊ヨリ
北緯二度二十分、緯度西經五度三十分ノ邊ニ至ル及北緯三度四十八分、經度零度零分ノ邊ヨリ

- 「ローム」―「デュアラ」
- 「モンロヴィア」―「ベルナンボ」

「ローム」ヨリ「デュアラ」ニ至ル
「モンロヴィア」沖ヨリ「ベルナンボ」沖ニ至ル
「コンスタンティノブル」―「コンスタンザ」

- 「コンスタンティノブル」ヨリ「コンスタンザ」ニ至ル
- 「ヤップ」―上海、「ヤップ」―「グアム」及「ヤップ」―「メナド」(「セレス」)

- 「ヤップ」島ヨリ上海ニ、「ヤップ」島ヨリ「グアム」島ニ及「ヤップ」島ヨリ「メナド」ニ至ル

前記各海底電信線又ハ其ノ一部ニシテ私有ニ屬スルモノニ對スル價額ハ相當ナル減價見積額ヲ控除シタル原經費ヲ基礎トシテ計算シ賠償計算ニ於テ之ヲ獨逸國ノ貸方ニ計上スヘシ

第二款 特別規定

第二百四十五條

獨逸國政府ハ佛蘭西國政府ノ送付スル目錄ニ照シ千八百七十年―千八百七十一年ノ戰爭中及今次ノ戰爭中獨逸國官憲カ佛蘭西國ヨリ奪取シタル戰利品、記錄、歴史の記念物又ハ美術品殊ニ千八百七十年―千八百七十一年ノ戰爭中ニ奪取シタル佛蘭西國國旗及千八百七十年十月十日前國務大臣「ルーエル」氏カ當時所有シタル

「プリニノーア」(「セーヌ、エ、オアーズ」縣)附近「セルセイ」ノ城ニ於テ獨逸國官憲ノ奪取シタル一切ノ政治文書ヲ本條約實施後六月以内ニ佛蘭西國政府ニ還付スルコトヲ要ス

第二百四十六條

獨逸國ハ土耳其國官憲カ前皇帝維廉二世ニ贈與スル爲「メデイナ」ヨリ持去リタル「カリフ、オスマン」ノ「コーラン」原本ヲ本條約實施後六月以内ニ「ヘデアーズ」國皇帝陛下ニ還付スヘシ

獨逸國ハ獨逸國東亞弗利加保護領ヨリ獨逸國ニ移サレタル「サルタン、ムクワワ」ノ「獨體」ヲ同期間内ニ英國政府ニ引渡スヘシ

前記物件ノ引渡ハ各其ノ返還ヲ受クヘキ政府ノ指定スル地及條件ニ於テ之ヲ實行スヘシ

第二百四十七條

獨逸國ハ「ルーヴァン」大學ノ提出シタル要求カ賠償委員會ヲ經由シテ傳達セラレタル後三月以内ニ其ノ「ルーヴァン」圖書館ノ燒燬ニ因リ滅失シタル寫本、ニインキナブニラ、版本、地圖及蒐集品ト箇數及價額ニ於テ相當スル同種ノ物

ヲ同大學ニ供給スルコトヲ約ス右代償ニ關スル一切ノ細目ハ賠償委員會之ヲ決定スヘシ
獨逸國ハ白耳義國ヲシテ二大美術品ヲ回復セシムル爲本條約實施後六月以内ニ賠償委員會ヲ經由シ左ノ物件ヲ白耳義國ニ引渡スコトヲ約ス

一 以前「ガン」ノ「サン、バウオン」教會堂内ニ在リ現ニ伯林博物館ニ藏スル「ヴァン、エイク」兄弟筆「靈羊」ノ三對畫

二 以前「ルーヴァン」ノ「サン、ビエール」教會堂内ニ在リ現ニ其ノ二箇ハ伯林博物館ニ、他ノ二箇ハ「ミュンヘン」ノ古「ビナコテーク」ニ藏スル「ディリック、ブー」筆「最後ノ晚餐」ノ三對畫

第九編 財政條項

第二百四十八條

賠償委員會ノ承認スヘキ例外ノ場合ヲ除クノ外本條約又ハ其ノ附屬ノ條約若ハ取極並休戰期間及其ノ延長期間中獨逸國ト同盟及聯合國トノ間ニ締結セラレタル協定ニ依リ生シタル賠償額其ノ他一切ノ費額ハ獨逸帝國及其ノ各邦ノ一切ノ資産及收入ノ上ニ第一順位ノ優先權ヲ有ス

獨逸國政府ヨリ同盟及聯合國政府ニ支拂フヘク其ノ他一切ノ經費ハ「麻」金貨ヲ以テ之ヲ支拂フヘシ

第二百五十條

獨逸國ハ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約及其ノ後ノ休戰取極ニ依リ同盟及聯合國ニ交付シタル一切ノ物資ノ讓渡ヲ確認シ且其ノ物資ニ對スル同盟及聯合國ノ權利ヲ承認ス

千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約第七條及千九百十九年一月十六日ノ休戰取極第三條ニ依リ交付セラレタル物資並右十一月十一日ノ休戰條約及其ノ後ノ休戰取極ニ依リ交付セラレタル他ノ一切ノ物資ニシテ第八編(賠償)第二百三十三條ノ賠償委員會カ軍事上ノ價値ナク獨逸國ノ貸方ニ計上スヘシト認メタルモノニ付テハ賠償委員會其ノ價額ヲ評定シ同盟及聯合國ノ爲獨逸國政府ノ負擔スル金額ニ對シ獨逸國政府ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

休戰條約及休戰取極ニ依リ現物ヲ以テ回收セラレ又ハ引渡サレタル同盟及聯合國ノ政府又ハ國民ニ屬スル財産ハ獨逸國政府ノ貸方ニ計上セラレルコトナシ

條約 第九編 財政條項

先權ヲ有ス
獨逸國政府ハ千九百二十一年五月一日ニ至ル迄ハ同盟及聯合國ヲ代表スル賠償委員會ノ承認ヲ豫メ受クルコトナクシテ金ヲ輸出シ又ハ處分スルコトナカルヘク又其ノ輸出又ハ處分ヲ許スコトナカルヘシ

第二百四十九條

獨逸國政府ハ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約署名ノ日ヨリ獨逸國版圖内ノ占領地ニ在ル同盟及聯合國ノ一切ノ軍隊ノ經費全額ヲ支拂フヘシ右經費中ニハ兵員及軍用動物ノ給養、宿舍、俸給、手當及賃銀、寢具、燈火、被服、裝具、馬具、兵器、車輛、航空勤務、傷病者手當、獸醫勤務及軍用動物補充勤務、各種輸送(鐵道、河海、自動貨車ニ依ルモノ等)通信其ノ他一般ニ軍隊ヲ訓練シ其ノ兵力ヲ維持シ及其ノ軍事上ノ能率ヲ保存スル爲必要ナル一切ノ行政上又ハ專門事項上ノ施設費ヲ包含スヘシ

前項ニ掲クル各種ノ經費ニシテ占領地ニ於ケル同盟及聯合國政府ノ買入又ハ徵發ニ關スルモノハ其ノ當時ノ爲替相場又ハ協定爲替相場ヲ以テ換算シタル「麻」金貨ヲ以テ

第二百五十一條

第二百四十八條ニ依ル優先權ノ順位ハ本條第二項ノ特例ヲ除クノ外左ノ如シ

- (イ) 休戰期間及其ノ延長期間ニ於ケル占領軍ノ經費ニシテ第二百四十九條ニ定ムルモノ
- (ロ) 本條約實施後ニ於ケル占領軍ノ經費ニシテ第二百四十九條ニ定ムルモノ
- (ハ) 本條約又ハ其ノ附屬ノ條約ヨリ生スル賠償額
- (ニ) 休戰條約及休戰取極又ハ本條約若ハ其ノ附屬條約ニ依リ獨逸國ノ負擔スル他ノ一切ノ債務額

食料品及原料品ノ供給ニ對スル支拂其ノ他獨逸國ノ爲スヘキ支拂ニシテ同盟及聯合國カ獨逸國ヲシテ其ノ賠償ノ債務ヲ履行セシムル爲必要ナリト認メタルモノハ右諸國政府ノ定メタル又ハ定ムヘキ範圍及條件ノ下ニ優先ノ順位ヲ有スヘシ

第二百五十二條

前數條ノ規定ハ各同盟及聯合國カ本條約實施ノ日ニ於テ其ノ法權内ニ在ル敵ノ資産及財産ヲ處分スルノ權利ニ影響スルコトナシ

第二百五十三條

前記引受債務ノ履行方法ハ元金及利息ニ付賠償委員會
之ヲ定ムヘシ其ノ一方法トシテ領土讓受國カ獨逸國民ノ
有スル獨逸國公債ニ對スル獨逸國ノ義務ヲ引受クルノ形
式ヲ採ルコトヲ得獨逸國政府ニ對シ金錢ノ支拂ヲ要スル
カ如キ方法ヲ採用シタル場合ニ於テハ獨逸國賠償額未拂
部分ノ存スル限り之ニ充當スル爲該支拂金ハ之ヲ賠償委
員會ニ交付スヘシ

第二百五十四條

獨逸國ノ領土ノ讓渡ヲ受クル諸國ハ第二百五十五條ノ
制限ノ下ニ左ノ支拂義務ヲ引受クヘシ

- 一 千九百十一年、千九百十二年及千九百十三年ノ
三會計年度ニ於ケル讓渡地域ノ收入平均額及同年
度ニ於ケル獨逸帝國全版圖ノ收入平均額ニシテ賠
償委員會ニ於テ此等地域ノ相對的支拂能力ヲ表示
スルニ最適當ナリト認メタルモノノ割合ヲ基礎トシテ
算出シタル千九百十四年八月一日現在ノ獨逸帝國
ノ金錢債務ノ一部分
- 二 當該讓渡地域ノ屬シタル獨逸各邦ノ千九百十四
年八月一日現在ノ金錢債務中前號ノ原則ニ依リ定
メラルヘキ部分

前記引受部分ハ賠償委員會之ニ定ムヘシ

ト認メタル獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ公債ニ限リ第二
百五十四條ニ依ル割當中ヨリ之ヲ除外スヘシ

第二百五十六條

獨逸國ノ領土ノ讓渡ヲ受クル諸國ハ其ノ讓受地域内ニ在
ル獨逸帝國又ハ其ノ各邦ニ屬スル一切ノ財產及所有物ヲ
取得スヘシ其ノ取得物ノ價額ハ賠償委員會之ヲ定メ且獨
逸國政府ノ貸方トシテ其ノ賠償金額ニ計上セシムル爲該
讓受國ヨリ賠償委員會ニ之ヲ拂込ムヘシ
本條ノ獨逸帝國及其ノ各邦ノ財產及所有物ニハ帝室、帝
國又ハ各邦ノ一切ノ財產及前獨逸皇帝其ノ他ノ王族ノ
私財產ノ全部ヲ包含ス

千八百七十一年「アルザス、ロレーヌ」ヲ獨逸國ニ讓渡シタ
ル條件ニ顧ミ佛蘭西國ハ「アルザス、ロレーヌ」ニ在ル獨逸
帝國又ハ其ノ各邦ノ財產及所有物ニ對シテ本條ニ依リ支
拂ヲ爲シ又ハ貸方ニ計上スルコトナカルヘシ

白耳義國ハ本條約ニ依リ同國ニ讓渡セラルル獨逸國ノ領
土内ニ在ル獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ財產及所有物ニ對
シ亦本條ニ依リ支拂ヲ爲シ又ハ貸方ニ計上スルコトナカル
ヘシ

第二百五十五條

- 一 右ノ例外トシテ且千八百七十一年獨逸國カ佛蘭西
國公債ノ引受ヲ拒絕シタルノ事實ニ顧ミ佛蘭西國ハ「ア
ルザス、ロレーヌ」ニ付テハ第二百五十四條ニ依ル支拂
義務ヲ負フコトナカルヘシ
- 二 波蘭國ニ付テハ賠償委員會ニ於テ獨逸國及普魯西
ノ政府ノ波蘭ニ於ケル獨逸殖民政策ニ基因スルモノト
認メタル公債ニ限リ第二百五十四條ニ依ル其ノ割當中
ヨリ之ヲ除外スヘシ
- 三 「アルザス、ロレーヌ」以外ノ一切ノ讓渡地域ニ付テハ
賠償委員會ニ於テ獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ政府カ第
二百五十六條ノ官有財產ノ爲ニ費シタル支出ニ該當ス

第二百五十七條

獨逸國ノ舊領土(殖民地、保護領又ハ屬領地ヲ含ム)ニシ
テ本條約第一編(國際聯盟)第二十二條ニ依リ委任國ニ
於テ施政ヲ行フニ付テハ該領土又ハ委任國ハ共ニ獨逸帝
國又ハ其ノ各邦ノ公債ノ何レノ部分ヲモ負擔スルコトナカ
ルヘシ

前記領土内ニ在ル獨逸帝國又ハ獨逸各邦ニ屬スル一切
ノ財產及所有物ハ委任國之ヲ該領土ト共ニ委任國タル
資格ニ於テ讓受クヘク且其ノ對價トシテ獨逸國又ハ獨逸
各邦ノ政府ニ對シ何等支拂ヲ爲シ又ハ貸方ニ計上スルコ
トナカルヘシ

第二百五十八條

本條ノ獨逸帝國及獨逸各邦ノ財產及所有物ニハ帝室、
帝國又ハ各邦ノ一切ノ財產及前獨逸皇帝其ノ他ノ王族
ノ私財產ノ全部ヲ包含ス
獨逸國ハ各同盟及聯合國、奧地利國、洪牙利國、勃爾牙
利國、土耳其國、右諸國ノ屬領地又ハ前露西亞帝國ニ於
テ管理又ハ行政ノ權能ヲ行使スル委員會、國立銀行、代
表機關其ノ他國際的性質ヲ有スル金融上又ハ經濟上ノ

機關ノ管理又ハ行政ニ付各種ノ條約又ハ取極ニ依リ獨逸國又ハ其ノ國民ニ許與セラレタル一切ノ代表權又ハ參加權ヲ拋棄ス

第二百五十九條

一 獨逸國ハ本條約實施後一月以内ニ土耳其國政府紙幣第一回發行ノ保證トシテ土耳其國公債管理委員會ノ名ヲ以テ獨逸帝國銀行ニ寄託スヘカリシ額ノ金ヲ主タル同盟及聯合國ノ指定スル官憲ニ引渡スコトヲ約ス

二 獨逸國ハ土耳其國政府紙幣第二回及其ノ後ノ發行ニ對スル保證トシテ土耳其國公債管理委員會ノ名ヲ以テ獨逸國カ時時寄託シタル獨逸國大藏省證券面ノ規定ニ依リ十二年間毎年金ヲ以テ支拂ヲ爲スノ義務ヲ承認ス

三 獨逸國ハ千九百十五年五月五日ノ協定ニ依リ土耳其國公債管理委員會ヨリ土耳其國政府ニ對スル金ヲ以テシタル貸出ノ殘高タル獨逸帝國銀行其ノ他ニ預入ノ金ヲ本條約實施後一月以内ニ主タル同盟及聯合國ノ指定スル官憲ニ引渡スコトヲ約ス

合國其ノ今後決定スヘキ方法ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第二百六十條

本條約ノ他ノ規定ニ依リ獨逸國カ自國又ハ其ノ國民ニ屬スル權利ヲ拋棄スル場合ヲ除クノ外賠償委員會ハ本條約實施後一年以内ニ露西亞國、支那國、土耳其國、奧地利國、洪牙利國及勃爾牙利國ニ於テ、此等諸國ノ屬地屬領地内ニ於テ又ハ本條約ニ依リ受任國カ施政ヲ行フヘキ若ハ他國ニ讓渡セラレヘキ獨逸國若ハ其ノ同盟國ノ舊領土内ニ於テ經營セラレル公共事業又ハ特許事業ニ關スル獨逸國民ノ權利及利益ヲ獨逸國政府カ取得スルコトヲ要求スルコトヲ得ヘク且該政府ニ對シ其ノ取得シタル一切ノ前記ノ權利又ハ利益及同政府自身ノ有スル同種ノ權利及利益ヲ右要求ノ日ヨリ六月以内ニ賠償委員會ニ讓渡スルコトヲ求ムルコトヲ得

獨逸國ハ右ニ依リ權利及利益ヲ失ヒタル其ノ國民ニ對シ賠償ノ責ヲ負フヘシ賠償委員會ハ讓渡セラレタル權利及利益ノ價格トシテ其ノ評定シタル金額ヲ獨逸國ノ賠償負擔額ニ對シ其ノ貸方ニ計上スヘシ前記一切ノ權利及利益ハ其ノ既ニ付與セラレタル條件附ナルト未タ行使セラレ

四 獨逸國ハ千九百十九年五月支拂ヲ爲スヘキ土耳其國內國公債ノ元利償還ノ爲千九百十八年十一月中土耳其國大藏省ニ交付シタル金銀ノ額ニ對シ獨逸國ノ有スヘキ權利ヲ主タル同盟及聯合國ニ讓渡スルコトヲ約ス

五 獨逸國ハ獨逸國又ハ其ノ國民カ奧地利洪牙利國政府ニ對シ爲シタル貸付金ニ關聯シ擔保トシテ獨逸國又ハ其ノ國民ニ引渡サレタル額ノ金ヲ本條約實施後一月以内ニ主タル同盟及聯合國ニ引渡スコトヲ約ス

六 獨逸國ハ「ブカレスト」條約及「プレスト、リトウスク」條約並其ノ附屬條約ニ規定シタル利益ヲ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約第十五條ニ依リ拋棄スルコトヲ確認ス但シ第十編(經濟條項)第二百九十二條ノ適用ヲ妨ケス

獨逸國ハ前記諸條約ニ依リ收受シタル一切ノ金錢證書、正金、有價證券及流通證券又ハ物品ヲ羅馬尼亞國又ハ主タル同盟及聯合國ニ夫々引渡スコトヲ約ス

七 本條ノ規定ニ依リ引渡シ支拂ヒ又ハ讓渡セラレヘキ現金、一切ノ有價證券、證書及物品ハ主タル同盟及聯

サルトヲ問ハス本條約實施後六月以内ニ獨逸國政府賠償委員會ニ之ヲ通知スヘク其ノ通知ニ波レタル權利及利益ハ獨逸國ハ自國トシテ及其ノ國民ニ代リテ同盟及聯合國ノ爲ニ總テ之ヲ拋棄スヘシ

第二百六十一條

獨逸國ハ奧地利國、洪牙利國、勃爾牙利國又ハ土耳其國ノ政府ニ對シ有スル支拂又ハ償還ノ請求權殊ニ獨逸國カ戰時中右諸國政府ト締結シタル約定ノ履行ノ結果發生スル現在又ハ今後ノ一切ノ請求權ヲ同盟及聯合國ニ讓渡スルコトヲ約ス

第二百六十二條

本條約ニ依リ發生シ且「麻」金貨ナル文字ニテ表示セラルル獨逸國ノ金錢上ノ債務ハ債權者ノ選擇ニ從ヒ倫敦拂「磅」金貨、紐育拂亞米利加合衆國「弗」金貨、巴里拂「法」金貨又ハ羅馬拂「利」金貨ニテ之ヲ支拂フヘシ

第二百六十三條

右金貨ハ本條ノ適用上千九百十四年一月一日現在ノ法定重量及法定品位ヲ有スヘキモノトス

諸港ニ於テ賣却シタル「サン、パウロ」州所有ノ珈琲ノ代
金トシテ在柏林「プライヒレール」銀行ニ預入シタル總
金額ヲ今後協定スヘキ利息ヲ附シ辨償スヘキコトヲ伯
刺西爾國政府ニ保證ス又獨逸國ハ前記金額ヲ正當ノ
時期ニ「サン、パウロ」州ニ引渡スコトヲ妨ケタルニ依リ右
辨償ハ預入當時ノ爲替相場ヲ以テ行ハルヘキコトヲ保
證ス

第十編 經濟條項

第一款 通商關係

第一章 稅關規則、稅金及制限

第二百六十四條

獨逸國ハ其ノ版圖内ニ輸入セラルル同盟國又ハ聯合國ノ
一國ノ生産又ハ製造ニ係ル貨物ニ對シ其ノ何レノ地ヨリ
來ルヲ問ハス他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ他ノ外國ノ
生産又ハ製造ニ係ル同種ノ貨物ニ對シ課スルト異ルカ又
ハ之ヨリ高キ稅金又ハ課金(内國課稅金ヲ含ム)ヲ課セサ
ルコトヲ約ス

獨逸國ハ同盟國又ハ聯合國ノ一國ノ版圖内ノ生産又ハ

製造ニ係ル貨物ノ獨逸國ノ版圖内ノ輸入ニ對シ其ノ何
レノ地ヨリ來ルヲ問ハス他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ
他ノ外國ノ生産又ハ製造ニ係ル同種ノ貨物ノ輸入ニ對シ
均シク及ホササル禁止若ハ制限ヲ加ヘ又ハ之ヲ存續スル
コトナカルヘシ

第二百六十五條

獨逸國ハ又輸入ニ適用スヘキ制度ニ關シ同盟及聯合國ノ
一國ノ通商ニ對シ稅關規則若ハ稅關手續、檢定若ハ分析
方法、稅金納付ノ條件、稅率表ノ分類若ハ解釋又ハ專賣
制ノ作用ノ如キ間接ノ方法ニ依リテモ他ノ同盟國若ハ聯
合國又ハ其ノ他ノ外國ニ比シ何等差別アル取扱ヲ爲ササ
ルコトヲ約ス

第二百六十六條

輸出ニ關スル一切ノ事項ニ付獨逸國ハ其ノ版圖ヨリ同盟
國又ハ聯合國ノ一國ノ版圖ニ輸出セラルル天產物又ハ製
造品タル貨物ニ對シ他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ他ノ
外國ニ輸出セラルル同種ノ貨物ニ對シ課スルト異ルカ又ハ
之ヨリ高キ稅金又ハ課金(内國課稅金ヲ含ム)ヲ課セサル

コトヲ約ス

獨逸國ハ其ノ版圖ヨリ同盟國又ハ聯合國ノ一國ニ仕向ケ
ラルル貨物ノ輸出ニ對シ他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ
他ノ外國ニ仕向ケラルル天產物又ハ製造品タル同種ノ貨
物ノ輸出ニ對シ均シク及ホササル禁止若ハ制限ヲ加ヘ又ハ
之ヲ存續スルコトナカルヘシ

第二百六十七條

貨物ノ輸入、輸出又ハ通過ニ關シ獨逸國カ同盟國若ハ聯
合國又ハ其ノ他ノ外國ニ許與スル一切ノ恩典、免除又ハ
特權ハ即時且無條件ニテ又請求ヲ俟タス且無償ニテ一切
ノ同盟及聯合國ニ及ホサルヘシ

第二百六十八條

本章第二百六十四條乃至第二百六十七條及第十二編
(港、水路及鐵道)第三百二十三條ノ規定ニ左ノ例外ヲ設
ク

(イ)

佛蘭西國ニ復歸シタル「アルガス」及「ロレーヌ」ノ地
域内ニ原産シ且其ノ地域ヨリ來ル天產物又ハ製造
品ハ本條約實施後五年間獨逸國ノ關稅地域内ニ輸
入セラルルニ當リ一切ノ關稅ヲ免除セラルヘシ

(ロ)

戰爭前獨逸國ノ一部ナリシ波蘭國ノ版圖内ニ原産
シ且其ノ版圖ヨリ來ル天產物又ハ製造品ハ本條約
實施後三年間獨逸國ノ關稅地域内ニ輸入セラルルニ
當リ一切ノ關稅ヲ免除セラルヘシ
波蘭國政府ハ此ノ免除ヲ享受スヘキ生産品ノ性質

佛蘭西國政府ハ此ノ免除ヲ享受スヘキ生産品ノ性質
及數量ヲ毎年命令ヲ以テ定ムヘク其ノ命令ハ獨逸國
政府ニ之ヲ通告ス

右ニ依リ毎年獨逸國內ニ仕向ケ得ル各種生産品ノ
數量ハ千九百十一年乃至千九百十三年ニ仕向ケラ
レタル毎年ノ數量ノ平均額ヲ超過スヘカラス

前記ノ期間獨逸國政府ハ又漂白、染色、捺染、「マー
セライズ」、瓦斯燒、撚掛又ハ糊付艶付ノ如キ仕上工
程ヲ經ル爲獨逸國ヨリ「アルガス」又ハ「ロレーヌ」ノ地
域内ニ仕向ケラルル一切ノ種類及一切ノ狀態ニ於ケ
ル織絲、織物其ノ他ノ織物原料又ハ織物製品ニ對シ
獨逸國ヨリノ輸出及獨逸國ヘノ再輸入ヲ自由ナラシ
メ一切ノ關稅其ノ他ノ課金(内國課稅金ヲ含ム)ヲ
免除スヘシ

及數量ヲ毎年命令ヲ以テ定ムヘク其ノ命令ハ獨逸國政府ニ之ヲ通告ス

右ニ依リ毎年獨逸國ニ仕向ケ得ル各種生産品ノ數量ハ千九百十一年乃至千九百十三年ニ仕向ケラレタル毎年ノ數量ノ平均額ヲ超過スヘカラス

(ハ) 同盟及聯合國ハ本條約實施後五年間盧森堡大公國內ニ原産シ且同大公國ヨリ來ル天産物及製造品カ獨逸國ノ關稅地域內ニ輸入セラルルニ當リ關稅ノ免除ヲ許與セラルヘキコトヲ獨逸國ニ要求スルノ權利ヲ留保ス

本制度ノ利益ヲ享受スヘキ生産品ノ性質及數量ハ毎年獨逸國政府ニ之ヲ通告ス

右ニ依リ毎年獨逸國內ニ仕向ケ得ル各種生産品ノ數量ハ千九百十一年乃至千九百十三年ニ仕向ケラレタル毎年ノ數量ノ平均額ヲ超過スヘカラス

第二百六十九條

本條約實施後最初ノ六月間ニ於テハ同盟及聯合國ヨリ輸入品ニ對シ獨逸國ノ課スル稅金ハ千九百十四年七月三十一日ニ於テ獨逸國內ヘノ輸入品ニ對シ適用セラレ

タル最惠稅金ヨリ高カルヘカラス
前項ノ期間滿了後更ニ三十月ノ期間前項ノ規定ハ千九百十二年十二月二十五日ノ獨逸國關稅定率表第一類甲款中ニ包含セラレ且前項ノ日(千九百十四年七月三十一日)ニ於テ同盟及聯合國トノ條約ニ依ル協定稅率ノ適用ヲ受ケタル生産品並千九百十四年七月三十一日前ニ特別協定品タリシト否トヲ問ハズ各種ノ葡萄酒及植物油、人造絹絲及洗毛ニ關シ特ニ引續キ適用セラレヘシ

第二百七十條

同盟及聯合國ハ其ノ軍隊ノ占領スル獨逸國ノ版圖內ノ人民ノ經濟上ノ利益ヲ保障スル爲必要ナリト認メタル場合ニ於テハ輸出入品ニ關スル特別ノ關稅制度ヲ該占領地域內ニ施行スルノ權利ヲ留保ス

第二章 海運

第二百七十一條

同盟及聯合國ノ船舶ハ海上漁業、海上沿岸貿易及海上曳船ニ關シ獨逸國ノ領水內ニ於テ最惠國ノ船舶ニ許與セラレル待遇ヲ享受スヘシ

第二百七十二條

獨逸國ハ北海ニ於ケル漁業及火酒類販賣ニ關スル條約中ニ存スル反對ノ規定ニ拘ラス臨檢及警察上ノ一切ノ權利ハ同盟國ノ漁船ニ付テハ專ラ同盟國ノ船舶ヲ以テ之ヲ行フコトニ同意ス

第二百七十三條

同盟國又ハ聯合國ノ船舶ニ付テハ船舶ニ關スル各種ノ證明書及書類ニシテ戰前獨逸國ニ於テ有效ト認メラレ又ハ今後主要海運國ニ於テ有效ト認メラルヘキモノハ獨逸國之ヲ有效ト認メ且獨逸船舶ニ發給シタル同種ノ證明書ト同等ノ效力ヲ有スルモノト認ムヘシ

新國ノ政府カ自國ノ船舶ニ發給シタル證明書及書類ニ付テモ其ノ書類カ主要海運國ノ經由スル一般ノ慣行ニ從ヒ發給セラルル限リ其ノ國ガ海岸ヲ有スルト否トヲ問ハス前項ト同様ノ承認ヲ與ヘラルヘシ

締約國ハ海岸ヲ有セサル同盟國又ハ聯合國ノ船舶ニシテ其ノ版圖內ノ或一定ノ地ニ於テ登錄セラレタルモノノ掲揚スル國旗ヲ承認スルコトニ同意ス其ノ地ハ之ヲ其ノ船舶ノ船籍港ト看做ス

第三章 不正競争

第二百七十四條

獨逸國ハ商業取引上ノ一切ノ形式ノ不正競争ニ對シ同盟及聯合國ノ一國ノ生産又ハ製造ニ係ル貨物ヲ保護スルニ必要ナル一切ノ立法上及行政上ノ措置ヲ執ルヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ貨物ノ原產地、標型、性質又ハ特徴ニ付直接又ハ間接ニ虛偽ノ表示ヲ爲サムカ爲ニ貨物自體又ハ其ノ外觀若ハ包装上ニ附シタル標章、名稱、意匠又ハ記載ヲ有スル一切ノ貨物ノ獨逸國版圖內ニ於ケル輸入、輸出、製造、分配、販賣又ハ販賣ノ提供ヲ差押其ノ他適當ナル救濟方法ニ依リ禁止及防遏スヘキコトヲ約ス

第二百七十五條

獨逸國ハ同盟國又ハ聯合國ニ生産セラルル葡萄酒又ハ火酒ニ其ノ國ニ屬スル一地方ノ名稱ヲ附スルノ權利又ハ其ノ地方名ノ使用ヲ許スニ付テノ條件ヲ決定又ハ規定スル法令又ハ其ノ法令ニ依リ行フ行政上若ハ司法上ノ裁決ニシテ同盟國又ハ聯合國ニ於テ現ニ效力ヲ有シ且適當ノ官

憲ヨリ正式ノ通告ヲ受ケタルモノハ此ノ事項ニ關シ相互待遇ヲ許與セラルルコトヲ條件トシテ之ヲ尊重スヘキコトヲ約ス其ノ法令又ハ裁決ニ違反シテ地方名ヲ附シタル生産品又ハ物品ノ輸入、輸出、製造、分配、販賣又ハ販賣ノ提供ハ獨逸國之ヲ禁止シ且前條ニ規定スル措置ニ依リ之ヲ防遏スヘシ

第四章 同盟及聯合國ノ國民ノ待遇

第二百七十六條

獨逸國ハ左ノ事項ヲ約ス

- (イ) 生業、職業、商業及産業ニ従事スルコトニ關シ同盟及聯合國ノ國民ニ對シ一切ノ外國人ニ例外ナク均シク適用セラレサル何等ノ禁止ヲ加ヘサルコト
- (ロ) 前號ニ規定スル權利ニ關シ同盟及聯合國ノ國民ニ對シ前號ノ規定ニ直接又ハ間接ニ違反スル規則ヲ適用シ又ハ制限ヲ加ヘサルコト
- (ハ) 同盟及聯合國ノ國民、其ノ財産、權利又ハ利益並

其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社又ハ組合ニ對シ獨逸國民、其ノ財産、權利又ハ利益ニ對シ課シ又ハ課スルコトアルヘキ課金、租稅又ハ賦課ト異ルカ又ハ之ヨリ高キ課金、租稅又ハ賦課ヲ直接又ハ間接ニ課セザルコト

- (ニ) 千九百十四年七月一日ニ同盟及聯合國ノ國民ニ對シテ適用セラレザリシ制限ハ獨逸國民ニ對シ均シク之ヲ加フルニ非サレハ同盟及聯合國ノ一國ノ國民ニ對シ之ヲ加ヘサルコト

第二百七十七條

同盟及聯合國ノ國民ハ獨逸國版圖内ニ於テ其ノ身體、財産、權利及利益ニ對シテ常ニ保護ヲ受クヘク且自由ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘシ

第二百七十八條

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ法令ニ依リ及其ノ同盟及聯合國ノ當該官憲カ歸化法又ハ條約ノ規定ニ從ヒテ爲シタル裁決ニ依リ獨逸國民ノ取得シ又ハ取得スルコトアルヘキ新國籍ヲ承認シ且其ノ國民ハ之ヲ新國籍取得ノ結果一切ノ關係ニ於テ其ノ原國籍國ニ對スル忠誠ノ義務ヲ離脱シ

タルモノト認ムヘキコトヲ約ス

第二百七十九條

同盟及聯合國ハ獨逸國ノ都市及港ニ總領事、領事、副領事及領事事務官ヲ駐在セシムルコトヲ得其ノ總領事、領事、副領事及領事事務官ノ氏名ハ之ヲ獨逸國ニ通知スヘク獨逸國ハ其ノ任命ヲ承認シ且通常ノ規則及慣例ニ依ル其ノ職務ノ執行ヲ許容スヘキコトヲ約ス

第五章 一般規定

第二百八十條

本款第一章並第二章第二百七十一條及第二百七十二條ニ依リ獨逸國ニ課セラレタル義務ハ本條約實施後五年以後ニハ消滅スヘシ但シ本條約中別段ノ規定アルカ又ハ國際聯盟理事會カ前記期間滿了ノ時ヨリ少クトモ十二月前ニ其ノ義務ニ改正ヲ加ヘ又ハ加フルコトナクシテ更ニ一定ノ期間之ヲ存續セシムルコトヲ決シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四章第二百七十六條ハ五年ノ期間滿了後更ニ五年ヲ超エサル一定ノ期間ヲ國際聯盟理事會ノ過半数ニ依リ決

定スルコトアルトキハ其ノ期間改正ヲ加ヘ又ハ加フルコトナクシテ其ノ效力ヲ存續スヘシ

第二百八十一條

獨逸國政府カ國際貿易ニ従事ストモ之ニ付主權ニ屬スル何等ノ權利、特權又ハ免除ヲ有スルコトナク又有スト看做サルルコトナカルヘシ

第二款 條約

第二百八十二條

本條約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外經濟上又ハ專門事項上ノ性質ヲ有スル數國間ノ條約及取極ハ本條以下數條ニ列記シタルモノニ限り獨逸國ト同條約及取極ノ當事國タル同盟及聯合國トノ間ニ本條約實施ノ時ヨリ之ヲ適用ス

- 一 海底電信線保護ニ關スル千八百八十四年三月十四日、千八百八十六年十二月一日及千八百八十七年三月二十三日ノ條約並千八百八十七年七月七日ノ最終議定書
- 二 自動車ノ國際通行ニ關スル千九百九年十月十一

日ノ條約

- 三 千八百八十六年五月十五日ノ稅關檢査ヲ受クヘキ鐵道貨物ノ封印ニ關スル取極及千九百七年五月十八日ノ議定書
- 四 鐵道ノ技術上ノ規格一定ニ關スル千八百八十六年五月十五日ノ取極
- 五 萬國關稅誌刊行及萬國關稅誌刊行ノ爲メ萬國協會ノ組織ニ關スル千八百九十年七月五日ノ條約
- 六 國際貿易統計作成ニ關スル千九百十三年十二月三十一日ノ條約
- 七 土耳其國關稅率引上ニ關スル千九百七年四月二十五日ノ條約
- 八 「ズンド」海峽及「ベルト」海峽ノ通航稅ノ免除ニ關スル千八百五十七年三月十四日ノ條約
- 九 「エルベ」河通航稅ノ免除ニ關スル千八百六十一年六月二十二日ノ條約
- 十 「エスコ」河通航稅ノ免除ニ關スル千八百六十二年七月十六日ノ條約
- 十一 蘇士運河ノ自由使用ヲ保障スル確定制度ノ設

- 定ニ關スル千八百八十八年十月二十九日ノ條約
- 十二 海上ニ於ケル船舶ノ衝突及海難ニ於ケル救援救助ニ付テノ規定ノ統一ニ關スル千九百十年九月二十三日ノ條約
- 十三 病院船ノ港内ニ於ケル租稅及課金免除ニ關スル千九百四年十二月二十一日ノ條約
- 十四 内地航行船舶ノ積量測度ニ關スル千八百九十八年二月四日ノ條約
- 十五 婦人ノ夜業禁止ニ關スル千九百六年九月二十六日ノ條約
- 十六 燒寸製造ニ於ケル黃燐使用ノ禁止ニ關スル千九百六年九月二十六日ノ條約
- 十七 醜業ヲ行ハシムル爲メ婦女賣買禁止ニ關スル千九百四年五月十八日及千九百十年五月四日ノ條約
- 十八 猥褻出版物禁止ニ關スル千九百十年五月四日ノ條約
- 十九 千八百九十二年一月三十日、千八百九十三年四月十五日、千八百九十四年四月三日、千八百九

十七年三月十九日及千九百三年十二月三日ノ衛生條約

- 二十 「メートル」法ノ統一及改良ニ關スル千八百七十五年五月二十日ノ條約
- 二十一 有效藥ノ藥局方統一ニ關スル千九百六年十一月二十九日ノ條約
- 二十二 模範音ノ制定ニ關スル千八百八十五年十一月十六日及十九日ノ條約
- 二十三 羅馬ニ於ケル萬國農事協會ノ設立ニ關スル千九百五年六月七日ノ條約
- 二十四 「フィロクセラ」驅除豫防ニ關スル千八百八十一年十一月三日及千八百八十九年四月十五日ノ條約
- 二十五 農業ニ有益ナル鳥類保護ニ關スル千九百二年三月十九日ノ條約
- 二十六 未成年者保護ニ關スル千九百二年六月十二日ノ條約

第二百八十三條

締約國ハ獨逸國カ本條中ノ特別規定ヲ履行スルコトヲ條

件トシテ本條約實施ノ時ヨリ左記ノ條約及取極ヲ關係締約國ニ限リ更ニ適用スヘシ

郵便條約

- 千八百九十一年七月四日維納ニ於テ署名セラレタル萬國郵便聯合ノ條約及取極
- 千八百九十七年六月十五日華盛頓ニ於テ署名セラレタル萬國郵便聯合ノ條約及取極
- 千九百六年五月二十六日羅馬ニ於テ署名セラレタル萬國郵便聯合ノ條約及取極

電信條約

- 千八百七十五年七月二十二日(露曆十日)聖彼得堡ニ於テ署名セラレタル萬國電信條約
- 千九百八年六月十一日里斯本ノ萬國電信會議ニ於テ改正セラレタル萬國電信條約書附屬國際業務規則及國際料金表

獨逸國ハ新國カ加盟シ又ハ加盟スルコトアルヘキ萬國郵便聯合及萬國電信聯合ニ關スル條約及取極中ニ規定シタル特別協定ヲ新國ト締結スルコトヲ拒マサルヘキコトヲ約ス

第二百八十四條

締約國ハ獨逸國及同盟及聯合國ノ指示スヘキ暫定規則ヲ履行スルコトヲ條件トシテ本條約實施ノ時ヨリ千九百一十二年七月五日ノ國際無線電信條約ヲ關係締約國ニ限リ更ニ適用スヘシ

本條約實施後五年以内ニ千九百一十二年七月五日ノ條約ニ代ルヘキ國際無線電信ニ關スル新條約ノ締結アリタルトキハ其ノ新條約ハ獨逸國カ其ノ新條約制定ニ參加スルコト又ハ其ノ新條約ニ同意スルコトヲ拒ミタル場合ニ於テモ尙獨逸國ヲ拘束ス

第二百八十五條

本條約實施ノ時ヨリ締約國ハ第二百七十二條ニ規定シタル條件ニ從ヒ左記ノ條約ヲ關係締約國ニ限リ適用スヘシ

- 一 北海ニ於ケル領海外ノ漁業ニ關スル千八百八十二年五月六日及千八百八十九年二月一日ノ條約
- 二 北海ニ於ケル火酒類販賣ニ關スル千八百八十七年十一月十六日、千八百九十三年二月十四日及千

八百九十四年四月十一日ノ條約及議定書

第二百八十六條

千九百一十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴黎同盟條約及千九百八年十一月十三日柏林ニ於テ改正シ千九百十四年三月二十日「ベルヌ」ニ於テ署名ノ追加議定書ニ依リ補足セラレタル文學的及美術的著作物保護ニ關スル千八百八十六年九月九日「ベルヌ」條約ハ本條約ニ基ク例外及制限ニ依リ之ヲ妨ケラレ又ハ變更セラレサル範圍ニ於テ本條約實施ノ時ヨリ效力ヲ回復スヘシ

第二百八十七條

本條約實施ノ時ヨリ締約國ハ民事訴訟ニ關スル千九百零五年七月十七日ノ海牙條約ヲ關係締約國ニ限リ適用スヘシ但シ佛蘭西國、葡萄牙國及羅馬尼亞國ニハ之ヲ適用セス

第二百八十八條

「サモア」ニ關スル千八百九十九年十二月二日ノ條約第三條ニ依リ獨逸國ニ付與セラレタル特殊ノ權利及特權ハ千九百十四年八月四日ヲ以テ消滅シタルモノト看做ス

第二百八十九條

各同盟國又ハ聯合國ハ本條約ノ一般原則又ハ特別規定ノ趣旨ニ從ヒ當該同盟及聯合國カ獨逸國トノ間ニ復活セシムコトヲ欲スルニ獨逸國ニ通告スヘシ

本條ニ定ムル通告ハ直接ニ又ハ他國ノ仲介ニ由リ之ヲ行フヘク獨逸國ハ文書ニテ其ノ通告ノ接受ヲ認ムヘシ前項ノ條約ハ通告ノ日ヨリ其ノ效力ヲ復活スヘシ

同盟及聯合國ハ本條約ノ條項ト合致セサル條約ヲ獨逸國トノ間ニ復活セシメサルヘキコトヲ相互ニ約ス

前記ノ通告ニハ前記條約中ノ規定ニシテ本條約ノ條項ト合致セサル爲效力ヲ復活セスト看做サルモノヲ記載スヘシ

意見ノ相違アル場合ニ於テハ國際聯盟ノ決定ヲ求ムヘシ同盟及聯合國ハ本條約實施後六月ノ期間内ニ前記ノ通告ヲ爲スヘシ

二國條約ハ前記ノ通告アリタルモノニ限リ同盟及聯合國ト獨逸國トノ間ニ其ノ效力ヲ復活スヘク其ノ他ノ一切ノ條約ハ消滅ス

前各項ノ規定ハ本條約ノ署名國タル一切ノ同盟及聯合

國ト獨逸國トノ間ニ存在スル一切ノ二國條約ニ適用セラレルモノトス獨逸國ト交戰狀態ニ在リタルコトナキ同盟及聯合國ノ場合ト雖異ルコトナシ

第二百九十條

獨逸國ハ千九百十四年八月一日ヨリ本條約實施ニ至ル迄ノ間ニ獨逸國ト埃地利國、洪牙利國、勃爾牙利國又ハ土耳其國トノ間ニ締結シタル一切ノ條約又ハ取極ハ本條約ニ依リ消滅シタルコトヲ承認ス

第二百九十一條

獨逸國ハ千九百十四年八月一日前ニ締結セラレタル條約又ハ協定ニ依リ獨逸國カ埃地利國、洪牙利國、勃爾牙利國若ハ土耳其國ニ又ハ右諸國ノ官吏及國民ニ許與シタル一切ノ權利及便益ノ享有ヲ其ノ條約又ハ協定カ效力ヲ有スル限リ當然同盟及聯合國並其ノ官吏及國民ニ保障スルコトヲ約ス

第二百九十二條

同盟及聯合國ハ右ノ權利及便益ノ享有ヲ承諾スルト否トノ權利ヲ留保ス

約實施迄ニ獨逸國カ露西亞國、從前ノ露西亞國ノ版圖ノ一部ヨリ成ル國若ハ政府又ハ羅馬尼亞國ト締結シタル一切ノ條約又ハ取極ノ消滅シタルコトヲ承認ス

第二百九十三條

同盟國、聯合國、露西亞國又ハ從前ノ露西亞國ノ版圖ノ一部ヨリ成ル國若ハ政府カ千九百十四年八月一日以後軍事占領ノ理由ニ因リ又ハ其ノ他ノ方法若ハ事由ニ因リ獨逸國又ハ獨逸國民ニ許與スルコトヲ強要セラレ又ハ官憲ノ行為ニ依ル許與ヲ認容スルコトヲ強要セラレタル權利、特權及恩典ハ其ノ種類ノ如何ヲ問ハズ本條約ニ依リ當然失效シタルモノトス
前項ノ失效ヨリ生スルコトアルヘキ請求權又ハ賠償ノ要求ハ之ヲ同盟國、聯合國又ハ本條約ニ依リ約定ノ解除ヲ得タル國、政府若ハ官憲ニ對シ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百九十四條

獨逸國ハ千九百十四年八月一日ヨリ本條約實施ニ至ル迄ノ間ニ獨逸國カ條約又ハ協定ニ依リ非交戰國又ハ其ノ國民ニ許與シタル一切ノ權利及便益ヲ其ノ條約又ハ協定カ效力ヲ有スル限リ本條約實施ノ時ヨリ當然同盟及聯合

第三款 金錢債務

第二百九十六條

左ノ種類ノ金錢上ノ債務ハ本條第三項(ホ)號ニ規定スル通告後三月以內ニ各締約國ノ設置スヘキ清算所ノ仲介ニ由リ之ヲ決済ス

一 締約國ノ一國ノ版圖內ニ居住スル其ノ締約國ノ國民カ其ノ國ニ敵對スル一國ノ版圖內ニ居住スル其ノ敵對國ノ國民ニ對シテ負擔スル金錢債務ニシテ戰前辨濟期限到來シタルモノ

二 締約國ノ一國ノ版圖內ニ居住スル其ノ締約國ノ國民ニ對スル辨濟ノ期限戰時中到來シタル金錢債務ニシテ其ノ締約國ニ敵對スル一國ノ版圖內ニ居住スル其ノ敵對國ノ國民トノ取引又ハ契約ヨリ生シ其ノ全部又ハ一部ノ履行カ宣戰ノ爲停止セラレタルモノ

三 締約國ノ一國ニ敵對スル一國ノ發行シタル有價證券ノ利息ニシテ其ノ締約國ノ國民ニ對シテ戰前又ハ戰時中支拂期限到來シタルモノ尤モ戰時中其ノ敵

國並其ノ國民ニ許與スルコトヲ約ス

第二百九十五條

締約國ニシテ千九百十二年一月二十三日海牙ニ於テ署名セラレタル阿片條約ニ未タ署名セサルモノ又ハ署名シタルモノ未タ之ヲ批准セサルモノハ該條約ヲ實施スヘキコト及此ノ目的ノ爲運滞ナク且如何ナル場合ニ於テモ本條約實施後十二月ノ期間內ニ必要ナル法令ヲ制定スヘキコトニ同意ス

又締約國ハ本條約ノ批准ハ阿片條約ヲ批准セサル國ニ付テハ該條約ノ批准ニ及千九百十四年第三回阿片會議ノ決議ニ從ヒ該條約實施ノ爲海牙ニテ設ケラレタル特別議定書ノ署名ニ一切ノ點ニ於テ均シキモノト看做スコトニ同意ス

此ノ目的ノ爲佛蘭西共和國政府ハ本條約ノ批准書寄託ニ關スル調書ノ認證原本ヲ和蘭國政府ニ送致シ且和蘭國政府ニ對シ該認證原本ヲ阿片條約ノ批准書寄託及千九百十四年ノ追加議定書ノ署名トシテ承認シ且寄託スルコトヲ依頼スヘシ

對國ノ國民又ハ中立國ノ國民ニ其ノ證券ノ利息ノ支拂カ停止セラレサリシモノニ限ル

四 締約國ニ敵對スル一國ノ發行シタル有價證券ノ元本ニシテ其ノ締約國ノ國民ニ對スル償還ノ期限戰前又ハ戰時中ニ到來シタルモノ尤モ戰時中其ノ敵對國ノ國民又ハ中立國ノ國民ニ其ノ元本ノ償還カ停止セラレサリシモノニ限ル

第四款及其ノ附屬書ニ掲クル敵人ノ財產、權利及利益ノ清算殘高ハ本條第三項(ニ)號ニ規定スル通貨及爲替相場ヲ以テ清算所ヲ經由シテ之ヲ清算シ且同款及同附屬書ノ規定スル條件ニ從ヒ清算所之ヲ處分ス

本條ニ定ムル決済ハ左ノ原則ニ準據シ且本款附屬書ニ從ヒテ之ヲ行フヘシ

(イ) 各締約國ハ本條約實施ノ時ヨリ前記金錢債務ノ辨濟及辨濟ノ受領ヲ並前記金錢債務ノ決済ニ關スル利害關係人間ニ於ケル一切ノ通信ヲ清算所ヲ經由スルモノヲ除クノ外禁止スヘシ

(ロ) 各締約國ハ債務者カ戰前破産若ハ身代限ノ狀態

ニ在リ又ハ支拂不能ノ正式ノ表示ヲ爲シタル場合又ハ金錢債務カ戰時中非常法令ニ依リテ事業ノ清算ヲ受ケタル會社ニ依リ負擔セラルル場合ヲ除クノ外自國民ノ負擔スル金錢債務ノ辨濟ニ對シ各自其ノ責任スヘシ尤モ休戰前ニ敵ノ侵入又ハ占領シタル地域ノ住民ノ負擔シタル金錢債務ニ關シテハ該地域所屬國ニ於テ保證ノ責任セサルモノトス

(ハ) 締約國ノ一國ノ國民ニ對シ其ノ國ニ敵對スル國ノ國民カ負擔シタル金額ハ債務者所屬國清算所ノ借方ニ計上シ債權者所屬國清算所ニ於テ債權者ニ之ヲ辨濟ス

(ニ) 金錢債務ハ當該同盟國若ハ聯合國、其ノ殖民地若ハ保護國又ハ英國自治領若ハ印度ノ通貨ヲ以テ之ヲ辨濟シ又ハ貸方ニ之ヲ計上スヘシ金錢債務カ右以外ノ通貨ヲ以テ辨濟セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ金錢債務ハ戰前ノ爲替相場ニ依リ當該同盟國若ハ聯合國、其ノ殖民地若ハ保護國又ハ英國自治領若ハ印度ノ通貨ヲ以テ之ヲ辨濟シ又ハ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

本號ニ規定スル戰前ノ爲替相場トハ戰爭開始ノ直前ノ月内ニ當該同盟國又ハ聯合國内ニ行ハレタル其ノ國ト獨逸國トノ間ノ平均電信爲替相場ヲ謂フ

(ホ) 本條及本條附屬書ノ規定ハ獨逸國ト同盟國若ハ聯合國、其ノ殖民地若ハ保護國又ハ英國自治領若ハ印度ノ一トノ間ニ在リテハ當該國ニ於テ自己ノ爲又ハ當該英國自治領若ハ印度ノ爲ニ本條約ノ批准書ヲ寄託シタル後一月以内ニ各場合ニ應シ當該同盟國若ハ聯合國又ハ當該英國自治領若ハ印度ノ政府ヨリ獨逸國政府ニ其ノ適用ノ通告ヲ爲スニ非サレハ適用ナキモノトス

(ハ) 本條及本條附屬書ヲ採用スル同盟及聯合國ハ其

ノ國民ト獨逸國民トノ間ノ事項ニ關スル限リ其ノ版圖内ニ居住スル各自ノ國民ニ本條及本條附屬書ヲ適用スル爲其ノ間ニ約定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本號ノ規定ノ適用ニ依リ行ハルヘキ辨濟ハ當該同盟及聯合國清算所間ノ協定ニ從フヘシ

附屬書

一

各締約國ハ第二九十六條第三項(ホ)號ニ規定スル通告後三月以内ニ敵金錢債務ノ取立及辨濟ノ爲清算所ヲ設置ス

二

本附屬書ニ於テハ第二九十六條第一項ニ規定スル金錢上ノ債務ヲ「敵金錢債務」、其ノ金錢上ノ債務ヲ負擔スル者ヲ「敵債務者」、其ノ金錢上ノ債權ヲ有スル者ヲ「敵債

權者」ト稱シ債權者所屬國內ノ清算所ヲ「貸方清算所」、債務者所屬國內ノ清算所ヲ「借方清算所」ト稱ス

三

締約國ハ第二九十六條第三項(イ)號ノ規定ノ違反ニ對シ各自國ノ對敵通商禁止ニ關スル法令ニ現在規定スルト同一ノ制裁ヲ加フヘシ又締約國ハ本附屬書ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外其ノ版圖内ニ於テ敵金錢債務ノ辨濟ニ關スル一切ノ訴訟手續ヲ禁止ス

四

第二九十六條第三項(ロ)號ニ規定スル政府ノ保證ハ理由ノ如何ニ拘ラス金錢債務ヲ回收スルコトヲ得サル場合ニ效力ヲ生ス但シ其ノ金錢債務カ債務者所屬國ノ法令ニ依リ開戦ノ日ニ時効ニ罹リタル場合、債務者カ開戦ノ當時破産若ハ身代限ノ状態ニ在リ又ハ支拂不能ノ正式ノ表示ヲ爲シタル場合又ハ金錢債務カ戰時中ノ非常法令ニ依リテ事業ノ清算ヲ受ケタル會社ノ負擔ニ係ル場合ハ此ノ限ニ在ラス此ノ但書ノ場合ニ於テハ本附屬書ニ規定スル手續ハ配當ノ支拂ニ之ヲ適用ス

法令ノ適用セラレル事態ヲ指シ又「支拂不能ノ正式ノ表
示」トハ英國法ニ於ケルト同一ノ意義ヲ有スルモノトス

五

債權者ハ其ノ有スル金錢債權ヲ貸方清算所設置後六月
以内ニ其ノ清算所ニ申告シ且所要ノ文書及參考資料ヲ
其ノ清算所ニ提出スヘシ

締約國ハ敵債權者及敵債務者間ノ通謀ヲ搜索シ及處罰
スルニ適當ナル一切ノ措置ヲ執ルヘシ清算所ハ斯ル通謀ノ
發見及處罰ニ資スルコトアルヘキ證據及參考資料ヲ相互
ニ通報スヘシ

締約國ハ金錢債務ノ額ニ付協定ヲ爲サムト欲スル債權者
及債務者間ノ郵便及電信ニ依ル通信ヲ關係當事者ノ費
用ヲ以テ且清算所ノ仲介ニ由リ行フコトヲ能フ限り容易
ナラシムヘシ

貸方清算所ハ申告ヲ受ケタル一切ノ金錢債務ヲ借方清
算所ニ通告シ借方清算所ハ相當ノ期間内ニ何レノ金錢債
務カ承認セラレタリヤ又何レノ金錢債務カ否認セラレタリ
ヤヲ貸方清算所ニ通告スヘシ金錢債務カ否認セラレタル
場合ニ於テハ借方清算所ハ金錢債務不承認ノ理由ヲ示

シ危險負擔、費用又ハ手数料ニ充ツル爲必要ト認ムル金
額ヲ保留ス

十

敵金錢債務ノ全部又ハ一部カ承認セラレサルトキハ其ノ
辨濟ヲ請求シタル者ハ過料トシテ其ノ承認ナキ部分ニ付
五分ノ利息ヲ當該清算所ニ支拂フヘシ金錢債務ノ全部
又ハ一部ノ承認ヲ不當ニ拒絕シタル者ハ過料トシテ其ノ
拒絕ノ認メラレサリシ額ニ付五分ノ利息ヲ支拂フヘシ

前記ノ利息ハ七ニ規定シタル期間満了ノ日ヨリ起算シ請
求カ却下セラレタル日又ハ金錢債務カ辨濟セラレタル日ニ
至ル迄之ヲ附ス

各清算所ハ其ノ關スル前記過料ノ徴收ニ必要ナル手段ヲ
執ルヘク若シ其ノ過料ヲ徴收スルコト能ハサル場合ニ於テ
ハ其ノ責ニ任ス

過料ハ相手方ノ清算所ノ貸方ニ計上シ其ノ清算所ハ本
諸規定ヲ施行スルノ費用ニ充ツル爲之ヲ保留スヘシ

十一

清算所間ノ貸借勘定ハ毎月之ヲ行ヒ債務國ハ一週間に
内ニ現金ヲ以テ差額ノ支拂ヲ爲スヘシ

スヘシ

六

金錢債務ノ全部又ハ一部カ承認セラレタルトキハ借方清
算所ハ直ニ其ノ承認セラレタル額ヲ貸方清算所ノ貸方ニ
計上シ且同時ニ貸方清算所ニ之ヲ通告スヘシ

七

通告ノ受領後三月以内又ハ貸方清算所カ同意スル之ヨ
リ長キ期間内ニ借方清算所ヨリ金錢債務カ承認セラレサ
ル旨ノ通告ヲ爲スニ非サレハ金錢債務ハ全部承認セラレタ
ルモノト看做サルヘク該金額ハ直ニ貸方清算所ノ貸方ニ
計上セララルヘシ

八

金錢債務ノ全部又ハ一部カ承認セラレサル場合ニ於テハ
兩清算所ハ共同ニ當該事件ヲ審査シ且當事者ヲシテ協
定セシムルニカムヘシ

九

貸方清算所ハ其ノ貸方ニ計上セラレタル金額ヲ同清算所
所屬國政府カ同清算所ノ處分ニ供シタル資金中ヨリ其ノ
政府ノ定メタル條件ニ從ヒ各個ノ債權者ニ支拂フヘシ但

尤モ該差額カ同盟及聯合國ノ一國又ハ數國ノ金錢債務
ニ屬スル場合ニ於テハ其ノ差額ハ戰爭ニ基ク同盟國若ハ
聯合國又ハ其ノ國民ノ金錢債權ノ金額ノ完全ナル辨濟ア
ル迄之ヲ保留スヘシ

十二

清算所間ノ協議ヲ容易ナラシムル爲各一方ノ清算所ハ他
方ノ清算所所在地ニ一名ノ代表者ヲ置クヘシ

十三

特別ノ理由アル場合ヲ除ク外請求ニ關スル一切ノ協議
ハ成ルヘク借方清算所ニ於テ之ヲ行フヘシ

十四

第二百九十六條第三項(口)號ニ準據シ締約國ハ其ノ國民
ノ負擔スル敵金錢債務ノ辨濟ニ付其ノ責ニ任ス

從テ借方清算所ハ承認セラレタル一切ノ金錢債務ヲ貸方
清算所ノ貸方ニ計上スヘシ各個ノ債務者ヨリ金錢債務ヲ
取立ツルコト能ハサル場合ト雖異ルコトナシ右ノ場合ニ於
テモ關係政府ハ承認アリタル金錢債務ノ回收ヲ行フニ付
必要ナル一切ノ權能ヲ其ノ政府ノ清算所ニ付與スヘシ
尤モ戰爭行爲ニ因リ損害ヲ受ケタル者ノ負擔スル承認ア

リタル金銭債務ハ其ノ損害ニ付其ノ債務者ニ補償ノ支拂アリタルトキニ限り貸方清算所ノ貸方ニ之ヲ計上ス

十五

各政府ハ其ノ版圖内ニ設置シタル清算所ノ費用(職員ノ俸給ヲ含ム)ヲ支辨スヘシ

十六

關係二清算所間ノ意見カ請求ニ係ル金銭債務ノ正當ナリヤ否ヤニ關シ一致セザルトキ又ハ敵債務者ト敵債權者トノ間若ハ清算所間ニ意見ノ相違アルトキハ其ノ爭議ハ之ヲ當事者間ノ合意アラハ當事者間ノ合意ニ依リ定メラルル條件ノ下ニ仲裁ニ付シ又ハ之ヲ本編第六款ニ定ムル混合仲裁裁判所ノ審理ニ付スヘシ

十七

尤モ貸方清算所ノ請求アルトキハ右ノ爭議ヲ債務者住所ノ通常裁判所ノ管轄ニ付スルコトヲ得

十八

混合仲裁裁判所、通常裁判所又ハ仲裁裁判所カ正當ト認メタル金額ハ之ヲ借方清算所ノ承認シタル金銭債務ト看做シ其ノ回收ハ清算所ヲ經由シ之ヲ行フヘシ

テ之ニ代フルコトヲ得

混合仲裁裁判所ニ提起セラルル一切ノ事件ニ付テハ係争金額ノ百分ノ五ノ手数料ヲ課ス此ノ手数料ハ該裁判所カ別段ノ指示ヲ爲ス場合ヲ除クノ外敗訴シタル當事者ノ負擔タルヘシ此ノ手数料ハ之ヲ前記供託金ト併セ課セラレヘク又保證トモ關係ナキモノトス

混合仲裁裁判所ハ手續上ノ諸費用ニ關スル金額ヲ當事者ノ一方ニ對シ其ノ受クヘキモノトシテ判定スルコトヲ得本規定ノ適用ニ依リ支拂ヲ要スル金額ハ別目トシテ勝訴者ノ屬スル清算所ノ貸方ニ之ヲ計上ス

二十一

事件ノ終結ヲ迅速ナラシムル爲清算所又ハ混合仲裁裁判所ノ一切ノ職員ノ任命ニ當リ其ノ者ノ關係相手國ノ言語ノ智識ニ付相當ノ考慮ヲ爲スヘシ

二十二

關係政府間ニ反對ノ特別取極ノ存スル場合ヲ除クノ外金銭債務ニハ左ノ規定ニ準據シ利息ヲ附ス

關係各政府ハ混合仲裁裁判所ニ清算所ノ爲ニ事件ヲ提起スル任務ヲ有スル代理人ヲ任命スヘシ代理人ハ其ノ國民ノ用キル代表者又ハ辯護人ノ一般監督ニ任ス

判定ハ書證ニ依リテ之ヲ爲スヘシ但シ混合仲裁裁判所ハ當事者本人ノ陳述又ハ當事者ノ希望ニ依リ關係兩政府ノ承認スル代表者若ハ前項ノ代理人ノ陳述ヲ聽取スルコトヲ得其ノ代理人ハ當事者ト共ニ事件ニ參加シ又ハ當事者カ拋棄シタル請求ヲ復活シ且主張スルノ權限ヲ有ス

十九

關係清算所ハ混合仲裁裁判所ニ提起セラルル事件ノ審理ヲ迅速ナラシムル爲其ノ有スル一切ノ參考資料及文書ヲ同裁判行所ニ提出スヘシ

二十

當事者ノ一方カ二箇ノ清算所ノ合同判定ニ對シ上訴ヲ爲ストキハ手續費用ニ對シテ供託金ヲ爲スヘシ其ノ供託金ハ原判定カ上訴人ニ有利ニ變更セラルル場合ニ限り且其ノ勝訴ノ程度ニ應シ返還セラレヘク供託金カ返還セララルル場合ニ於テハ相手方ハ之ニ相當スル額ノ手續諸費用ヲ支拂フヘシ供託金ハ混合仲裁裁判所ノ承認スル保證ヲ以

配當、利息其ノ他元本ノ利息タル性質ノ定期支拂金額ニ對シテハ利息ヲ支拂ハス

利率ハ年五分トス但シ契約、法令又ハ慣習ニ依リ債權者カ別段ノ率ニ依リ利息ノ支拂ヲ受クヘキ權利ヲ有スル場合ハ此ノ限ニ在ラス此ノ但書ノ場合ニ於テハ右ノ利率ヲ適用ス

利息ハ戰爭開始ノ日(又ハ辨濟ヲ受クヘキ金銭債務ノ辨濟期限カ戰時中到來シタルトキハ其ノ期限到來ノ日)ヨリ元本カ債權者ノ清算所ノ貸方ニ計上セラルル日ニ至ル迄之ヲ附ス

二十三

利息トシテ支拂ヲ要スル金額ハ清算所ノ承認シタル金銭債務トシテ之ヲ取扱ヒ承認金銭債務トシク貸方清算所ノ貸方ニ之ヲ計上ス

清算所又ハ混合仲裁裁判所カ請求ヲ第二百九十六條ニ該當セザルモノト判定シタルトキハ債權者ハ通常裁判所ニ訴訟ヲ提起シ又ハ其ノ執リ得ル其ノ他ノ法律上ノ手續ニ依リ其ノ請求ヲ主張スルコトヲ得

清算所ニ請求ノ申立アリタルトキハ時効ハ其ノ進行ヲ停止ス

二十四

締約國ハ混合仲裁裁判所ノ判定ヲ終結且確定ノモノト認メ且其ノ國民ニ對シ拘束力ヲ有セシムヘキコトニ同意ス

二十五

貸方清算所カ借方清算所ニ請求ヲ通告スルコトヲ拒ミ又ハ正當ノ申告ヲ受ケタル請求ノ全部又ハ一部ヲ有效ナラシムル本附屬書ニ規定スル手續ヲ執ルコトヲ拒ミタル場合ニ於テハ敵債權者ハ請求金額ヲ記載スル證明書ヲ清算所ヨリ受領スルノ權利ヲ有スヘク且通常裁判所ニ訴訟ヲ提起シ又ハ其ノ執リ得ル其ノ他ノ法律上ノ手續ニ依リ其ノ請求ヲ主張スルノ權利ヲ有ス

第四款 財産、權利及利益

第二百九十七條

敵國內ニ在ル私人ノ財産、權利及利益ニ關シテハ本款ニ定ムル原則及本款附屬書ノ規定ニ準據シテ處理スヘシ

サルヘシ

(ハ) 前號ニ規定シタル權利ノ行使ニ關シ生スル代金又ハ賠償額ハ該財産ノ留置又ハ清算カ行ハレタル國ノ法令ノ定ムル賣却及評價ノ方法ニ依リ決定セラルヘシ

(ニ) 同盟及聯合國又ハ其ノ國民ト獨逸國又ハ其ノ國民トノ間ノ關係ニ於テハ本款附屬書ノ一及三ニ定ムル一切ノ戰時非常措置又ハ移轉措置又ハ此ノ措置ノ實行ノ爲執リ又ハ執ルヘキ行爲ハ本條約ニ規定スル留保ノ場合ヲ除クノ外最終ニシテ且何人ヲモ拘束ス

(ホ) 同盟及聯合國ノ國民(其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社又ハ組合ヲ含ム)ハ本款附屬書ノ一及三ニ定ムル戰時非常措置又ハ移轉措置ノ適用ニ因リ千九百十四年八月一日現在ノ獨逸國版圖内ニ在ル各自ノ財産、權利又ハ利益ニ付受ケタル損害ニ關シ賠償請求ノ權利ヲ有ス此等ノ國民ノ之カ爲ニ行フ請求ハ第六款ニ定ムル混合仲裁裁判所又ハ該裁判所ノ任命スル仲裁人ノ之ヲ審査シ且其ノ賠償額ヲ決定ス此ノ

(イ) 獨逸國カ同盟國又ハ聯合國ノ國民(其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム)ノ財産、權利及利益ニ關シ本款附屬書三ニ定ムル戰時非常措置及移轉措置ヲ爲シ其ノ清算ノ未タ完了セサル場合ニ於テハ直ニ其ノ措置ヲ中止シ又ハ停止シ前記ノ財産、權利及利益ヲ其ノ所有者ニ返還スヘク所有者ハ第二百九十八條ノ規定ニ從ヒ之ニ對スル完全ナル權利ヲ享有スヘシ

(ロ) 本條約中反對ノ規定アル場合ヲ除クノ外同盟及聯合國ハ其ノ版圖、殖民地、屬地及保護國並本條約ニ依リ讓受ケタル地域内ニ在ル獨逸國民又ハ其ノ管理スル會社ニ本條約實施ノ日ニ於テ屬スル一切ノ財産、權利及利益ヲ留置シ及清算スルノ權利ヲ留保ス右清算ハ當該同盟國又ハ聯合國ノ法令ニ從ヒ之ヲ執行スヘク且右獨逸ノ所有者ハ其ノ國ノ同意ナクシテ此等ノ財産、權利及利益ヲ處分シ又ハ其ノ上ニ何等ノ負擔ヲ設定スルコトヲ得ス

本條約ノ規定ニ依リ當然同盟國又ハ聯合國ノ國籍ヲ取得スル獨逸國民ハ之ヲ本號ノ獨逸國民ト看做サ

賠償額ハ獨逸國之ヲ負擔スヘク且之ヲ賠償請求者所屬國ノ版圖内ニ存シ又ハ其ノ國ノ管理ノ下ニ在ル獨逸國民ノ財産上ノ負擔ニ歸セシムルコトヲ得此ノ財産ハ本款附屬書四ニ定ムル條件ニ從ヒ敵ノ債務ノ擔保ト爲スコトヲ得前記賠償額ハ同盟國又ハ聯合國ニ於テ之ヲ支拂フコトヲ得ヘク其ノ金額ハ獨逸國ノ借方ニ之ヲ計上ス

(ヘ) 獨逸國ノ版圖内ニ於テ移轉措置ノ適用ヲ受ケタル財産ノ所有者タル同盟國又ハ聯合國ノ國民カ其ノ財産ノ回收ノ希望ヲ表示スル場合ニ於テハ財産カ現物ノ儘存在スルトキハ其ノ財産ノ回收ニ依リ前號ニ依ル賠償ノ請求ノ目的ヲ達セシムヘシ
前記ノ場合ニ獨逸國ハ其ノ財産ノ原所有者ヲシテ其ノ財産上ニ清算後設定セラレタルコトアルヘキ一切ノ役權又ハ負擔ヲ負ハシメシテ其ノ財産ノ占有ヲ回復セシムル爲且其ノ現物回收ニ依リ損害ヲ受ケタル一切ノ第三者ニ對シ賠償スル爲必要ナル一切ノ手段ヲ執ルヘシ
本號ニ規定スル現物回收ノ實行不能ナル場合ニ於テ

ハ同盟國又ハ聯合國ノ國民カ其ノ喪失シタル財産、權利又ハ利益ニ代ヘテ受クルコトヲ同意スル便益又ハ之ニ相當スルモノヲ其ノ國民ニ許與シ以テ其ノ國民カ前號ニ定ムル損害賠償ヲ確保スルコトヲ得ル爲關係諸國又ハ第三款附屬書ニ定ムル清算所ノ仲介ニ依リ私ノ取極ヲ爲スコトヲ得

本條ニ依リ現物回收ノ行ハレタルトキハ前號ノ適用ニ依リ定メラレタル代金又ハ賠償額中ヨリ其ノ回收財産ノ實價額ヲ控除スヘシ尤モ其ノ財産ノ使用ヲ妨ケラレタルニ因ル損害又ハ減損ノ賠償ヲ斟酌スヘシ

(ト) 前號ニ規定シタル權利ハ休戰條約署名前ニ敵人ノ財産、權利又ハ利益ノ一般的清算ヲ規定スル立法的手段ヲ範圍内ニ採用スルニ至ラザリシ同盟國又ハ聯合國ノ國民タル所有者ニ限り之ヲ有ス

(チ) (ハ)號ノ適用ニ依リ現物回收行ハレタル場合ヲ除クノ外戰時法令ニ依リ又ハ本條ノ適用ニ依リ行ハレタル敵人ノ財産、權利又ハ利益ノ清算純殘高及敵人ニ屬スル一切ノ現金資産ハ一般ニ左ノ方法ニ依リ之ヲ處理ス

(一) 第三款及其ノ附屬書ヲ採用スル諸國ニ付テハ前記ノ清算純殘高及現金資産ハ同款及附屬書ニ依リ設置セラレル清算所ヲ通シ其ノ所有者ノ屬スル國ノ貸方ニ之ヲ計上ス但シ之カ爲生スル獨逸國ニ有利ナル貸方勘定ハ第二百四十三條ニ從ヒ之ヲ處理ス

(二) 第三款及其ノ附屬書ヲ採用セザル諸國ニ付テハ獨逸國ニ依リ留置セラレタル同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ財産、權利及利益ノ清算純殘高及現金資産ハ直ニ其ノ權利者又ハ其ノ權利者ノ屬スル政府ニ支拂フヘク同盟國又ハ聯合國ノ差押ヘタル獨逸國民ノ財産、權利及利益ノ清算純殘高及現金資産ハ當該國其ノ法令ニ依リ之ヲ處分シ且本條又ハ本款附屬書四ニ定ムル請求及金錢債務ノ辨濟ニ之ヲ充當スルコトヲ得上記ノ方法ニ依リ處分セラレザリシ財産、權利及利益又ハ其ノ清算純殘高若ハ現金資産ハ該同盟國又ハ聯合國ニ於テ留置スルコトヲ得ヘク之ヲ留置シタル場合ニ於テハ其ノ現金價額ハ第二百四十三條ノ規定ニ從ヒ之ヲ處理ス

同盟及聯合國トシテ本條約ニ署名スル諸新國ニ於テ又ハ獨逸國ノ行フヘキ賠償金ノ支拂ノ分配ニ與ル權利ヲ有セザル諸國ニ於テ清算ヲ行ヒタル場合ニ於テハ此等ノ諸國ハ本條約特ニ第二百三十五條及第二百六十條ニ依リ賠償委員會カ權利ヲ有スル場合ヲ除クノ外其ノ清算ノ殘高ヲ直接所有者ニ支拂フヘシ前記所有者カ本編第六款ニ規定スル混合仲裁裁判所又ハ同裁判所ノ任命スル仲裁人ニ對シ當該國政府ノ一般法令ノ規定外ニ互リテ執リタル措置又ハ賣却條件カ清算代金ニ付所有者ニ不當ニ損害ヲ與ヘタルモノナルコトヲ證明スルトキハ同裁判所又ハ仲裁人ハ當該國ヲシテ所有者ニ公平ナル賠償ヲ爲サシムルノ判斷ヲ與フルノ裁量ヲ有ス

(リ) 獨逸國ハ同盟國又ハ聯合國内ニ在ル獨逸國民ノ財産、權利又ハ利益ノ清算又ハ留置ニ對シ其ノ國民ニ賠償ヲ爲スコトヲ約ス

(ヌ) 同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ財産、權利及利益ニ對シ千九百十八年十一月十二日以後本條約實施後

三月ヲ經ルニ至ル迄ノ間ニ又ハ戰時非常措置ノ適用ヲ受ケタル財産、權利及利益ノ場合ニ於テハ本條約ニ依リ現物回收ノ行ハル迄ノ間ニ獨逸國カ賦課シ又ハ賦課スルコトアルヘキ元本上ノ租稅及賦課ハ之ヲ所有者ニ還付ス

第二百九十八條

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ國民(其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム)ノ財産、權利及利益ニシテ前條ノ(イ)號又ハ(ハ)號ニ依リ回收セラレタルモノニ關シ左ノ措置ヲ爲スコトヲ約ス

(イ) 本條約ニ明文アル場合ヲ除クノ外同盟國又ハ聯合國ノ國民ニ屬スル財産、權利及利益ハ戰前施行ノ法令ノ下ニ獨逸國民カ其ノ財産、權利及利益ニ關シ有スル其ノ法律上ノ地位ニ於テ之ヲ回復維持スヘキコト

(ロ) 同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ財産、權利又ハ利益ニ對シテハ獨逸國民ノ財産、權利又ハ利益ニ對シ均シク適用スルニ非サレハ財産權ヲ侵害スヘキ措置ヲ執ラサルヘキコト及此ノ種ノ措置ヲ執ル場合ニ於テハ適當ノ賠償ヲ爲スヘキコト

附屬書

締約國ノ裁判所又ハ行政官廳カ敵人ノ財産、權利及利益ニ關シ戰時法令ニ基キ發シ又ハ爲シタル(發シ又ハ爲シタルモノトセラルモノヲ含ム)權利移轉命令、事業若ハ會社ノ清算ニ關スル命令其ノ他ノ命令、指令、決定又ハ訓令ノ效力ハ第二百九十七條(二)號ノ規定ニ依リ之ヲ確認ス各人ノ利益ハ其ノ利益カ命令、指令、決定又ハ訓令中ニ特ニ明記セラルルト否トヲ問ハス各人ノ利害關係ヲ有スル財産ニ關スル一切ノ命令、指令決定又ハ訓令ニ依リテ有效ニ處理セラレタルモノト看做サルヘク其ノ命令、指令、決定又ハ訓令ニ基キ行ハレタル財産、權利又ハ利益ノ移轉カ違法ナリヤ否ヤニ關シ爭議ヲ提起スルヲ許サズ戰時法令ニ依リ敵人ノ財産、權利又ハ利益ニ關シ締約國ノ裁判所又ハ行政官廳ノ發シ又ハ爲シタル(發シ又ハ爲シタルモノトセラルモノヲ含ム)命令、指令、決定又ハ訓令ニ基キ財産、事業又ハ會社ニ付行ハレタル一切ノ措置ハ財産、事業又ハ會社ノ調査、保管、強制管理、利用、徵發、監理又ハ清算ニ關スルト財産、權利又ハ利益ノ清算、賣却又ハ管理、金

錢債務ノ取立又ハ辨濟、訴訟費用、諸掛其ノ他ノ諸費用ノ支拂ニ關スルト又其ノ他如何ナルモノニ關スルトヲ問ハス其ノ有效ナルコトヲ確認ス但シ本項ノ規定ハ同盟及聯合國ノ國民カ善意及有償ニテ且財產所在地ノ法令ニ從ヒ既ニ取得シタル財産上ノ權原ニ影響ナキモノトス
獨逸國官憲カ侵入地域内又ハ占領地域内ニ於テ執リタル前記ノ措置及千九百十八年十一月十一日以後獨逸國又ハ獨逸國官憲ノ執リタル前記ノ措置ハ一切之ヲ無効トシ前項ノ規定ヲ適用セズ

二

獨逸國民ノ財産、權利又ハ利益ニ關シ戰時中又ハ戰時準備ノ爲行ハレタル一切ノ作爲又ハ不作爲ニ付獨逸國又ハ獨逸國民ハ其ノ何レノ地ニ居住スルヲ問ハス同盟國若ハ聯合國ヲ相手方トシ又ハ其ノ行政官廳若ハ司法官憲ノ爲ニ又ハ其ノ命令ノ下ニ行動シタル者ヲ相手方トシテ請求又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヌ又同盟國又ハ聯合國ノ戰時非常措置、法令若ハ規則ノ下ニ又ハ之ニ從ヒ爲シタル一切ノ作爲及不作爲ニ付何人ニ對シテモ請求又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヌ

三

第二百九十七條及本附屬書ニ於テ「戰時非常措置」ト稱スルハ敵人ノ財産ニ關シテ執リ又ハ將來執ルコトアルヘキ立法上、行政上、司法上其ノ他ノ一切ノ措置ニシテ所有權ニ變更ヲ加フルコトナキモ其ノ財産ニ關スル所有者ノ處分權ヲ奪フノ結果ヲ生シ又ハ生セシムヘキモノ例ヘハ監理、強制管理及保管ノ如キ措置並動機、形式又ハ場所ノ如何ヲ問ハス敵人ノ財産ノ差押、利用又ハ侵害ヲ目的トシ又ハ目的トスヘキ措置ヲ謂ヒ此等ノ措置ノ實行行爲トハ敵人ノ財産ニ對シ此等ノ措置ヲ適用スル行政官廳又ハ裁判所ノ抑留、訓令又ハ命令及敵人ノ財産ノ管理又ハ監理ニ關シ個人ノ爲シタル行爲例ヘハ金錢債務ノ辨濟、金錢債權ノ取立、訴訟費用、諸掛其ノ他ノ諸費用ノ支拂、手数料ノ取立ノ如キ行爲ヲ謂フ
「移轉措置」トハ敵人ノ財産ノ全部又ハ一部ヲ敵人タル所有者ノ同意ナクシテ敵人タル所有者以外ノ者ニ移轉スルニ因リテ敵人ノ財産ノ所有權ニ影響ヲ及ボシ又ハ及ボスヘキ措置例ヘハ敵ノ財産ノ所有權ノ移轉賣却若ハ清算又ハ權利證書若ハ有價證券ヲ無効ト爲スカ如キ措置ヲ謂フ

四

同盟國又ハ聯合國ノ版圖内ニ在ル獨逸國民ノ一切ノ財産、權利及利益並其ノ賣却、清算其ノ他ノ處分ヨリ生シタル純殘高ニ付テハ當該同盟國又ハ聯合國ハ第一次ニ其ノ國民(其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム)ノ獨逸國ノ版圖内ニ在ル財産、權利及利益ニ關スル請求ニ基ク賠償額ノ支拂又ハ其ノ國民ニ對スル獨逸國民ノ金錢債務ノ支拂及千九百十四年七月三十一日以後當該同盟國又ハ聯合國カ戰爭ニ參加セル以前ニ獨逸國政府又ハ獨逸國官憲ノ行爲ニ因リ生シタル請求ノ支拂ニ充當スルコトヲ得前記ノ請求ノ額ハ「ギエスターウ、アドール」氏ニシテ承諾スルニ於テハ同氏ノ任命スル仲裁人若シ同氏ニ於テ任命ヲ爲ササル場合ニ於テハ第六款ニ規定スル混合仲裁裁判所ノ任命スル仲裁人ヲシテ之ヲ査定セシムルコトヲ得前記ノ財産、權利及利益並純殘高ハ第二次ニ當該同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ獨逸國以外ノ敵國ノ版圖内ニ在ル財産、權利及利益ニ關スル請求ニ基ク賠償額ニシテ他ノ方法ニ依リ支拂ハレサルモノノ支拂ニ充當スルコトヲ得

五

第二百九十七條ノ規定ニ拘ラス同盟國又ハ聯合國内ニ於テ設立セラレタル甲會社カ其ノ勢力ノ下ニ置カルル獨逸國內ニテ設立ノ乙會社ト共同ニ第三國ニ於テ商標使用ノ權利ヲ戰爭開始ノ直前ニ有シタルトキ又ハ第三國ニ於テ販賣スヘキ貨物又ハ物品ノ特別複製方法ヲ乙會社ト共同ニ利用スルノ權利ヲ戰爭開始ノ直前ニ享有シタルトキハ甲會社ハ乙會社ヲ排除シテ單獨ニ第三國內ニ於テ商標ヲ使用スルノ權利ヲ專有スヘク且此ノ特別複製方法ハ乙會社ニ對シ又ハ其ノ事業、營業財産又ハ株式ニ對シ獨逸國戰時法令ノ適用ニ依ル措置ノ如何ニ拘ラス甲會社ニ之ヲ引渡スヘシ但シ甲會社ハ請求ヲ受ケタルトキハ乙會社ニ對シ獨逸國內ニ於テ使用セラルヘキ物品ノ複製ノ繼續ヲ許容シ變形ヲ交付スヘキモノトス

六

第二百九十七條ニ依リ現物回收ノ實行セラルル時期ニ至ル迄獨逸國ハ其ノ戰時非常措置ノ目的物ヲリシ同盟國又ハ聯合國ノ國民(其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム)ノ財産、權利及利益ヲ保全スルノ責ニ任ス

七

同盟國又ハ聯合國ハ本條約實施後一年以内ニ第二百九十七條(ハ)號ニ規定スル權利ヲ行使セムトスル財産、權利及利益ヲ指定スヘシ

八

第二百九十七條ニ定ムル現物回收ハ獨逸國政府又ハ之ニ代ル官憲ノ命令ニ依リ實行セラルヘシ獨逸國官憲ハ請求ニ因リ管理人ノ管理行為ニ關スル詳細ノ報告ヲ利害關係人ニ付與スヘシ此ノ請求ハ本條約實施後何時タリトモ之ヲ爲スコトヲ得

九

獨逸國民ノ財産、權利及利益ハ第二百九十七條(ロ)號ニ定ムル清算ノ終了ニ至ル迄其ノ財産、權利及利益ニ關シテ執ラレタル又ハ執ララルコトアルヘキ戰時非常措置ニ引續キ服スヘシ

十

獨逸國ハ本條約實施後六月以内ニ其ノ國民ノ有スル一切ノ有價證券、證明書、捺印證書其ノ他ノ權原證書ニシテ且同盟國又ハ聯合國ノ版圖内ニ在ル財産、權利又ハ利

益ニ關スルモノ(其ノ同盟國又ハ聯合國ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ノ株券、持分、社債券、社債持分證券其ノ他ノ債務證券ヲ含ム)ヲ各當該同盟國又ハ聯合國ニ引渡スヘシ

獨逸國ハ同盟國又ハ聯合國ノ要求アルトキハ何時タリトモ其ノ同盟國又ハ聯合國ノ版圖内ニ在ル獨逸國民ノ財産、權利及利益ニ關シ又ハ其ノ財産、權利及利益ニ付千九百十四年七月一日以後ニ行ハレタル取引ニ關スル必要ナル參考資料ヲ提供スヘシ

十一

「現金資産」トハ宣戰前又ハ宣戰後ニ設ケタル一切ノ預金及基金並預金、收入金及管理人、保管人其ノ他ノ者カ預入其ノ他ノ投資ノ基金ヨリ取立テタル利潤ヨリ生シタル一切ノ資産ヲ包含ス但シ同盟國若ハ聯合國又ハ同盟國若ハ聯合國内ノ各邦、州若ハ都市ニ屬スル金額ハ之ヲ包含セサルモノトス

十二

敵人ノ財産管理ノ責ニ任シ若ハ其ノ管理ヲ監督スル者ニ依リ又ハ此等ノ者若ハ總テノ官憲ノ命令ニ依リ締約國ノ

國民(其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム)ニ屬スル現金資産ヲ以テ爲サレタル一切ノ投資ハ何レノ地ニ於テ爲サレタルヲ問ハス之ヲ無効トス其ノ現金資産ハ此ノ種ノ投資ニ拘ラス計算セラルヘシ

十三

本條約實施後一月以内ニ又ハ請求ニ因リ何時タリトモ獨逸國ハ其ノ版圖内又ハ獨逸國若ハ其ノ同盟國ノ占領地域内ニ於テ戰時非常措置又ハ移轉措置ニ付セラレタル同盟及聯合國ノ國民(其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム)ノ財産、權利及利益ニ關スル一切ノ勸定書、證書、記録、書類其ノ他ノ參考資料ニシテ獨逸國ノ版圖内ニ存在スルモノヲ同盟及聯合國ニ引渡スヘシ

十四

敵國內ニ在ル財産、權利及利益並此等ノ財産、權利及利益ノ清算殘高ニ關スル第二百九十七條及本附屬書ノ規

定ハ金錢債務、金錢債權及勘定ニ適用セラル第三款ノ規定ハ單ニ支拂ノ方法ヲ規定スルニ止マル

同盟國若ハ聯合國、其ノ殖民地若ハ保護國又ハ英國ノ一自治領若ハ印度ニ於テ第三款ヲ採用スルコトノ宣言ヲ爲サザリシ場合ニ於テハ其ノ同盟國若ハ聯合國、其ノ殖民地若ハ保護國又ハ其ノ英國自治領若ハ印度ト獨逸國トノ間及雙方ノ國民相互間ニ於テ第二百九十七條ニ規定スル事項ノ處理ニ當リ支拂ニ用ウヘキ通貨並爲替相場及利率ニ關スル第三款ノ規定ハ當該同盟國又ハ聯合國ノ政府カ本條約實施後六月以内ニ此ノ規定ノ適用ナキ旨ヲ獨逸國ニ通告スルニ非サレハ之ヲ適用ス

十五

第二百九十七條及本附屬書ノ規定ハ同盟國又ハ聯合國ニ於ケル戰時特別法令ニ依リ又ハ第二百九十七條(ロ)號ノ規定ニ依リ財産、權利、利益、會社又ハ事業ノ清算中ニ處理セラレ又ハ處理セラルヘキ工業所有權並文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニ之ヲ適用ス

第五款 契約、時効、判決

約ニハ之ヲ適用セス又第三百五條ハ亞米利加合衆國又ハ其ノ國民ニハ之ヲ適用セス

(ニ) 當事者ノ一方カ一地域ノ住民タル故ヲ以テ當事者カ敵人タリシ契約ニ付テハ其ノ地域ノ主權カ移轉セラレ其ノ當事者ノ一方カ本條約ニ依リ同盟國又ハ聯合國ノ國籍ヲ取得スルトキハ本條及本款附屬書ノ規定ハ之ヲ適用セス當事者ノ一方カ敵ノ占領ニ係ル同盟國又ハ聯合國ノ地域内ニ居住シタル故ヲ以テ相互間ノ取引ヲ禁止セラレタリシ場合ニ於ケル同盟及聯合國ノ國民間ノ契約ニ付テハ右規定ハ亦之ヲ適用セス

(ホ) 敵人間ノ契約ニ從ヒ適法ニ行ハレタル取引カ交戰國ノ一方ノ認許ノ下ニ行ハレタル場合ニ於テハ其ノ取引ハ本條又ハ本款附屬書ノ規定ニ依リ無効ト爲ルコトナシ

第三百條

(イ) 一切ノ時効期間又ハ出訴期間ハ其ノ進行ノ開始カ開戦前ナルト開戦後ナルトヲ問ハズ敵人間ノ關係ニ付テハ各締約國ノ版圖内ニ於テ戰時中其ノ進行ヲ停止シタルモノト看做ス其ノ期間ハ本條約實施後少クトモ三月ヲ經過シタル時ヨリ更ニ其ノ進行ヲ始ム本號ノ規定

第二百九十九條

(イ) 本條及本款附屬書ニ掲ケル特定ノ契約又ハ特定ノ種類ノ契約ニシテ除外例又ハ特別ノ定アルモノヲ除クノ外敵人間ノ契約ハ當事者中ノ何レカノ二人カ敵人ト爲リタル時ヨリ效力ヲ失ヒタルモノト看做ス但シ其ノ契約ニ基キ金錢ノ支拂ヲ爲シ又ハ行爲ヲ爲シタルニ因リ生スル金錢債務其ノ他ノ金錢上ノ債務ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

(ロ) 當事者ノ一方ノ屬スル同盟國又ハ聯合國ノ政府カ公益ノ爲本條約實施後六月以内ニ履行ヲ必要トスル契約ハ本條ニ依リ效力ヲ失フコトナシ

(ハ) 亞米利加合衆國、伯刺西爾國及日本國ノ憲法及法律ノ規定ニ顧ミ本條、第三百條及本款附屬書ノ規定ハ此等諸國ノ國民ト獨逸國民トノ間ニ締結セラレタル契約ハ利札若ハ配當證ノ呈示ニ付又ハ當籤其ノ他ノ事由ニ因リ償還セラルヘキ有價證券ノ拂戻ヲ受ケル爲ノ呈示ニ付定メラレタル期間ニ之ヲ適用ス

(ロ) 戰時中或行爲ヲ爲スコト又ハ或形式ヲ履ムコトヲ怠リタルカ爲獨逸國ノ版圖内ニ於テ執行處分行ハレ同盟國又ハ聯合國ノ國民カ損害ヲ受ケタル場合ニ若シ其ノ事件カ同盟國又ハ聯合國ノ通常裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ該國民ハ其ノ請求ニ付第六款ニ定ムル混合仲裁裁判所ノ審理ヲ求ムルコトヲ得

(ハ) 同盟國又ハ聯合國ノ國民タル利害關係人ノ請求ニ因リ混合仲裁裁判所ハ當該事件ノ特殊ノ事情ヲ斟酌シ原狀回復カ平衡ニシテ可能ナリト認メタルトキハ前號ニ規定スル執行處分ニ因リ侵害セラレタル權利ノ原狀回復ヲ命スヘシ

若シ原狀回復カ不衡平ナルカ又ハ不可能ナルトキハ混合仲裁裁判所ハ被害當事者ニ對シ獨逸國政府ヨリ支拂ハルヘキ賠償ヲ與フルコトヲ命スルコトヲ得

(ニ) 敵人間ノ契約ノ當事者ノ一方カ其ノ契約ノ條項ヲ履行セス又ハ契約中ニ定ムル權利ヲ行使シタル爲其ノ契

約解除セラレタル場合ニ於テハ損害ヲ受ケタル當事者ハ混合仲裁裁判所ニ其ノ救済ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ混合仲裁裁判所ハ前號ニ定ムル權能ヲ有ス

(ホ) 前各號ノ規定ハ侵入地域内又ハ占領地域内ニ於テ獨逸國カ行ヒタル前記ノ措置ニ因リ損害ヲ受ケタル同盟及聯合國ノ國民カ他ノ方法ニ依リ賠償ヲ受ケザリシ場合ニ之ヲ準用ス

(ヘ) 獨逸國ハ前各號ノ規定ニ依リ混合仲裁裁判所ノ命シタル現物回收又ハ原狀回復ニ因リ損害ヲ受ケタル第三者ニ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

(ト) 流通證券ニ付テハ(イ)號ニ定ムル三月ノ期間ハ流通證券ニ關シ關係國ノ版圖内ニ於テ施行セラレタル戰時特別法カ確定のニ其ノ效力ヲ失フ日ヨリ始マル

第三百一條

敵人間ニ於テハ戰前ニ作成シタル流通證券ハ所要ノ期間内ニ引受又ハ支拂ノ爲ニスル證券ノ呈示ヲ爲サズ振出人若ハ裏書人ニ對スル引受拒絕若ハ支拂拒絕ノ通知ヲ爲サス又ハ拒絕證書ノ作成ヲ爲サス其ノ他戰時中或形式ヲ履行セザリシ故ノミヲ以テ失効シタルモノト看做サルルコト

ナシ

引受又ハ支拂ノ爲ニスル流通證券ノ呈示、振出人若ハ裏書人ニ對スル引受拒絕若ハ支拂拒絕ノ通知又ハ拒絕證書ノ作成ヲ爲スヘキ期間カ戰時中經過シ且證券ノ呈示、拒絕證書ノ作成又ハ引受拒絕若ハ支拂拒絕ノ通知ヲ爲スヘキ當事者カ戰時中之ヲ爲サザリシ場合ニ於テハ證券ノ呈示、引受拒絕若ハ支拂拒絕ノ通知又ハ拒絕證書ノ作成ヲ爲ス爲本條約實施後三月ヲ下ラサル期間ノ猶豫ヲ與フヘシ

第三百二條

同盟國又ハ聯合國ノ通常裁判所カ本條約ニ依リ管轄權ヲ有スル事件ニ付爲シタル判決ハ獨逸國內ニ於テ確定ノモノトシテ之ヲ承認シ且執行判決ヲ須井スシテ之ヲ執行スヘシ

獨逸國裁判所カ同盟國又ハ聯合國ノ國民カ防禦ヲ爲スコト能ハザリシ事件ニ於テ爭議ニ關シ戰時中其ノ國民ニ不利益ノ判決ヲ爲シタルトキハ其ノ判決ニ因リ損害ヲ受ケタル同盟及聯合國ノ國民ハ之ニ對シ第六款ニ規定スル混合仲裁裁判所ノ定ムル賠償ヲ受ケタルノ權利ヲ有ス

同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ請求ニ因リ前項ノ賠償ハ混合仲裁裁判所ノ發スル命令ニ基キ實行可能ナル限り各當事者ニ獨逸國裁判所ノ判決前ノ地位ヲ回復セシムルニ依リテ之ヲ行フコトヲ得

前記ノ賠償ハ侵入地域内又ハ占領地域内ニ於ケル司法上ノ措置ニ因リ損害ヲ受ケタル同盟國又ハ聯合國ノ國民カ他ノ方法ニ依リ賠償ヲ受ケザリシ場合ニ其ノ國民ハ混合仲裁裁判所ニ出訴シテ之ヲ受クルコトヲ得

第三百三條

本編第三款乃至第五款及第七款ニ「戰時中」ト稱スルハ各同盟國又ハ聯合國ニ付其ノ國ト獨逸國トノ間ニ戰爭狀態開始ヨリ本條約實施ニ至ル迄ノ期間ヲ謂フ

附屬書

第一 一般規定

一 契約當事者間ノ取引カ其ノ當事者ノ一方ノ服從スル法律、命令又ハ規則ニ依リ禁止セラレ其ノ他不法ト爲リタルトキハ其ノ契約當事者ハ第二百九十九條乃至第三百一

條ニ謂フ敵人ニシテ其ノ間ノ取引カ禁止セラレ其ノ他不法ト爲リタル日ヨリ敵人ト爲リタルモノト看做ス

二

左ニ掲クル契約ハ第二百九十九條ノ規定ニ拘ラス戰時中同盟及聯合國ノ制定シタル國內ノ法律、命令又ハ規則及契約ノ條項ニ從ヒテ其ノ效力ヲ存續ス但シ第四款第二百九十七條(ロ)號ニ規定スル權利ニ影響スルコトナシ

(イ) 動産、不動産其ノ他ノ財産權ノ讓渡ヲ目的トスル契約ニシテ當事者カ敵人ト爲ルニ先チ權利ノ移轉又ハ目的物ノ引渡ヲ了シタルモノ

土地及家屋ノ賃貸借及賃貸借ヲ目的トスル契約

抵當權、質權其ノ他ノ擔保ノ契約

鑛山、採石場又ハ埋藏鑛物ニ關スル特許契約

(ホ)(ニ)(ハ)(ロ) 個人又ハ會社ト國、州、都市其ノ他之ト類似ノ法人ニシテ行政上ノ職能有スルモノノ許與シタル特許

三 能ヲ有スルモノノ許與シタル特許

契約ノ條項ノ一部カ第二百九十九條ニ依リ無効ト爲リタ

ル場合ニ若シ其ノ契約ノ條項カ分割シ得ヘキモノナルトキハ殘餘ノ條項ハ二ト同シク國內ノ法令ニ從ヒテ其ノ效力ヲ存續ス若シ其ノ契約ノ條項カ分割シ得サルモノナルトキハ其ノ契約ハ全部無効ト爲リタルモノト看做ス

第二 特種ノ契約ニ關スル規定

株式取引所及商品取引所ノ契約

四

(イ) 公認ノ取引所又ハ商事組合カ戰時中制定シタル規則ニシテ戰前ニ敵人ノ締結シタル契約ノ清算ヲ規定スルモノ及其ノ規則ニ從ヒ執リタル措置ハ締約國之ヲ確認ス尤モ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

(一) 其ノ契約ハ當該取引所又ハ組合ノ規則ニ從ヒ締結スルコトヲ明示シタルモノナルコト

(二) 當該規則カ一切ノ關係者ニ適用セラレタルモノナルコト

(三) 契約清算ニ關スル條件カ公平且妥當ナリシコト

(ロ) 前號ノ規定ハ敵ノ占領シタル地域内ノ取引所又ハ商事組合カ占領期間内ニ執リタル措置ニ之ヲ適用セス

(ハ) 「リヴァプール」棉花協會ノ決議ニ依リ千九百十四年七月三十一日ニ行ハレタル棉花先物契約ノ清算モ亦之ヲ確認ス

擔保物

五

敵人ノ未拂金錢債務ノ擔保物ノ賣却ハ債權者カ善意ニ且相當ノ注意ヲ以テ之ヲ行ヒタルモノナルトキハ所有者ニ其ノ賣却ヲ通知シタルト否トニ拘ラス之ヲ有效ナリシモノト看做シ其ノ賣却ヲ理由トスル債務者ノ要求ハ之ヲ認メス右ノ規定ハ敵ノ侵入又ハ占領ニ係ル地域内ニ於テ占領期間内ニ敵ノ行ヒタル擔保物ノ賣却ニハ之ヲ適用セス

流通證券

六

流通證券ノ發行ニ因リテ生シ敵人間ニ存スル金錢上ノ債務ハ本編第三款及其ノ附屬書ヲ採用シタル諸國ニ付テハ該附屬書ニ從ヒ清算所ノ仲介ニ依リテ之ヲ處理ス清算所ハ所持人ノ爲ニ存スル諸種ノ救済ニ關シ所持人ノ權利ヲ行使ス

七

戰前又ハ戰時中流通證券上ノ債務ヲ負擔シタル者カ後ニ至リ敵人ト爲リタル者ノ擔保約束ニ因リテ其ノ債務ヲ負擔シタルモノナルトキハ其ノ債務負擔者ニ對スル擔保者ノ賠償ノ責任ハ戰爭開始ニ拘ラス存續ス

第三 保險契約

八

當事者ノ一方カ後ニ至リ敵人ト爲リタル保險契約ハ左ノ規定ニ依リ之ヲ處理ス

火災保險

九

當該財產ノ利害關係人ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ成立シタル火災保險契約ハ戰爭ノ開始ニ因リ又ハ當事者カ敵人ト爲リタルニ因リ又ハ戰時中及戰後三月ノ期間内ニ於ケル契約上ノ義務ノ不履行ニ因リ失效シタルモノト看做サルコトナシ但シ本條約實施後三月ノ期間満了後ニ於ケル最初ノ年掛保險料ノ支拂期日カ到來シタルトキハ該契約ハ失效スルモノトス

十

戰前ニ成立シタル火災保險カ戰時中行政行為又ハ立法行為ニ依リ原保險者ヨリ他ノ保險者ニ移轉シタル場合ニ於テハ其ノ移轉ハ之ヲ有效トシ原保險者ノ義務ハ移轉ノ日ヨリ消滅シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テモ原保險者ハ要求ニ因リ移轉ノ條件ニ關シ詳細ナル報告ヲ受クルコトヲ得ヘク且其ノ條件衡平ナラスト認メラルル場合ニ於テハ之ヲ衡平ナラシムルニ必要ナル限度ニ於テ其ノ條件ヲ修正スルコトヲ得

生命保險

十一

保險者ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ成立シタル生命保險契約ハ戰爭ノ開始又ハ該保險契約者カ敵人ト爲リタルコトニ因リ失效シタルモノト看做サルコトナシ右ノ規定ニ基キ失效セサルモノト看做サルル契約上ノ金額

ニシテ戰時中支拂ヲ要スルニ至リタルモノハ支拂ヲ要スルニ至リタル日ヨリ支拂當日ニ至ル迄年五分ノ利息ヲ附シテ戰爭終了後之ヲ取立ツルコトヲ得

契約カ戰時中保險料不拂ノ爲消滅シ又ハ契約條件違反ノ爲失効シタル場合ニ於テハ被保險者、其ノ代理人又ハ權利者ハ本條約實施後十二月以内ニ於テ何時ニテモ保險者ニ對シ契約ノ消滅又ハ失効ノ日ニ於ケル保險證券ノ解約價額ヲ請求スルコトヲ得

戰時措置ノ施行ニ依リ保險料ノ支拂ヲ禁止セラレタル爲保險料ノ不拂ヲ生シ戰時中契約ノ消滅シタル場合ニ於テハ被保險者、其ノ代理人又ハ權利者ハ本條約實施後三月以内ニ保險料二年五分ノ利息ヲ附シタル金額ヲ支拂ヒテ契約ヲ復活スルノ權利ヲ有ス

十二

各同盟國又ハ聯合國ハ本條約實施後三月以内ニ獨逸保險會社ト自國民トノ間ニ存スル一切ノ生命保險契約ヲ自國民ニ何等損害ヲ生セシメサル條件ニテ取消スコトヲ得此ノ目的ノ爲ニ獨逸保險會社ハ關係同盟國又ハ聯合國ノ政府ニ前記取消保險證券ニ歸屬セシムヘキ部分ノ資産

十五

人命ノ推算ト利率トヲ當事者相互間ノ約定ノ基礎トスル保險契約ハ本附屬書十一乃至十四ノ適用ニ付テハ之ヲ生命保險契約ト看做ス

海上保險

十六

保險者ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ成立シタル海上保險契約(定期保險及航海保險ヲ含ム)ハ保險契約者カ敵人ト爲リタルニ因リ失効シタルモノト看做ス但シ契約ニ定メタル保險者ノ責任カ保險契約者ノ敵人ト爲リタル前ニ始マリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
保險者ノ責任カ始マラサリシ場合ニ於テハ支拂ヒタル保險料其ノ他ノ金額ハ保險者之ヲ拂戻スコトヲ要ス
保險者ノ責任カ始マリタル場合ニ於テハ保險契約者カ敵人ト爲リタルニ拘ラス契約ハ之ヲ有效トシ其ノ契約ニ從ヒ保險料又ハ損害填補トシテ支拂ハルヘキ金額ハ本條約實施後之ヲ取立ツルコトヲ得

交戰國ノ國民ニ對シ又ハ交戰國ノ國民カ戰前支拂ヲ要シタル金額ニシテ戰後支拂行ハレタルモノニ對シ利息ヲ支拂

ヲ交付シテ其ノ保險證券ニ關スル一切ノ責任ヲ免ルルコトヲ得交付セラルヘキ資産ハ混合仲裁裁判所ノ任命スル保險技師之ヲ決定スヘシ

十三

後ニ至リ敵國ト爲リタル國ニ設立セラレタル保險會社ノ支店ノ締結シタル生命保險契約ノ效力ハ契約ニ反對ノ規定アル場合ヲ除ク外其ノ支店所在地ノ法令ニ依ル但シ保險者ハ若シ戰時中執リタル措置ニ基キ爲サレ又ハ強制セラレタル請求カ契約ノ條項ニ適合セス又ハ契約締結當時ニ於ケル法令又ハ條約ニ違反スルトキハ被保險者又ハ其ノ代理人ニ對シ其ノ請求ニ基キ支拂ヒタル金額ノ拂戻ヲ請求スルノ權利ヲ有ス

十四

當該契約ニ適用スヘキ法令ノ規定上保險料ノ不拂ニ拘ラス被保險者ニ契約解除ノ通知ヲ爲ス迄ハ保險者カ引續キ契約ニ依リ拘束セラルヘキ場合ニ戰爭ノ爲其ノ通知ヲ爲スコト能ハサリシモノナルトキハ保險者ハ被保險者ニ對シ未拂保險料二年五分ノ利息ヲ附シテ支拂ヲ爲スヘキコトヲ請求スルノ權利ヲ有ス

十七

フヘキ合意成立シタルトキハ該利息ハ海上保險契約ニ依リ損害ノ填補ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ損害發生以後一年ノ期間滿了シタル時ヨリ之ヲ附スヘシ

十七

後ニ至リ敵人ト爲リタル被保險者トノ海上保險契約ハ保險者ノ屬スル國又ハ其ノ國ノ同盟國若ハ聯合國ノ戰爭行爲ニ基ク損害ヲ擔保スルモノト看做スコトヲ得ス

十八

後ニ至リ敵人ト爲リタル保險者ト戰前ニ於テ海上保險契約ヲ締結シタル者カ戰爭開始後敵人ニ非サル保險者ト同一ノ危險ヲ目的トスル新契約ヲ締結シタル場合ニ於テハ其ノ新契約ハ成立ノ日ヨリ原契約ニ代リタルモノト看做サルヘク且保險料ノ支拂ハ原保險者カ新契約成立ノ時ニ至ル迄契約上ノ義務ヲ有シタルコトヲ基礎トシテ精算セララルヘシ

其ノ他ノ保險

十九

保險者ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ戰前成立シタル保險契約ニシテ本附屬書九乃至十八ニ規定シタル以

外ノモノハ一切ノ關係ニ付同一ノ當事者間ノ火災保險カ前記ノ規定ニ依リ取扱ハルルト同一ノ基礎ニ於テ取扱ハルヘシ

再保險

二十

後ニ至リ敵人ト爲リタル者ト爲シタル一切ノ再保險契約ハ其ノ者カ敵人ト爲リタルニ因リテ失效シタルモノト看做ス但シ生命又ハ海上ノ危險ノ責任カ戰前始マリタル場合ニ於テハ戰後其ノ危險ニ關シ支拂ハルヘキ金額ノ支拂ヲ受クルノ權利ニ影響スルコトナシ

敵軍侵入ノ爲再保險契約者カ他ノ再保險者ヲ得ルコト能ハサリシ場合ニ於テハ右ノ規定ニ拘ラス再保險契約ハ本條約實施後三月間引續キ其ノ效力ヲ有ス

再保險契約カ本規定ニ依リ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ生命又ハ海上ノ危險ノ責任カ戰前始マリタルトキノ其ノ危險ニ關スル損害填補ノ債務並既拂及未拂ノ再保險料ニ付當事者相互間ニ計算ノ決濟ヲ爲スコトヲ要ス本附屬書十一乃至十八ニ規定スル以外ノ危險ニ付テハ當事者カ敵人ト爲リタル日ノ計算ヲ以テ計算ノ決濟ヲ爲スヘク其ノ

日以後ニ生スルコトアルヘキ損害ニ對スル請求ハ之ヲ加算スルコトヲ要セス

二十一

本附屬書二十ノ規定ハ當事者カ敵人ト爲リタル日ニ存在シタル再保險ニシテ生命又ハ海上ノ危險ニ非サル危險ヲ目的トシタル保險契約ニ因リテ保險者カ負擔シタル特定ノ危險ニ關スルモノニ均シク之ヲ準用ス

二十二

特別契約ニ依リテ成立シ一般契約ニ依ラサル生命再保險ハ引續キ效力ヲ有ス

本附屬書十二ノ規定ハ敵國會社カ再保險者タル生命保險ノ再保險契約ニ之ヲ準用ス

二十三

海上保險契約ノ再保險カ戰前ニ成立シタル場合ニ再保險者ニ移轉セラレタル責任カ戰前ノ開始前ニ始マリタルトキハ其ノ責任ノ移轉ハ有效ニシテ且戰爭ノ開始ニ拘ラス契約ハ其ノ效力ヲ有ス又再保險契約ニ依ル再保險料又ハ損害填補トシテ支拂フヘキ金額ハ戰後之ヲ取立ツルコトヲ得

二十四

本附屬書十七、十八及十六末段ノ規定ハ海上再保險契約ニ之ヲ準用ス

第六款 混合仲裁裁判所

第三百四條

(イ) 本條約實施後三月以内ニ同盟國又ハ聯合國ノ各一國ト獨逸國トノ間ニ各一箇ノ混合仲裁裁判所ヲ設置ス該裁判所ハ三名ノ審判員ヲ以テ之ヲ構成ス關係國政府ハ各右三名ノ審判員中一名ヲ任命シ審判長ハ兩關係國政府ノ合意ニ依リ之ヲ選任ス

前記ノ合意成立セサルトキハ國際聯盟理事會ニ於テ審判長及必要ノ場合ニ之ニ代ルヘキ者二名ヲ選任ス同理事會ノ設立セラレル迄ハ「ギニスターヴ、アドール」氏ニシテ承諾スルニ於テハ同氏之ヲ選任ス上記ノ審判長及之ニ代ルヘキ者ハ本戰爭中ノ中立國國民タルコトヲ要ス審判員ノ關員アル場合ニ關係國政府カ一月ノ期間内ニ之ヲ任命スル手續ヲ爲ササルトキハ他ノ關係國政府審判長ニ代ルヘキ前記ノ二名中ヨリ其ノ審判員ヲ選任

混合仲裁裁判所ノ判定ハ審判員ノ過半数ノ決定ニ依ル

(ロ) 前號ノ規定ニ依リ設置シタル混合仲裁裁判所ハ本編第三款乃至第五款及第七款ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬スル一切ノ事件ヲ審判ス

前記ノ外同盟國又ハ聯合國ノ國民ト獨逸國民トノ間ニ本條約實施前ニ成立シタル契約ニ關スル一切ノ事件ハ其ノ性質ノ如何ヲ問ハス混合仲裁裁判所之ヲ審判ス但シ同盟國、聯合國又ハ中立國ノ法令ニ依リ此等ノ國ノ通常裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ハ之ヲ審判スルノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ混合仲裁裁判所ヲ排除シテ當該通常裁判所之ヲ管轄ス尤モ同盟國又ハ聯合國ノ國民タル當事者ハ其ノ國ノ法令ニ依リ禁止セラレサル限リ混合仲裁裁判所ニ事件ヲ提起スルコトヲ得

(ハ) 事件數ニ應シ必要ナル場合ニ於テハ審判員ノ増員ヲ行ヒ且各混合仲裁裁判所ヲ數部ニ分ツコトヲ得各部ノ構成ハ前記ノ規定ニ依ル

(ニ) 各混合仲裁裁判所ハ本條附屬書ニ規定スル場合ヲ

除キ各其ノ手續ノ準則ヲ定メ且手續ノ費用ニ付敗訴者ノ支拂フヘキ額ヲ決定スルノ權能ヲ有ス

(ホ) 各國政府ハ其ノ任命ニ係ル混合仲裁裁判所審判員及該裁判所ニ於テ各自國政府ヲ代表セシムル爲任命スル代理人ノ報酬ヲ支辨ス審判長ノ報酬ハ關係國政府間ノ特別取極ニ依リテ之ヲ決定シ且此ノ報酬及各混合仲裁裁判所共同ノ費用ハ兩國政府ニ於テ折半シテ之ヲ支辨ス

(ヘ) 締約國ハ各自ノ通常裁判所及官憲ヲシテ直接ニ混合仲裁裁判所ニ對シ通知書ノ送達及證據ノ蒐集其ノ他權能ハ範圍内ニ於テ一切ノ助力ヲ爲サシムルコトヲ約ス

(ト) 締約國ハ混合仲裁裁判所ノ判定ヲ終結且確定ノモノト認メ各自ノ國民ニ對シ拘束力ヲ有セシムルコトヲ約ス

混合仲裁裁判所ノ審判員カ死亡シ退職シ又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ執務不能ト爲リタルトキハ其ノ審判員ノ任命ニ付執リタルト同一ノ手續ニ依リ之カ補闕ヲ爲スヘシ

附屬書

一

依リ同裁判所ニ提起セラレタル一切ノ爭議及事項ニ付判定ヲ爲ス

七

獨逸國ハ混合仲裁裁判所ニ其ノ審理ニ必要ナル一切ノ便宜及參考資料ヲ供與スルコトヲ約ス

八

別段ノ合意アル場合ヲ除ク外混合仲裁裁判所ニ於ケル用語ハ關係同盟國又ハ聯合國ノ定ムル所ニ從ヒ英吉利語、佛蘭西語、伊太利語又ハ日本語トス

九

各混合仲裁裁判所開廷ノ場所及日時ハ當該混合仲裁裁判所審判長之ヲ定ム

第三百五條

本編第三款乃至第五款又ハ第七款ニ依ル事件ニ關シ管轄權ヲ有スル通常裁判所カ判決ヲ與ヘタル又ハ與フル場合ニ於テ其ノ判決カ右諸款ノ規定ト抵觸スルトキハ其ノ判決ニ因リ損害ヲ受ケタル當事者ハ混合仲裁裁判所ノ定ムル救済ヲ受クルノ權利ヲ有ス同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ請求アルトキハ混合仲裁裁判所ハ獨逸國裁判所ノ下シ

二

混合仲裁裁判所ハ正義衡平ニ適合スル手續ノ準則ヲ採用シ各當事者ノ辯論ノ順序及時期ヲ定メ且證據調ニ必要ナル一切ノ手續ヲ定ムルコトヲ得

三

各當事者ノ代理人及辯護人ハ各事件ニ付請求ヲ維持シ又ハ防禦ヲ爲ス爲口頭及書面ニ依リ混合仲裁裁判所ニ陳述ヲ爲スノ權利ヲ有ス

四

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ提起セラレタル爭議及事件並日附アル之ニ關スル審理手續ノ記録ヲ保存スヘシ

五

關係國ハ各自事務官一名ヲ任命スルコトヲ得各關係國ノ任命シタル事務官ハ混合仲裁裁判所ノ混合書記局ヲ構成シ裁判所ノ指揮ヲ受クヘシ混合仲裁裁判所ハ職務ノ執行ヲ補助セシムルカ爲必要ナル他ノ一名又ハ數名ノ職員ヲ任命使用スルコトヲ得

六

混合仲裁裁判所ハ當事者ノ提出スル證據及參考資料ニタル判決以前ノ各當事者ノ地位ヲ回復セシムルコトニ依リ成ルヘク右救済ヲ行フヘシ

第七款 工業所有權

第三百六條

第二百八十六條記載ノ巴里同盟條約及「ベルヌ」條約ニ規定シタル工業所有權並文學的及美術的著作物ニ關スル權利ハ戰爭狀態開始當時ノ受益者又ハ其ノ承繼人ノ爲ニ本條約實施ノ時ヨリ各締約國ノ範圍内ニ於テ之ヲ回復ス但シ本條約ニ別段ノ規定アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス戰爭ナカリセハ工業所有權保護ノ出願ニ依リ又ハ文學的若ハ美術的著作物出版ノ結果戰時中ニ於テ取得シ得ヘカリシ權利モ亦其ノ權利ヲ有シタルヘキ者ノ爲ニ本條約實施ノ時ヨリ之ヲ承認設定スヘシ

尤モ獨逸國民ノ有スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付戰時中同盟國又ハ聯合國ノ立法機關又ハ行政官廳ノ執リタル特別ノ措置ニ基ク一切ノ行爲ハ依然有效ニシテ且其ノ完全ナル效果ヲ保有スヘシ

獨逸國又ハ獨逸國民ハ戰時中同盟國若ハ聯合國ノ政府ニ於テ行ヒ又ハ該政府以外ノ者カ政府ノ爲ニ若ハ其ノ同意ヲ得テ行ヒタル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ利用ニ付何等ノ請求ヲ爲シ又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス該權利ノ實施ニ因リ生シタル一切ノ生産品、裝置、物品又ハ作品ノ販賣、販賣ノ提供又ハ使用ニ付亦同シ

同盟國又ハ聯合國ノ一國ニ於テ本條約署名當時ノ法令ニ別段ノ規定ナキトキハ本條第一項ニ定メタル特別ノ措置ノ實行ニ因ル一切ノ行爲ニ基キテ支拂ハルヘキ又ハ支拂ハレタル金額ハ獨逸國民ニ支拂ハルヘキ他ノ債權ニ付本條約ノ規定スル所ト同様ニ之ヲ處理スヘク又同盟國若ハ聯合國ノ國民ノ有スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付獨逸國政府ノ執リタル特別ノ措置ニ依リ生シタル金額ハ獨逸國民ヨリ支拂ハルヘキ他ノ一切ノ金錢債務ト同視シ之ト同様ノ取扱ヲ爲スヘシ

同盟國又ハ聯合國ハ國防上若ハ公益上ノ必要ノ爲又ハ同盟國若ハ聯合國ノ國民カ獨逸國ノ版圖内ニ於テ有スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利

其ノ他ノ處置ニシテ本條ノ目的ヲ阻礙スヘキモノハ之ヲ無効トスルノ權利ヲ留保ス

本條ノ規定ハ同盟國又ハ聯合國ノ戰時特別法令ニ依リ清算セラレタル又ハ第二百九十七條(ロ)號ニ依リ清算ヲ行フコトアルヘキ會社又ハ企業ニ屬スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ之ヲ適用セス

第三百七條

締約國國民ハ千九百十四年八月一日前ニ於テ取得シ又ハ戰爭ナカリセハ戰前若ハ戰時中ノ出願ニ依リ同日以後ニ於テ取得シ得ヘカリシ工業所有權ノ取得、保存又ハ之ニ關スル異議ノ申立ニ付本條約實施ノ時ヨリ一年ヲ下ラサル期間内ニ於テ何等ノ附加金又ハ過息金ヲ徵收セラルルコトナク一切ノ行爲ヲ追完シ、手續ヲ履行シ、料金を納付シ其ノ他當該國法令ノ定ムル一切ノ義務ヲ履行スルコトヲ得但シ本條ノ規定ハ亞米利加合衆國ニ於テ最終ノ審問ヲ終リタル抵觸審判ノ再開ヲ請求スルノ權利ヲ與フルコトナシ

工業所有權ニシテ其ノ行爲ノ追完、手續ノ履行又ハ料金を納付ヲ怠リタルノ事由ニ因リ一旦失効シタルモノハ其ノ

ニ付獨逸國ノ公正ナル取扱ヲ確保スル爲又ハ本條約ニ依リ獨逸國ノ約定シタル一切ノ義務ノ完全ナル履行ヲ保障スル爲其ノ國ノ法令ニ從ヒ獨逸國民カ戰前若ハ戰時中ニ取得シ又ハ戰後ニ取得スルコトアルヘキ工業所有權(製造標若ハ商標ニ關スルモノヲ除ク)又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ヲ實施シ其ノ實施ヲ免許シ又ハ其ノ實施ニ對シ監督權ヲ行使シ及其ノ他必要ナリト認ムル期限條件又ハ制限等ヲ附スルノ權利ヲ留保ス本條約實施後取得セラルヘキ工業所有權並文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニ付テハ同盟國又ハ聯合國ノ留保シタル上記ノ權利ハ國防上又ハ公益上期限、條件若ハ制限ヲ附スルコトヲ必要ナリト認ムル場合ニ限り之ヲ行使スルコトヲ得

同盟國又ハ聯合國カ前項ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ之カ爲相當ノ補償金又ハ使用料ヲ支拂フコトヲ要ス右補償金又ハ使用料ハ本條約ノ規定ニ依リ獨逸國民ニ支拂ハルヘキ他ノ金額ト同様ニ之ヲ處理スヘシ

同盟國又ハ聯合國ハ千九百十四年八月一日以後ニ行ハレ又ハ將來行ハルルコトアルヘキ工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ全部若ハ一部ノ移轉

效力ヲ回復スヘシ但シ特許及意匠ニ關スルモノニ付テハ其ノ失効シタリシ期間内ニ該特許又ハ意匠ヲ實施シ又ハ使用シタル者ノ權利ヲ保護スルカ爲同盟國又ハ聯合國ニ於テ公正ノ見地ヨリ必要ト認ムル措置ヲ執ルコトヲ得ヘク又獨逸國民ノ有スル特許權又ハ意匠ニシテ本條ノ規定ニ依リ回復シタルモノハ實施ノ許諾ニ付テハ戰時中ニ之ヲ適用スヘカリシ規定及本條約ノ一切ノ規定ニ從フヘシ

千九百十四年八月一日ヨリ本條約實施ニ至ル迄ノ期間ハ特許ノ實施又ハ製造標若ハ商標又ハ意匠ノ使用ニ付定メラレタル期間中ニ之ヲ算入セス千九百十四年八月一日ニ於テ有效ナリシ特許、製造標若ハ商標又ハ意匠ハ本條約實施後二年ノ期間滿了ニ至ル迄單ニ其ノ不實施又ハ不使用ノ事由ノミニ依リ取消サレ又ハ失効スルコトナシ

第三百八條

發明ノ特許出願又ハ實用新案、製造標若ハ商標並意匠及雛形ノ登録出願ニ關シ千九百十一年華盛頓ニ於テ改正セラレタル千八百八十三年三月二十日ノ工業所有權保護ニ關スル巴里同盟條約第四條其ノ他ノ條約又ハ法律ニ於テ規定シタル優先期間ニシテ千九百十四年八月一

日ニ於テ滿了ニ至ラサリシモノ及戰時中ニ於テ開始シタルモノ又ハ戰爭ナカリセハ開始シ得ヘカリシモノハ各締約國ニ於テ他ノ締約國ノ一切ノ國民ノ爲本條約實施後六月ノ期間滿了ニ至ル迄之ヲ延長ス

尤モ前項期間ノ延長ニ因リ右優先期間ヲ援用シテ其ノ權利ヲ主張スル者アル場合ニ於テモ本條約實施ノ時善意ニ工業所有權ヲ占有シタル各締約國又ハ其ノ國民カ自己又ハ本條約實施前ニ其ノ權利ヲ取得シタル代理人若ハ實施權者ニ依リ其ノ權利ヲ行使スルコトヲ妨ケス且侵害ノ訴追ヲ受ケ其ノ他ノ手續ニ服スルコトナシ

第三百九條

獨逸國ノ國民又ハ其ノ版圖内ニ於テ居住シ若ハ營業ニ從事スル者及同盟國若ハ聯合國ノ國民又ハ其ノ版圖内ニ於テ居住シ若ハ營業ニ從事スル者並戰時中其ノ權利ヲ取得シタル者ハ宣戰ノ日ヨリ本條約實施ノ日ニ至ル迄ノ間ニ於テ相互ノ版圖内ニ生シタル事實ニシテ戰時中或時期ニ於テ存在シ又ハ前二條ノ規定ニ依リ回復セラレタル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ侵害ト看做サルヘキコトヲ理由トシテ何等ノ訴訟又ハ請求

ヲ爲スコトヲ得ス

宣戰ヨリ本條約署名ニ至ル迄ノ間ニ於ケル生産品若ハ製造シタル物品又ハ公ニシタル文學的若ハ美術的著作物ノ本條約署名後一年ノ期間内ニ於ケル一方ニ於テハ同盟國又ハ聯合國ノ版圖内ノ他方ニ於テハ獨逸國ノ版圖内ノ販賣若ハ販賣ノ提供ニ付如何ナル場合ニ於テモ工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ侵害ニ對スル訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス前記ノ物ノ取得若ハ使用ノ繼續ニ付亦同シ本項ノ規定ハ右權利者カ戰時中獨逸國ノ占領シタル地方ニ於テ其ノ住所又ハ工場若ハ商館ヲ有シタル場合ニ之ヲ適用セス

第三百十條

本條ハ亞米利加合衆國ト獨逸國トノ間ニ之ヲ適用セス
同盟國若ハ聯合國ノ國民又ハ其ノ版圖内ニ於テ居住シ若ハ營業ニ從事スル者ト獨逸國民トノ間ニ於テ工業所有權ノ實施許諾又ハ文學的若ハ美術的著作物ノ複製許諾ニ關シ宣戰前ニ締結シタル契約ハ獨逸國及同盟國又ハ聯合國間ニ於ケル宣戰ノ日ニ溯リ其ノ解除アリタルモノト看做ス但シ何レノ場合ニ於テモ前記契約ニ依リ從前ノ受益

ヒ獨逸國民ノ他ノ金錢債務又ハ金錢債權ト同様ニ之ヲ處理スヘシ
本條ハ亞米利加合衆國ト獨逸國トノ間ニ之ヲ適用セス

第三百十一條

本條約ニ依リ獨逸國ヨリ分離シタル地域内ノ住民ハ該分離及之ニ基ク國籍ノ變更ニ拘ラス分離ノ當時獨逸國ノ法令ニ依リ有シタル一切ノ工業所有權並文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニ付引續キ獨逸國內ニ於テ完全ナル權利ヲ享有スヘシ

工業所有權並文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニシテ本條約ニ依リ獨逸國ヨリ分離シタル地域内ニ於テ分離ノ當時有效ナルカ又ハ第三百六條ノ規定ニ依リ回復シタルモノハ分離地域ヲ讓受ケタル國ニ於テ之ヲ承認スヘク且該地域内ニ於テ獨逸法令ニ依リ認メラレタルト同一期間其ノ效力ヲ保有スヘシ

第八款 讓渡地域内ニ於ケル社會保險及官營保險
第三百十二條

本條約ノ他ノ條項ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外獨逸

者ハ本條約實施後六月以内ニ於テ當該權利者ニ對シ右ノ實施又ハ複製ニ付新ナル許諾ヲ請求スルノ權利ヲ有ス當事者間ニ於テ右契約ノ條件ニ關スル協議調ハサルトキハ上記ノ權利ヲ取得シタル場合ニ於テ準據シタル法令ノ屬スル國ノ管轄裁判所之ヲ決定ス尤モ獨逸法令ニ基キ取得シタル權利ノ許諾ニ關スル契約ニ付テハ本編第六款ニ規定シタル混合仲裁裁判所ニ於テ其ノ條件ヲ決定スヘシ該裁判所ハ場合ニ依リ戰時中ニ於ケル右權利ノ使用ニ基ク補償金ニ付其ノ公正ト認ムル金額ヲモ定ムルコトヲ得同盟國又ハ聯合國ノ戰時特別法令ニ依リ與ヘラレタル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ實施ノ免許ハ戰前ノ許諾ノ繼續ニ依リ其ノ效力ヲ妨ケラルコトナク有效ニ存續シ且完全ナル效果ヲ保有スヘシ戰前ニ締結セラレタル許諾契約ニ依リ從前ノ受益者ニ對シ與ヘラレタル免許ハ戰前ノ許諾契約ニ代リタルモノト看做ス

工業所有權ノ實施又ハ文學的美術的著作物若ハ演劇脚本ノ複製若ハ興行ニ關スル戰前ノ契約又ハ許諾ニ付戰時中支拂ヒタル金額アルトキハ該金額ハ本條約ノ規定ニ從

國政府ハ獨逸國ノ歐羅巴内ノ版圖ノ讓渡ヲ受ケタル國及第一編(國際聯盟)第二十二條ニ依リ受任國トシテ獨逸國ノ從前ノ版圖ニ於テ施政ヲ行フ國ニ對シ獨逸帝國政府又ハ獨逸各邦政府若ハ其ノ管理ノ下ニ在ル公私ノ機關カ該地域内ニ於テ社會保險又ハ官營保險ヲ經營スル爲積立テタル部分ノ準備金ヲ引渡スコトヲ約ス此等基金ノ引渡ヲ受ケタル國ハ其ノ基金ヲ該保險ヨリ生スル義務履行ノ爲ニ使用スヘシ

引渡ノ條件ハ獨逸國政府ト關係國政府トノ間ニ締結セラレヘキ特別條約ニ依リ之ヲ定ムヘシ

本條約實施後三月以内ニ前項ノ規定ニ基キ前記ノ特別條約締結セラレサル場合ニ於テハ引渡ノ條件ハ各場合ニ付五名ノ委員ヨリ成ル委員會ノ議ニ付スヘシ右委員會ノ委員ハ獨逸國政府ニ於テ一名ヲ、利害關係アル他方ノ政府ニ於テ一名ヲ、國際勞働事務局勞働理事會ニ於テ其ノ他ノ國ノ國民中ヨリ三名ヲ任命スヘシ同委員會ハ國際聯盟理事會ノ議ニ付スヘキ勸告ヲ委員任命後三月以内ニ過半数ニ依リ決定スヘク聯盟理事會ノ決定ハ終結トシ獨逸國及關係國政府ハ直ニ之ニ服從スヘシ

第十一編 航空

第三百十三條

同盟及聯合國ノ航空機ハ獨逸國ノ領土及領水ヲ航空シ又之ニ著陸スルノ完全ナル自由ヲ有スヘシ且獨逸國ノ航空機ト同一ノ特權ヲ享有スヘク陸上又ハ海上ニ於ケル遭難ノ場合ニ於テ殊ニ然リトス

第三百十四條

同盟及聯合國ノ航空機ハ他ノ何レノ國ニ向ヒテノ通過中ノ場合ニ於テモ獨逸國ノ領土及領水ノ上空ヲ著陸スルコトナク飛行スルノ權利ヲ享有ス尤モ獨逸國ノ制定スル法規ニシテ獨逸國ノ航空機並同盟及聯合國ノ航空機ニ對シ均ク適用セラルヘキモノニ常ニ準據スルヲ要スルモノトス

第三百十五條

獨逸國内ノ公共交通ノ爲開放セラレタル一切ノ獨逸國飛行場ハ同盟及聯合國ノ航空機ノ爲之ヲ開放スヘシ同盟及聯合國ノ航空機ハ右飛行場ニ於テ著陸手續料、設備使用料其ノ他一切ノ料金ニ關シ獨逸國ノ航空機ト同等

ノ待遇ヲ受クヘシ

第三百十六條

第三百十三條乃至第三百十五條ニ規定スル航空、通過及著陸ノ權利ニ付テハ本諸規定ニ依ルノ外獨逸國ノ必要ト認メテ制定スル法規ニ準據スルヲ要ス尤モ右ノ法規ハ獨逸國ノ航空機並同盟及聯合國ノ航空機ニ對シ何等ノ差別ナク適用セラルヘキモノナルコトヲ要ス

第三百十七條

同盟及聯合國ノ一國カ下付シ又ハ有效ト認ムル國籍證明書、堪航證明書、技備證明書及諸免狀ハ獨逸國ニ於テ有效ト認メラレ且獨逸國ノ下付スル證明書及免狀ト均シキモノト認メラルヘシ

第三百十八條

國內ニ於ケル通商上ノ空中交通ニ關シ同盟及聯合國ノ航空機ハ獨逸國ニ於テ最惠國ノ待遇ヲ受クヘシ

第三百十九條

獨逸國ハ其ノ領土ノ上空ヲ飛行スル一切ノ獨逸航空機カ同盟及聯合國間ニ締結セラルル航空條約中ニ規定スル燈

火及信號ニ關スル規則、飛行ニ關スル規則並飛行場及其ノ近傍ニ於ケル空中交通ニ關スル規則ヲ遵守スヘキコトヲ保障スル爲必要ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

第三百二十條

前諸規定ニ依リ負フ義務ハ千九百二十三年一月一日迄存續スヘシ但該期日ニ先チ獨逸國カ國際聯盟ニ加入スルコトヲ許容セラレ又ハ同盟及聯合國ノ同意ニ依リ右諸國間締結ノ航空條約ニ加入スルコトヲ認許セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二編 港、水路及鐵道

第一款 總則

第三百二十一條

獨逸國ハ鐵道、航行可能水路又ハ運河ノ何レカニ由ル國際交通上最便利ナル通路ヲ經テ其ノ版圖ヲ通過スルノ自由ヲ同盟及聯合國(其ノ獨逸國ニ隣接スルト否トヲ問ハス)ノ版圖ヨリ來リ又ハ其ノ版圖ニ向フ人、貨物、船舶、客車、貨車及郵便物ニ許與スルコトヲ約ス此ノ目的ノ爲ニハ領水ノ通過ヲ許與スヘシ上記ノ人、貨物、船舶、客車、貨車及

郵便物ハ通過税ヲ課セラレ又ハ不當ニ遲延若ハ制限セラ
ルルコトナカルヘク且料金、便益其ノ他一切ノ事項ニ關シ
獨逸國ニ於テ國民待遇ヲ享受スヘシ

通過貨物ハ一切ノ關稅其ノ他類似ノ課稅ヲ免除セラレヘ
シ

通過運送ニ課スル一切ノ料金ハ運送ノ條件ニ應シ相當ノ
モノタルヘシ運送中ニ於テ使用セラレ又ハ使用セラレヘキ
船舶其ノ他ノ運輸機關ノ所有者又ハ國籍ノ如何ニ依リ
直接又ハ間接ニ料金、便益又ハ制限ノ差別ヲ設クルコトナ
カルヘシ

第三百二十二條

獨逸國ハ其ノ版圖ヲ通過スル移住者ノ運送ニ對シ旅客ノ
通過カ善意ナルコトヲ確保スル爲必要ナル措置ヲ講スル外
何等ノ取締ヲ設ケス又之ヲ持續セサルコトヲ約ス獨逸國ハ
又運送ニ關係アル船舶會社其ノ他ノ私團體、私法人又ハ
私人ヲシテ右目的ノ爲必要ナルヘキ行政事務ニ一切關與
セシメ又直接又ハ間接ニ該事務ノ上ニ勢力ヲ及ホサシメ
サルコトヲ約ス

第三百二十三條

テハ必要トセサルヘキ何等ノ手續ヲ履マシメ又何等ノ遲
延ヲ生セシメサルコトヲ約ス

第三百二十四條

貨物ノ獨逸國境通過ヲ成ルヘク簡便ナラシメ且其ノ獨逸
國境ヨリ發送及運送セラルルコトヲ確保スル爲一切ノ必
要ナル行政上及専門事項上ノ措置ヲ執ルヘシ此ノ措置ヲ
執ルニ當リテハ其ノ貨物ノ同盟及聯合國ノ版圖ヨリ獨
逸國ニ來リ又ハ獨逸國ヨリ同盟及聯合國ノ版圖ニ向フ
モノナルト同盟及聯合國ノ版圖ヨリ來リテ獨逸國ヲ通
過シ又ハ同盟及聯合國ノ版圖ニ向ヒテ獨逸國ヲ通過ス
ルモノナルト問ハサルヘク且其ノ途中ニ於ケル注意及運
送ノ速度等ニ付テハ同様ノ運送條件ノ下ニ獨逸國版圖
内ヲ運送セラルル同種類ノ他ノ貨物ト實質上同一ノ條
件ニ依ル

第三百二十五條

就中損敗シ易キ貨物ノ運送ハ迅速ニ且規則正シク行ハル
ヘク又關稅手續ハ聯絡列車ニ依ル貨物ノ直送ヲ妨タルコ
トナク爲サルヘシ

同盟及聯合國ノ海港ハ獨逸國ノ港又ハ他國ノ港ノ利益

條約 第十二編 港、水路及鐵道 第一款 總則 第二款 航行

獨逸國ハ其ノ版圖ヘノ輸入若ハ其ノ版圖ヨリノ輸出ニ關
スル關稅、料金及禁止ニ付又ハ本條約中ニ特別ノ約定ナ
キ限り其ノ版圖ニ入り若ハ其ノ版圖ヨリ出ヅル貨物若ハ
人ノ運送ニ對スル料金及條件ニ付通過シタル國境ノ如何、
運送ニ用キラレタル運輸機關(航空機ヲ含ム)ノ種類所有
者又ハ國旗ノ如何、運送ニ用キラレタル船舶、車輛、航空機
其ノ他ノ運輸機關ノ最初若ハ最後ノ出發地又ハ其ノ最
後若ハ中間ノ到着地ノ如何、運送ノ道筋又ハ途中積換ノ
場所ノ如何、貨物ノ輸入港若ハ輸出港力獨逸港ナルカ外
國港ナルカノ如何又ハ貨物ノ輸入若ハ輸出力海路ニ由ル
カ陸路ニ由ルカ又ハ空中路ニ由ルカノ如何ニ依リ直接又
ハ間接ニ差別的又ハ優先的取扱ヲ爲ササルコトヲ約ス
獨逸國ハ殊ニ同盟及聯合國ノ一國ノ港及船舶ニ對シ不
利益ナル何等ノ附加稅及獨逸國又ハ別國ノ港又ハ船舶
ニ依ル輸出又ハ輸入ニ對シ直接又ハ間接ノ何等ノ獎勵金
(例ヘハ聯絡貨率)ヲ設ケサルコトヲ約ス獨逸國ハ又同盟
及聯合國ノ港ヲ通過シ又ハ同盟及聯合國ノ船舶ニ依ル
人又ハ貨物ニ對シ其ノ人又ハ貨物力獨逸國ノ港若ハ別國
ノ港ヲ通過シ又ハ獨逸船舶若ハ別國船舶ニ依ル場合ニ於

ノ爲計與セラルル獨逸國ノ鐵道又ハ航行可能水路ニ於
ケル一切ノ恩典及低減貨率ノ適用ヲ受クルノ權利ヲ有
ス

第三百二十六條

獨逸國ハ獨逸國ノ港又ハ別國ノ港ニ對シ計與スルト同様
ノ利益ヲ同盟及聯合國ノ港ニ計與スヘキ貨率又ハ聯絡貨
率ノ適用ヲ拒絕スルコトヲ得ス

第二款 航行

第一章 航行ノ自由

第三百二十七條

同盟及聯合國ノ一國ノ國民並其ノ船舶及財產ハ獨逸國
ノ一切ノ港及獨逸國ノ内地水路ニ於テ獨逸國ノ國民、船
舶及財產ト同一ノ待遇ヲ享受スヘシ
同盟國又ハ聯合國ノ一國ノ船舶ハ獨逸船舶ノ到ルコトヲ
得ヘキ獨逸國版圖内ノ何レノ港若ハ何レノ地ニモ又ハ其
ノ港若ハ其ノ地ヨリ獨逸船舶ノ場合ニ適用セラルル條件
ヨリ重カラサル條件ノ下ニ各種ノ貨物及旅客ヲ運送スルノ
權利ヲ有スヘシ同盟國又ハ聯合國ノ船舶ハ港及碇泊所ニ
於ケル各種ノ便益及料金(碇泊及貨物ノ積卸ニ對スル便

益並政府、公務員、私人又ハ各種ノ社團若ハ財團ノ名義ヲ以テ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル噸税、港税、水先案内料、燈臺税、檢疫費其ノ他之ニ類似スル一切ノ各種ノ税金及料金ヲ含ムニ關シテ内國船舶ト同等ノ待遇ヲ受クヘシ

獨逸國カ同盟國又ハ聯合國ノ一國ニ對シ又ハ別國ニ對シテ特惠制度ヲ許與スル場合ニ於テハ其ノ制度ハ即時且無條件ニテ一切ノ同盟及聯合國ニ適用セラルヘシ

人又ハ船舶ノ移動ニ付テハ税關、警察、衛生、移出民及移入民並禁制品ノ輸出入ニ關スル規則ニ基ク場合ヲ除クノ外之ニ何等ノ障礙ヲ加フルコトヲ得ス此等ノ規則ハ相當ニシテ劃一ナルヘク且濫ニ交通ヲ阻礙セサルモノナルコトヲ要ス

第二章 港内自由地域

第三百二十八條

千九百十四年八月一日獨逸國諸港ニ存在シタル自由地域ハ之ヲ存續スヘシ右自由地域其ノ他本條約ニ依リ獨逸國版圖内ニ設定セラルルコトアルヘキ自由地域ハ次條以下ニ規定スル制度ニ從フヘシ

原產地若ハ仕向地ヲ異ニスル貨物ノ間ニ何等ノ差別ヲ得クタルコトヲ得ス

第三百三十條

港所在地ノ屬スル國ニ於ケル消費ノ爲自由地域ヨリ搬出スル貨物ニ對シテハ輸入税ヲ課スルコトヲ得又反對ニ當該國ヨリ自由地域内ニ搬入スル貨物ニ對シテハ輸出税ヲ課スルコトヲ得此ノ輸入税及輸出税ハ當該國ノ他ノ關稅境界ニ於テ徵收セラルル同様ノ税ト同一ノ基礎ニ於テ且同一ノ率ヲ以テ徵收セラルヘシ他方獨逸國ハ如何ナル名義ヲ以テスルヲ問ハス他ノ國ヨリ自由地域ニ又ハ自由地域ヨリ他ノ國ニ仕向クル爲陸路又ハ水路ニ由リ獨逸國版圖ヲ通過スル貨物ニ對シ一切ノ輸入税、輸出税又ハ通過税ヲ課スルコトナカルヘシ

第三章

「エルベ」河、「オーデル」河、「ニーメン」河
「ルズ」河、「メーメル」河、「ニーメン」河

獨逸國ハ自由地域ニ到ルノ順路タル自國版圖内ノ鐵道及水路ニ由ル通過ノ自由ヲ確保シ且保障スル爲必要ナル規則ヲ制定スヘシ

自由地域ニ出入スル貨物ハ第三百三十條ニ規定スル場合ヲ除クノ外何等ノ輸入税又ハ輸出税ヲ課セラルルコトナカルヘシ

自由地域ニ入ル船舶及貨物ハ港ノ行政費及維持改良費用ニ充當スル爲定メタル料金及諸種ノ設備ノ使用ニ對スル料金ヲ納付セシメラルルコトアルヘシ但シ此等ノ料金ハ費用ニ對シ相當ノモノニシテ且第三百二十七條ニ定ムル同等待遇ノ條件ニ依リ取立テラルルモノナルコトヲ要ス

第三百二十九條

貨物ハ専ラ當該港ニ於ケル貿易計數輯録費用ノ支辨ニ充ツヘキ從價千分ノ一ヲ超エサル統計税ヲ除クノ外何等ノ他ノ料金ヲ課セラルルコトナカルヘシ

河)及「ダニユーブ」河ニ關スル條項

一 一般條項

第三百三十一條

左記ノ河川ハ之ヲ國際河川ト聲明ス

「ウルタヴァ」河(「モルダウ」河)トノ合流點ヨリ下流ノ「エルベ」河(「ラーベ」河)及「ブラーグ」ヨリ下流ノ「ウルタヴァ」河(「モルダウ」河)

「オッパ」河トノ合流點ヨリ下流ノ「オーデル」河(「オードラ」河)

「グロドノ」ヨリ下流ノ「ニーメン」河(「ルズ」河)「メーメル」河「ニーメン」河)

「ウルム」ヨリ下流ノ「ダニユーブ」河

及前記河系中ノ航行可能ナル部分ニシテ一ノ船舶ヨリ他ノ船舶ヘ積換ヲ行フト否トヲ問ハス海洋ニ到ル自然の通路ヲ二箇以上ノ國家ニ供スルモノ及前記河系ノ自然の航行可能ナル區域ヲ重複ニシ若ハ改良スル爲又ハ同一河川ノ自然の航行可能ナル二區域ヲ連絡スル爲ニ開鑿シタル傍系ノ運河及水道

第三百五十三條ニ規定シタル條件ノ下ニ萊因河「ダニユー」河間ニ航行可能ナル水路開鑿セラレタル場合ニ於テハ其ノ水路ハ亦國際河川タルヘシ

第三百三十二條

前條ニ依リ國際河川ト聲明セラレタル水路ニ於テハ一切ノ國ノ國民、財産又ハ船舶ハ完全ナル均等待遇ヲ受クヘク何レノ國ノ國民、財産又ハ船舶ニ對シテモ沿河國自身ノ又ハ最惠國ノ國民、財産又ハ船舶ニ比シ不利益ナル何等ノ差別ヲ設クルコトヲ得ス

但シ獨逸船舶ハ同盟國又ハ聯合國ノ一國ノ特許ナキ限リ其ノ國ノ數港間ノ定期航海ニ依リ旅客又ハ貨物ノ運送ニ從事スルコトヲ得ス

第三百三十三條

現行條約ニ反對ノ規定アル場合ヲ除クノ外航行可能ナル水道又ハ其ノ入口ヲ使用スル船舶ニ付テハ河川ノ區域ヲ異ニスルニ依リテ其ノ額ヲ異ニスル料金ヲ取立ツルコトヲ得但シ其ノ料金ハ河川及其ノ入口ノ航行可能ナル狀態ヲ維持シ若ハ河川及其ノ入口ヲ改良スル爲ノ費用ヲ衡平ニ支辨スルカ又ハ航行上ノ利益ノ爲ニ要シタル費用ニ充當スル

第三百三十六條

航行可能水系ノ國際的部分ノ保全及改良ニ關聯スル工事ヲ遂行スル爲ノ特別機關存在セザル場合ニ於テハ各沿河國ハ航行ニ對スル障礙又ハ危險ヲ除去シ且航行ニ適當ナル狀態ノ維持ヲ確保スル爲適當ノ措置ヲ講スルノ義務ヲ有ス

前項ノ義務ヲ遵守セザル國アル場合ニ於テハ沿河國ノ何レカヨリ又國際委員會ノ設アルトキハ其ノ委員會ニ代表セラルル國ノ何レカヨリ國際聯盟ノ之カ爲設定スル裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三百三十七條

沿河國カ國際的區域ニ於ケル航行ヲ阻礙スヘキ性質ノ工事ヲ企畫スル場合ニ於テモ同一ノ手續ヲ爲スコトヲ得前條ニ規定スル裁判所ハ其ノ工事ノ中止又ハ廢止ヲ命スル權利ヲ有スヘシ尤モ同裁判所カ判定ヲ爲スニ當リテハ灌溉、水力、漁獵其ノ他内國ノ利害關係事項ニ關スル一切ノ權利ニ對シ相當ノ斟酌ヲ加フヘキモノトス此等ノ權利ハ沿河國全部ノ同意アルトキハ航行上ノ必要ニ優先スルコトヲ得國際委員會ノ設アル場合ニ於テ其ノ委員會ニ代表

ノ外他ニ何等ノ目的ヲ有セサルモノナルコトヲ要ス其ノ料金表ハ右費用ヲ基礎トシテ算出シ且之ヲ各港ニ掲示スヘシ此ノ料金ハ詐欺又ハ反則ノ嫌疑アル場合ヲ除クノ外積貨ノ綿密ナル検査ヲ要セサル様之ヲ取立ツヘシ

第三百三十四條

前記水路ニ於ケル船舶旅客及貨物ノ通過ハ本編第一款ニ規定スル通過ニ關スル一般の條件ニ從ヒ行ハルヘシ國際河川ノ兩岸カ同一國ニ屬スル場合ニ於テハ通過貨物ハ之ニ封印ヲ施シ又ハ稅關吏員ヲシテ之ヲ監視セシムルコトヲ得河川カ國境ヲ形成スル場合ニ於テハ通過ノ貨物及旅客ハ一切ノ稅關手續ヲ免除セラルヘク貨物ノ積卸及旅客ノ乗降ハ沿河國ノ特定ムル港ニ於テノミ之ヲ行フヘシ

第三百三十五條

前記河川ノ河流又ハ河口ニ於テハ本編ニ規定スルモノヲ除クノ外何等ノ負擔ヲ課スルコトヲ得ス
前項ノ規定ハ沿河國カ關稅、地方入市稅又ハ消費稅ヲ定メ又ハ起重機、昇降機、陸揚場、倉庫等ノ使用ニ對シ各港ニ於テ公表料金率ニ依リ取立ツル相當ニシテ劃一ナル料金ヲ設定スルコトヲ妨ケス

セラルル一切ノ國ノ同意アルトキ亦同シ
國際聯盟ノ裁判所ニ對スル出訴ノ爲工事ヲ中止セシムルコトナシ

第三百三十八條

前記第三百三十二條乃至第三百三十七條ニ規定スル制度ハ同盟及聯合國ニ於テ作成シ且國際聯盟ニ於テ承認スル國際水路一般條約中ニ規定セラルヘキ他ノ制度ヲ以テ之ニ代フヘシ右一般條約ハ特ニ前記「エルベ」河（「ラーベ」河）、「オーデル」河（「オド」河）、「ニーメン」河（「ル」河）、「メーメル」河（「ニーメン」河）及「ダニユー」河ノ河系ノ全部又ハ一部並一般定義ニ包括セラルヘキ此等河系ノ他ノ部分ニ付適用セラルヘシ
獨逸國ハ第三百七十九條ノ規定ニ依リ前項ノ一般條約ニ加入スルコト並現行國際取極及規則ノ修正ニ關シ下記第三百四十三條ニ依リ作成セラルヘキ一切ノ條約案ニ加入スルコトヲ得

第三百三十九條

獨逸國ハ第三百三十一條ニ掲クル河系内ノ港ニ於テ登記セラレタル曳船及船舶ノ中ヨリ還付又ハ賠償ノ爲引渡

ヲ了シタルモノヲ除キ其ノ一部ヲ通告アリタル日ヨリ三月以内ニ關係アル同盟及聯合諸國ニ引渡スヘシ獨逸國ハ又前記河系ノ利用ニ關シ必要ナル各種ノ材料ヲ該關係諸國ニ引渡スヘシ

引渡ノ目的タル曳船及舟艇ノ數、材料ノ數量並此等ノ分配ハ亞米利加合衆國ノ指名スル一名又ハ數名ノ仲裁委員之ヲ決定スヘシ尤モ關係當事國ノ正當ナル要求殊ニ戰前五年間ノ航運狀態ニ對シテハ相當ノ斟酌ヲ加フルモノトス

引渡サルヘキ一切ノ船舶ハ其ノ設備及附屬具ヲ備ヘ、適當ナル修繕ヲ加ヘラレ且貨物ヲ運搬シ得ヘキ狀態ニ在ルコトヲ要ス此等ノ船舶ハ最近ノ建造ニ係ルモノノ中ヨリ之ヲ選擇スヘシ

本條ニ規定セラルル引渡ハ貸方ニ之ヲ計上シ其ノ總額ハ前記ノ一名又ハ數名ノ仲裁委員ニ於テ總金額トシテ之ヲ決定スヘク如何ナル場合ト雖引渡サレタル材料ノ設定當初ノ金額ヲ超過スルコトヲ得ス此ノ總額ハ獨逸國ノ支拂フヘキ金額總計中ヨリ之ヲ相殺スヘシ從テ所有者ニ對スル賠償ハ獨逸國之カ處理ノ責ニ任ス

二 「エルベ」河、「オーダー」河及「ニーメン」河、「ルス」河、「メーメル」河、「ニーメン」河ニ關スル特別條項

第三十四條 「エルベ」河（「ラーベ」河）ハ左ノ代表者ヨリ成ル國際委員會ノ管理ニ屬スヘシ

沿河獨逸諸邦代表者四名

「チエッコ、スロヴァキア」國代表者二名

大不列顛國代表者一名

佛蘭西國代表者一名

伊太利國代表者一名

白耳義國代表者一名

代表者ヲ出シタル各國ハ出席人員數ノ如何ニ拘ラス自國ニ割當テラレタル代表者數ト同數ノ表決權ヲ有ス

前項ノ代表者中本條約實施ノ時ニ任命スルコトヲ得サル者アル場合ト雖委員會ノ決定ハ尙有效タルヘシ

第三十四條

「オーダー」河（「オーダー」河）ハ左ノ代表者ヨリ成ル國際委

員會ノ管理ニ屬スヘシ

波蘭國代表者一名

普魯西代表者三名

「チエッコ、スロヴァキア」國代表者一名

大不列顛國代表者一名

佛蘭西國代表者一名

丁抹國代表者一名

瑞典國代表者一名

前項ノ代表者中本條約實施ノ時ニ任命スルコトヲ得サル者アル場合ト雖委員會ノ決定ハ尙有效タルヘシ

第三十四條

國際聯盟ニ對シ何レカノ沿河國ヨリ請求アリタルトキハ「ニーメン」河（「ルス」河）、「メーメル」河、「ニーメン」河）ハ沿河國代表者各一名及國際聯盟ニ於テ特定スル他ノ國ノ代表者三名ヨリ成ル國際委員會ノ管理ニ屬スヘシ

第三十四條

第三百四十條及第三百四十一條ニ規定スル國際委員會ハ本條約實施後三月以内ニ、第三百四十二條ニ規定スル國際委員會ハ沿河國ノ一國ノ請求アリタル日ヨリ三月以

内ニ會合スヘシ此等ノ各委員會ハ第三百三十八條ニ掲クル一般條約ニシテ既ニ締結セラレタル場合ニ於テハ其ノ一般條約ニ準據シ現行ノ國際取極及規則ヲ改訂スル條約案ノ起草ニ即時ニ着手スヘシ該一般條約未タ成立ニ至ラサル場合ニ於テハ改訂條約案ハ前記第三百三十二條乃至第三百三十七條ノ趣旨ニ準據スヘシ

第三百四十四條

前條ニ規定シタル條約案中ニハ左ノ事項ヲ包含スヘシ

(イ) 國際委員會ノ本部所在地ヲ指定シ且其ノ會長ヲ任命スル方法ヲ規定スルコト

(ロ) 委員會ノ權能ノ範圍殊ニ河系ノ維持、取締及改良ニ關スル工事ノ執行、計理制度、料金ノ決定及取立並航行規則ニ關スル權能ノ範圍ヲ特定スルコト

(ハ) 國際的制度ヲ適用スヘキ河川又ハ其ノ支流ノ區域ヲ劃定スルコト

第三百四十五條

現在「エルベ」河（「ラーベ」河）、「オーダー」河（「オーダー」河）及「ニーメン」河（「ルス」河）、「メーメル」河、「ニーメン」河）ノ航行ニ適用スル國際取極及規則ハ前記條約案ノ批准ヲ

見ルニ至ル迄假ニ其ノ效力ヲ存續スヘシ尤モ此等效力ヲ存續スル取極及規則カ前記第三百三十二條乃至第三百三十七條ノ規定又ハ今後締結セラルヘキ一般條約ノ規定ト抵觸スル場合ニ於テハ總テ後者ニ準據スヘキモトス

三 「ダニユープ」河ニ關スル特別條項

第三百四十六條

「ダニユープ」河歐羅巴委員會ハ其ノ戰前ニ有シタル權能ヲ回復ス但シ臨時ノ措置トシテ同委員會ハ大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國及羅馬尼亞國ノ代表者ノミヲ以テ之ヲ組織スヘシ

第三百四十七條

歐羅巴委員會ノ權限ノ終止スル地點ヨリ上流ノ第三百三十一條ニ掲クル「ダニユープ」河系ハ左記各代表者ヨリ成立スル國際委員會ノ管理ニ屬スヘシ

沿河獨逸諸邦代表者二名

其ノ他ノ沿河國代表者各一名

將來「ダニユープ」河歐羅巴委員會ニ代表セラルヘキ非沿河國代表者各一名

沿河國代表者各一名

ヲ制定スヘシ料金ハ必要ナルヘキモノト雖一切ノ場合ニ於テ洪牙利國之ヲ取立ツルコトヲ得ス

第三百五十一條

國際委員會ヨリノ授權又ハ委任ニ依リ「チェッコ、スロヴァキア」國、「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國又ハ羅馬尼亞國カ「ダニユープ」河系中此等諸國ノ國境ヲ形成スル部分ニ於テ維持、改良、堰ノ築造其ノ他ノ工事ヲ執行スルトキハ此等諸國ハ同河ノ對岸及此等諸國ノ版圖外ニ屬スル河床ノ部分ニ於テ前記工事ノ測量、執行及維持ノ爲必要ナル一切ノ便益ヲ享受スヘシ

第三百五十二條

獨逸國ハ「ダニユープ」河歐羅巴委員會カ戰時中受ケタル損害ニ付一切ノ原狀回復、賠償及補償ヲ同委員會ニ爲スノ義務ヲ有ス

第三百五十三條

萊因河及「ダニユープ」河ヲ連結スル深吃水船航行可能水路ノ築造セラレタル場合ニ於テハ獨逸國ハ第三百三十二條乃至第三百三十八條ニ規定シタル制度ヲ之ニ適用スルコトヲ約ス

前項ノ代表者中本條約實施ノ時ニ任命スルコトヲ得サル者アル場合ト雖委員會ノ決定ハ尙有效タルヘシ

第三百四十八條

前條ニ規定スル國際委員會ハ本條約實施後成ルヘク速ニ會合シ同盟及聯合國ノ指名スル諸國カ「ダニユープ」河ニ關スル確定規則ヲ制定スルニ至ル迄ノ間第三百三十二條乃至第三百三十七條ノ規定ニ準據シテ臨時同河ノ管理ニ任スヘシ

第三百四十九條

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ指定ニ係ル諸國ノ會議ニ於テ制定セラルヘキ「ダニユープ」河ニ關スル制度ヲ承認スルコトニ同意ス右會議ハ本條約實施後一年以内ニ開催セラルヘク獨逸國代表者ハ之ニ出席スルコトヲ得

第三百五十條

千八百七十八年七月十三日ノ柏林條約第五十七條ニ依リ埃地利洪牙利國ニ與ヘラレ更ニ同國ヨリ洪牙利國ニ移サレタル「アイアン、ゲーツ」ニ於ケル工事ノ執行ニ關スル委任ハ之ヲ廢棄ス此ノ部分ノ同河ノ管理ヲ委任セラレタル委員會ハ本條約財政上ノ規定ニ從ヒ收支決算ノ規定

第四章 萊因河及「モーゼル」河ニ關スル條項

第三百五十四條

千八百六十八年十月十七日ノ「マンハイム」條約及同條約最終議定書ハ本條約實施後引續キ萊因河航行ノ準則タルヘシ但シ左ニ規定スル條件ニ從フコトヲ要ス

前記條約ノ規定ニシテ第三百三十八條ニ規定シタル一般條約(本條約ハ萊因河ニ適用セラル)ノ規定ト抵觸スル場合ニ於テハ右一般條約ノ規定ニ準據スヘシ

本條約實施後六月以内ニ第三百五十五條ニ規定スル中央委員會ヲ開キ「マンハイム」條約ノ改正案ヲ作成セシムヘシ此ノ改正案ハ上記ノ一般條約カ其ノ當時既ニ締結セラレタル場合ニ於テハ該一般條約ノ規定ニ準シテ之ヲ作成シ中央委員會ニ代表セラルル各國ニ提出スヘシ此ノ手續ニ依リ作成シタル改正案ハ獨逸國之ニ加入スヘキコトヲ約ス

又次條以下ニ規定シタル變更ハ即時ニ「マンハイム」條約中ニ之ヲ加フヘシ

同盟及聯合國ハ此ノ事項ニ關聯シ和蘭國ト了解ヲ遂クル

ノ權利ヲ留保ス獨逸國ハ右ノ了解ニ加ハルコトヲ要セラレタル場合ニ於テハ之ニ加ハルヘキコトヲ約ス

第三百五十五條

「マンハイム」條約ニ規定シタル中央委員會ハ左記十九名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織スヘシ

和蘭國代表者 二名

瑞西國代表者 二名

沿河獨逸諸邦代表者 四名

佛蘭西國代表者 四名

尙佛蘭西國ハ右ノ外委員長一名ヲ任命ス

大不列顛國代表者 二名

伊太利國代表者 二名

白耳義國代表者 二名

中央委員會ノ本部ハ「ストラスブルグ」ニ之ヲ置ク

代表者ヲ出シタル各國ハ出席人員數ノ如何ニ拘ラス自國

ニ割當テラレタル代表者數ト同數ノ表決權ヲ有ス

前項ノ代表者中本條約實施ノ時ニ任命スルコトヲ得サル者アル場合ト雖委員會ノ議決ハ尙有效タルヘシ

第三百五十六條

西國ニ引渡スヘシ

船舶及曳船ヲ引渡ス場合ニ此ノ船舶及曳船ハ其ノ設備及附屬具ヲ備ヘ適當ナル修繕ヲ加ヘラレ且萊茵河ニ於ケル運送ヲ營ミ得ル狀態ニ在ルコトヲ要ス此等ノ船舶ハ最近ノ建造ニ係ルモノノ中ヨリ之ヲ選擇スヘシ

獨逸國カ左記諸物件ヲ佛蘭西國ニ引渡スニモ亦同一ノ手續ニ依ルヘシ

一 獨逸國臣民又ハ獨逸國會社カ千九百十四年八月

一日ニ「ロッテルダム」港ニ於テ所有シタル設備、繫留及碇泊ノ設備、乘降場、船渠、倉庫、工作所等

二 獨逸國又ハ獨逸國臣民カ同日ニ前記ノ設備ニ付有シタル持分又ハ利益

上記ノ引渡ノ金額及明細書ハ本條約實施後一年以内ニ亞米利加合衆國ノ指名スル一名又ハ數名ノ仲裁委員之ヲ決定スヘシ尤モ關係當事者ノ正當ナル需要ニ付テハ相當斟酌スヘキモノトス

本條ニ規定シタル引渡ハ貸方ニ之ヲ計上シ其ノ總額ハ前記ノ一名又ハ數名ノ仲裁委員ニ於テ總金額トシテ之ヲ決定スヘク如何ナル場合ト雖引渡サレタル材料及設備ノ設

一切ノ國ノ船舶及其ノ積荷ハ萊茵河ヲ航行スル船舶及其ノ積荷ニ許與セララルル權利及特典ト同一ノ權利及特典ヲ享有スヘシ

前記「マンハイム」條約第十五條乃至第二十條及第二十六條、同條約最終議定書第四條又ハ爾後ノ諸條約ノ規定ハ萊茵河及此等諸條約ノ適用ヲ享クル水路ニ於テ總テノ國ノ船舶及乘組員ノ自由航行ヲ妨クルコトナカルヘシ尤モ中央委員會ニ於テ作成スル水先案内規則其ノ他ノ警察諸規則ニ從フヘキモノトス

「マンハイム」條約第二十二條及同條約最終議定書第五條ノ規定ハ萊茵河ニ付登錄セラレタル船舶ニ對シテノミ之ヲ適用ス中央委員會ハ其ノ他ノ船舶カ萊茵河航行ニ適用セララルル一般規則ノ諸條件ヲ充タスコトヲ確保スル爲執ルヘキ手段ヲ決定スヘシ

第三百五十七條

獨逸國ハ獨逸萊茵河諸港ニ登錄セラレタル曳船及船舶中ヨリ還付又ハ賠償ノ爲引渡ヲ了シタルモノヲ除キタル殘部ノ一部ヲ又ハ萊茵河ニ於テ航運業ヲ營ム獨逸諸會社ニ對スル持分ヲ之カ爲通告アリタル日ヨリ三月以内ニ佛蘭

定當初ノ金額ヲ超過スルコトヲ得ス此ノ總額ハ獨逸國ノ支拂フヘキ金額總計中ヨリ之ヲ相殺スヘシ從テ所有者ニ對スル賠償ハ獨逸國ニカ處理ノ責ニ任ス

第三百五十八條

佛蘭西國ハ「マンハイム」條約又ハ之ニ代ルコトアルヘキ條約ノ規定及本條約ノ條項ニ從ヒ萊茵河ノ佛蘭西國境上ノ二極點ノ間ニ合マルル全河流ニ於テ左ノ權利ヲ有ス

(イ) 航行用及灌溉用ノ運河(既ニ開鑿セラレ又ハ今後開鑿セララルヘキモノ)ニ給水スル爲又ハ其ノ他ノ一切ノ目的ノ爲萊茵河ヨリ河水ヲ引用スルノ權利及獨逸國沿岸ニ於テ此ノ權利ヲ行使スルニ必要ナル總テノ工事ヲ執行スルノ權利

(ロ) 萊茵河ノ調整工事ニ依リ生シタル動力ニ對スル獨逸國ノ權利但シ現實ニ生シタル動力ノ價格ノ半額ヲ獨逸國ニ支拂フコトヲ要ス此ノ支拂ハ動力ノ發生ニ必要ナル工事費ヲ斟酌シ金錢又ハ動力ヲ以テ之ヲ爲スヘク支拂ニ付協議調ハサルトキハ之ヲ仲裁ニ付ス此ノ目的ノ爲佛蘭西國ハ萊茵河ノ前記ノ部分ニ於テ其ノ動力ノ發生上必要ナリト認ムル總テノ調整工事

(環又ハ其ノ他ノ工事)ヲ執行スルノ權利ヲ專有ス尙
萊茵河ヨリ河水ヲ引用スルノ權利ハ後ニ規定スル萊
因「ムーズ」兩河ヲ連結スル航行可能水路ニ給水スル
爲白耳義國ニモ之ヲ付與ス

前項イ號及ロ號ニ規定シタル權利ノ行使ハ萊茵河河床
又ハ之ニ代ルヘキ誘導水路内ニ於ケル航行可能状態ヲ阻
礙シ又ハ其ノ航行上ノ便益ヲ減殺スヘカラス又現行條約
ノ下ニ從前取立テラレタル通行料ハ右權利ノ行使ニ因リ
増額セララルコトナカルヘシ一切ノ計畫ハ中央委員會ヲシ
テ其ノ上記ノ要件ニ適合スルモノタルコトヲ確認セシム
カ爲之ヲ同委員會ニ提出スヘシ
前記イ號及ロ號ノ規定ノ適切且誠實ナル實行ヲ確保ス
ル爲獨逸國ハ左ノ義務ヲ負フ

- 一 佛蘭西國境ノ對岸ナル萊茵河右岸ニ於テ傍系ノ
運河又ハ誘導水路ヲ開鑿シ又ハ開鑿セシメサルコト
- 二 佛蘭西國カ今後中央委員會ノ同意ヲ得テ築造ヲ
決定スルコトアルヘキ堰ノ測量、建設及作業上必要ナ
ルヘキ萊茵河右岸ニ在ル一切ノ土地ニ關シ同國カ支
持權及通行權ヲ有スルコトヲ認ムルコト 佛蘭西國

ハ前記中央委員會ノ同意ニ從ヒ必要ナル敷地ノ限
界ヲ決定スルノ權利ヲ有シ且單純ナル通告ヨリ二月
ノ期間經過後ハ該土地ヲ占有スルコトヲ得ヘシ此ノ
場合ニ於テ佛蘭西國ハ獨逸國ニ對シ賠償ヲ支拂フヘ
ク其ノ總額ハ中央委員會ニ於テ之ヲ決定ス前記ノ
地役ヲ課セラレ又ハ右工作物ニ依リ永久ニ占據セラ
ルヘキ不動産ノ所有者ニ對シ賠償ヲ爲スハ獨逸國ノ
責務タルヘシ
瑞西國ヨリ請求アリ中央委員會之ヲ承認シタルトキ
ハ他ノ沿河諸國ト瑞西國トノ國境ヲ形成スル萊茵河
ノ部分ニ關シ右ト同様ノ權利ヲ瑞西國ニ付與スヘ
シ
三 「アルザス、ロレーヌ」政廳又ハ「バーデン」大公國政府
ノ作成シ又ハ受理シタル萊茵河調整ニ關スル總テノ
計畫、考案、特許及明細書ハ其ノ目的ノ如何ニ拘ラ
ズ本條約實施ノ翌月中ニ佛蘭西國政府ニ之ヲ交付
スルコト
第三百五十九條
佛蘭西國又獨逸國ノ境界ヲ形成スル萊茵河ノ區間ニ於

テハ前數條ノ場合ヲ除クノ外豫メ中央委員會又ハ其ノ代
理者ノ承認ヲ得ルニ非サレハ河床又ハ兩岸ニ於テ何等ノ
工事ヲ執行スルコトヲ得ス

第三百六十條

佛蘭西國ハ萊茵河ニ於テ執行セラルヘキ工事ニ關シ「アル
ザス、ロレーヌ」政廳及「バーデン」大公國ノ間ニ成立セル取
極ヨリ生スル權利及義務ニ付代位スルノ選擇權ヲ留保ス
佛蘭西國ハ又本條約實施後五年ノ期間内ニ此等ノ取極
ヲ廢棄スルコトヲ得

佛蘭西國ハ又「マンハイム」ヨリ上流ノ萊茵河ノ航行可能
状態ヲ維持シ又ハ改良スル爲中央委員會ノ必要ト認ムル
コトアルヘキ工事ヲ執行セシムルノ選擇權ヲ有ス

第三百六十一條

白耳義國カ本條約實施後二十五年ノ期間内ニ「ルーロル
ト」地方ニ於テ萊茵「ムーズ」兩河ヲ連結スル深吃水船航行
可能水路ノ開鑿ヲ決定シタルトキハ獨逸國ハ白耳義國政
府カ中央委員會ノ同意ヲ經テ通牒シ來レル設計書所載ノ
通獨逸國版圖内ニ在ル該航行可能水路ノ部分ヲ開鑿ス
ルノ義務ヲ有ス

白耳義國政府ハ此ノ目的ノ爲實地ニ於テ一切ノ必要ナル
測量ヲ行フノ權利ヲ有ス

獨逸國カ此ノ工事ノ全部又ハ一部ヲ執行セラル場合ニ於
テハ中央委員會ハ此ノ目的ノ爲必要ナル敷地ノ境界ヲ決定シ
ス該委員會ハ此ノ目的ノ爲必要ナル敷地ノ境界ヲ決定シ
單純ナル通知ヨリ二月ノ期間經過後ハ其ノ地域ヲ占有ス
ルコトヲ得但シ之ニ對シ該委員會ニ於テ其ノ額ヲ決定シ獨
逸國ニ於テ支拂フヘキ補償金ノ支拂ヲ爲スヘキモノトス
本條ノ航行可能水路ハ萊茵河ト同一ノ管理制度ノ下ニ
置カルヘク且創築費(前項ノ補償金ヲ含ム)ハ該水路ノ通
過スル諸國ニ於テ分擔スヘク其ノ分擔額ハ中央委員會之
ヲ決定スヘシ

第三百六十二條

獨逸國ハ萊茵河中央委員會カ其ノ管轄權ヲ左記地方ニ
擴張スル爲ノ一切ノ提議ニ對シ何等ノ異議ヲ申立テサル
コトヲ約ス

- 一 佛蘭西國ト盧森堡國トノ國境ヨリ下流萊茵河ニ
至ル「モーゼル」河但シ盧森堡國ノ同意ヲ得ルコトヲ要
ス

二「パール」ヨリ上流「コンスタンス」湖ニ至ル萊因河但
シ瑞西國ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

三 萊因河又ハ「モーゼル」河ノ自然的ニ航行可能ナル
區域ヲ重複ニシ若ハ改良シ又ハ此等河川ノ自然的ニ
航行可能ナルニ區域ヲ連絡スル爲ニ開鑿セラルルコト
アルヘキ傍系ノ運河及水道並前記第三百二十八條
ニ規定スル一般條約ノ適用セラルヘキ萊因河系ノ他
ノ部分

第五章 「チエッコ、スロヴァキア」國ノ北部諸港使
用ニ關スル條項

第三百六十三條

獨逸國ハ漢堡港及「ステッティン」港ニ於テ一定地域ヲ九十
九年間「チエッコ、スロヴァキア」國ニ貸與スヘク該地域ハ一
般ノ自由地域制度ノ下ニ置キ「チエッコ、スロヴァキア」國ヨリ
來リ又ハ同國ニ仕向ケラルル貨物ノ直接通過ニ使用セラ
ルヘシ

第三百六十四條

前條ノ地域ノ境界劃定及設備、經營其ノ他一般ニ其ノ

シ同盟及聯合國ノ一國又ハ數國ノ請求アルトキハ獨逸國
ヨリ其ノ請求國版圖ニ仕向ケラルル貨物ニシテ其ノ國ノ特
ニ指定スルモノニ對シテモ前記ノ規定ヲ適用ス

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ一國ノ請求アルトキハ前項規定
ノ貨率ニ基キタル及直通運送狀ニ依リ運送ヲ含ミタル國
際貨率表ヲ定ムヘシ

第三百六十六條

本條約實施後締約國ハ關係締約國ニ限リ本條第二項ニ
規定シタル留保ノ下ニ千八百九十年十月十四日、千八百
九十三年九月二十日、千八百九十五年七月十六日、千
八百九十八年六月十六日及千九百零六年九月十九日「ベ
ル」ニ於テ署名セラレタル貨物ノ鐵道運送ニ關スル諸條
約及諸協定ヲ復活セシムヘシ

本條約實施後五年以内ニ旅客、手荷物及貨物ノ鐵道運
送ニ關シ前記千八百九十年十月十四日「パール」條約
並其ノ後ノ追加ニ伏ルヘキ新條約締結セラルル場合ニ於
テハ其ノ新條約及之ニ基キテ規定セラルヘキ國際鐵道運
送ニ關スル補足條款ハ獨逸國カ同條約ノ審議ニ參加スル
コト又ハ同條約ニ加入スルコトヲ拒ム場合ニ於テモ尙同國

利用ニ關スル一切ノ條件(借料ノ額ヲ含ム)ハ獨逸國代
表者一名、「チエッコ、スロヴァキア」國代表者一名及大不
列顛國代表者一名ヨリ成ル委員會之ヲ決定スヘシ此
等ノ條件ハ同様ノ方法ニ依リ十年毎ニ修正スルコトヲ
得

獨逸國ハ右ニ依リ定メラルヘキ決定ニ從フヘキコトヲ豫メ
聲明ス

第三款 鐵道

第一章 國際運送ニ關スル條項

第三百六十五條

同盟及聯合國ノ版圖ヨリ獨逸國ニ仕向ケラルル貨物並同
盟及聯合國ノ版圖ヨリ發送セラレ又ハ同盟及聯合國ノ版
圖ニ仕向ケラルル貨物ニシテ獨逸國ヲ通過スルモノハ獨逸
國內ノ鐵道ニ於テ運賃及料金(割引及割戻ヲ含ム)、便益
其ノ他一切ノ事項ニ付其ノ國內運送ナルト輸出輸入又ハ
通過ノ爲ナルトヲ問ハス運送條件(例ヘハ運送線路ノ距離
ノ如キ)同様ナル場合ニ於テ獨逸國內ノ鐵道ニ由リ運送セ
ラルル同種貨物ニ適用セラルル最惠待遇ヲ當然享受スヘ

第三百六十七條

獨逸國ノ版圖ヲ通過シテ行ハルル同盟及聯合國相互間
及此等諸國ト他ノ一切ノ諸國トノ間ノ鐵道交通ヲ確實
ナラシムル爲同盟及聯合國ノ一國若ハ數國ノ請求アルトキ
ハ獨逸國ハ旅客及手荷物ノ直通運送ヲ設クルコトニ協力
スル義務ヲ有ス殊ニ獨逸國ハ此ノ目的ノ爲同盟及聯合國
ノ版圖ヨリ來ル列車及車輛ヲ繼承シ且當該線路上ニ於ケ
ル自國ノ最良長距離列車ト少クトモ同等ノ速力ヲ以テ之
ヲ運轉スヘキモノトス此ノ種ノ直通運送ニ適用セラルヘキ
運賃ハ如何ナル場合ニ於テモ同一速力及同種設備ノ下ニ
於ケル同一距離ノ運送ニ對シ獨逸國ノ國內運送ニ付取
立テラルル運賃ヨリ高カラサルコトヲ要ス

同盟及聯合國ノ港ニ赴キ又ハ同盟及聯合國ノ港ヨリ來ル
移出民ヲ獨逸國內ノ鐵道ニテ運送スル場合ニ適用セラル
ヘキ運賃ハ他ノ諸港ニ赴キ又ハ他ノ諸港ヨリ來ル移出民
カ同一速力及同種設備ノ下ニ同國鐵道ニ於テ享受スル
最惠運賃率(割引及割戻ヲ含ム)ヨリ高キ吉米率ナルコト

ヲ得ス

第三百六十八條

獨逸國ハ前條ノ直通運送又ハ同盟及聯合國ノ港ニ赴キ若ハ同盟及聯合國ノ港ヨリ來ル移出民ノ運送ニ對シ右運送ヲ阻礙シ又ハ遲延セシムヘキ技術上、財政上又ハ行政上ノ措置例ヘハ税關検査、一般警察、衛生警察及取締ノ如キ特別ノ措置ヲ執ラサルコトヲ約ス

第三百六十九條

一部ハ鐵道ニ由リ一部ハ内地水路ニ由ル運送ナルトキハ直通運送狀ニ依ルモノタルト否トニ拘ラス其ノ鐵道ニ由ル部分ニ付テハ前數條ノ規定ヲ適用ス

第二章 車輛

第三百七十條

獨逸國ハ其ノ車輛ニ左記ノ取扱ニ適スル裝置ヲ備付タルコトヲ約ス

一、千八百八十六年五月十五日締結千九百七年五月十八日改正ノ「ベルヌ」條約ノ當事國タル同盟及聯合國ノ鐵道ニ運轉スル貨物列車ニ連結シ得ヘキモノ

ハ其ノ車輛ハ千九百十八年十一月十一日以前ノ最終財產目錄ニ從ヒ正常ノ保存狀態ニテ全部之ヲ引渡スヘシ

三、特ニ所屬車輛ヲ有セサル鐵道ニ付テハ同盟及聯合國ノ指名ニ係ル専門家ノ委員會ニ於テ獨逸國代表者ヲモ加ヘ其ノ鐵道ノ屬スル鐵道系統上ニ存在スル車輛中引渡サルヘキモノノ割合ヲ決定ス此等ノ委員會ハ千九百十八年十一月十一日以前ノ最終財產目錄ニ當該鐵道所屬トシテ記入セラレタル車輛ノ數量、軌道ノ延長(側線ヲ含ム)並運送ノ性質及數量ヲ考量シ前記ノ割合ヲ決定スヘシ又同委員會ハ各個ノ場合ニ付引渡サルヘキ機關車、客車及貨車ヲ指定スヘク又車輛受領ニ關スル條件ヲ決定シ且獨逸工場ニ於テ車輛ノ修繕ヲ爲シ得ルコトヲ確保スルニ必要ナル暫定協定ヲ爲スヘシ

四、備品、附屬品及機械類ハ車輛ト同一ノ條件ノ下ニ引渡スヘシ

前露領波蘭ノ鐵道ニシテ獨逸國力之ヲ獨逸式軌間ニ改築シタルモノハ之ヲ普魯西國有鐵道系統ノ支派ト看做シ

ト爲スコト但シ本條約實施後十年以内ニ此等ノ國內ノ鐵道ニ付採用スルコトアルヘキ貫通制動機ノ作用ヲ妨ケサルモノナルコトヲ要ス

二、獨逸國ノ鐵道ニ運轉スル一切ノ貨物列車ニ前號ノ同盟及聯合國ニ屬スル車輛ヲ連結シ得ヘキモノト爲スコト

同盟及聯合國ノ車輛ハ運轉、保存及修繕ニ關シ獨逸國ノ鐵道ニ於テ獨逸ノ車輛ト同一ノ取扱ヲ受クヘシ

第三章 鐵道線路ノ讓渡

第三百七十一條

鐵道ノ讓渡ハ獨逸國カ主權ヲ拋棄スル地域内ニ在ル港、水路及鐵道ノ讓渡ニ關スル特別規定並職員ニ對スル退職年金ノ支給及特許權者ニ關スル財政上ノ條件ニ從フノ外左ノ條件ニ從ヒ之ヲ行フヘシ

一、一切ノ鐵道ノ工作物及設備ハ良好ノ狀態ニテ全部之ヲ引渡スヘシ

二、自線所屬ノ車輛ヲ有スル一鐵道系統全體カ獨逸國ヨリ同盟及聯合國ノ一國ニ引渡サル場合ニ於テ

前記第三號及第四號ノ規定ヲ準用ス

第四章 特定ノ鐵道線ニ關スル規定

第三百七十二條

本條約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外新國境劃定ノ結果同一國內ノ二地間ヲ連絡スル鐵道カ他國ヲ過ルコトト爲ルカ又ハ一國ヨリノ支線カ他國內ニ其ノ終點ヲ有スルコトト爲ル場合ニ於テハ其ノ作業條件ハ當該鐵道間ノ取極ニ依リ之ヲ定ムヘシ前記取極ノ條項ニ付當該鐵道間ノ協議調ハサルトキハ前條ノ規定ニ依リ組織シタル専門家委員會之ヲ決裁スヘシ

第三百七十三條

本條約實施後五年以内ニ「チマコ、スロヴァキア」國ハ獨逸國版圖内ニ於テ「シニラウナイ」停車場ト「ナホッド」停車場トノ間ノ鐵道敷設ヲ請求スルコトヲ得其ノ敷設費用ハ「チマコ、スロヴァキア」國之ヲ負擔スヘシ

第三百七十四條

伊太利國政府ノ同意ヲ得テ瑞西國政府ヨリ「サン、ゴター」鐵道ニ關スル千九百九年十月十三日ノ國際條約ヲ廢止

棄スヘキ旨請求アルトキハ獨逸國ハ本條約實施後十年以
内ニ之ヲ承諾スルコトヲ約ス廢棄ノ條件ニ關シ協議調ハサ
ルトキハ獨逸國ハ亞米利加合衆國ノ指名スル一名ノ仲裁
委員ノ判定ニ服スヘキコトヲ約ス

第五章 經過規定

第三百七十五條

獨逸國ハ同盟及聯合國ヲ代表スル官憲カ左記運送上ノ
事項ニ付獨逸國ニ與フヘキ指令ヲ實行スヘシ

- 一 本條約ノ規定ニ依ル軍隊ノ運送並軍用材料、彈藥及糧秣等ノ運搬
- 二 一時的ノ措置トシテ特定地方ヘノ供給品ノ運送、成ルヘク迅速ナル平時運送狀態ノ回復及郵便電信事務ノ整備

第四款 紛争及永久條項ノ改正

第三百七十六條

前各條ノ解釋及適用ニ關シ關係國間ニ生スルコトアルヘ
キ紛争ノ解決ハ國際聯盟ノ定ムル所ニ依ル

第三百七十七條

ヲ約ス但シ同盟及聯合國ノ利益ノ爲ニ本條約ノ定メタル
獨逸國ノ特殊義務ニ影響ヲ及ボスコトナシ

第六款 「キール」運河ニ關スル條項

第三百八十條

「キール」運河及其ノ入口ハ獨逸國ト和親ノ一切ノ國ノ商
船及軍艦ノ爲ニ全然均等ノ條件ニテ開放セラレ且常ニ自
由タルヘシ

第三百八十一條

一切ノ國ノ國民、財産及船舶ハ運河ノ使用ニ付料金、便
益其ノ他一切ノ事項ニ關シ完全ナル均等待遇ヲ受クヘク
其ノ國民、財産及船舶ニ對シ獨逸國又ハ最惠國ノ國民、
財産又ハ船舶ニ比シ不利益ナル何等ノ差別ヲ設クルコト
ヲ得サルモノトス
人又ハ船舶ノ移動ニ付テハ警察、關稅、衛生、移出民及移
入民諸規則並禁制品ノ輸出入ニ關スル規則ニ基ク場合
ヲ除クノ外之ニ何等ノ障礙ヲ加フルコトヲ得ス此等ノ規則
ハ相當ニシテ劃一ナルヘク且濫ニ交通ヲ阻礙セサルモノナ
ルコトヲ要ス

國際聯盟ハ何時タリトモ前記諸條中永久的管理制度ニ
關スル規定ノ改正ヲ提議スルコトヲ得

第三百七十八條

第三百二十一條乃至第三百三十條、第三百三十二條、
第三百六十五條及第三百六十七條乃至第三百六十九
條ノ規定ハ本條約實施後五年以後ハ何時タリトモ國際
聯盟理事會ニ依リ改正セラルヘシ

前項ノ改正ナキ場合ニ於テハ同盟國又ハ聯合國ハ前記
五年ノ期間滿了ノ後前項列記ノ各條ニ規定シタル事項
ニ付相互待遇ヲ與ヘサル其ノ版圖内ノ地方ノ爲ニ該各條
ノ規定シタル利益ヲ主張スルコトヲ得ス獨逸國カ相互待
遇ヲ要求スルコト能ハサル前記五年ノ期間ハ國際聯盟理
事會ニ於テ之ヲ延長スルコトヲ得

第五款 特別規定

第三百七十九條

獨逸國ハ本條約實施後五年以内ニ國際聯盟ノ承認ヲ得
テ同盟及聯合國間ニ締結セラルヘキ通過、水路、港又ハ鐵
道ノ國際制度ニ關スル何レノ一般條約ニモ加入スヘキコト

第三百八十二條

運河又ハ其ノ入口ヲ使用スル船舶ニ對シ課スルコトヲ得ヘ
キ料金ハ運河又ハ其ノ入口ノ航行可能ナル狀態ヲ維持シ
若ハ運河又ハ其ノ入口ヲ改良スル爲ノ費用ヲ衡平ニ支辨
スルカ又ハ航行上ノ利益ノ爲ニ要シタル經費ニ充當スル趣
旨ノモノナルコトヲ要ス其ノ料金表ハ右諸費用ヲ基礎トシ
テ算出シ且之ヲ各港ニ掲示スヘシ

前項ノ料金ハ詐欺又ハ反則ノ嫌疑アル場合ヲ除クノ外積
荷ノ細密ナル検査ヲ要セサル様之ヲ取立ツヘシ

第三百八十三條

通過貨物ハ之ニ封印ヲ施シ又ハ稅關吏員ヲシテ之ヲ監視
セシムルコトヲ得ヘク貨物ノ積卸及旅客ノ乗降ハ獨逸國ニ
於テ特ニ定ムル港ニ於テ之ヲ行フヘシ

第三百八十四條

「キール」運河内又ハ其ノ入口ニ於テハ本條約ニ規定スルモ
ノヲ除クノ外何等ノ料金ヲ課スルコトヲ得ス

第三百八十五條

獨逸國ハ航行ニ對スル障礙又ハ危險ヲ除去シ且航行ニ適

當ナル状態ノ維持ヲ確保スル爲適當ナル措置ヲ講スルノ義務ヲ有ス獨逸國ハ又本運河又ハ其ノ入口ニ於テ航行ヲ妨礙スヘキ性質ヲ有スル何等ノ工事ヲ企ツルコトナカルヘシ

第三百八十六條

第三百八十條乃至第三百八十六條ノ規定ニ對スル違反ノ場合又ハ該數條ノ解釋ニ關シ紛爭ヲ生シタル場合ニハ關係國ハ國際聯盟カ之カ爲設立スル裁判所ニ出訴スルヲ得

小問題ヲ國際聯盟ノ議ニ付スルコトヲ避ケムカ爲獨逸國ハ紛爭ヲ第一審トシテ處理スルニ足リ且關係國領事官ヲ經由シ提起セラルヘキ異議ニ對シ能フ限り満足ヲ與フルニ適スル一ノ地方官廳ヲ「キール」ニ設クヘシ

第十三編 勞 働

第一款 勞働機關

國際聯盟ハ世界平和ノ確立ヲ目的トシ而シテ世界平和ハ社會正義ヲ基礎トスル場合ニ於テノ之ヲ確立シ得ヘキモノナルニ因リ

國際聯盟ノ原聯盟國ハ右常設機關ノ原聯盟國タルヘク今後國際聯盟ノ聯盟國ト爲ルモノハ同時ニ右常設機關ノ聯盟國タルヘキモノトス

第三百八十八條

常設機關ハ(一)聯盟國代表者ノ勞働總會及(二)第三百九十三條ニ規定スル勞働理事會ノ管理ニ屬スル國際勞働事務局ヨリ成ル

第三百八十九條

聯盟國代表者ノ勞働總會ノ會議ハ必要ニ應シ隨時ニ且少クトモ毎年一回之ヲ開クヘシ勞働總會ハ各聯盟國四名ツツノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス内二名ハ政府ノ代表委員、他ノ二名ハ當該國ニ於ケル使用者及勞働者ヲ各代表スル代表委員タルヘシ
各代表委員ハ顧問ヲ同伴スルコトヲ得但シ會議事項ノ各項目ニ付二名ヲ超ユルコトヲ得ス勞働總會ニ於テ特ニ婦人ニ關スル問題ヲ議スル場合ニ於テハ顧問中少クトモ一名ハ婦人タルコトヲ要ス

聯盟國ハ其ノ國ニ於テ使用者又ハ勞働者ヲ最能ク代表スル産業上ノ團體カ存在スル場合ニ於テハ該團體トノ協議

條約 第十三編 勞働 第一款 勞働機關 第一章 機關

多數ノ人民ニ對スル不正、困苦及窮乏ヲ伴フ現今ノ勞働状態ハ大ナル不安ヲ醸生シ惹テ世界ノ平和協調ヲ危殆ナラシムヘキニ因リ彼ノ勞働時間ノ制定殊ニ一日又ハ一週ノ最長勞働時間ノ限定、勞働供給ノ調節、失業ノ防止、相應ノ生活ヲ支フルニ足ル賃銀ノ制定、勞務傷害及疾病ニ對スル勞働者ノ保護、兒童年少者及婦人ノ保護、老年及痠疾ニ對スル施設、自國外ニ於テ使用セラルル勞働者ノ利益ノ保護、結社自由ノ原則ノ承認、職業及技術教育ノ組織等ノ如キ手段ヲ以テ前記勞働状態ヲ改善スルコトハ刻下ノ急務ナルニ因リ

第一章 機關

第三百八十七條

前文記載ノ目的ヲ達セムカ爲茲ニ常設機關ヲ設置ス

ニ依リ各民間代表委員及其ノ顧問ヲ任命スルコトヲ約

顧問ハ之ヲ同伴スル代表委員ノ請求及總會ノ議長ノ特別ノ許可アル場合ヲ除クノ外發言スルコトヲ得ス又顧問ハ表決ヲ爲スコトヲ得ス

代表委員ハ議長宛ノ通告書ニ依リ其ノ顧問ノ一名ヲ自己ノ代理者トシテ指名スルコトヲ得顧問ハ右代理中發言シ及表決ヲ爲スコトヲ得

代表委員及其ノ顧問ノ氏名ハ各聯盟國政府之ヲ國際勞働事務局ニ通知スヘシ

代表委員及其ノ顧問ノ委任狀ハ之ヲ勞働總會ノ審査ニ付スヘシ勞働總會ハ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ本條ニ依リ任命セラレタル者ニ非スト認ムル代表委員又ハ顧問ノ列席ヲ拒絕スルコトヲ得

第三百九十條

各代表委員ハ勞働總會ニ付議セラレタル一切ノ事項ニ付各別ニ表決ヲ爲スノ權利ヲ有ス
聯盟國任命權ヲ有スルニ拘ラス民間代表委員中ノ一名ヲ任命セザルトキハ他ノ民間代表委員ハ勞働總會ニ出席シ

發言スルコトヲ得ルモ表決ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十九條ニ依リ労働總會カ締盟國ノ一代表委員ノ列席ヲ拒絶シタルトキハ該代表委員ノ任命ナカリシモノト看做シ本條ノ規定ヲ適用ス

第三百九十一條

労働總會ノ會議ハ國際聯盟本部所在地又ハ前會議ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ總會カ議決シタル他ノ地ニ於テ之ヲ開ク

第三百九十二條

國際労働事務局ハ聯盟機關ノ一部トシテ國際聯盟本部所在地ニ之ヲ設置ス

第三百九十三條

國際労働事務局ハ左ノ規定ニ依リ選任シタル二十四名ヲ以テ組織スル労働理事會ノ管理ニ屬ス

労働理事會ノ組織ハ左ノ如シ

政府ヲ代表スル者十二名

使用者ヲ代表スル労働總會代表委員ノ選舉シタル者

六名

労働者ヲ代表スル労働總會代表委員ノ選舉シタル者

六名

政府ヲ代表スル十二名ノ中八名ハ主要産業國タル締盟國ノ任命シ他ノ四名ハ右八國以外ノ締盟國ノ労働總會政府代表委員ニ於テ之カ爲選定シタル締盟國ノ任命スヘシ

主要産業國カ何レナルカノ問題ハ國際聯盟ノ聯盟理事會之ヲ決定スヘシ

労働理事會員ノ任期ハ三年トス關員ノ補充方法其ノ他之ニ類スル事項ハ労働總會ノ承認ヲ條件トシテ労働理事會之ヲ定ムルコトヲ得

労働理事會ハ會員中ノ一名ヲ隨時ニ會長ニ選舉シ議事規則ヲ設ケ及其ノ會議ノ期日ヲ定ム臨時會議ハ會員十名以上ノ書面請求アリタルトキハ之ヲ開クヘシ

第三百九十四條

國際労働事務局ニ局長ヲ置キ労働理事會之ヲ任命ス局長ハ労働理事會ノ指揮ヲ受ケ國際労働事務局ノ事務及他ノ委託事務ノ進行ニ付其ノ責ニ任ス

局長又ハ其ノ代理者ハ労働理事會ノ一切ノ會議ニ列席スヘシ

第三百九十五條

國際労働事務局ノ職員ハ局長之ヲ任命ス右職員ハ國際労働事務局事務ノ成績ヲ舉クルニ差支ナキ限り成ルヘク國籍ヲ異ニスル諸國中ヨリ之ヲ選任スヘク且其ノ若干名ハ婦人タルコトヲ要ス

第三百九十六條

國際労働事務局ノ職能ニハ労働者ノ生活状態及労働條件ノ國際的調節ニ關スル一切ノ情報ノ蒐集配布、殊ニ國際條約締結ノ目的ヲ以テ労働總會ニ提出セムトスル事項ノ審査並労働總會ノ命ニ依ル特別調査ノ進行ヲ含ムモノトス

國際労働事務局ハ労働總會ノ會議事項ヲ準備ス

國際労働事務局ハ國際紛争ニ關シ本編ノ規定ニ依リ其ノ任務ヲ行フ

國際労働事務局ハ國際利害關係アル産業及勞務ノ問題ニ付佛文、英文其ノ他労働理事會カ適當ト認ムル言語ヲ以テ定期刊行物ヲ編輯發行スヘシ

本條ニ定メタル職能ノ外向國際労働事務局ハ労働總會ノ委託ニ係ル一切ノ權能及任務ヲ有スルモノトス

第三百九十七條

産業及勞務ノ問題ヲ管掌スル締盟國政府ノ各省ハ労働理事會ニ於ケル當該政府ノ代表者、代表者ナキ場合ニ於テハ之カ爲政府ノ任命シタル當該官吏ヲ經由シテ直接ニ局長ト通信スルコトヲ得

第三百九十八條

國際労働事務局ハ國際聯盟事務總長ノ助力ヲ受クルコトヲ得ヘキ事項ニ付右助力ヲ請求スルコトヲ得

第三百九十九條

労働總會又ハ労働理事會ノ會議ニ出席スル代表者、代表委員及其ノ顧問ノ旅費及手當ハ各締盟國之ヲ支辨ス

國際労働事務局並労働總會及労働理事會ノ會議ニ關スル他ノ一切ノ費用ハ國際聯盟事務總長聯盟ノ一般資金中ヨリ之ヲ局長ニ交付ス

局長ハ本條ニ依リ交付ヲ受ケタル金錢ノ支出ニ付國際聯盟事務總長ニ對シ其ノ責ニ任スヘシ

労働總會ノ一切ノ會議ノ會議事項ハ労働理事會之ヲ決

定ス勞働理事會ハ締盟國ノ政府又ハ第三百八十九條ノ目的ノ爲承認セラレタル代表團體ノ提出スル會議事項ノ案ヲ審議スヘシ

第四百一條

局長ハ勞働總會ノ幹事トシテ行動ス會議事項ハ勞働總會ノ開催前四月迄ニ之ヲ各締盟國ニ送達スヘシ民間代表委員ノ選任アリタル場合ニ於テハ當該締盟國ヲ經由シテ之ニ送達スヘシ

第四百二條

締盟國政府ハ勞働總會ノ會議事項中或項目ノ存置ニ對シ反對ヲ述フルノ權ヲ有ス右反對ノ理由ハ局長宛ノ説明書ニ之ヲ記載スヘク局長ハ之ヲ本常設機關ノ各締盟國ニ送付スヘシ

尤モ前記ノ反對アリタル項目ト雖勞働總會ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ審議スヘキモノト議決シタルトキハ之ヲ會議事項中ヨリ削除スルコトヲ得ス

前項ノ外勞働總會ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ或事項ヲ審議スヘキ旨ヲ議決シタル

勞働總會ニ於テ前項ノ勸告又ハ條約案ヲ可決確定スル爲ニハ孰レノ場合ニ於テモ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ要ス

締盟國一般ニ適用スヘキ勸告又ハ條約案ヲ立案スル場合ニ於テハ勞働總會ハ氣候ノ狀態、産業組織ノ不充分ナル發達其ノ他特殊ノ事情ニ因リ産業狀態著シキ差異アル國ニ關シ相當斟酌ヲ加フヘク且斯ノ如キ國ノ事情ニ適應セシムル爲必要ト認ムルモノアルトキハ右勸告又ハ條約案ニ加フヘキ變更ヲ提示スヘシ

勸告又ハ條約案ハ勞働總會ノ議長及局長其ノ一通ニ署名シテ之ヲ確認シ國際聯盟事務總長ニ寄託スヘク事務總長ハ其ノ勸告又ハ條約案ノ認證原本ヲ各締盟國ニ送付スヘシ

締盟各國ハ勞働總會閉會後一年以内ニ立法其ノ他ノ措置ヲ執ルカ爲右ノ勸告又ハ條約案ヲ其ノ事項ニ付權限アル機關ノ議ニ付スヘキコトヲ約ス但シ已ムヲ得サル事情ノ爲右期間内ニ其ノ議ニ付スルコト能ハサルトキハ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ勞働總會閉會後十八月ヲ超エサル期間内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

ルトキハ該事項ハ之ヲ次期會議ノ事項中ニ加フヘシ

第四百三條

勞働總會ハ自ラ會議手續ヲ定メ及議長ヲ選舉スヘシ又各種ノ事項ニ付審査報告ヲ爲サシムル爲委員會ヲ組織スルコトヲ得

本編ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外一切ノ事項ハ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ單純多數ニ依リ之ヲ決ス爲サレタル表決ノ總數カ勞働總會出席代表委員ノ半數ニ達セサルトキハ採決ハ之ヲ無効トス

第四百四條

勞働總會ハ其ノ組織シタル各委員會ニ專門委員ヲ附屬セシムルコトヲ得專門委員ハ審議ニ參加シ表決權ヲ有セス

第四百五條

勞働總會ニ於テ會議事項中ノ或項目ニ關シ提案ヲ可決シタルトキハ勞働總會ハ該提案ニ付(イ)締盟國ヲシテ立法其ノ他ノ方法ニ依リ之カ實現ヲ爲サシムル目的ヲ以テ考慮セシムル爲該締盟國ニ送付スル勸告又ハ(ロ)締盟國ニ依リ批准セラレヘキ國際條約案ノ孰レノ形式ニ依ルヘキカヲ決定ス

勸告ニ付テハ締盟國ハ之ニ關シ執リタル措置ヲ事務總長ニ通知スヘシ

條約案ニ付テハ締盟國ニ於テ其ノ事項ニ關シ權限アル機關ノ同意ヲ得タル場合ニ於テハ右條約ノ正式批准ヲ事務總長ニ通告シ且右條約ノ規定ノ實施ニ必要ナル措置ヲ執ルヘシ

勸告ニ付其ノ實現ニ必要ナル立法其ノ他ノ措置ヲ執ルコトナカリシ場合又ハ條約案ニ付其ノ事項ニ關シ權限アル機關ノ同意ヲ得サリシ場合ニ於テハ締盟國ハ他ノ何等ノ義務ヲ負フコトナシ

勞働事項ニ關スル條約ニ加盟スルノ權能ニ制限アル聯邦國ニ在リテハ當該國政府ハ其ノ裁量ニ依リ右制限ノ適用アル條約案ヲ單ニ勸告ト認ムルコトヲ得此ノ場合ニハ勸告ニ關スル本條ノ規定ヲ準用ス

本條ハ左ノ原則ニ從ヒ之ヲ解釋スヘシ
締盟國ハ如何ナル場合ニ於テモ勞働總會カ或勸告又ハ條約案ヲ採用シタル結果トシテ其ノ國ノ現行法制上當該勞働者ニ與ヘタル保護ノ減殺ヲ要求セラルルコトナカルヘシ

第四百六條

右ニ依リ批准セラレタル一切ノ條約ハ國際聯盟事務總長之ヲ登録スヘシ該條約ハ之ヲ批准シタル締盟國ノミヲ拘束スヘシ

第四百七條

條約案カ勞働總會ノ最終審議ニ付セラレタル場合ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ同意ヲ得サリシトキト雖本常設機關ノ締盟國ハ右條約案ヲ希望スル各國間ニ於テノミ之ヲ採用スルノ權ヲ有ス
右ニ依リ採用シタル條約ハ當該國政府國際聯盟事務總長ニ之ヲ通知シ事務總長ハ之ヲ登録スヘシ

第四百八條

各締盟國ハ其ノ締結シタル條約ノ規定實施ノ爲執リタル措置ニ關スル年報ヲ國際勞働事務局ニ提出スルコトヲ約ス該年報ノ様式及記載事項ハ勞働理事會ノ指定スル所ニ依ル局長ハ該年報ノ要領ヲ勞働總會ノ次期會議ニ報告スヘシ

第四百九條

使用者又ハ勞働者ノ組織スル産業上ノ團體ヨリ國際勞働事務局ニ對シ締盟國ノ一國カ其ノ締結シタル條約ニ付其ノ管轄内ニ於テ確實ナル履行ヲ爲ササルコトヲ申告シタル場合ニ於テハ勞働理事會ハ其ノ申告ヲ當該國政府ニ移牒シ且右ニ付其ノ相當ト認ムル辯明書ノ提出ヲ勸誘スルコトヲ得

第四百十條

勞働理事會ハ當該國政府ヨリ相當期間内ニ辯明書ヲ接受セス又ハ其ノ接受シタル辯明書ヲ不充分ト認ムル場合ニ於テハ右申告書及之ニ對スル辯明書アルトキハ其ノ辯明書ヲ公表スルノ權ヲ有ス

第四百十一條

各締盟國ハ他ノ締盟國カ前數條ニ依リ共ニ批准シタル條約ノ確實ナル履行ヲ爲サスト認ムル場合ニ於テハ國際勞働事務局ニ對シ異議ヲ提起スルノ權ヲ有ス
勞働理事會ハ以下規定スル所ニ從ヒテ右ノ異議ヲ勞働審理委員會ニ付スルニ先チ其ノ裁量ニ依リ第四百九條ノ定ムル方法ニ準シ右異議ノ相手國政府ニ之ヲ移牒スルコトヲ得
勞働理事會ハ右異議ヲ相手國政府ニ移牒スルノ必要ヲ

認メサルトキ又ハ右移牒ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ充分ト認ムル辯明書ヲ相當期間内ニ接受セサルトキハ該異議ノ審査及之ニ關スル報告ヲ爲サシムル爲勞働審理委員會ノ設置ヲ求ムルコトヲ得

勞働理事會ハ其ノ發意ニ依リ又ハ勞働總會ノ代表委員ノ異議ニ基キ同一ノ手續ヲ爲スコトヲ得

勞働理事會第四百十條又ハ第四百十一條ノ適用ヨリ生スル問題ヲ審議スルニ當リ申告又ハ異議ノ相手國政府カ勞働理事會ニ其ノ代表者ヲ有セサル場合ニ於テハ該政府ハ其ノ審議中勞働理事會ノ議事ニ參加セシムル爲代表者ヲ出スノ權ヲ有ス審議ノ期日ハ該國政府ニ對シ適當ノ時期ニ之ヲ通知スヘシ

第四百十二條

勞働審理委員會ハ左ノ規定ニ依リ之ヲ組織ス
各締盟國ハ本條約實施後六月以内ニ産業上ノ經驗アル者三名ヲ任命スルコトヲ約ス内一名ハ使用者ノ代表者、一名ハ勞働者ノ代表者、他ノ一名ハ中立ノ地位ニ在ル者タルヘシ勞働審理委員會ノ委員ハ右任命セラレタル者ノ名簿中ヨリ之ヲ選定スヘシ

右任命セラレタル者ノ資格ハ勞働理事會之ヲ審査ス勞働理事會ハ資格カ本條ノ要件ニ適合セスト認ムル者ノ任命ニ對シ出席代表者ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ承認ヲ拒ムコトヲ得
勞働理事會ノ請求アリタルトキハ國際聯盟事務總長ハ勞働審理委員會ヲ組織セシムル爲前記名簿ノ各部ヨリ一名ツツ三名ヲ選定シ内一名ヲシテ之カ議長タラシムヘシ右三名ハ何レモ直接ニ異議ニ關係アル締盟國ノ任命シタル者ナラサルコトヲ要ス

第四百十三條

第四百十一條ニ依リ異議カ勞働審理委員會ニ付セラレタル場合ニ於テハ各締盟國ハ直接之ニ關係アルト否トニ拘ラス該異議事項ニ付其ノ有スル一切ノ資料ヲ勞働審理委員會ニ提供スルコトヲ約ス

第四百十四條

勞働審理委員會異議ニ付充分ナル審査ヲ了シタルトキハ之ニ關スル報告書ヲ作成スヘシ報告書ニハ係争問題ノ決定ニ關係アル一切ノ事實ノ認定並該異議ニ對シ執ルヘキ

處置及之カ實行期限ニ關シ適當ト認ムル勸告ヲ記載スルモノトス
勞働審理委員會ハ又勸告ヲ實行セサル政府ニ對スル適當ナル經濟的制裁手段ニシテ他ノ諸政府之ヲ採用シテ可ナリト認ムルモノアル場合ニ於テハ之ヲ其ノ報告書中ニ指示スヘシ

第四百十五條

國際聯盟事務總長ハ勞働審理委員會ノ報告書ヲ異議ニ關係アル各國政府ニ送付シ又之ヲ公表セシムヘシ
前項ノ送付ヲ受ケタル各國政府ハ勞働審理委員會ノ報告書ニ記載スル勸告ヲ採用スルヤ否ヤ、若シ之ヲ採用セストセハ當該異議ニ付國際聯盟ノ常設國際司法裁判所ノ裁判ヲ求ムルノ意思アリヤ否ヤヲ一月以内ニ國際聯盟事務總長ニ通告スヘシ

第四百十六條

締盟國中勸告又ハ條約案ニ關シ第四百十五條ニ依ル措置ヲ執ラサル者アル場合ニ於テハ他ノ締盟國ハ右ニ付常設國際司法裁判所ノ裁判ヲ求ムルノ權ヲ有ス

第四百十七條

第四百十五條又ハ第四百十六條ニ依リ常設國際司法裁判所カ裁判ヲ求メラレタル異議又ハ他ノ事項ニ付其ノ爲シタル判決ハ終結トス

第四百十八條

常設國際司法裁判所ハ勞働審理委員會ノ爲シタル事實ノ認定又ハ勸告アル場合ニ於テハ之ヲ確認シ、變更シ又ハ廢棄スルコトヲ得勸告ヲ實行セサル政府ニ對スル適當ナル經濟的制裁手段ニシテ他ノ諸政府之ヲ採用シテ可ナリト認ムルモノアル場合ニ於テハ之ヲ該判決中ニ指示スヘシ

第四百十九條

勞働審理委員會ノ報告書又ハ常設國際司法裁判所ノ判決中ニ勸告ノ記載アル場合ニ於テ締盟國カ其ノ勸告ヲ所定ノ期間内ニ實行セサルトキハ他ノ各締盟國ハ右勸告ヲ實行セサル國ニ對シ前記ノ報告書又ハ判決中ニ適當ナリトシテ指示シタル經濟的制裁手段ヲ執ルコトヲ得

第四百二十條

勸告ヲ實行セサル政府ハ勞働審理委員會ノ勸告又ハ常設國際司法裁判所ノ判決中ノ勸告ニ遵由スルニ必要ナル

通告スヘシ

第四百二十二條

本編ノ改正ハ勞働總會ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ之ヲ可決シ國際聯盟理事會ヲ組織スル代表者ノ屬スル各國及總數四分ノ三ノ締盟國之ヲ批准シタル場合ニ於テ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第四百二十三條

本編ノ解釋又ハ締盟國間ニ於テ將來本編ノ規定ニ基キ締結スル條約ノ解釋ニ關スル疑義又ハ紛争ハ之ヲ常設國際司法裁判所ノ裁判ニ付スヘキモノトス

第四章 經過規定

第四百二十四條

勞働總會ノ第一回會議ハ千九百十九年十月之ヲ開クヘシ會議ノ地及會議事項ハ附屬書ニ之ヲ定ム
第一回會議ノ招集及組織ハ右附屬書ニ指定スル政府之ヲ準備ス該政府ハ勞働總會ニ提出スヘキ書類ノ作成ニ付同附屬書ニ依リ組織シタル國際準備委員會ノ助力ヲ受クヘシ
第一回會議ノ經費及國際聯盟方一般資金ヲ設定シ得ル

處置ヲ執リタル旨何時タリトモ勞働理事會ニ通知シ且其ノ通知ノ内容ヲ確ムル爲勞働審理委員會ノ開設ヲ國際聯盟事務總長ニ申立ツルコトヲ勞働理事會ニ請求スルコトヲ得第四百十二條乃至第四百十五條、第四百十七條及第四百十八條ノ規定ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス勞働審理委員會又ハ常設國際司法裁判所カ當該政府ニ對シ有利ナル報告又ハ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ他ノ諸政府ハ直ニ之ニ對スル經濟的制裁手段ヲ停止スヘシ

第三章 一般規定

第四百二十一條

締盟國ハ本編ノ規定ニ依リ批准シタル諸條約ヲ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セサルモノニ左ノ條件ノ下ニ適用スルコトヲ得

一 條約カ土地ノ狀況ニ照シ適用不可能ニ非サルコト

二 土地ノ狀況ニ適應セシムル爲條約ニ必要ナル變更ヲ加フルコト

締盟國ハ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セサルモノニ付其ノ執リタル措置ヲ國際勞働事務局ニ

ニ至ル迄ニ開催スル爾後ノ會議ノ經費ハ代表委員及其ノ顧問ノ經費ヲ除クノ外萬國郵便聯合總理局ノ經費分擔ノ割合ニ從ヒ締盟國之ヲ負擔ス

第四百二十五條

本款ノ規定ニ依リ國際聯盟事務總長ニ提出スヘキ一切ノ書類ハ國際聯盟ノ組織セラルル迄ノ間國際勞働事務局長之ヲ保管シ追テ國際聯盟事務總長ニ之ヲ引繼クヘシ

第四百二十六條

本編ノ規定ニ依リ常設國際司法裁判所ノ裁判ヲ求ムヘキ紛争ハ該裁判所ノ開設ニ至ル迄ノ間國際聯盟理事會選定ノ三名ヲ以テ組織スル裁判所ニ之ヲ付託スヘシ

附屬書

千九百十九年第一回勞働總會會議

會議ノ地ハ華盛頓トス
會議ノ召集ハ亞米利加合衆國政府ニ之ヲ委囑ス
國際準備委員會ハ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、白耳義國及瑞西國ノ任命スル七名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス右委員會ハ必要ト認ムルト

第二款 一般原則

第四百二十七條

締約國ハ産業ニ從事スル賃銀生活者ノ身體上道德上及智能上ノ福祉ハ最重要ナル國際事項ナリト認メ此ノ大ナル目的ノ爲茲ニ國際聯盟ノ機關ト相待チテ第一款ニ規定スル常設機關ヲ組織シタリ

締約國ハ氣候、慣行及習俗、經濟上ノ機會並産業上ノ困難ノ相異ハ勞働條件ノ劃一ヲ急速ニ實現スルコトヲ困難ナラシムルモノト認ム然レトモ締約國ハ現ニ勞働力單ナル商品ト看做サルヘキモノニ非スト認ムルカ故ニ勞働條件ヲ規律スル方法及原則ニシテ一切ノ産業國カ各自ノ特殊事情ノ許ス限リ之カ適用ヲカムヘキモノノ存スルヲ認ム
締約國ニ於テハ右方法及原則中左ニ掲クルモノヲ以テ特別且緊急ノ必要アルモノト認ム

- 一 勞働ハ單ニ貨物又ハ商品ト認ムヘキモノニ非ストノ前記ノ基本原則

- 二 使用者又ハ被用者カ一切ノ適法ナル目的ノ爲結社スルノ權利

キハ前記以外ノ締盟國ニ對シ代表者ノ任命ヲ求ムルコトヲ得

會議事項

- 一 一日八時間又ハ一週四十八時間ノ原則ノ適用ノ件
- 二 失業ニ對スル豫防又ハ救済ノ件
- 三 婦人使用ノ件
- (イ) 産前産後(産婦ニ對スル手當問題ヲ含ム) 夜間
- (ハ) 健康上有害ナル作業
- 四 兒童使用ノ件
- (イ) 使用ノ最低年齢 夜間
- (ハ) 健康上有害ナル作業
- 五 産業ニ使用セラルル婦人ノ夜業ノ禁止及燐寸製造ニ於ケル黃燐使用ノ禁止ニ關スル千九百十六年「ヘルヌ」國際條約ノ擴張及適用ノ件

三 其ノ時及其ノ國ニ於テ相當ト認メラルル生活程度ヲ維持スルニ足ル賃銀ヲ被用者ニ支拂フヘキコト

四 一日八時間又ハ一週四十八時間ノ制ヲ實行スルニ至ラサル諸國ニ於テハ之ヲ其ノ到達ノ目標トシテ採用スヘキコト

五 日曜日ヲ成ルヘク包含シ二十四時間ヲ下ラサル毎週一回ノ休息ヲ與フルノ制ヲ採用スヘキコト

六 兒童勞働ヲ廢止スヘキコト及年少者ノ勞働ニ對シ其ノ教育ヲ繼續スルコトヲ得且身體ノ正當ナル發達ヲ確保スヘキ制限ヲ設クヘキコト

七 同一價值ノ勞働ニ對シテハ男女同額ノ報酬ヲ受クヘキ原則

八 各國カ其ノ法令ニ依リ定ムル勞働條件ニ關スル標準ハ適法ニ其ノ國ニ居住スル一切ノ勞働者ニ對スル衡平ナル經濟上ノ待遇ヲ確保スヘキコト

九 各國ハ被用者ノ保護ヲ目的トスル法令ヲ勵行スル爲監督ノ制度ヲ設ク婦人ヲシテ之ニ參加セシムヘキコト